

**Hitachi Dynamic Link Manager**  
**ユーザーズガイド (VMware®用)**

4010-1J-637-20

# 前書き

## ■ 対象製品

Hitachi Dynamic Link Manager 9.0.3

適用 OS の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

## ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## ■ 商標類

HITACHI は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## ■ 発行

2025 年 11 月 4010-1J-637-20

## ■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright© 2025, Hitachi Vantara, Ltd.

# はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの機能と使用方法について説明したものです。

- Hitachi Dynamic Link Manager

## ■ 対象読者

このマニュアルは、Hitachi Dynamic Link Manager（以降、HDLMと表記します）を使ってストレージシステムの運用・管理をするシステム管理者を対象としています。また、次のことについて理解していることを前提としています。

- VMware vSphere の概要および管理機能
- ストレージシステムの管理機能

## ■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

### 1. HDLM の概要

HDLM の概要と特長について説明しています。

### 2. HDLM の機能

HDLM の管理対象、システム構成、基本的な用語、および機能について説明しています。

### 3. HDLM の環境構築

HDLM の環境を構築する手順および設定を解除する手順について説明しています。

### 4. HDLM の運用

HDLM のコマンドを使用して HDLM を操作する方法、HDLM マネージャーを手動で起動または停止するための操作手順について説明しています。

### 5. トラブルシュート

パスに障害が発生した場合、HDLM に障害が発生した場合、などの対処方法について説明しています。

### 6. コマンドリファレンス

HDLM で使用するコマンドについて説明しています。

### 7. ユーティリティリファレンス

HDLM で使用するユーティリティーについて説明しています。

## 8. メッセージ

HDLM から出力されるメッセージを参照するときに知っておいてほしい情報について説明しています。その後、 HDLM から出力されるメッセージ、 およびその対処について説明しています。

### 付録 A パス障害メッセージ抑制機能（拡張esxcli コマンドを使用する場合）

HDLM が提供する拡張esxcli コマンドでパス障害メッセージ抑制機能を使用する方法について説明しています。

### 付録 B 各バージョンの変更内容

このマニュアルの変更内容について説明しています。

### 付録 C このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

## ■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、 マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>Windows 11</li><li>Windows Server 2016(x64)</li><li>Windows Server 2019(x64)</li><li>Windows Server 2022(x64)</li><li>Windows Server 2025(x64)</li></ul>
Windows 11	Windows® 11
Windows Server 2016(x64)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter</li><li>Microsoft® Windows Server® 2016 Essentials</li><li>Microsoft® Windows Server® 2016 Standard</li></ul>
Windows Server 2019(x64)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter</li><li>Microsoft® Windows Server® 2019 Essentials</li><li>Microsoft® Windows Server® 2019 Standard</li></ul>
Windows Server 2022(x64)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>Microsoft® Windows Server® 2022 Datacenter</li><li>Microsoft® Windows Server® 2022 Essentials</li><li>Microsoft® Windows Server® 2022 Standard</li></ul>
Windows Server 2025(x64)	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>Microsoft® Windows Server® 2025 Datacenter</li></ul>

表記	製品名
Windows Server 2025(x64)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft® Windows Server® 2025 Essentials</li> <li>Microsoft® Windows Server® 2025 Standard</li> </ul>

## ■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて直接章を選択して読むことができます。利用目的別に、次の表に従ってお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
HDLM の概要と特長を知りたい。	第 1 章
HDLM のシステム構成と機能を知りたい。	第 2 章
HDLM を使用するための、環境構築の手順を知りたい。	第 3 章
HDLM のコマンドを使用して HDLM を操作する方法を知りたい。	第 4 章
運用時の注意事項について知りたい。	第 4 章
HDLM でパスの構成や状態を確認する方法を知りたい。	第 4 章
障害対処の手順を知りたい。	第 5 章
HDLM のコマンドについて知りたい。	第 6 章
HDLM のユーティリティーについて知りたい。	第 7 章
HDLM 使用時に出力されるメッセージについて知りたい。	第 8 章
HDLM が提供する拡張 <code>esxcli</code> コマンドでパス障害メッセージ抑制機能を使用する方法を知りたい。	付録 A
このマニュアルの変更内容について知りたい。	付録 B
このマニュアルを読むに当たっての参考情報について知りたい。	付録 C
HDLM で使用する用語について知りたい。	用語解説

## ■ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[ ]	<p>画面、メニュー、ボタン、キーボードのキーなどを示します。</p> <p>(例)</p> <p>[Ctrl] + [C]</p> <p>上記の例では、Ctrl キーと C キーを同時に押すことを示します。</p>

## ■ コマンドまたはユーティリティーの文法で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号をコマンドおよびユーティリティーの文法説明に使用しています。

文法記述記号	意味
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略できます。 [ ]内に、「 」で区切られた項目が複数ある場合は、どれか1つだけを指定するか、またはすべて省略できます。なお、項目に下線がある場合は、すべての項目を省略したときに、その項目が仮定されます。
{ }	この記号で囲まれている、「 」で区切られた項目のうちから、どれか1つだけを必ず指定します。
...	記述の省略の意味です。
正字体で記述された部分	キーワードとしてそのまま入力することを示します。 (例) <code>dlnkmgr help</code>
斜字体で記述された部分	該当する要素を指定することを示します。 (例) <code>dlnkmgr online [-path] [-pathid パス管理PATH_ID] [-s]</code> 上記の例では、パス管理PATH_IDの部分に、該当するIDを指定します。
<i>PROMPT&gt;</i>	コマンドを実行する画面上のプロンプトです。 <i>PROMPT</i> は、画面上に表示されるカレントディレクトリーのパスを表します。

## ■ ファイル名で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号をファイル名に使用しています。

ファイル名記述記号	意味
[ ]	この記号で囲まれている文字または数値の範囲を示します。 [ ]内の文字または数値が「-」で区切られている場合、範囲内の文字または数値を表します。

# 目次

前書き 2

はじめに 3

## 1 HDLM の概要 12

1.1 HDLM とは 13

1.2 HDLM の特長 15

## 2 HDLM の機能 16

2.1 HDLM で管理するデバイス 17

2.2 システム構成 18

2.2.1 FC-SAN を使用するシステム構成 18

2.2.2 IP-SAN を使用するシステム構成 19

2.3 LU 構成 22

2.4 プログラム構成 23

2.5 HDLM ドライバーと NMP の位置づけ 25

2.6 ロードバランスによる負荷分散 26

2.6.1 ロードバランスが適用されるパス 27

2.6.2 ロードバランスのアルゴリズム 29

2.7 パス切り替えによるフェールオーバーとフェールバック 31

2.7.1 自動パス切り替え 31

2.7.2 手動パス切り替え 33

2.7.3 パスの状態遷移 34

2.8 間欠障害の監視 36

2.8.1 間欠障害の確認 36

2.8.2 間欠障害監視の設定 36

2.8.3 間欠障害監視の動作 36

2.8.4 ユーザーの操作による間欠障害情報の変化 37

2.9 パスヘルスチェックによる障害検出 38

2.10 障害管理 39

2.10.1 採取するログの種類 39

2.10.2 障害情報の収集 41

2.11 監査ログの採取 42

2.11.1 HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象 43

2.11.2 監査ログ出力の前提条件 44

2.11.3 監査ログの出力先とフィルターリング 45

2.11.4	監査ログの出力形式	46
2.12	リトライ回数監視機能	48
2.12.1	リトライ回数監視機能の確認	48
2.12.2	リトライ回数監視機能の設定	48
2.12.3	リトライ回数監視機能の動作	48

## 3 HDLM の環境構築 51

3.1	HDLM のシステム要件	52
3.1.1	HDLM がサポートするホストと OS	52
3.1.2	HDLM がサポートするストレージシステム	53
3.1.3	メモリー所要量とディスク占有量	56
3.1.4	HDLM がサポートする LU 数とパス数	57
3.1.5	リモート管理クライアントと ESXi ホストの HDLM バージョン	57
3.2	環境構築の流れ	59
3.3	HDLM のインストールの種別	60
3.4	環境を構築する場合の注意事項	61
3.5	HDLM のインストール	64
3.5.1	HDLM の新規インストール	64
3.5.2	HDLM のアップグレードインストール	71
3.5.3	HDLM の再インストール	72
3.6	パス構成の確認	73
3.7	HDLM の機能の設定	74
3.7.1	変更前の設定内容の確認	74
3.7.2	機能の設定	74
3.7.3	変更後の設定の確認	77
3.8	HDLM の設定解除	78
3.8.1	HDLM をアンインストールする前の準備	78
3.8.2	HDLM のアンインストール	78
3.9	ホスト OS アップグレード時の注意事項	81
3.9.1	HDLM の構成情報の採取	81
3.9.2	HDLM の構成情報の再設定	81

## 4 HDLM の運用 83

4.1	コマンドを使用した HDLM の運用	84
4.1.1	コマンドを使用する場合の注意事項	84
4.1.2	パスの情報を参照する	84
4.1.3	パスの状態を変更する	85
4.1.4	LU の情報を参照する	86
4.1.5	パスの統計情報を初期値にする	86

4.1.6	動作環境を参照または設定する	87
4.1.7	ライセンス情報を参照する	88
4.1.8	ライセンスを更新する	89
4.1.9	HDL M のバージョン情報を参照する	89
4.1.10	HDL M のコンポーネント情報を参照する	90
4.2	HDL M マネージャーの起動と停止	91
4.2.1	HDL M マネージャーの起動	91
4.2.2	HDL M マネージャーの停止	91
4.3	HDL M の常駐プロセス	93
4.4	HDL M とウイルス対策ソフト	94
4.5	パス障害メッセージ抑制機能	95
4.5.1	パス障害メッセージ抑制機能の概要	95
4.5.2	パス障害メッセージ抑制機能の設定	95
4.5.3	パス障害メッセージ抑制機能の確認	96
4.5.4	パスごとのパス障害メッセージ抑制開始、解除契機	96
4.5.5	パス障害メッセージ抑制情報の設定	97
4.5.6	パス障害メッセージ抑制情報の確認	98

## 5 ブラブルシート 99

5.1	障害情報の収集	100
5.2	メッセージでの障害情報の確認	101
5.3	パス障害時の対処	102
5.3.1	メッセージの監視	103
5.3.2	パス情報の取得	103
5.3.3	障害パスの抽出	103
5.3.4	障害発生ハードウェアの絞り込み	103
5.3.5	障害個所の特定・ハードウェアへの障害対処	103
5.3.6	パスを稼働状態に変更	104
5.4	プログラム障害時の対処	105
5.4.1	メッセージの監視	105
5.4.2	プログラム情報の取得	105
5.4.3	プログラム障害への対処	105
5.4.4	HDL M の購入元会社、または保守会社に連絡	106
5.5	パスやプログラム以外の障害時の対処	107

## 6 コマンドリファレンス 108

6.1	コマンド概要	109
6.2	clear パスの統計情報を初期値にする	111
6.2.1	形式	111

6.2.2	パラメーター	111
6.3	help オペレーションの形式を表示する	113
6.3.1	形式	113
6.3.2	パラメーター	113
6.4	offline パスを閉塞状態にする	116
6.4.1	形式	116
6.4.2	パラメーター	116
6.5	online パスを稼働状態にする	120
6.5.1	形式	120
6.5.2	パラメーター	120
6.6	set 動作環境を設定する	124
6.6.1	形式	124
6.6.2	パラメーター	125
6.7	view 情報を表示する	133
6.7.1	形式	133
6.7.2	パラメーター	135
6.8	refresh ストレージシステムでの設定を HDLM に反映する	160
6.8.1	形式	160
6.8.2	パラメーター	160

<b>7</b>	<b>ユーティリティーリファレンス</b>	<b>163</b>
7.1	ユーティリティー概要	164
7.2	DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー	165
7.2.1	形式	165
7.2.2	パラメーター	165
7.2.3	収集される障害情報	166
7.3	dlmperinfo HDLM 性能情報表示ユーティリティー	170
7.3.1	形式	171
7.3.2	パラメーター	171
7.3.3	表示される性能情報	174
7.3.4	CSV ファイルの出力	178
7.4	dlmrmenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー	182
7.4.1	形式	182
7.4.2	パラメーター	182
7.5	installhdlm HDLM インストールユーティリティー	183
7.5.1	形式	183
7.5.2	パラメーター	183
7.5.3	インストール情報設定ファイルの定義内容	184
7.5.4	ログファイルについて	186

7.6	removehdml HDLM アンインストールユーティリティー	187
7.6.1	形式	187
7.6.2	パラメーター	187

## 8 メッセージ 188

8.1	メッセージ一覧を参照するための前提知識	189
8.1.1	メッセージ ID の出力形式と意味	189
8.1.2	メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語	189
8.1.3	メッセージの言語種別	190
8.2	KAPL01001～KAPL02000	191
8.3	KAPL03001～KAPL04000	211
8.4	KAPL04001～KAPL05000	212
8.5	KAPL08001～KAPL09000	218
8.6	KAPL09001～KAPL10000	220
8.7	KAPL10001～KAPL11000	227
8.8	KAPL11001～KAPL12000	232
8.9	KAPL13001～KAPL14000	236
8.10	KAPL15001～KAPL16000	243
8.11	KAPL20001～KAPL21000	245
8.12	KAPL21001～KAPL22000	251

## 付録 252

付録 A	パス障害メッセージ抑制機能（拡張esxcli コマンドを使用する場合）	253
付録 A.1	パス障害メッセージ抑制情報の設定	253
付録 A.2	パス障害メッセージ抑制情報の確認	258
付録 B	各バージョンの変更内容	260
付録 B.1	今バージョンでの変更内容	260
付録 B.2	旧バージョンでの変更内容	261
付録 C	このマニュアルの参考情報	265
付録 C.1	関連マニュアル	265
付録 C.2	このマニュアルでの表記	265
付録 C.3	このマニュアルで使用している略語	267
付録 C.4	KB（キロバイト）などの単位表記について	269

## 用語解説 270

# 1

## HDLM の概要

HDLM は、ストレージシステムとホストとを結ぶ経路を管理します。HDLM を使用することで、経路に掛かる負荷を分散したり、障害発生時に経路を切り替えたりして、システムの信頼性を向上できます。

この章では、HDLM の概要と特長について説明します。

## 1.1 HDLM とは

データウェアハウスの普及やマルチメディアデータの利用拡大によって、ネットワーク上で大容量のデータを高速に利用する要求が高まっています。このような要求に応えるために、SANなどのデータ転送専用のネットワークを使用してストレージシステムへアクセスする運用が始まっています。

HDLMはストレージシステムへのアクセス経路を管理するプログラムです。

HDLMは、経路に掛かる負荷を分散してバランスを取ったり、経路の障害時※にほかの経路に切り替えたりする機能を持ちます。HDLMを使用することでシステムの可用性と信頼性を向上させることができます。

注※

経路の障害はI/Oまたはパスヘルスチェック実施の結果、OSから障害の発生が通知されることで検出しています。

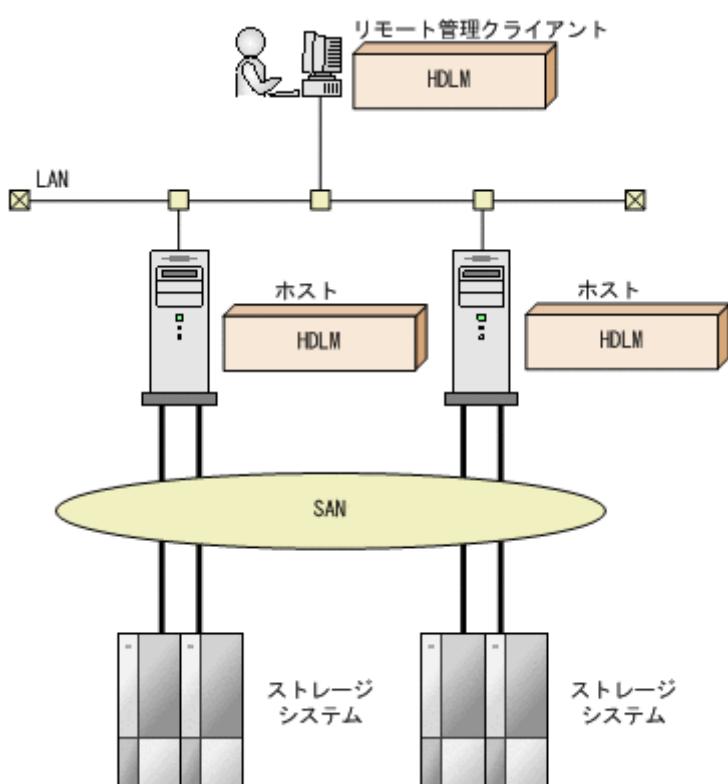
ホストとストレージシステムとの接続形態を次の図に示します。

SANを経由してストレージシステムと接続するESXi※サーバーを、ホストと呼びます。また、LANを経由してホストに接続し、コマンドやユーティリティーを通じてホストを制御するためのマシンを、リモート管理クライアントと呼びます。

注※

このマニュアルでは、ESXiおよびESXを区別する必要がない場合、ESXiと表記しています。

図 1-1 ホストとストレージシステムとの接続形態



HDLM がサポートするストレージシステムについては、「[3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム](#)」を参照してください。

## 1.2 HDLM の特長

---

HDLM には次の特長があります。

経路に掛かる負荷を分散できます（ロードバランス）

ホストとストレージシステムを複数の経路で接続している場合、負荷をそれぞれの経路へ分散します。こうすることで、1つの経路に負荷が偏って処理速度が遅くなることを防げます。

ロードバランスについては、「[2.6 ロードバランスによる負荷分散](#)」を参照してください。

障害発生時にも処理を継続できます（フェールオーバー）

ホストとストレージシステムを複数の経路で接続している場合、使用中の経路に障害が発生したときに、自動的に経路が切り替えられます。こうすることで、経路に障害が発生しても処理を継続できます。

フェールオーバーについては、「[2.7 パス切り替えによるフェールオーバーとフェールバック](#)」を参照してください。

障害から回復した経路を稼働状態にできます（フェールバック）※

経路が障害から回復したときに、経路の状態を稼働状態にできます。こうすることで、稼働状態の経路をできるだけ多く確保します。

経路のフェールバックは、手動または自動で実行できます。自動フェールバックは、ユーザーによって物理的な経路の障害を復旧したあと、ホスト側で経路を自動的に稼働状態にします。

フェールバックについては、「[2.7 パス切り替えによるフェールオーバーとフェールバック](#)」を参照してください。

一定の時間間隔で経路の状態を自動で確認できます（パスヘルスチェック）※

一定の時間間隔で経路の状態を確認し、障害を検出します。これによって、ユーザーは経路の障害を把握し、必要な対処を取ることができます。

パスヘルスチェックについては、「[2.9 パスヘルスチェックによる障害検出](#)」を参照してください。

注※

VMware vSphere ESXi が提供する機能により実現しています。

# 2

## HDLM の機能

この章では、HDLM の機能について説明します。はじめに HDLM の管理対象、システム構成、および基本的な用語について説明します。その後で経路への負荷分散や経路切り替えなどの機能について説明します。

## 2.1 HDLM で管理するデバイス

---

HDLM が管理できるデバイスと、管理できないデバイスを次に示します。HDLM が管理するデバイスを HDLM 管理対象デバイスと呼びます。

HDLM が管理できるデバイス

「1.1 HDLM とは」で示したストレージシステムの次のデバイスを管理します。

- SCSI デバイス
- コマンドデバイス（例：日立製 RAID Manager のコマンドデバイス）

HDLM が管理できないデバイス

• 「1.1 HDLM とは」で示したストレージシステム以外の SCSI デバイス

- ホストの内蔵ディスク
- ディスク以外のデバイス（例：テープデバイス）

## 2.2 システム構成

HDLMは、SCSI ドライバーを使用して、ホストとストレージシステムを結ぶ経路を制御します。ホストとストレージシステムは、FC-SAN または IP-SAN を使用して接続します。

### 2.2.1 FC-SAN を使用するシステム構成

FC-SANでは、ホストとストレージシステムは、ファイバーケーブルで接続します。ホスト側のケーブルの接続口はホストバスアダプター (HBA)、ストレージシステム側のケーブルの接続口はチャネルアダプター (CHA) の持つポート (P) です。

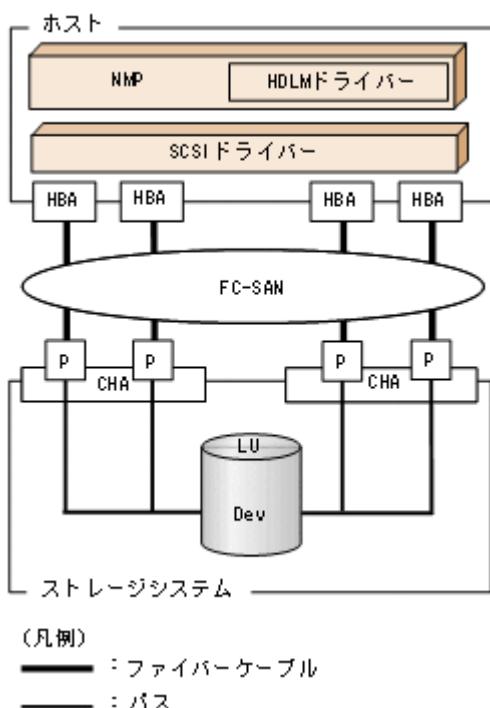
ストレージシステムにはホストからの入出力対象になる論理ユニット (LU) があります。LU 内の領域を Dev と呼びます。

ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路をパスと呼びます。

HDLMは、管理するパスに ID を割り当てます。この ID をパス管理 PATH\_ID と呼びます。また、パスを管理対象物と呼ぶこともあります。

FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成を次の図に示します。

図 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成



FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素を次の表に示します。

表 2-1 FC-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素

構成要素	説明
HBA	ホストバスアダプターです。ホスト側のケーブルの接続口です。
FC-SAN	ホストとストレージシステムがデータ転送に使用する、専用のネットワークです。
CHA	チャネルアダプターです。
P	CHA のポートです。ストレージシステム側のケーブルの接続口です。
LU	論理ユニット（ストレージシステム側で定義した、論理的なボリューム）です。ホストからの入出力対象となる、ネットワークからアクセスできるユニットです。
Dev	LU 内の領域です。
パス	ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路です。

## 2.2.2 IP-SAN を使用するシステム構成

IP-SAN では、ホストとストレージシステムは、LAN ケーブルで接続します。ホスト側のケーブルの接続口は iSCSI 用ホストバスアダプター（iSCSI HBA）またはネットワークインターフェイスカード（NIC）です。NIC を使用する場合は、ホストに iSCSI ソフトウェアがインストールされている必要があります。ストレージシステム側のケーブルの接続口は、iSCSI 接続に使用するチャネルアダプター（CHA）の持つポート（P）です。

ストレージシステムには、ホストからの入出力対象になる論理ユニット（LU）があります。LU 内の領域を Dev と呼びます。

ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路をパスと呼びます。

HDLM は、管理するパスに ID を割り当てます。この ID をパス管理 PATH\_ID と呼びます。また、パスを管理対象物と呼ぶこともあります。

iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成を「[図 2-2 iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成](#)」に示します。iSCSI ソフトウェアおよび NIC を使用する IP-SAN のシステム構成を「[図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成](#)」に示します。

図 2-2 iSCSI HBA を使用する IP-SAN のシステム構成

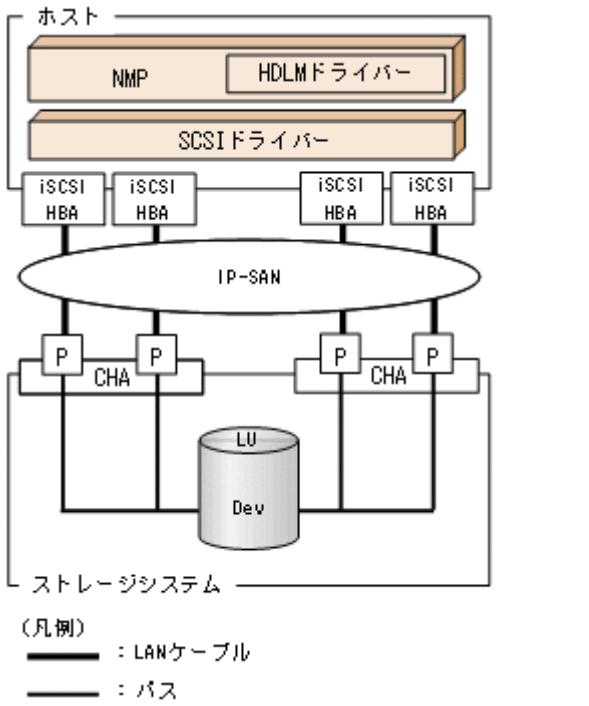
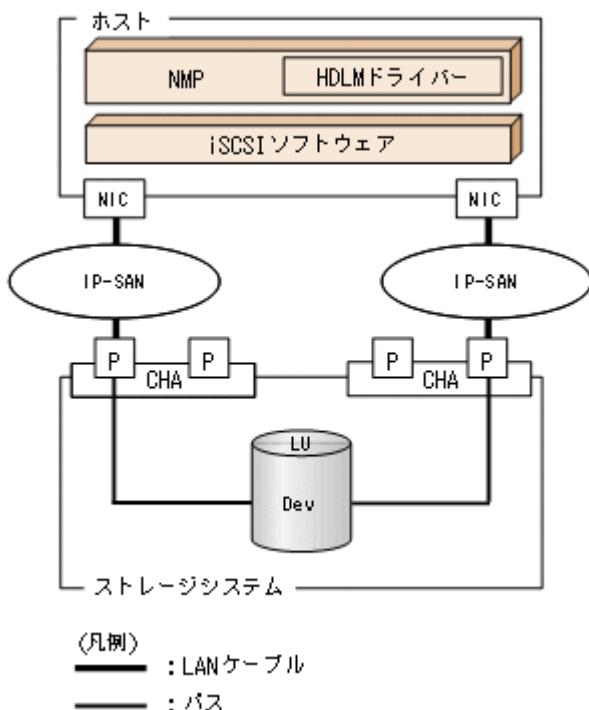


図 2-3 iSCSI ソフトウェアと NIC を使用する IP-SAN のシステム構成



IP-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素を次の表に示します。

表 2-2 IP-SAN を使用する HDLM のシステム構成要素

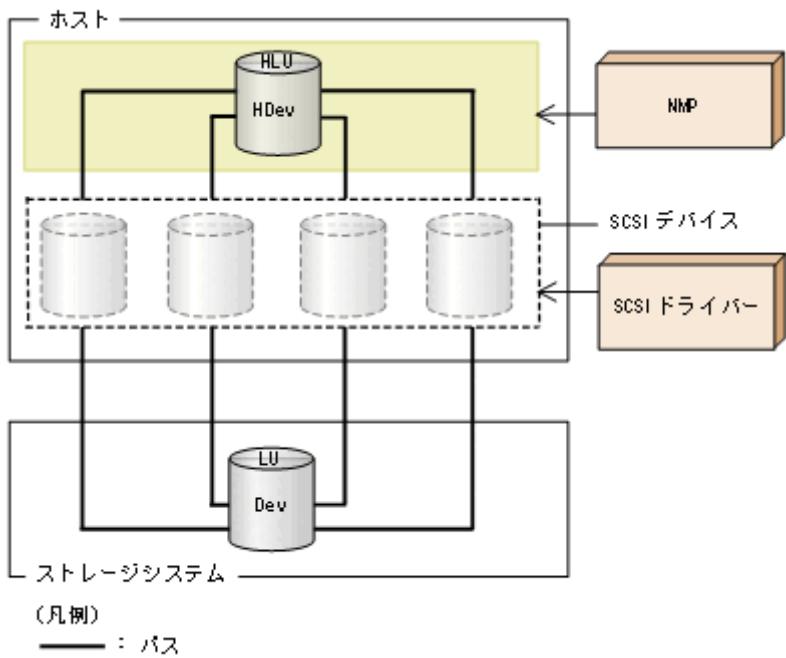
構成要素	説明
iSCSI ソフトウェア	iSCSI のイニシエーター機能を持つドライバーソフトウェアです。

構成要素	説明
iSCSI HBA	iSCSI のイニシエーター機能を持つホストバスアダプターです。 ホスト側のケーブルの接続口です。HDLM コマンドでは HBA と表示します。このマニュアルでは HBA と呼ぶことがあります。
NIC	ネットワークインターフェイスカードです。ホスト側のケーブルの接続口です。HDLM コマンドでは HBA と表示します。このマニュアルでは HBA と呼ぶことがあります。
IP-SAN	iSCSI 規格を用いてホストとストレージシステムを接続する、データ転送用のネットワークです。
CHA	iSCSI 接続に使用するチャネルアダプターです。
P	CHA のポートです。ストレージシステム側のケーブルの接続口です。
LU	論理ユニットです。ホストからの入出力対象となる、ネットワークからアクセスできるユニットです。
Dev	LU 内の領域です。
パス	ホストと LU 内の Dev を結ぶ経路です。

## 2.3 LU 構成

HDLM をインストールしたあとに、ホスト側で認識される LU の構成を次の図に示します。

図 2-4 HDLM をインストールしたあとにホスト側で認識される LU の構成



ホスト側で認識される要素を次の表に示します。

表 2-3 ホスト側で認識される要素

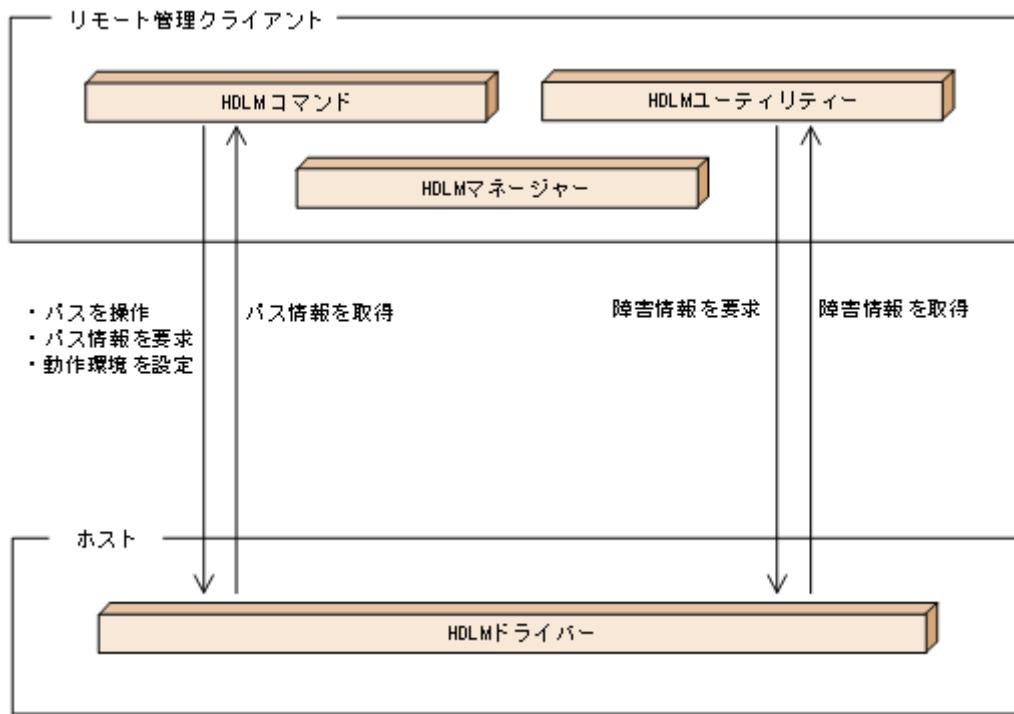
構成要素	説明
HLU	HDLM ドライバーを通してホストが認識する LU です。ホスト LU と呼びます。パスの数に関係なく、ストレージシステム側の 1 つの LU に対して 1 つのホスト LU が認識されます。
HDev	HDLM ドライバーを通してホストが認識する、LU 内の Dev です。ホストデバイスと呼びます。

## 2.4 プログラム構成

HDLM は幾つかのプログラムを組み合わせて動作します。HDLM の操作には各プログラムが関わってくるため、それぞれの名称、位置づけ、役割を把握しておいてください。

HDLM のプログラム構成を次の図に示します。

図 2-5 HDLM のプログラム構成



各プログラムの役割を次の表に示します。

表 2-4 HDLM の各プログラムの役割

プログラム名	役割
HDLM コマンド	コマンドを使った次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>バスの管理</li><li>障害情報の表示</li><li>HDLM の動作環境の設定</li></ul>
HDLM ユーティリティ	ユーティリティを使った次の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>障害情報の収集</li><li>HDLM のサイレントインストール</li><li>HDLM のサイレントアンインストール</li></ul>
HDLM マネージャー	リモート管理クライアントの動作環境を保存します。
HDLM ドライバー	機能の制御、バスの管理、および障害検知をします。 <ul style="list-style-type: none"><li>HDLM の動作環境の設定保存</li></ul>

プログラム名	役割
HDLM ドライバー	<ul style="list-style-type: none"><li>VMware vSphere ESXi 機能と連携したパスヘルスチェックと自動フェールバックの実行</li><li>パス障害に関するメッセージを ESXi の syslog に出力</li></ul>

## 2.5 HDLM ドライバーと NMP の位置づけ

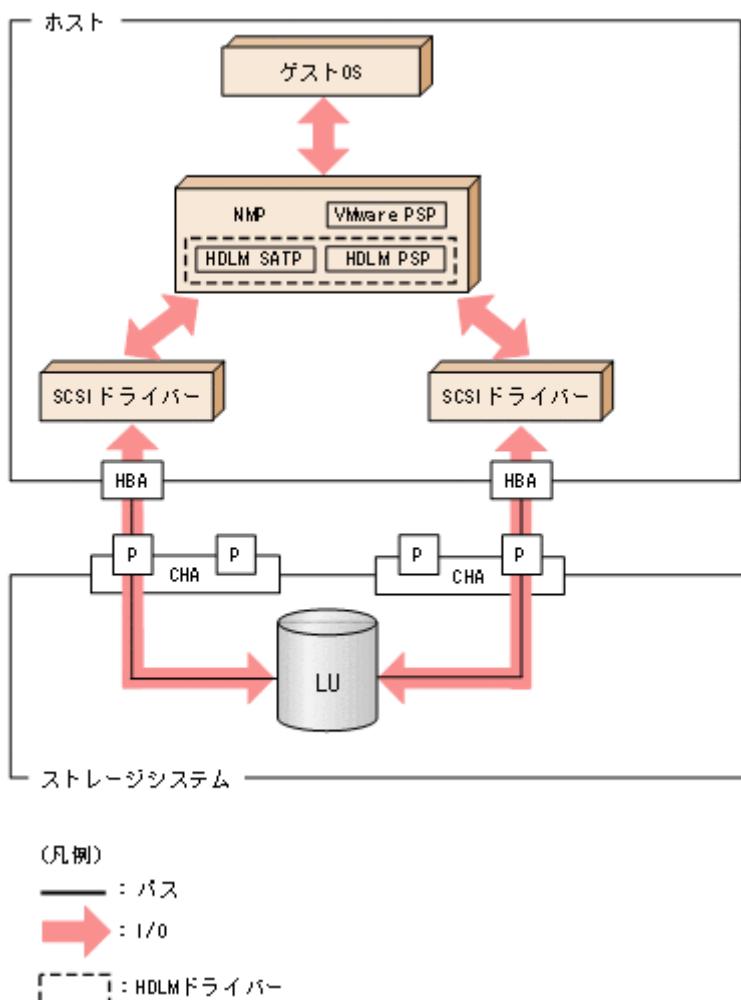
NMP は VMware 社が提供するマルチパスモジュールで、SATP と PSP を使用して、パスのフェールオーバーやロードバランスを実行します。SATP はデバイスに対するパスのフェールオーバーを処理するサブモジュールで、NMP がパス障害を検出したときに、パスの状態を変更します。PSP はデバイスに対するパスの選択を処理するサブモジュールで、NMP が I/O を発行するときに、発行先のパスを決定します。

HDLM ドライバーは、HDLM が提供する SATP と PSP です。HDLM がサポートするストレージシステムに対しては、HDLM SATP と、HDLM PSP または VMware PSP とが使用されます。

HDLM ドライバーと NMP は SCSI ドライバーの上位に位置します。ゲスト OS 上の各アプリケーションは、HDLM ドライバーと NMP を通してストレージシステム内の LU にアクセスします。

HDLM ドライバーと NMP の位置づけを次の図に示します。

図 2-6 HDLM ドライバーと NMP の位置づけ



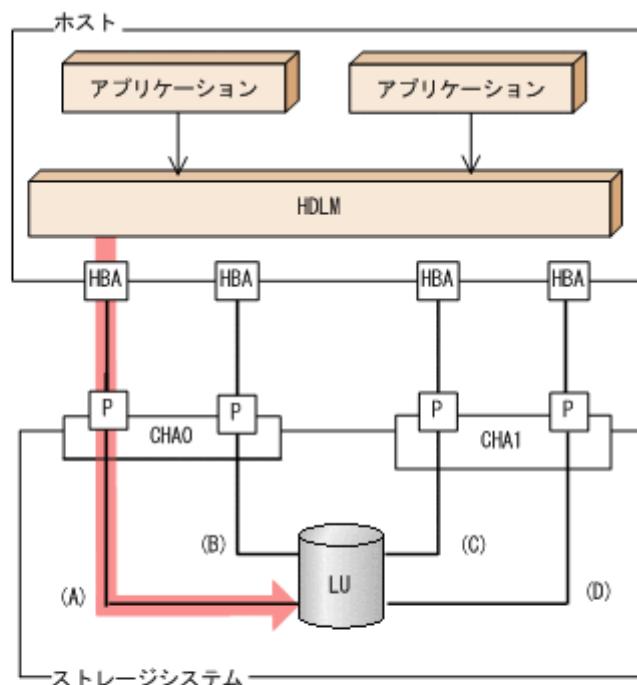
## 2.6 ロードバランスによる負荷分散

LUに対して複数のパスが接続されている構成の場合、複数のパスを使用してI/Oを発行することで、パスに掛かる負荷を分散します。この機能をロードバランスと呼びます。この機能によって、1つのパスに負荷が偏ってシステム全体の性能が劣化することを防げます。

ただし、HDLMが管理するI/Oには、パスごとに分配できるI/Oと分配できないI/Oがあります。したがって、ロードバランス機能を使用してもパスごとにI/Oが均等に割り振られない場合があります。例えば、RAID Managerがコマンドデバイスへ発行するIOCTLは、パスごとに分配できません。

ロードバランス機能を使用していないときのI/Oの流れを「図2-7 ロードバランス機能を使用していない場合のI/Oの流れ」に、ロードバランス機能を使用しているときのI/Oの流れを「図2-8 ロードバランス機能を使用している場合のI/Oの流れ」に示します。どちらの図も、複数のアプリケーションから同一のLUにI/Oが発行された場合の例です。

図2-7 ロードバランス機能を使用していない場合のI/Oの流れ

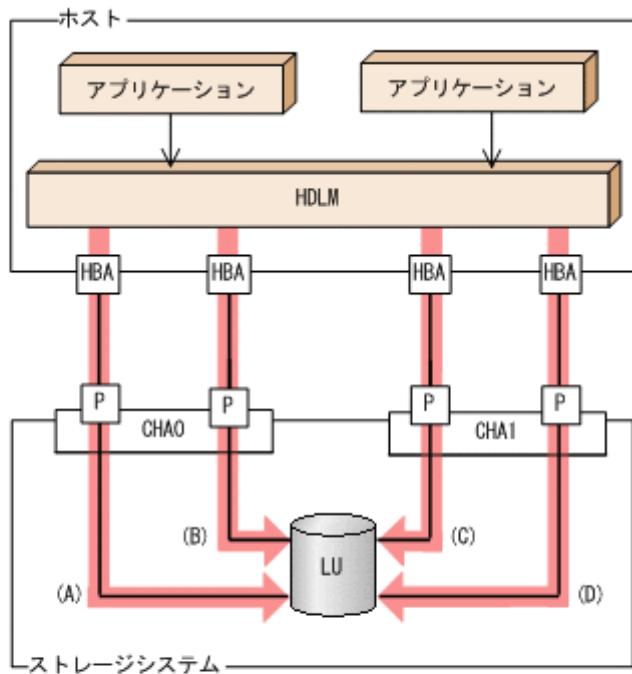


(凡例)

- : パス
- : I/Oが発行されるパス
- : I/O要求

ロードバランス機能を使用していない場合、(A)のパスにI/Oが集中して発行されます。(A)のパスへの負荷がボトルネックとなり、システム全体の性能が劣化する場合があります。

図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ



(凡例)

- : パス
- : I/Oが発行されるバス
- : I/O要求

ロードバランス機能を使用している場合、I/O は(A), (B), (C), (D)のパスへ分散して発行されます。1つのパスに負荷が偏ってシステム全体の性能が劣化することを防げます。

## 2.6.1 ロードバランスが適用されるパス

ロードバランス機能を使用したときに適用されるパスについて、説明します。

### (1) すべてのパスがオーナーパスの場合

HDLM がサポートするストレージシステムは、通常すべてのパスがオーナーパスになります。この場合、同じ LU にアクセスするすべてのパスの間でロードバランスが行われます。障害などで、一部のパスが使用できなくなった場合、残りの使用できるパスの間でロードバランスが行われます。

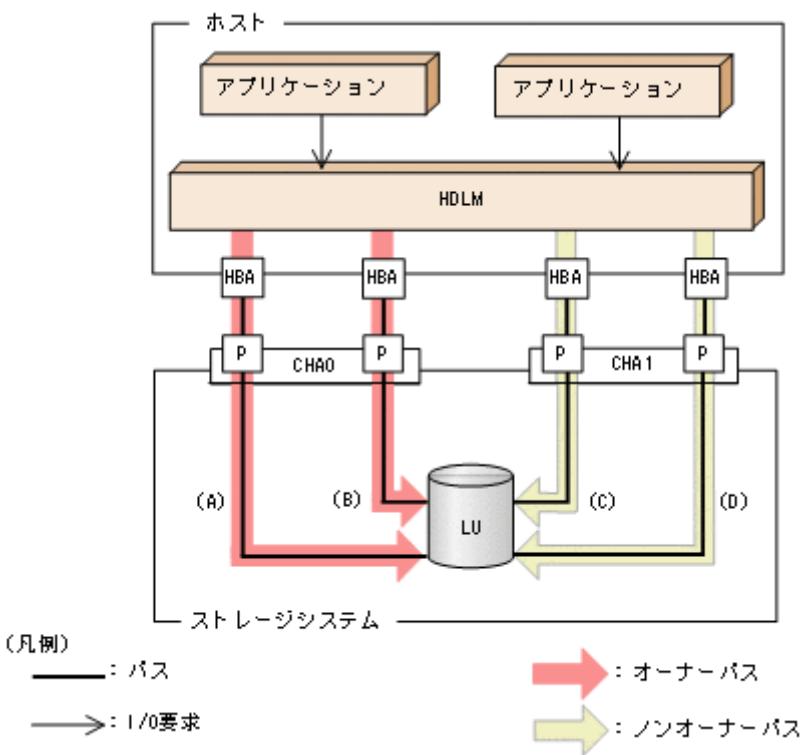
「図 2-8 ロードバランス機能を使用している場合の I/O の流れ」の例で、LU にアクセスする場合のロードバランスは、(A), (B), (C), (D)のパスの間で行われます。障害などで、どれかのパスが使用できなくなった場合、残りのパスの間でロードバランスが行われます。

## (2) ノンオーナーパスがある場合

オーナーパスとノンオーナーパスがある場合、使用するパスはオーナーパス、ノンオーナーパスの順で選択されます。システム全体の性能劣化を避けるために、オーナーパスとノンオーナーパスとの間でのロードバランスは行いません。したがって、障害などで一部のオーナーパスが使用できなくなった場合、残りの使用できるオーナーパスの間でロードバランスが行われます。すべてのオーナーパスが使用できなくなった場合、ノンオーナーパスの間でロードバランスが行われます。

「図 2-9 オーナーパスとノンオーナーパスがある場合のロードバランス」の例で、(A)と(B)のパスがオーナーパス、(C)と(D)のパスがノンオーナーパスとします。このとき、LU にアクセスする場合のロードバランスは、(A)と(B)のパスの間（オーナーパス同士）で行われます。障害などで、(A)のパスが使用できなくなった場合、(B)のパスだけで LU にアクセスします。(A)と(B)のパスが使用できなくなった場合、(C)と(D)のパスの間（ノンオーナーパス同士）で行われます。

図 2-9 オーナーパスとノンオーナーパスがある場合のロードバランス



ノンオーナーパスがある場合について説明します。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき global-active device を使用している場合、ストレージシステムのデフォルトの設定では、すべてのパスがオーナーパスになり、global-active device ペアを構成する正副ボリュームにアクセスするすべてのパスの間でロードバランスが行われます。  
しかし、正サイトと副サイトの距離が長距離の場合、ホストと異なるサイトに I/O を発行したときに I/O 性能が低下することがあります。その場合は、ホストと異なるサイトのストレージシステムで non-preferred path option を設定してください。non-preferred path option を設定したパスはノンオーナーパスとなり、すべてのオーナーパスが使用できなくなるまで使用されません。

ストレージシステムで non-preferred path option を設定した場合は、HDLM コマンドの refresh オペレーションを実行するか、またはホストを再起動してください。

## 2.6.2 ロードバランスのアルゴリズム

ロードバランス機能は、VMware vSphere の PSP、または HDLM が提供する PSP を使用します。HDLM で使用できるロードバランスのアルゴリズムを次の表に示します。

表 2-5 ロードバランスのアルゴリズム

アルゴリズムの名称	PSP の名称
拡張ラウンドロビン	HTI_PSP_HDLM_EXRR
拡張最少 I/O 数	HTI_PSP_HDLM_EXLIO
拡張最少ブロック数	HTI_PSP_HDLM_EXLBK
最近の使用 (VMware)	VMW_PSP_MRU
ラウンドロビン (VMware)	VMW_PSP_RR

拡張ラウンドロビン、拡張最少 I/O 数、および拡張最少ブロック数の PSP は、HDLM と一緒にインストールされます。これらのアルゴリズムは、発行する I/O が 1 つ前に発行した I/O と連続性があるかどうか（シーケンシャルな I/O かどうか）を判別して、割り振るパスが決定されます。

1 つ前に発行した I/O と連続性がある場合、1 つ前の I/O を割り振ったパスが使用されます。ただし、発行した I/O 数が一定数に達したときは、次のパスに切り替わります。

1 つ前に発行した I/O と連続性がない場合、I/O ごとに使用するパスが選択されます。

- 拡張ラウンドロビン：  
接続しているすべてのパスが順番に選択されます。
- 拡張最少 I/O 数：  
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O 数が最も少ないパスが選択されます。
- 拡張最少ブロック数：  
接続しているすべてのパスのうち、処理中となっている I/O のブロック数が最も少ないパスが選択されます。

HDLM を新規にインストールしたときには、拡張最少 I/O 数がデフォルト値として設定されます。アップグレードインストールしたときには従来の設定が引き継がれます。

使用しているシステム環境で、データアクセスの傾向に適したロードバランスのアルゴリズムを選択してください。データアクセスの傾向に特徴が見られない場合は、拡張最少 I/O 数の適用を推奨します。

ロードバランス機能は、HDLM コマンドのset オペレーションで指定します。set オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

## 2.7 パス切り替えによるフェールオーバーとフェールバック

---

LU に対して複数のパスが接続されている構成の場合、使用中のパスに障害が発生したときに、残りの正常なパスに切り替えてシステムの運用を継続できます。この機能をフェールオーバーと呼びます。

また、障害が発生したパスが障害から回復した場合、使用するパスを、障害から回復したパスに切り替えられます。この機能をフェールバックと呼びます。

次の 2 種類の方法でフェールオーバー、およびフェールバックができます。

- ・自動パス切り替え
- ・手動パス切り替え

フェールオーバー、およびフェールバックは、パスの状態を変更してパスを切り替える機能です。パスの状態は、稼働状態と閉塞状態の 2 つに大別できます。稼働状態とは、パスに対して I/O を正常に発行できる状態です。閉塞状態とは、次に示す理由で、パスに対して I/O を発行できない状態です。

- ・パスに障害が発生している
- ・ユーザーが HDLM コマンドの `offline` オペレーションを実行した  
`offline` オペレーションについては、「[6.4 offline パスを閉塞状態にする](#)」を参照してください。

パスの状態と状態遷移については、「[2.7.3 パスの状態遷移](#)」を参照してください。

### 2.7.1 自動パス切り替え

自動的にパスを切り替える機能である、自動フェールオーバーと自動フェールバックについて説明します。

#### (1) 自動フェールオーバー

使用中のパスで障害を検知した場合、そのパスを閉塞状態にして、ほかの稼働状態のパスを使用してシステムの運用を続けることができます。これを、自動フェールオーバーと呼びます。自動フェールオーバーの対象となる障害は、パスに発生した次のレベルの障害です。

Critical

致命的で、システム停止の危険がある障害

Error

危険度は高いが、フェールオーバーなどで回避できる障害

障害レベルについては、「[8.1.1 メッセージ ID の出力形式と意味](#)」の「[表 8-1 メッセージ ID \(KAPLnnnnn-I\) の形式と意味](#)」を参照してください。

切り替え先のパスは、同じ LU にアクセスするオーナーパス、ノンオーナーパスの順で選択されます。

HDL Mがサポートするストレージシステムは、通常すべてのパスがオーナーパスになるため、同じ LU にアクセスするすべてのパスが同時に切り替え先の候補になります。例えば、「図 2-10 パスの切り替え」で(A)のパスだけで LU にアクセスしている場合、使用中のパスが閉塞状態になったあとは、(B), (C), (D)のパスのどれかが切り替え先になります。

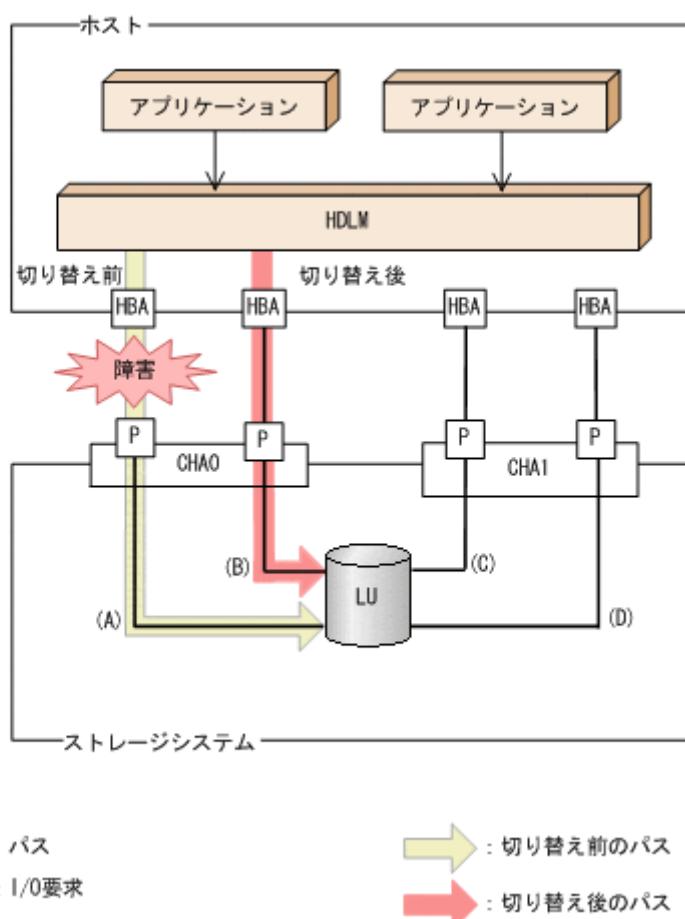
ノンオーナーパスがある場合、切り替え先のパスは同じ LU にアクセスするオーナーパス、ノンオーナーパスの順で選択されます。例えば、「図 2-10 パスの切り替え」で CHA0 側がオーナーパス、CHA1 側がノンオーナーパスであるとします。(A)のパスだけで LU にアクセスしている場合、使用中のパスが閉塞状態になったあとは、(B)のパスが第 1 候補、(C)または(D)のパスが第 2 候補の切り替え先になります。

## 注

ノンオーナーパスがあるのは、次の場合です。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき

図 2-10 パスの切り替え



## (2) 自動フェールバック

使用中のパスが障害で閉塞状態になった場合、障害回復後に自動的に稼働状態にできます。これを、自動フェールバックと呼びます。

ノンオーナーパスがある場合、使用するパスは、稼働状態のオーナーパス、ノンオーナーパスの順で選択されます。すべてのオーナーパスが閉塞状態でノンオーナーパスを使用しているときに、オーナーパスの障害が回復して、自動的に稼働状態になると、使用するパスがオーナーパスに切り替わります。

なお、パスに間欠障害※が発生している場合は、自動フェールバックによって閉塞状態と稼働状態を繰り返すため、I/Oの性能が低下することがあります。その場合は、間欠障害監視を設定して、間欠障害と見なされたパスを自動フェールバックの対象外にすることをお勧めします。

自動フェールバック機能は、VMware vSphere ESXi が提供する機能により実現しています。自動フェールバック機能を無効にすることはできません。

間欠障害監視は、HDLM コマンドのset オペレーションで指定します。set オペレーションについては、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

#### 注

ノンオーナーパスがあるのは、次の場所です。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき

#### 注※

間欠障害とは、ケーブルの接触不良などが原因で、断続的に発生する障害です。

## 2.7.2 手動パス切り替え

パスを手動で稼働状態または閉塞状態にすることで、パスを切り替えられます。手動で一時的にパスを切り替えることで、システムのメンテナンスなどができます。

次に示す方法で、パスを手動で稼働状態または閉塞状態にできます。

- HDLM コマンドのonline またはoffline オペレーションを実行する  
online については「6.5 online パスを稼働状態にする」を、offline については「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。

ただし、ある LU に対する最後の稼働状態のパスは、手動で閉塞状態に切り替えられません。また、障害が復旧していないパスについては、稼働状態に切り替えられません。

切り替え先のパスについては、自動パス切り替えの場合と同じです。

通常、同じ LU にアクセスするすべてのパスが同時に切り替え先の候補になります。ただし、ノンオーナーパスがある場合は、オーナーパスが第 1 候補、ノンオーナーパスが第 2 候補の切り替え先になります。

閉塞状態にしたパスは、online オペレーションを実行することで稼働状態にできます。online オペレーションについては、「6.5 online パスを稼働状態にする」を参照してください。使用しているパスにノンオーナーパスがある場合は、使用するパスは、稼働状態のオーナーパス、ノンオーナーパスの順で選択されます。

## 注

ノンオーナーパスがあるのは、次の場所です。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき

### 2.7.3 パスの状態遷移

「2.7 パス切り替えによるフェールオーバーとフェールバック」で説明した稼働状態と閉塞状態のうち、閉塞状態はさらに2つの状態に分けられます。3つの状態を、稼働状態に含まれるものと閉塞状態に含まれるものとに分けて説明します。

#### (1) 稼働状態

稼働状態に含まれるもの次に示します。

- Online 状態  
正常に I/O を発行できます。

#### (2) 閉塞状態

閉塞状態に含まれるもの次に示します。

- Offline(C)状態  
オペレーションの実行によって、パスが閉塞状態になっています。  
Offline(C)の「C」は、コマンド属性を示します。コマンド属性とは、コマンドの操作によって、パスが閉塞状態になっていることを示すものです。
- Offline(E)状態  
障害が発生したため、パスが閉塞状態になっています。  
Offline(E)の「E」は、エラー属性を示します。エラー属性とは、パスに障害が発生していることを示すものです。

#### (3) VMware vSphere と HDLM が表示するパスの状態の対応

VMware vSphere で表示されるパスの状態と、HDLM コマンドのview オペレーションを実行すると表示されるパスの状態の対応を次の表に示します。

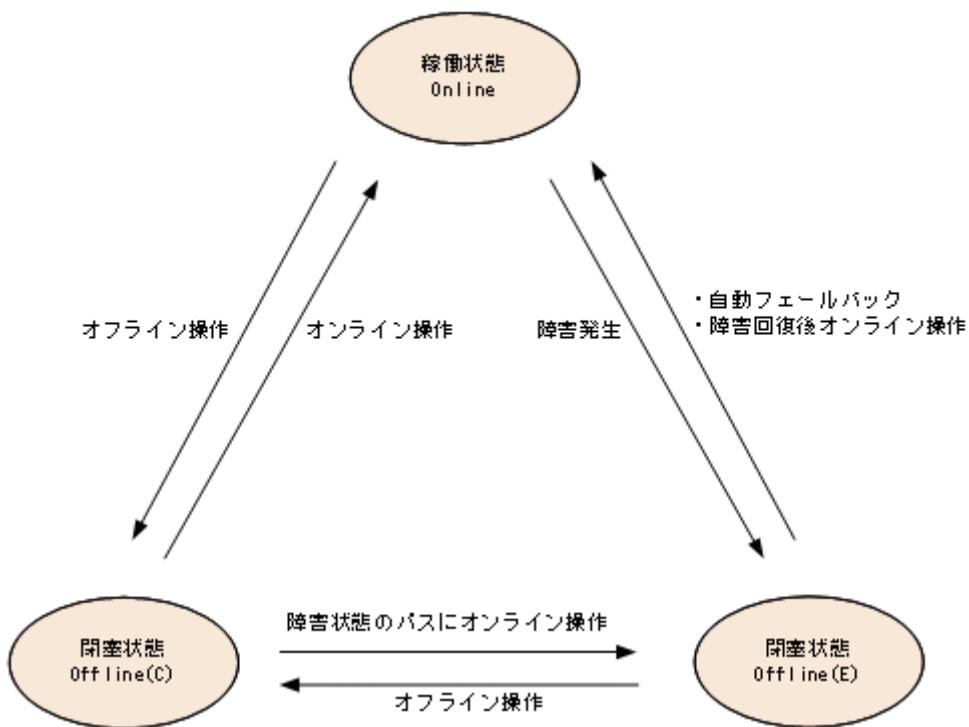
表 2-6 VMware vSphere と HDLM が表示するパスの状態の対応

VMware vSphere が表示するパスの状態	HDLM が表示するパスの状態
active、または standby	Online
off	Offline(C)
dead、unavailable、または perm_loss	Offline(E)

## (4) パスの状態遷移

パスの状態遷移を次の図に示します。

図 2-11 パスの状態遷移



(凡例)

オンライン操作 : HDLM コマンドの `online` オペレーションの実行

オフライン操作 : HDLM コマンドの `offline` オペレーションの実行

各 LU に対する最後の稼働状態のパスは、`offline` オペレーションでは閉塞状態にできません。これは、LU にアクセスできなくなることを防ぐためです。`offline` オペレーションについては、「[6.4 offline パスを閉塞状態にする](#)」を参照してください。自動フェールバックによってパスが障害から回復すると、そのパスは自動的に稼働状態 (Online) になります。

ただし、間欠障害を監視している場合、間欠障害と見なされたパスは、障害から回復しても自動的に稼働状態 (Online) なりません。この場合、パスを手動で稼働状態 (Online) にしてください。

### 注意事項

HDLM コマンドを使用してパスのオフライン操作を行った直後にパスに障害が発生すると、一度 `Offline(C)` となった状態が `Offline(E)` に遷移する場合があります。オフライン操作を実行した場合は、一定時間 (2 分程度) 待ってから再度 HDLM コマンドを使用してパスの状態を確認し、`Offline(C)` になっていることを確認してください。`Offline(E)` になっている場合は、再度オフライン操作を実行してください。

## 2.8 間欠障害の監視

---

間欠障害とは、ケーブルの接触不良などが原因で断続的に障害が発生する状態です。間欠障害が発生すると、自動フェールバックが繰り返し行われて I/O 性能が低下することがあります。このような現象を防ぐため、HDLM では間欠障害が発生しているパスを自動フェールバックの対象から自動的に外すことができます。これを間欠障害監視といいます。

間欠障害監視を使用すると、一定の時間内に一定の回数の障害が発生したパスは、間欠障害が発生していると見なされます。間欠障害が発生したと見なされたパスは、ユーザーが HDLM コマンドの `online` オペレーションを使ってオンライン操作を実行するまで障害状態のままとなり、自動フェールバックは行われません。この状態を自動フェールバック対象外と呼びます。

### 2.8.1 間欠障害の確認

パスが間欠障害と見なされているかどうかは、HDLM コマンドの `view` オペレーションの実行結果で確認できます。

`view` オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

### 2.8.2 間欠障害監視の設定

間欠障害監視を設定する場合、まず有効にするか無効にするかを指定します。有効にした場合、間欠障害かどうかを判定するための条件（障害監視時間と障害発生回数）を指定できます。間欠障害監視を有効にした場合、指定した監視時間（分）内に指定した回数の障害が発生すると、HDLM はそのパスに間欠障害が発生していると見なします。

間欠障害監視は、HDLM コマンドの `set` オペレーションで設定できます。

間欠障害監視の設定方法については、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。

### 2.8.3 間欠障害監視の動作

間欠障害監視中は、HDLM は障害※が発生した履歴をパスごとに管理します。パスに障害が発生すると、HDLM は障害が発生した時刻から障害監視時間をさかのぼり、その時間内に発生した障害の回数を調べます。その回数が指定した条件に達している場合、間欠障害が発生していると見なします。

例えば、障害監視時間に 30、障害発生回数に 3 を指定していた場合、障害が発生した時刻の 30 分前から障害発生時点までに 3 回障害が発生していると、パスに間欠障害が発生していると見なします。そして、そのパスを自動フェールバックの対象から外します。自動フェールバックの対象から外されたパスは、ユーザーが HDLM コマンドの `online` オペレーションを実行するまで、障害状態のままでです。

注※

障害とは、パスの状態が Online から Offline(E)に遷移する事象を指します。

## 2.8.4 ユーザーの操作による間欠障害情報の変化

間欠障害監視中に、間欠障害監視の設定値を変更したり、パスの状態を変更したりすると、HDLM が管理しているパスの障害履歴や、自動フェールバック対象外となったパスの情報が初期化されます。間欠障害情報が初期化されるユーザーの操作と対象パスを、次の表に示します。

表 2-7 間欠障害情報が初期化されるユーザーの操作と対象パス

間欠障害情報が初期化されるユーザーの操作	間欠障害情報が初期化されるパス
間欠障害監視を無効 (off) にする	すべてのパス
間欠障害監視を再度有効 (on) にする (設定値の変更なし)	
障害監視時間または障害発生回数を変更する	
パスを閉塞状態 (Offline(C)) にする	状態を変更したパス
パスを稼働状態 (Online) にする	
ホストを再起動する	すべてのパス

間欠障害監視が有効の場合、間欠障害情報が初期化されると、その時点から改めて間欠障害監視が開始されます。自動フェールバック対象外となったパスを自動フェールバック対象外のままとするには、間欠障害監視の設定を変更する前に、それらのパスを閉塞状態 (Offline(C)) にしておいてください。

パスが間欠障害監視中かどうかは、HDLM コマンドの `view -path` オペレーションで `-iem` パラメーターを指定することによって表示される IEP 項目で判断できます。この項目に 0 以上の数値が表示された場合、間欠障害監視中です。

`view` オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

## 2.9 パスヘルスチェックによる障害検出

---

I/O が行われていないパスに対してパスの状態を確認し、障害を検出する機能をパスヘルスチェックと呼びます。

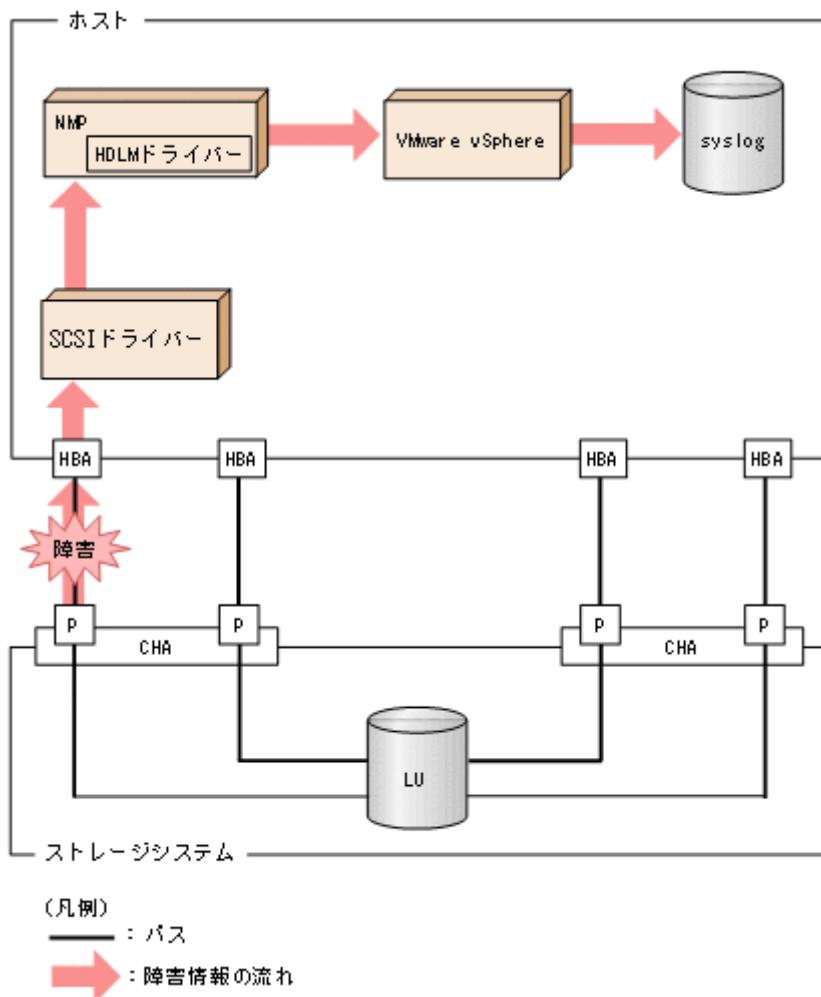
パスヘルスチェック機能は、I/O の発行の有無に関係なく、稼働状態 (Online) のパスを一定間隔でチェックします。障害発生時はパスの状態が Offline(E)に変更されるため、ユーザーは HDLM コマンドの `view` オペレーションでパスの障害を確認できます。

パスヘルスチェック機能は、VMware vSphere ESXi が提供する機能により実現しています。パスヘルスチェック機能を無効にしたり、チェック間隔を変更したりすることはできません。

## 2.10 障害管理

HDLM では、障害に対処するための情報をログファイルに採取します。HDLM が稼働するホストで障害情報を採取するときのデータの流れを次の図に示します。

図 2-12 パス障害の情報を採取するときのデータの流れ



SCSI ドライバーなどの HDLM の下位層でも、ログが採取される場合があります。それらのログについては、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。

### 2.10.1 採取するログの種類

ESXi ホストで発生した障害、およびリモート管理クライアントで発生した障害に対し、それぞれ障害情報が採取されます。

- ESXi ホストで発生した障害に関するログは、ESXi ホストの syslog に出力されます。  
I/O エラーやパスステータスの変更のログが該当します。
- リモート管理クライアントで発生した障害に関するログは、リモート管理クライアントの障害ログとして出力されます。

この障害情報から、障害状況の把握や原因の解析ができます。

ESXi ホストの障害情報について次の表に示します。

表 2-8 ESXi ホストの障害情報の種類

ログ名	内容	出力先
syslog	検知した障害などの情報が採取されます。	デフォルトのファイル名称を、次に示します。 /var/log/vmkernel.log syslog のファイルパスの設定方法については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。

障害レベルについては、「8.1.1 メッセージ ID の出力形式と意味」の「表 8-1 メッセージ ID (KAPL $nnnnnn-l$ ) の形式と意味」を参照してください。

リモート管理クライアントの障害情報について次の表に示します。

表 2-9 リモート管理クライアントの障害情報の種類

ログ名	内容	出力先
プロセス別トレース情報ファイル	HDLM コマンドの動作ログが採取されます。	プロセス別トレース情報ファイルの名称を、次に示します。 <u>Program Files (x86)</u> <u>HITACHI</u> <u>DynamicLinkManagerForVMware</u> <u>log</u> <u>hdlmgr[1-2].log</u> ※ ファイル数は 2 です。ファイルサイズの上限は 2048KB です。
トレースファイル	HDLM マネージャーのトレース情報が、ユーザーの設定したレベルで採取されます。障害が発生したときに、設定を変更してトレース情報を採取することができます。	トレースファイルの名称を、次に示します。 <u>Program Files (x86)</u> <u>HITACHI</u> <u>DynamicLinkManagerForVMware</u> <u>log</u> <u>hdlmtr[1-2].log</u> ※ ファイル数は 2 です。ファイルサイズの上限は 1000KB です。
ホスト接続エラーログ	ESXi ホストとの接続に失敗したときのエラー情報が出力されます。	ホスト接続エラーログ <u>Program Files (x86)</u> <u>HITACHI</u> <u>DynamicLinkManagerForVMware</u> <u>log</u> <u>hdlmconnection[1-2].log</u> ※ ファイル数は 2 です。ファイルサイズの上限は 100KB です。
イベントログ	監査ログが採取されます。 イベントログは [[イベントビューア]]などの管理ツールで確認できます。	イベントログ (アプリケーションログ)

## 注※

下線部はインストール時に指定したフォルダーです。

これらのファイルを取得する場合は、必ず別のファイルにコピーしてください。

## 2.10.2 障害情報の収集

HDLM の障害情報は、ESXi ホストおよびリモート管理クライアントの両方で収集する必要があります。なお、ESXi ホストで syslog の転送設定をしている場合、別途、転送先から syslog を収集してください。

### ESXi ホストでの収集

次のどちらかの方法で、ESXi ホストのログ情報を収集します。

- vSphere クライアントを使用して、システムログのエクスポートを操作する。  
取得対象は、デフォルトで選択されているものをそのまま指定する。
- ESXi ホストにログインし、`vm-support` コマンドを実行してシステムログを収集する。

なお、PSOD（パニック）が発生した場合には、調査のために別途コアダンプの収集をお願いすることがあります。

### リモート管理クライアントでの収集

HDLM 障害情報収集ユーティリティ（`DLMgetras`）を提供しています。

`DLMgetras` ユーティリティを実行すると、障害の解析に必要な統合トレースファイル、プロセス別トレース情報ファイル、定義ファイル、OS などの情報をまとめて収集できます。収集した情報は、HDLM の購入元会社、または保守会社への連絡時に利用できます。

`DLMgetras` ユーティリティについては、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ](#)」を参照してください。

## 2.11 監査ログの採取

HDLM をはじめ、日立のストレージ関連製品では、法規制、セキュリティ評価基準、業界ごとの各種基準に従っていることなどを監査者や評価者に証明するために、監査ログを採取できます。日立のストレージ関連製品で採取できる監査ログを次の表に示します。

表 2-10 監査ログの種別と説明

種別	説明
StartStop	ハードウェアまたはソフトウェアの起動と終了を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>OS の起動と終了</li><li>ハードウェアコンポーネント（マイクロを含む）の起動と終了</li><li>ストレージシステム上のソフトウェア、SVP 上のソフトウェア、Hitachi Command Suite 製品の起動と終了</li></ul>
Failure	ハードウェアまたはソフトウェアの異常を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>ハードウェア障害</li><li>ソフトウェア障害（メモリーエラーなど）</li></ul>
LinkStatus	機器間のリンク状態を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>リンクアップまたはダウン</li></ul>
ExternalService	日立のストレージ関連製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>RADIUS サーバー、LDAP サーバー、NTP サーバー、DNS サーバーとの通信</li><li>管理サーバーとの通信（SNMP）</li></ul>
Authentication	機器、管理者、またはエンドユーザーが、接続または認証を試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>FC ログイン</li><li>機器認証（FC-SP 認証、iSCSI ログイン認証、SSL サーバー/クライアント認証）</li><li>管理者またはエンドユーザー認証</li></ul>
AccessControl	機器、管理者、またはエンドユーザーがリソースへのアクセスを試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>機器のアクセスコントロール</li><li>管理者またはエンドユーザーのアクセスコントロール</li></ul>
ContentAccess	重要なデータへのアクセスを試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>NAS 上の重要なファイルまたは HTTP サポート時のコンテンツへのアクセス</li><li>監査ログファイルへのアクセス</li></ul>
ConfigurationAccess	管理者が許可された運用操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>構成情報の参照または更新</li><li>アカウントの追加、削除などのアカウント設定の更新</li><li>セキュリティの設定</li><li>監査ログ設定の参照または更新</li></ul>
Maintenance	保守操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"><li>ハードウェアコンポーネント増設または減設</li></ul>

種別	説明
Maintenance	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアコンポーネント増設または減設</li> </ul>
AnomalyEvent	<p>しきい値のオーバーなどの異常が発生したことを示す事象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークトラフィックのしきい値オーバー</li> <li>CPU 負荷のしきい値オーバー</li> <li>内部に一時保存した監査ログの上限到達前通知やラップアラウンド</li> </ul>
	<p>異常な通信の発生を示す事象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通常使用するポートへの SYN フラッド攻撃やプロトコル違反</li> <li>未使用ポートへのアクセス (ポートスキャンなど)</li> </ul>

採取できる監査ログは、製品ごとに異なります。以降では、HDLM で採取できる監査ログについて説明します。ほかの製品の監査ログについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

## 2.11.1 HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象

HDLM で監査ログに出力する種別と監査事象を次の表に示します。それぞれの監査事象には、重要度 (Severity) が設定されています。

表 2-11 監査ログに出力する種別と監査事象

種別	種別の説明	監査事象	重要度 (Severity) ※1	メッセージ ID
StartStop	ソフトウェアの起動と終了	HDLM マネージャーの起動成功	6	KAPL15401-I
		HDLM マネージャーの起動失敗	4	KAPL15402-W
		HDLM マネージャーの停止	6	KAPL15403-I
		DLMgetras ユーティリティーの開始	6	KAPL15060-I
		DLMgetras ユーティリティーの終了※2	6	KAPL15061-I
		dlmperfinfo ユーティリティーの起動成功	6	KAPL15320-I
		dlmperfinfo ユーティリティーの起動失敗	4	KAPL15321-W
		dlmperfinfo ユーティリティーの停止	6	KAPL15322-I
		dlmperfinfo ユーティリティーの中断※2	4	KAPL15323-W
Authentication	管理者またはエンドユーザーの認証	HDLM コマンドの実行権限なし	4	KAPL15111-W
		HDLM マネージャーの起動または停止の実行権限なし	4	KAPL15404-W

種別	種別の説明	監査事象	重要度 (Severity) ※1	メッセージ ID
ConfigurationAccess	構成情報の参照または更新	パスの統計情報の初期化成功	6	KAPL15101-I
		パスの統計情報の初期化失敗	4	KAPL15102-W
		パスの Online/Offline 成功	6	KAPL15103-I
		パスの Online/Offline 失敗	4	KAPL15104-W
		動作環境の設定成功	6	KAPL15105-I
		動作環境の設定失敗	4	KAPL15106-W
		プログラム情報の表示成功	6	KAPL15107-I
		プログラム情報の表示失敗	4	KAPL15108-W
		HDLM 管理対象物の情報表示成功	6	KAPL15109-I
		HDLM 管理対象物の情報表示失敗	4	KAPL15110-W
		Refresh の成功	6	KAPL15121-I
		Refresh の失敗	4	KAPL15122-W

#### 注※1

重要度 (Severity) の意味は次のとおりです。

4:Warning 6:Information

#### 注※2

ユーティリティーの実行中に、 [Ctrl] + [C] でユーティリティーを中断した場合は、ユーティリティーの終了を示す監査ログは出力されません。

### 2.11.2 監査ログ出力の前提条件

監査ログを出力するには、次に示す条件をすべて満たしている必要があります。

- リモート管理クライアント上で、イベントログのサービスが起動していること
- HDLM コマンドのset オペレーションで監査ログの出力を有効にしていること

ただし、上記の条件に関係なく、外部媒体から HDLM のユーティリティーなどを実行した場合、監査ログが出力されることがあります※。

#### 注※

次の内容で監査ログが出力されます。

- 出力される種別：StartStop, Authentication, ConfigurationAccess

- 出力される重要度 (Severity) : 6 (Error, Warning, Information)

#### 注意事項

- 監査ログは大量に出力されるおそれがあるので、ログサイズの変更、採取したログの退避、保管などを実施してください。

### 2.11.3 監査ログの出力先とフィルタリング

監査ログは、リモート管理クライアントのイベントログに出力されます。

また、HDLM コマンドの `set` オペレーションで監査ログの重要度 (Severity) と種別を指定することによってフィルタリングして出力できます。

重要度 (Severity) によるフィルタリング

指定できる重要度を次の表に示します。

表 2-12 指定できる重要度 (Severity)

重要度 (Severity)	出力される監査ログ	イベントログの種類との対応
0	Error	Error (エラー)
1		
2		
3		
4	Error, Warning	Warning (警告)
5		
6	Error, Warning, Information	Information (情報)
7		

種別によるフィルタリング

指定できる種別を次に示します。

- StartStop
- Authentication
- ConfigurationAccess
- 上記のすべての種別

監査ログの設定方法については、「[3.7.2 機能の設定](#)」を参照してください。

## 2.11.4 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式を説明します。

リモート管理クライアントの [イベントビューア] – [アプリケーションログ] で、イベントを開いたときに表示される [イベントのプロパティ] – [説明] の内容

プログラム名 [プロセス ID]: メッセージ部

メッセージ部の出力形式と内容を説明します。

メッセージ部の出力形式

統一識別子,統一仕様リビジョン番号,通番,メッセージID,日付・時刻,検出エンティティ,検出場所,監査事象の種別,監査事象の結果,監査事象の結果サブジェクト識別情報,ハードウェア識別情報,発生場所情報,ロケーション識別情報,FQDN,冗長化識別情報,エージェント情報,リクエスト送信元ホスト,リクエスト送信元ポート番号,リクエスト送信先ホスト,リクエスト送信先ポート番号,一括操作識別子,ログ種別情報,アプリケーション識別情報,予約領域,メッセージテキスト

メッセージ部には、半角で 950 文字まで表示されます。

表 2-13 メッセージ部に出力される情報

項目*	内容
統一識別子	「CELFSS」固定
統一仕様リビジョン番号	「1.1」固定
通番	監査ログのメッセージの通番
メッセージ ID	メッセージ ID 「KAPL15nnn-」の形式で出力されます。
日付・時刻	メッセージが出力された日付と時刻 「yyyy-mm-ddThh:mm:ss タイムゾーン」の形式で出力されます。
検出エンティティ	コンポーネント名やプロセス名
検出場所	ホスト名
監査事象の種別	事象の種別
監査事象の結果	事象の結果
監査事象の結果サブジェクト識別情報	事象に応じた、アカウント ID、プロセス ID または IP アドレス
ハードウェア識別情報	ハードウェアの型名や製番
発生場所情報	ハードウェアのコンポーネントの識別情報
ロケーション識別情報	ロケーション識別情報
FQDN	完全修飾ドメイン名

項目*	内容
冗長化識別情報	冗長化識別情報
エージェント情報	エージェント情報
リクエスト送信元ホスト	リクエストの送信元のホスト名
リクエスト送信元ポート番号	リクエストの送信元のポート番号
リクエスト送信先ホスト	リクエストの送信先のホスト名
リクエスト送信先ポート番号	リクエストの送信先のポート番号
一括操作識別子	プログラム内での操作の通番
ログ種別情報	「BasicLog」固定
アプリケーション識別情報	プログラムの識別情報
予約領域	出力されません。予約領域です。
メッセージテキスト	監査事象に応じた内容

注※ 監査事象によっては、出力されない項目もあります。

監査事象「HDLM 管理対象物の情報表示成功」で出力されるメッセージ部の例

監査事象「dlmperfinfo ユーティリティーの起動成功」で出力されるメッセージ部の例

## 2.12 リトライ回数監視機能

IO タイムアウトや FC ポートのリンクダウン・リンクアップなど、ただちにパス断線にはなりませんが、リトライを伴う IO の応答が連続して発生している場合にパスを閉塞する機能を提供します。リトライ回数監視機能は、間欠障害監視では監視対象とならない、パス断線を伴わない IO の応答を監視します。

### 2.12.1 リトライ回数監視機能の確認

リトライ回数監視機能でリトライを伴う IO の応答が発生しているかどうかは、HDLM コマンドの `view` オペレーションの実行結果で確認できます。`view` オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

### 2.12.2 リトライ回数監視機能の設定

リトライ回数監視機能を設定する場合、まず有効にするか無効にするかを設定します。有効にした場合、リトライ回数監視機能でリトライを伴う IO の応答が発生しているとみなす時間（監視時間）を設定します。また、監視時間が何回連続して発生した場合にパスを閉塞するか（監視回数）を設定します。リトライ回数監視機能は、HDLM コマンドの `set` オペレーションで設定できます。設定方法については、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。

### 2.12.3 リトライ回数監視機能の動作

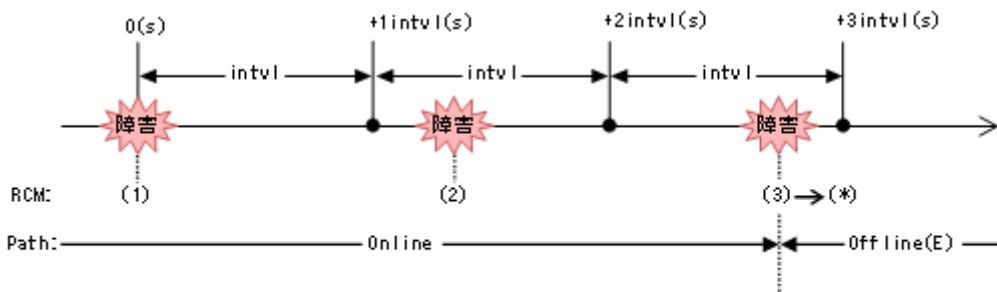
リトライ回数監視機能は、パスごとに実施されます。ここでは、リトライ回数監視機能の動作を次の場合に分けて説明します。

- ・ リトライ回数監視機能でパスを閉塞する場合
- ・ リトライ回数監視機能でパスを閉塞しない場合
- ・ リトライ回数監視機能で監視中にリトライ回数監視機能の設定を実行した場合

#### (1) リトライ回数監視機能でパスを閉塞する場合

リトライ回数監視機能が有効で、監視回数のカウンターが 0 のとき、リトライを伴う IO の応答を検出すると、カウンターを 1 にします。リトライを伴う IO の応答を検出した時点（以下(1)）から、監視時間（-intvl で設定した時間（秒））の間は、リトライを伴う IO の応答を検出してもカウンターは 1 のままです。次の監視時間 ((1)+監視時間～(1)+2×監視時間) の間にリトライを伴う IO の応答を検出すると、カウンターに 1 を加算して、カウンターの値は 2 になります。こうした状況を「リトライを伴う IO の応答を連続して検出している」とします。さらに次の監視時間 ((1)+2×監視時間～(1)+3×監視時間) の間にリトライを伴う IO の応答を検出した場合もカウンターに 1 を加算します。このとき、カウンターの

値が、監視回数の設定値（デフォルトは 3）に達していれば、パスを自動フェールバック抑止状態で閉塞（Offline(E)）にします。

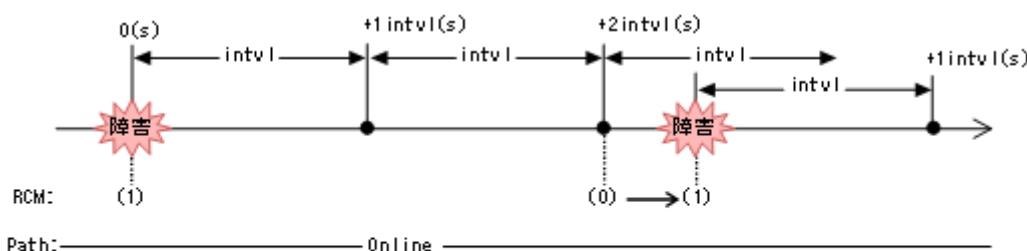


（凡例）

RCM: リトライ回数監視機能に関する情報

## （2）リトライ回数監視機能でパスを閉塞しない場合

リトライを伴う IO の応答を検出したあと、次の監視時間 ((1)+監視時間～(1)+2×監視時間) の間にリトライを伴う IO の応答を検出しなかった場合、連続して検出していないことになります。さらに次の監視時間以降 ((1)+2×監視時間～) にリトライを伴う IO の応答を検出した場合は、カウンターを 1 にして数えなおします。その際、監視時間は、リトライを伴う IO の応答を検出した時刻から再開します。



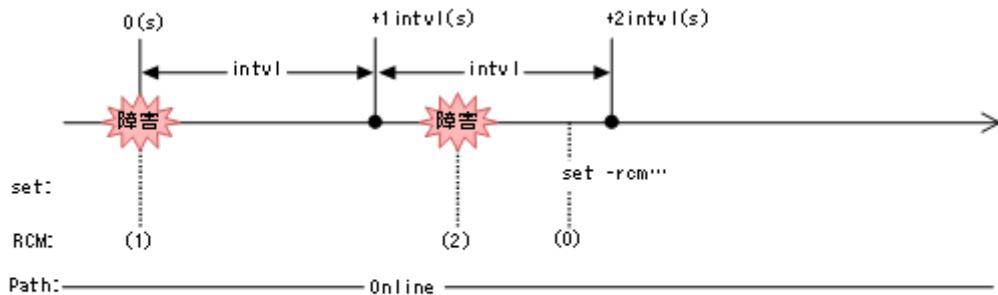
（凡例）

RCM: リトライ回数監視機能に関する情報

LU のオンラインパスが 1 本しかない場合は、障害発生回数が監視回数に達しても、パスを閉塞しません。このような場合には、LU が閉塞しているその他のパスの障害を取り除いて、HDLM コマンドの `online` オペレーションでパスを `Online` 状態にしてください。

## （3）リトライ回数監視機能で監視中にリトライ回数監視機能の設定を実行した場合

HDLM コマンドの `set` オペレーションでリトライ回数監視機能の設定を実行するとカウンターを 0 にします。



(凡例)

RCM: リトライ回数監視機能に関する情報

また、リトライを伴うIOの応答を検出しているパスに対して、HDLMコマンドのonlineオペレーションのパス指定などで、オンライン操作を実行した際もカウンターを0にします。

# 3

## HDLM の環境構築

この章では、HDLM の環境を構築する手順および設定を解除する手順について説明します。

HDLM のインストールおよび機能の設定は必ず行ってください。

## 3.1 HDLM のシステム要件

HDLM をインストールする前に、次の項目を確認してください。

### 3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS

HDLM は、次に示す OS が動作するマシンにインストールできます。

#### (1) ホストの適用 OS

ホストの適用 OS を次に示します。

- VMware vSphere ESXi 8.0 Standard Edition/ Enterprise Edition/ Enterprise Plus Edition
- VMware vSphere ESXi 8.0 Update 1 Standard Edition/ Enterprise Edition/ Enterprise Plus Edition
- VMware vSphere ESXi 8.0 Update 2 Standard Edition/ Enterprise Edition/ Enterprise Plus Edition
- VMware vSphere ESXi 8.0 Update 3 Standard Edition/ Enterprise Edition/ Enterprise Plus Edition
- VMware vSphere ESX 9.0

#### (2) リモート管理クライアントの適用 OS

リモート管理クライアントの適用 OS を次の表に示します。

表 3-1 リモート管理クライアントの適用 OS

OS	SP
Windows 11(x64)	SP なし
Windows Server 2016(x64)	SP なし
Windows Server 2019(x64)	SP なし
Windows Server 2022(x64)	SP なし
Windows Server 2025(x64)	SP なし

注

このマニュアルでは、64 ビット CPU で動作する Windows を(x64)と表記しています。

リモート管理クライアントは、ホストと同じ LAN 上にあるマシンのほか、ホストにインストールされたゲスト OS 上でも稼働できます。

### (3) リモート管理クライアントで使用する CLI

リモート管理クライアントには、前提プログラムとして VMware PowerCLI が必要です。

前提条件を次に示します。

表 3-2 VMware PowerCLI を使用する場合の前提条件

前提 OS またはアプリケーション	バージョン	備考
VMware PowerCLI または VCF PowerCLI	<ul style="list-style-type: none"><li>VMware PowerCLI 12.0.0</li><li>12.3.0</li><li>12.7.0</li><li>13.0.0</li><li>13.1.0</li><li>13.3.0</li><li>VCF PowerCLI 9.0</li></ul>	VMware vSphere ESXi 8.0 の場合、VMware PowerCLI をユーザーがインストールします。 VMware vSphere ESX 9.0 の場合、VCF PowerCLI をユーザーがインストールします。
Windows OS	<ul style="list-style-type: none"><li>Windows 11(x64)</li><li>Windows Server 2016(x64)</li><li>Windows Server 2019(x64)</li><li>Windows Server 2022(x64)</li><li>Windows Server 2025(x64)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>VMware PowerCLI のサポート OS に準拠します。</li></ul>
.NET Framework	4.7 以降	<ul style="list-style-type: none"><li>VMware PowerCLI がサポートする最新バージョンです。</li><li>ユーザーがインストールします。</li></ul>
Microsoft Visual C++ 2015-2019 x86 Redistributable	14.24.28127	<ul style="list-style-type: none"><li>HDLM のインストール時にインストールされます。 ただし、14.24.28127 以降のバージョンが存在する場合はインストールされません。</li></ul>
Microsoft Visual C++ 2015-2019 x64 Redistributable	14.24.28127	<ul style="list-style-type: none"><li>HDLM のインストール時にインストールされます。 ただし、14.24.28127 以降のバージョンが存在する場合はインストールされません。</li></ul>

#### 3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム

HDLM がサポートするストレージシステムを次に示します。

##### FC-SAN を使用する場合

- Hitachi Virtual Storage Platform 5100

- Hitachi Virtual Storage Platform 5200
- Hitachi Virtual Storage Platform 5500
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600
- Hitachi Virtual Storage Platform 5100H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5200H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5500H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600H
- Hitachi Virtual Storage Platform G1000
- Hitachi Virtual Storage Platform G1500
- Hitachi Virtual Storage Platform F1500
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28
- Hitachi Virtual Storage Platform E390
- Hitachi Virtual Storage Platform E590
- Hitachi Virtual Storage Platform E790
- Hitachi Virtual Storage Platform E990
- Hitachi Virtual Storage Platform E1090
- Hitachi Virtual Storage Platform E390H
- Hitachi Virtual Storage Platform E590H
- Hitachi Virtual Storage Platform E790H
- Hitachi Virtual Storage Platform E1090H
- Hitachi Virtual Storage Platform G100
- Hitachi Virtual Storage Platform G130
- Hitachi Virtual Storage Platform G150
- Hitachi Virtual Storage Platform G200
- Hitachi Virtual Storage Platform G350
- Hitachi Virtual Storage Platform G370
- Hitachi Virtual Storage Platform G400
- Hitachi Virtual Storage Platform G600
- Hitachi Virtual Storage Platform G700
- Hitachi Virtual Storage Platform G800

- Hitachi Virtual Storage Platform G900
- Hitachi Virtual Storage Platform F350
- Hitachi Virtual Storage Platform F370
- Hitachi Virtual Storage Platform F400
- Hitachi Virtual Storage Platform F600
- Hitachi Virtual Storage Platform F700
- Hitachi Virtual Storage Platform F800
- Hitachi Virtual Storage Platform F900
- Hitachi Virtual Storage Platform VX7
- HPE XP8 Storage
- HPE XP7 Storage

## IP-SAN を使用する場合

- Hitachi Virtual Storage Platform 5100
- Hitachi Virtual Storage Platform 5200
- Hitachi Virtual Storage Platform 5500
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600
- Hitachi Virtual Storage Platform 5100H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5200H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5500H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600H
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26
- Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28
- Hitachi Virtual Storage Platform E390
- Hitachi Virtual Storage Platform E590
- Hitachi Virtual Storage Platform E790
- Hitachi Virtual Storage Platform E990
- Hitachi Virtual Storage Platform E1090
- Hitachi Virtual Storage Platform E390H
- Hitachi Virtual Storage Platform E590H
- Hitachi Virtual Storage Platform E790H

- Hitachi Virtual Storage Platform E1090H
- Hitachi Virtual Storage Platform G100
- Hitachi Virtual Storage Platform G130
- Hitachi Virtual Storage Platform G150
- Hitachi Virtual Storage Platform G200
- Hitachi Virtual Storage Platform G350
- Hitachi Virtual Storage Platform G370
- Hitachi Virtual Storage Platform G400
- Hitachi Virtual Storage Platform G600
- Hitachi Virtual Storage Platform G700
- Hitachi Virtual Storage Platform G800
- Hitachi Virtual Storage Platform G900
- Hitachi Virtual Storage Platform F350
- Hitachi Virtual Storage Platform F370
- Hitachi Virtual Storage Platform F400
- Hitachi Virtual Storage Platform F600
- Hitachi Virtual Storage Platform F700
- Hitachi Virtual Storage Platform F800
- Hitachi Virtual Storage Platform F900

適用できるストレージシステムは、デュアルコントローラー構成が前提です。HUB 接続環境で使用する場合、接続されているすべてのホスト、およびすべてのストレージシステムのループ ID を一意に設定してください。なお、HDLM を使用するためには必要なマイクロプログラムバージョンについては、HDLM のソフトウェア添付資料を参照してください。

## ストレージの設定情報

日立ストレージシステムに添付されているドキュメントに従い、VMware vSphere ESXi で NMP を使用する場合の設定を行ってください。

### 3.1.3 メモリー所要量とディスク占有量

メモリー所要量およびディスク占有量について説明します。

## (1) メモリー所要量

ホストおよびリモート管理クライアントのメモリー所要量を次に示します。

- ホスト  
21MB (パス障害メッセージ抑制機能の有効時は 30MB)
- リモート管理クライアント  
250MB

## (2) ディスク占有量

ホストおよびリモート管理クライアントのディスク占有量を次に示します。

- ホスト  
600KB
- リモート管理クライアント  
20MB

### 3.1.4 HDLM がサポートする LU 数とパス数

HDLM がサポートする LU 数とパス数を次の表に示します。

表 3-3 HDLM がサポートする LU 数とパス数

項目	サポートする数
LU 数	1~1024
1LU 当たりのパス数	1~32
合計のパス数	1~4096

### 3.1.5 リモート管理クライアントと ESXi ホストの HDLM バージョン

ESXi ホストには、リモート管理クライアントの HDLM のバージョンと同じかまたは古いバージョンの HDLM をインストールしてください。

#### 注意事項

古いバージョンの HDLM をインストールする場合は、次に示す制限があります。

- 8.0.0 以降のバージョンの HDLM をインストールしてください。
- 古いバージョンの HDLM でサポートしていない HDLM コマンドのオペレーションは実行しないでください。

サポートしていないオペレーションを以下に示します。

- 8.0.0 :

```
dlnkmgr refresh -gad
```

- 8.1.0 以前 :

```
dlnkmgr set -exrndpathusetimes
```

```
dlnkmgr view -sys -exrndpathusetimes
```

- 8.4.0 以前 :

```
dlnkmgr refresh -stname
```

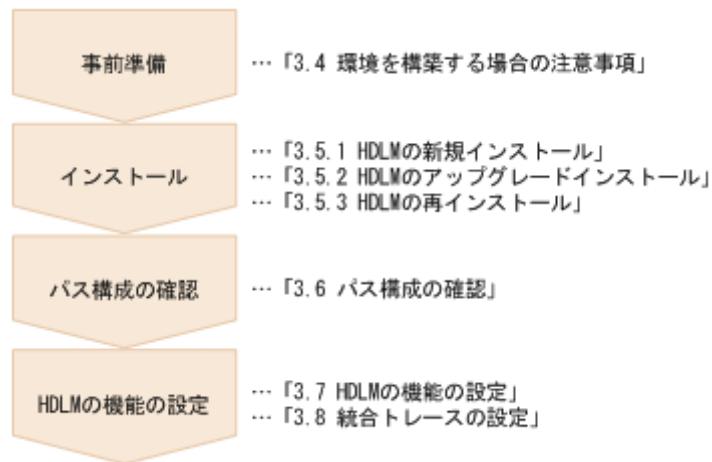
HDLM のバージョンは、`dlnkmgr view -sys` オペレーションで確認してください。

- HDLM コマンドにホスト接続オプションを指定して、オペレーションの形式を表示した場合も、リモート管理クライアントの HDLM のバージョンでサポートしているオペレーションの形式が表示されます。

## 3.2 環境構築の流れ

次の流れに従って、HDLM を使用する環境を構築してください。

図 3-1 環境構築の流れ



### 3.3 HDLM のインストールの種別

---

HDLM の新規インストール、アップグレードインストール、および再インストールの種別について説明します。

#### HDLM の新規インストール

HDLM がインストールされていないサーバーに HDLM をインストールすることを、 HDLM の新規インストールと呼びます。

#### HDLM のアップグレードインストール

すでにインストールされている古いバージョンの HDLM をアンインストールしないまま、新しいバージョンの HDLM をインストールすることを、 HDLM のアップグレードインストールと呼びます。

#### HDLM の再インストール

すでにインストールされている HDLM を修復するために、再度同じバージョンの HDLM をインストールすることを、 HDLM の再インストールと呼びます。 HDLM を再インストールする場合は、インストールされた HDLM をいったんアンインストールする必要があります。

## 3.4 環境を構築する場合の注意事項

---

ここでは、HDLM の環境を構築する場合の注意事項について説明します。

- 1 台のホストに設置する HBA のうち、HDLM 管理対象デバイスに接続する HBA は、すべて同一の種類を使用してください。HBA のマイクロプログラムのバージョンも合わせてください。異なる種類の HBA を使用すると、障害発生時にパスを切り替えられません。
- リモート管理クライアントとして使用するマシンに Windows 版の HDLM がインストールされている場合は、あらかじめアンインストールしてください。VMware 版の HDLM と Windows 版の HDLM を、同一のリモート管理クライアント上で使用することはできません。
- HDLM を新規インストールする場合、またはライセンスの有効期限が過ぎている状態でアップグレードインストールをする場合、ライセンスキーが必要です。HDLM のライセンスを更新する場合は、HDLM コマンドの `set -lic` オペレーションを実行します。ライセンスキーの期限は、ライセンスキーファイルに記述されているライセンスキーまたは入力したライセンスキーの種別によって設定されます。ライセンスキーの種別および `set` オペレーションについては、「[6.6 set 動作環境を設定する](#)」を参照してください。
- ウィルスチェックプログラムなどの常駐型ソフトウェアが動作しているときに HDLM をインストールすると、正常に動作しないおそれがあります。HDLM をインストールする場合、常駐型ソフトウェアを含むすべてのソフトウェアを停止してから開始してください。
- HDLM はインストール中に Windows Installer サービスを使用します。したがって、HDLM をインストールするときは次に示す設定および確認をしてください。
  - Windows Installer サービスの [スタートアップの種類] は「手動」または「自動」に設定してください。
  - HDLM をインストールするときは、ほかのプログラムが Windows Installer サービスを使用していないことを確認してください。

Windows Installer サービスの [スタートアップの種類] を「無効」に設定した状態、またはほかのプログラムが Windows Installer サービスを使用している状態で HDLM をインストールすると、インストールに失敗するおそれがあります。

この現象が発生した場合は、上記の 2 つの状態をどちらも満たしていることを確認してから、再度 HDLM をインストールしてください。

アップグレードまたは再インストールに失敗しても、「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウ上では HDLM が正常にインストールされたように見えます。しかし実際はアップグレードまたは再インストールに失敗しているので注意が必要です。

- HDLM をインストールする場合、HDLM のインストール先フォルダー、およびそのすべての親フォルダーの名前は、次のすべての条件を満たすものにしてください。
  - OS で規定された予約名ではない。  
OS で規定された予約名には、CON, AUX, COM1～COM9, LPT1～LPT9, PRN, NUL などがあります。
  - 次の文字によって構成される。

A～Z, a～z, 0～9, 「-」, 「\_」, 「.」, 「@」, 「(」, 「)」, 半角スペース

- ・末尾が半角スペースではない。
- ・半角スペースが2文字以上続いている。
- ・パスの文字数が100文字を超えていない。
- ・VMware vCenter ServerのサポートツールであるAuto Deploy機能を使用して、HDLMのプラグインをインストールしたイメージファイルを指定できます。

なお、Auto Deploy機能によってホストにプロビジョニングされるOSに対してHDLMを設定変更する場合、次に示す操作が必要です。

- ・リモート管理クライアントからのdlnkmgrコマンドの実行
- ・Auto Deployサーバーで該当ホストのホストプロファイルの適用

ホストプロファイルを適用しない場合、ホスト再起動時にHDLMの設定変更が保存されません。

- ・HDLMをインストールすると、ESXiホスト起動時に、HDLMのSATP要求ルールが重複しているというメッセージ(Duplicate user rule found...)がsyslogに出力されますが、運用に影響はありません。
- ・ESXiホストのロックダウンモードを使用する場合、ロックダウンモードを有効にすると、リモート管理クライアントからの操作ができなくなります。そのため、HDLMコマンドからの操作はロックダウンモードを無効にしてから行ってください。
- ・複数のリモート管理クライアントを設定する場合、同一ホストに対する接続はしないでください。
- ・HDLMのインストール時に、必要に応じてVisual C++ 2015-2019再頒布可能パッケージがインストールされます。
- ・リモート管理クライアントをインストールする環境に、.NET Framework4.7以降がインストールされている必要があります。.NET Framework4.7以降がインストールされていない場合、リモート管理クライアントのインストールが中止されます。
- ・VMware PowerCLIは、ESXiホストとの通信で443/TCPポートを使用します。このポート番号は変更できません。
- ・ESXiホストのパスワードに特殊文字が含まれている場合、HDLMのコマンドやユーティリティーの-pオプションに指定するパスワード文字列を一重引用符で囲んでください。ただし、「」と「」の文字はESXiホストのパスワードに設定しないでください。  
またESXiホストのパスワードに「%PATH%」や「%TEMP%」などのリモートクライアントで定義されているWindows環境変数を含めると、dlnmgetrasユーティリティーはESXiホストに接続できません。dlnmgetrasユーティリティーを使用する場合は、ESXiホストのパスワードにWindows環境変数を含めないでください。
- ・VMware PowerCLIをオフラインでインストールする場合、ダウンロードしたVMware PowerCLIコマンドレットのファイルアクセスがWindowsによってブロックされていないか、プロパティを確認してください。ブロックされている場合は、Unblock-Fileコマンドでブロックを解除してください。

## VMware PowerCLI を使用する場合の注意事項

- リモート管理クライアントで VMware PowerCLI を使用する場合は、次の設定を行ってください。
  - VMware PowerCLI は、Windows PowerShell で動作するコマンドレットのため、Windows PowerShell の実行ポリシーの設定が **Restricted**, **AllSigned**, または **Undefined** の場合はコマンドを実行できません。実行ポリシーを **RemoteSigned** に設定してください。

Windows PowerShell のプロンプトで、次のコマンドを実行して実行ポリシーを確認してください。

```
>Get-ExecutionPolicy
```

表示された結果が **Restricted**, **AllSigned**, または **Undefined** の場合は、実行ポリシーを **RemoteSigned** に変更してください。

Windows PowerShell のプロンプトで、**CurrentUser** の実行ポリシーを **RemoteSigned** に変更する場合の例を次に示します。

```
>Set-ExecutionPolicy RemoteSigned -Scope CurrentUser
```

- VMware PowerCLI をインストール後に、Windows PowerShell のプロンプトで次のコマンドが動作することを確認してください。

```
>Connect-VIServer -Server "ESXiホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -Password  
"パスワード"  
>$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2  
>$esxcli.system.version.get.Invoke()  
Build : Releasebuild-XXXXXXX  
Patch : XX  
Update : X  
Version : X.X.X  
>Disconnect-VIServer -Server "ESXiホスト名またはIPアドレス"
```

**Connect-VIServer** の実行時に警告またはエラーになることがあります。これは接続先の ESXi ホストの証明書が無効と判断されているためです。詳細は VMware のサイトを参照してください。

証明書のチェックが不要な場合は、Windows PowerShell のプロンプトで次のコマンドを実行して PowerCLI の設定を変更してください。

```
>Set-PowerCLIConfiguration -Scope user -InvalidCertificateAction Ignore
```

## 3.5 HDLM のインストール

初めに、インストール先のホストおよびリモート管理クライアントに、HDLM がすでにインストールされているかどうかを確認してください。HDLM がすでにインストールされている場合、「[3.5.2 HDLM のアップグレードインストール](#)」または「[3.5.3 HDLM の再インストール](#)」の手順に従ってください。

HDLM のインストールと同時に、Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリーがインストールされます。Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリーの統合トレース情報ファイルのファイルパスは、「`プログラムのインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥HNTRLib2¥spool¥hntr2n.log` (n はファイルの番号)」です。

### 3.5.1 HDLM の新規インストール

HDLM を新規にインストールする手順を、次に説明します。インストールは、リモート管理クライアントと、ホストの両方に対して実施してください。

ここで説明するインストール手順は、すでに VMware vSphere がホストにインストールされ、ホストとストレージシステムがマルチパス構成で接続されていることを前提としています。

リモート管理クライアントを新規にインストールする場合、HDLM インストールユーティリティー (`installhdlm`) でサイレントインストールできます。サイレントインストールとは、処理中の応答処理を省略できるインストール方法です。`installhdlm` ユーティリティーについては、「[7.5 installhdlm HDLM インストールユーティリティー](#)」を参照してください。

リモート管理クライアントのインストールを手動で実行する場合は、「[\(1\) リモート管理クライアントの新規インストール](#)」の手順に従ってください。サイレントインストールする場合は、「[\(2\) リモート管理クライアントのサイレントインストール](#)」の手順に従ってください。

#### (1) リモート管理クライアントの新規インストール

1. リモート管理クライアント上の Windows に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. Windows がインストールされたドライブの直下に、ライセンスキーファイルを格納します。

インストール先ドライブ:¥hdlm\_license

3. HDLM のインストール DVD-ROM をセットします。
4. インストールDVD-ROMが入ったドライブ:¥HDLM\_VMware 下のインストーラー (`setup.exe`) を直接実行してください。

Windows では、ユーザーアカウント制御 (UAC) がサポートされています。このため、Administrator 以外のユーザーでインストーラーを実行すると、管理者権限を要求されることがあります。管理者権限を要求された場合、ダイアログボックスが表示されますので、これに応答してください。

5. Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージのインストールが必要な場合、Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージをインストールします。画面に表示されるダイアログに従ってインストールを実行してください。

Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージのインストールに失敗する場合は、エラーメッセージを確認し、エラーに対処したあと、再度 HDLM をインストールしてください。

なお、システムドライブの直下に次のインストールログがOutputされますので確認してください。

- vcredist\_x86\_log
- vcredist\_x86\_000\_vcRuntimeMinimum\_x86.log
- vcredist\_x86\_001\_vcRuntimeAdditional\_x86.log
- vcredist\_x64\_log
- vcredist\_x64\_000\_vcRuntimeMinimum\_x64.log
- vcredist\_x64\_001\_vcRuntimeAdditional\_x64.log

6. 画面に表示されるメッセージに従って、ライセンスキーファイルを指定、またはライセンスキーを入力します。

- 手順 2 でライセンスキーファイルを格納した場合、手順 2 で格納したライセンスキーファイルを指定してください。
- ライセンスキーファイルを使用しない場合は、ライセンスキーを直接入力してください。

7. 画面に表示されるメッセージに従って操作を進めます。

インストール中はコマンドプロンプトウィンドウが表示され、インストールが完了すると自動的に閉じます。

#### 注意事項

- コマンドプロンプトウィンドウを手動で閉じないでください。
- Windows セキュリティーの重要な警告ダイアログが表示される場合があります。

キャンセルを選択してください。

8. インストール処理の結果を確認します。

インストールが正常に終了すると、ダイアログに KAPL09181-I メッセージがOutputされます。Outputされていない場合は、Windows のインストール先ドライブ:¥hdlmvminst.log のメッセージを確認し、エラーに対処したあと、再度 HDLM をインストールしてください。hdlmvminst.log に警告またはエラーメッセージがOutputされていない場合は、インストールがキャンセルされたおそれがあるため、再度 HDLM をインストールしてください。

9. リモート管理クライアントを再起動します。

10. リモート管理クライアント上の Windows に、Administrators グループのユーザーでログオンします。

11. Windows PowerShell のコマンドプロンプトを管理者として起動します。

12. `dlmrmcenv` ユーティリティーを使用して CLI に PowerCLI が表示されるのを確認します。vCLI が表示される場合は PowerCLI を設定してください。

13. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、HDLM がインストールされたことを確認します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
HDLM Manager Ver       : WakeupTime
Alive      x.x.x-xx    yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent   -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。

リモート管理クライアントのインストールが完了したら、「[\(3\) ホストの新規インストール](#)」に進んでください。

## (2) リモート管理クライアントのサイレントインストール

### サイレントインストール時の注意事項

- サイレントインストールを実行中は、installhdlm ユーティリティーを強制終了しないでください。[Ctrl] + [C] などによって、installhdlm ユーティリティーを強制終了しても、HDLM のインストールは中止されません。installhdlm ユーティリティーを強制終了した場合は、必ず installhdlm.log で、インストール結果を確認してください。
- installhdlm ユーティリティーの実行に必要なディスク容量を次に示します。  
workdir キーに指定したフォルダー (workdir キーを指定しなかった場合は、環境変数 TMP または TEMP で指定したフォルダー) に、20KB の空き容量が必要です。

- リモート管理クライアント上の Windows に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
- HDLM のインストール DVD-ROM をセットします。
- インストール情報設定ファイルを作成します。

インストール情報設定ファイルには、インストール時に必要なライセンスキーファイル、インストール先フォルダー、およびそのほかの情報をあらかじめ定義しておきます。

HDLM では、インストール情報設定ファイルの編集を容易にするため、サンプルファイルを提供しています。サンプルファイルの格納場所を次に示します。

```
インストールDVD-ROMが入ったドライブ:¥HDLM_VMware¥DLMTools¥sample_installhdlm.ini
```

サンプルファイルを使用する場合は、インストール DVD-ROM から任意のフォルダーにコピーして、テキストエディターで編集してください。

インストール情報設定ファイルに定義する内容は、「[7.5.3 インストール情報設定ファイルの定義内容](#)」を参照してください。

- 「管理者：コマンドプロンプト」を起動します。

5. 次に示すコマンドを実行して、サイレントインストールを実行します。

```
インストールDVD-ROMが入ったドライブ:¥HDLM_VMware¥DLMTools¥installhdlm -f インストール情報  
設定ファイル
```

#### 注意事項

- Windows セキュリティーの重要な警告ダイアログが表示される場合があります。  
キャンセルを選択してください。

Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージのインストールに失敗する場合は、エラーメッセージを確認し、エラーに対処したあと、再度 HDLM をインストールしてください。

なお、システムドライブの直下に次のインストールログが output されますので確認してください。

- vcredist\_x86\_log
- vcredist\_x86\_000\_vcRuntimeMinimum\_x86.log
- vcredist\_x86\_001\_vcRuntimeAdditional\_x86.log

6. インストール処理の結果を確認します。

installhdlm ユーティリティーが表示するサイレントインストールの結果を、コマンドプロンプトで確認してください。

インストールが正常に終了すると、コマンドプロンプトに KAPL09181-I メッセージが output されます。出力されていない場合は、installhdlm.log のメッセージを確認し、エラーに対処したあと、再度 HDLM をインストールしてください。installhdlm.log に警告またはエラーメッセージが output されていない場合は、インストールがキャンセルされたおそれがあるため、再度 HDLM をインストールしてください。

7. リモート管理クライアントを再起動します。

8. リモート管理クライアント上の Windows に、Administrators グループのユーザーでログオンします。

9. Windows PowerShell のコマンドプロンプトを管理者として起動します。

10. dlmrmenv ユーティリティーを使用して CLI に PowerCLI が表示されるのを確認します。vCLI が表示される場合は PowerCLI を設定してください。

11. HDLM コマンドの view オペレーションを実行して、HDLM がインストールされたことを確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlkmgr -l view -sys
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
HDLM Manager Ver       : WakeupTime
Alive                  : x.x.x-xx  yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent              -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Version」に「x.x.x-xx」が表示されていれば、正しいバージョンがインストールされています。

リモート管理クライアントのサイレントインストールが完了したら、「(3) ホストの新規インストール」に進んでください。

## (3) ホストの新規インストール

### ホストが ESXi 8.x 以降の場合 (vSphere Lifecycle Manager を使用する場合)

vSphere Lifecycle Manager を使用したインストールの操作は、以下のようにデポへのインポート、ベースラインの作成、ステージングといった流れになります。

詳細については、VMware のドキュメント「ホストとクラスタのライフサイクルの管理」の以下の項目を参照してください。

- vSphere Lifecycle Manager デポの操作
- vSphere Lifecycle Manager ベースラインおよびベースライン グループの作成、編集、または削除
- ESXi ホストへのパッチおよび拡張機能のステージング

HDLM は独立型コンポーネントのカテゴリ（機能拡張）との位置づけです。

vSphere Lifecycle Manager へのインポートは以下の手順となります。

1. リモート管理クライアントに格納されている Depot ファイルを、vSphere Lifecycle Manager を操作する端末の任意のディレクトリーにコピーします。

Depot ファイルは、リモート管理クライアントの次の場所に格納されています。

**HDLMのインストール先フォルダー￥plug in**

2. HDLM をインストールする前にホストの許容レベルを PartnerSupported に変更するため、以下の操作を実施します。

リモート管理クライアントで、Windows PowerShell のプロンプトを起動し、次に示すコマンドを実行して ESXi ホストに接続します。

```
Connect-VIServer -Server "ホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -  
Password "パスワード"  
$vmHost = Get-VMHost "ホスト名またはIPアドレス"  
$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2
```

次に示すコマンドを実行して、現在のホストの許容レベルを確認します。

```
$esxcli.software.acceptance.get.Invoke()
```

実行結果は HDLM をアンインストールしたあとに必要となるため、保存してください。

実行結果を保存したら、次に示すコマンドを実行して、ホストの許容レベルを変更します。

```
$esxcli.software.acceptance.set.Invoke(@{level="PartnerSupported"})
```

3. vSphere Client で、[メニュー] – [Lifecycle Manager] の順に選択します。

4. vSphere Lifecycle Manager のホームビューの上部で、[アクション] – [更新のインポート] を選択します。  
[更新のインポート] ダイアログが表示されます。
5. [参照] ボタンをクリックして、手順 1 でコピーした HDLM の Depot ファイルを選択します。
6. [インポート] をクリックします。  
[最近のタスク] ペインに、アップデートのインポートのタスクが表示されます。
7. vSphere Lifecycle Manager を使用して、インポートした HDLM の Depot ファイルをイメージに追加してホストを修正します。
8. HDLM インストール後にホストを再起動します。

## ホストが ESXi 8.x 以降の場合 (VMware PowerCLI を使用する場合)

ホストへのインストールは、リモート管理クライアントの VMware PowerCLI で操作します。リモート管理クライアントに VMware PowerCLI がインストールされていない場合は、はじめに VMware PowerCLI をインストールし、ホストに接続できることを確認してください。

また、事前にソフトウェア添付資料で Depot ファイル名、およびプラグイン名を確認してください。

1. リモート管理クライアントに格納されている Depot ファイルを、ホスト上の任意のディレクトリーにコピーします。

Depot ファイルは、リモート管理クライアントの次の場所に格納されています。

**HDLMのインストール先フォルダー￥plugin**

2. リモート管理クライアントで、Windows PowerShell のプロンプトを起動し、次に示すコマンドを実行して ESXi ホストに接続します。

```
Connect-VIServer -Server "ホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -Password "パスワード"  
$vmHost = Get-VMHost "ホスト名またはIPアドレス"  
$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2
```

3. ホストの許容レベルを変更します。

次に示すコマンドを実行して、現在のホストの許容レベルを確認してください。

```
$esxcli.software.acceptance.get.Invoke()
```

実行結果は HDLM をアンインストールしたあとに必要となるため、保存してください。

実行結果を保存したら、次に示すコマンドを実行して、ホストの許容レベルを変更してください。

```
$esxcli.software.acceptance.set.Invoke(@{level="PartnerSupported"})
```

4. ホストに HDLM をインストールします。

次に示すコマンドを実行してください。depot パラメーターには、手順 1 でコピーした Depot ファイル名を指定します。

```
$esxcli.software.component.apply.Invoke(@{depot="/ホスト上の任意のフォルダー/Depotファイル名"})
```

インストールが完了したら、次に示すコマンドを実行して、HDLMのソフトウェア添付資料に記載されているプラグインのバージョン番号と一致していることを確認してください。

```
$esxcli.software.vib.list.Invoke() | findstr hdlm
```

5. ホストを再起動します。

6. HDLMのSATPの要求ルールが適用されているか確認します。

- 次に示すコマンドを実行してください。

```
Connect-VIServer -Server "ホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -Password "パスワード"  
$vmHost = Get-VMHost "ホスト名またはIPアドレス"  
$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2  
$esxcli.storage.nmp.satp.rule.list.Invoke()
```

以下の要求ルールが表示されることを確認してください。

```
ClaimOptions :  
...  
Model : ^DF600F*  
Name : HTI_SATP_HDLM  
Options :  
PSPOptions :  
RuleGroup : user  
Transport :  
Vendor : HITACHI  
  
ClaimOptions :  
...  
Model : ^OPEN-*  
Name : HTI_SATP_HDLM  
Options :  
PSPOptions :  
RuleGroup : user  
Transport :  
Vendor : HITACHI  
  
ClaimOptions :  
...  
Model : ^OPEN-*  
Name : HTI_SATP_HDLM  
Options :  
PSPOptions :  
RuleGroup : user  
Transport :  
Vendor : HP  
  
ClaimOptions :  
...  
Model : ^OPEN-*  
Name : HTI_SATP_HDLM  
Options :  
PSPOptions :  
RuleGroup : user  
Transport :  
Vendor : HP
```

```
PSPOptions  :
RuleGroup    : user
Transport    :
Vendor      : HPE
```

- 上記の要求ルールが表示されない場合は、次に示すコマンドを実行して要求ルールを登録してください。登録後、再度手順 5 に戻り操作を実施してください。

```
$esxcli.storage.nmp.satp.rule.add.Invoke(@{vendor="HITACHI";model="^DF600F*"; satp="HTI_SATP_HDLM"})
$esxcli.storage.nmp.satp.rule.add.Invoke(@{vendor="HITACHI";model="^OPEN-*"; satp="HTI_SATP_HDLM"})
$esxcli.storage.nmp.satp.rule.add.Invoke(@{vendor="HP";model="^OPEN-*"; satp="HTI_SATP_HDLM"})
$esxcli.storage.nmp.satp.rule.add.Invoke(@{vendor="HPE";model="^OPEN-*"; satp="HTI_SATP_HDLM"})
```

7. 「3.6 パス構成の確認」に記述されている手順に従ってパス情報を確認します。

### 3.5.2 HDLM のアップグレードインストール

HDLM のアップグレードインストールは、新規インストールと同じ手順です。インストール先に応じて、次の手順に従ってください。

- リモート管理クライアント

「3.5.1 HDLM の新規インストール」の「(1) リモート管理クライアントの新規インストール」を参照してください。

ただし、手順 2 と手順 6 の操作は不要です。

- ホスト

「3.5.1 HDLM の新規インストール」の「(3) ホストの新規インストール」を参照してください。

vSphere Lifecycle Manager を使用してアップグレードインストールする場合は、イメージの HDLM を新たにインポートした HDLM に変更してホストを修正してください。修正完了後にホストを再起動してください。

#### 注意事項

- ホストの HDLM をアップグレードインストールした後は、ホストを再起動してください。ホストを再起動していない場合、HDLM ドライバーが更新されず、HDLM コマンドが正しく動作しません。
- HDLM 性能情報表示ユーティリティー (dlmpfinfo) を実行中の場合は、[Ctrl] + [C] で dlmpfinfo ユーティリティーを中止してからリモート管理クライアントの HDLM をアップグレードインストールを実行してください。

### 3.5.3 HDLM の再インストール

HDLM を再インストールする場合は、インストールされた HDLM をいったんアンインストールする必要があります。

HDLM を再インストールする手順を次に示します。

1. 「[3.8.1 HDLM をアンインストールする前の準備](#)」に記述されている手順に従って、 HDLM をアンインストールする前の準備をします。
2. 「[3.8.2 HDLM のアンインストール](#)」に記述されている手順に従って、 ホストおよびリモート管理クライアントから HDLM をアンインストールします。
3. 「[3.5.1 HDLM の新規インストール](#)」に記述されている手順に従って、 リモート管理クライアントおよびホストに HDLM をインストールします。

## 3.6 パス構成の確認

ロードバランスやフェールオーバーなどの HDLM の機能は、1 つの HDLM 管理対象デバイスに対して複数の稼働状態のパスがあるときにだけ使用できます。HDLM のインストール後、およびハードウェア構成の変更後には、パスの構成や状態を確認してください。

パス情報は、リモート管理クライアントから HDLM コマンドの `view` オペレーションで確認できます。

パス情報を確認する手順について、次に説明します。`view` オペレーションの詳細については、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

1. 次に示すコマンドを実行します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path > リダイレクト先のファイル
```

2. リダイレクト先のファイルを開いて、次のことを確認します。

- パスがアクセスする LU があるか

パスは「`PathName`」で特定できます。パスがアクセスする LU は「`DskName`」と「`iLU`」の組み合いで特定できます。

- パスはすべて `Online` 状態か

「`PathStatus`」が「`Online`」であることを確認してください。`Online` 状態ではないパスが存在する場合は、「`Reduced`」と表示されます。

- 同じ LU にアクセスするパスが経由する CHA ポート（「`ChaPort`」）と HBA ポート（「`PathName`」に表示されたホストポート番号およびバス番号）の組み合わせが異なっているか

「`PathName`」のうち、左端の番号がホストポート番号です。ホストポート番号の右側にあるピリオドから 2 番目のピリオドまでの番号が、バス番号です。

## 3.7 HDLM の機能の設定

HDLM には、ロードバランス、監査ログの採取などの機能があります。これらの機能は、リモート管理クライアントから HDLM コマンドの `set` オペレーションで設定できます。ここでは、HDLM の機能を設定する手順を説明します。

### 3.7.1 変更前の設定内容の確認

HDLM コマンドの `view` オペレーションを使って変更前の設定内容を確認する方法について説明します。

次のコマンドを実行して現在の設定内容を確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgm -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys -sfunc
HDLM Version : X.X.X-XX
Service Pack Version :
Load Balance : on(extended lio)
Intermittent Error Monitor : off
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログの現在の設定内容を確認する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
PROMPT>dlnkmgm -l view -sys -audlog
Audit Log : off
Audit Log Category : -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

### 3.7.2 機能の設定

HDLM で設定できる各機能について次の表にまとめています。各機能の詳細は「[\(1\) ロードバランスの設定](#)」以降を参照してください。

各機能の設定値には、デフォルト値と推奨値があります。HDLM コマンドの `set` オペレーションで機能を設定しない場合、機能の設定値にはデフォルト値が適用されます。推奨値は、機能を設定する場合の目安となる値です。

表 3-4 各機能のデフォルト値と推奨値

機能	デフォルト値	推奨値
ロードバランス	アルゴリズムは拡張最少 I/O 数	アルゴリズムの推奨値は運用環境によって異なります。

機能	デフォルト値	推奨値
間欠障害監視	off	on
監査ログ採取	off	推奨値は運用環境によって異なります。 監査ログを採取したい場合「on」を設定してください。

## (1) ロードバランスの設定

ロードバランス機能を使用するかどうかを設定します。

ロードバランスを設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set -lb on -lbtype exlio
```

ロードバランスのアルゴリズムを変更する場合は、-lbtype オプションのあとに、次に示すアルゴリズムを指定します。

- ・拡張ラウンドロビンの場合は「exrr」
- ・拡張最少 I/O 数の場合は「exlio」
- ・拡張最少ブロック数の場合は「exlbk」
- ・最近の使用 (VMware) の場合は「vmwmru」
- ・ラウンドロビン (VMware) の場合は「vmwrr」

## (2) 間欠障害監視の設定

間欠障害が発生したときの I/O 性能の低下を防ぐため、間欠障害監視を有効にすることをお勧めします。

間欠障害監視を有効にした場合、「障害監視時間」および「障害発生回数」で、間欠障害と見なす条件を指定できます。障害監視時間のデフォルト値は「30」、障害発生回数のデフォルト値は「3」です。

間欠障害監視を有効にした場合、指定した監視時間（分）内に指定した回数の障害が発生すると、HDLM はそのパスに間欠障害が発生していると見なします。間欠障害が発生していると見なされたパスは、自動フェールバック対象外になります。なお、間欠障害監視は、パスごとに実施されます。

パスが間欠障害と見なされているかどうかは、HDLM コマンドのview オペレーションの実行結果で確認できます。

間欠障害監視を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set -iem on -intvl 20 -iemnum 2
```

間欠障害を監視する場合は「on」を、監視しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-intvl パラメーターおよび-iemnum パラメーターで、間欠障害と見なす条件を指定できます。-intvl パラ

メーターでは障害監視時間を、-iemnum パラメーターでは障害発生回数を指定します。条件の指定を省略すると、30 分以内に 3 回障害が発生した場合に間欠障害と見なします。

### (3) 監査ログ採取の設定

監査ログを採取するかどうか設定します。

監査ログを採取する場合には、監査ログ採取レベルおよび監査ログ種別を設定します。

監査ログの採取レベルの設定値とその説明を次の表に示します。監査ログ採取レベルは重要度 (Severity) で設定します。デフォルトの設定値は「6」です。

表 3-5 監査ログ採取レベルの設定値

設定値 (重要度)	説明
0	Error レベルの監査ログを採取します。
1	
2	
3	
4	Error, および Warning レベルの監査ログを採取します。
5	
6	Error, Warning, および Information レベルの監査ログを採取します。
7	

監査ログ種別の設定値とその説明を次の表に示します。デフォルトの設定値は「all」です。

表 3-6 監査ログ種別の設定値

設定値	説明
ss	StartStop の監査ログ事象を採取します。
a	Authentication の監査ログ事象を採取します。
ca	ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。
all	StartStop, Authentication, および ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。

監査ログ採取を設定する例を、次に示します。

```
dlnkmgr -l set -audlog on -audlv 6 -category all
```

監査ログを採取する場合は「on」を、採取しない場合は「off」を指定します。「on」を指定した場合、-audlv パラメーターで監査ログ採取レベルを、-category パラメーターで監査ログ種別を指定できます。

### 3.7.3 変更後の設定の確認

HDLM コマンドの set オペレーションを使って設定した内容を確認する方法について説明します。

変更後の HDLM の機能設定情報を表示します。実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys -sfunc
HDLM Version : x.x.x-xx
Service Pack Version :
Load Balance : on(extended lio)
Intermittent Error Monitor : on(2/20)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログ採取を設定した場合は、次のコマンドで確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -audlog
Audit Log : on(6)
Audit Log Category : all
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

## 3.8 HDLM の設定解除

HDLM をインストールする前の環境に戻すための作業について説明します。

### 3.8.1 HDLM をアンインストールする前の準備

- 必要に応じて、 HDLM がインストールされているホストの内容をテープなどにバックアップしてください。
- DBMS などの、各種アプリケーションのプロセスおよびサービスが、 HDLM の管理対象パスを使用している場合、それらをすべて停止してください。

### 3.8.2 HDLM のアンインストール

HDLM をアンインストールする手順を、次に説明します。アンインストールは、リモート管理クライアントと、ホストの両方に対して実施してください。

#### (1) ホストのアンインストール

##### VMware PowerCLI を使用する場合

リモート管理クライアントの VMware PowerCLI で操作します。

- リモート管理クライアント上の Windows に、 Administrators グループのユーザーでログオンします。
- リモート管理クライアントで、 Windows PowerShell のプロンプトを起動し、次に示すコマンドを実行して ESXi ホストに接続します。

```
Connect-VIServer -Server "ホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -Password "パスワード"  
$vmHost = Get-VMHost "ホスト名またはIPアドレス"  
$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2
```

- 次に示すコマンドを実行して、 HDLM の Vib 名を確認します。Vib 名は「Name:」以降に表示されます。

```
$esxcli.software.vib.list.Invoke() | findstr hdlm | findstr Name
```

- HDLM をアンインストールします。

次に示すコマンドを実行してください。vibname パラメーターには、手順 3 で確認した Vib 名を指定します。

```
$esxcli.software.vib.remove.Invoke(@{vibname="Vib名"})
```

- ホストの許容レベルを、 HDLM をインストールする前の値に戻します。

次に示すコマンドを実行してください。level パラメーターには、HDLM をインストールする前に確認した許容レベルの値を指定します。

```
$esxcli.software.acceptance.set.Invoke(@{level="許容レベル"})
```

6. ホストを再起動します。

7. 次に示すコマンドを実行して、デバイスの一覧を確認します。

```
Connect-VIServer -Server "ホスト名またはIPアドレス" -User "ユーザー名" -Password "パスワード"  
$vmHost = Get-VMHost "ホスト名またはIPアドレス"  
$esxcli = Get-EsxCli -VMHost $vmHost -V2  
$esxcli.storage.nmp.device.list.Invoke()
```

表示された実行結果から、「Device Display Name」に「HITACHI Fibre Channel Disk」が表示されている項目を探し、「Storage Array Type」に「HTI\_SATP\_HDLM」が表示されていないことを確認してください。

ホストのアンインストールが完了したら、リモート管理クライアントのアンインストールに進んでください。

## (2) リモート管理クライアントのアンインストール

リモート管理クライアントのアンインストールは、HDLM アンインストールユーティリティー(`removehdlm`) を実行してください。コントロールパネルの【プログラムと機能】からはアンインストールできません。

リモート管理クライアントは、サイレントアンインストールできます。サイレントアンインストールとは、処理中の応答処理を省略できるアンインストール方法です。

`removehdlm` ユーティリティーについては、「7.6 `removehdlm` HDLM アンインストールユーティリティー」を参照してください。

1. 「管理者：コマンドプロンプト」を起動します。

2. 次に示すコマンドを実行して、`removehdlm` ユーティリティーを実行します。

```
removehdlm
```

サイレントアンインストールする場合は、`removehdlm` ユーティリティーに`-s` パラメーターを付けて実行します。

```
removehdlm -s
```

3. アンインストール結果の確認をします。

アンインストール結果をコマンドプロンプトで確認してください。サイレントアンインストールした場合は、`hdlmvminst.log` に出力されたメッセージも併せて確認してください。

`hdlmvminst.log` は、Windows のインストール先ドライブの直下に出力されます。

## 注意事項

- HDLM をアンインストールしても、 HDLM に同梱されている Visual C++ 2015-2019 再頒布可能パッケージはアンインストールされません。
- インストール時に、 Windows PowerShell の実行ポリシーの設定を変更した場合は、変更前のポリシーに戻してください。
- インストール時に、 VMware PowerCLI の証明書チェックの設定を変更した場合は、変更前の設定に戻してください。

## 3.9 ホスト OS アップグレード時の注意事項

ここでは、ESXi ホストのメジャーリリースを超えたアップグレード（ESXi7.x から ESXi8.x など）を実施する場合の注意事項について説明します。

- HDLM をアンインストールしてから ESXi のアップグレードを実施してください。
- ESXi ホストのアップグレード完了後、ESXi のメジャーリリースに対応した HDLM をインストールしてください。
- HDLM の構成情報は引き継がれません。HDLM をアンインストールする前に HDLM の構成情報を採取してください。採取については「[3.9.1 HDLM の構成情報の採取](#)」を参照してください。
- HDLM のインストール後に「[3.9.1 HDLM の構成情報の採取](#)」で採取した情報をもとに、構成情報を再設定してください。再設定については「[3.9.2 HDLM の構成情報の再設定](#)」を参照してください。

### 3.9.1 HDLM の構成情報の採取

次のコマンドを実行し、出力結果を採取してください。

```
dlkmgr ホスト接続オプション view -sys
dlkmgr ホスト接続オプション view -lu -item all
dlkmgr ホスト接続オプション view -sys -expathusetimes
dlkmgr ホスト接続オプション view -sys -exrndpathusetimes
esxcli ホスト接続オプション hdlm dlkmgr system get
```

### 3.9.2 HDLM の構成情報の再設定

「[3.9.1 HDLM の構成情報の採取](#)」で採取した情報をもとに適宜設定してください。

#### (1) ロードバランス

次のコマンドの実行結果で「VmPSP」欄を確認してください。

```
dlkmgr ホスト接続オプション view -lu -item all
```

すべての LU のロードバランスが同じ場合

dlkmgr コマンドのset オペレーションで設定してください。※

異なるロードバランスの LU が存在する場合

異なる LU 個別にロードバランスを設定する必要があります。次の方法で設定してください。

- VMware の機能（esxcli コマンド、vSphere Web Client など）

注※

`dlnkmgr` コマンドの `set` オペレーションによるロードバランスの設定はすべてのパスを一括して設定します。LU ごとにロードバランスを設定する場合は、`dlnkmgr` コマンドの `set` オペレーションは使用できません。

## (2) 間欠障害監視

次のコマンドの実行結果で「Intermittent Error Monitor」欄を確認してください。

```
dlnkmgr ホスト接続オプション view -sys
```

`dlnkmgr` コマンドの `set` オペレーションで設定してください。

## (3) 拡張ロードバランスの同一パス使用回数（シーケンシャル I/O）

次のコマンドの実行結果で「Times Same ExPath Was Used」欄を確認してください。

```
dlnkmgr ホスト接続オプション view -sys -expathusetimes
```

`dlnkmgr` コマンドの `set` オペレーションで設定してください。

## (4) 拡張ロードバランスの同一パス使用回数（ランダム I/O）

次のコマンドの実行結果で「Times Same ExPath Was Used(R):」欄を確認してください。

```
dlnkmgr ホスト接続オプション view -sys -exrndpathusetimes
```

`dlnkmgr` コマンドの `set` オペレーションで設定してください。

## (5) パス障害抑制機能の設定

次のコマンドの実行結果でパス障害抑制情報が設定されていないか確認してください。確認方法は「[4.5.6 パス障害メッセージ抑制情報の確認](#)」を参照してください。

```
esxcli ホスト接続オプション hdlm dlnkmgr system get
```

パス障害メッセージ抑制機能を使用している場合は、「[4.5.5 パス障害メッセージ抑制情報の設定](#)」を参照し、再設定してください。

# 4

## HDLM の運用

この章では、HDLM の運用方法について説明します。

## 4.1 コマンドを使用した HDLM の運用

この節では、HDLM コマンドで、HDLM の機能を使用する手順について説明します。各コマンドについては、「[6. コマンドリファレンス](#)」を参照してください。

### 4.1.1 コマンドを使用する場合の注意事項

- HDLM コマンドは、PowerShell プロンプトから実行してください。
- パラメーターで指定する値にスペースが含まれる場合には、値全体を「"」(引用符) で囲んでください。
- 次に示す操作を実行する場合、HDLM が管理するパス数に応じて処理時間 (パス数×1 秒) を必要とします。
  - `online` または `offline` オペレーションでパスの状態を変更する場合
  - `set` オペレーションでロードバランスの設定を変更する場合

### 4.1.2 パスの情報を参照する

HDLM コマンドでパスの情報を参照する手順について説明します。

パスの情報を参照するには、HDLM コマンドの `view` オペレーションに `-path` パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけを参照する場合は、HDLM コマンドの `view` オペレーションに `-path -hdev` パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path -hdev naa.60060e8012271b005040271b00001020
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus  IO-Count  IO-Errors
Online      15        0

PathID PathName          DskName          iLU
       ChaPort Status  Type  IO-Count  IO-Errors  DNum HDevName
000000  0004.0000.0000000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V  .410017  001020
       1B      Online   Own       7          0          0 naa.60060e8012271b005040271b00001020
20
000003  0005.0000.0000000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V  .410017  001020
       2B      Online   Own       8          0          0 naa.60060e8012271b005040271b00001020
20
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

### 4.1.3 パスの状態を変更する

パスの状態を変更する手順について、次に説明します。

#### (1) パスの状態を Online 状態にする場合

##### 1. 現在のパスの状態を確認します。

パスを CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で Online 状態にする場合は、パス名またはパス管理 PATH\_ID を確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

##### 2. パスの状態を Online 状態にするには、HDLM コマンドのonline オペレーションを実行します。

Online 状態にするパスは、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で指定できます。パスの指定については、「6.5 online パスを稼働状態にする」を参照してください。

例えば、特定のパスを Online 状態にする場合は、HDLM コマンドのonline オペレーションに-pathid パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード online -pathid 000001
KAPL01050-I 指定されたパスをOnlineにします。よろしいですか? [y/n]:y
KAPL01061-I 1つのパスをOnlineにしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = online
PROMPT>
```

##### 3. 変更したパスの状態を確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

#### (2) パスの状態を Offline(C)状態にする場合

##### 1. 現在のパスの状態を確認します。

パスを CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で Offline(C)状態にする場合は、パス名またはパス管理 PATH\_ID を確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

##### 2. パスの状態を Offline(C)状態にするには、HDLM コマンドのoffline オペレーションを実行します。

Offline(C)状態にするパスは、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で指定できます。パスの指定については、「6.4 offline パスを閉塞状態にする」を参照してください。

例えば、特定のパスを Offline(C)状態にする場合は、HDLM コマンドのoffline オペレーションに-pathid パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード offline -pathid 000001
KAPL01052-I 指定されたパスをOffline(C)にします。よろしいですか?[y/n]:y
KAPL01053-I 指定されたパスがOffline(C)になつてもよい場合はyを入力してください。そうでない場合はnを入力してください。[y/n]:y
KAPL01061-I 1本のパスをOffline(C)にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = offline
PROMPT>
```

3. 変更したパスの状態を確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

#### 4.1.4 LU の情報を参照する

HDLM コマンドで LU の情報を参照する手順について説明します。

LU の情報を参照するには、 HDLM コマンドのview オペレーションに-lu パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -lu
Product      : VSP_Fx00
SerialNumber : 410017
LUs          : 3

iLU      HDevName          PathID Status
001020  naa.60060e8012271b005040271b00001020 000000 Online
                  000003 Online
001021  naa.60060e8012271b005040271b00001021 000001 Online
                  000004 Online
001022  naa.60060e8012271b005040271b00001022 000002 Online
                  000005 Online
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻 = yyyy/
mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

#### 4.1.5 パスの統計情報を初期値にする

HDLM が管理するすべてのパスについて、 統計情報 (I/O 回数、 および I/O 障害回数) の値を初期値 (0) にする手順について説明します。

この手順は、 I/O 回数や I/O 障害回数を初期値 (0) にした時点から、 I/O や I/O 障害が何回発生するかを調査したい場合に役立ちます。

1. 現在のパスの状態を確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

2. HDLM が管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数、I/O 障害回数) の値を初期値にするには、HDLM コマンドの clear オペレーションに -pdst パラメーターを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード clear -pdst
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = clear。よろしいですか? [y/n]
: y
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終了時刻 = yyyy/mm/
dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

3. パスの統計情報が初期値になったかどうかを確認します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
```

## 4.1.6 動作環境を参照または設定する

HDLM の動作環境を参照、または設定する手順について説明します。

### (1) 動作環境を参照する

動作環境を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -sys -sfunc パラメーターを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys -sfunc
HDLM Version           : x.x.x-xx
Service Pack Version   :
Load Balance           : on(extended lio)
Intermittent Error Monitor : off
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

監査ログの動作環境を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -sys -audlog パラメーターを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -audlog
Audit Log               : off
Audit Log Category      : -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
```

hh:mm:ss  
PROMPT>

表示される項目と説明については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

## (2) 動作環境を設定する

HDLM の動作環境を設定するには、HDLM コマンドの set オペレーションを実行します。HDLM コマンドの set オペレーションで次の機能を設定できます。

- ロードバランス機能
- 間欠障害監視機能
- 物理ストレージシステム情報の表示機能
- 監査ログ採取
- 拡張ロードバランスの同一パス使用回数（シーケンシャル I/O）
- 拡張ロードバランスの同一パス使用回数（ランダム I/O）

各機能の設定については、「6.6 set 動作環境を設定する」を参照してください。

例えば、ロードバランス機能を設定する場合は、HDLM コマンドの set オペレーションに -lb パラメーターを指定して実行します。確認メッセージに対して、コマンドを実行する場合は「y」を、実行しない場合は「n」を入力してください。

コマンドの実行例を次に示します。

PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set -lb on -lbtype exrr  
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y  
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>

設定した内容が反映されているかどうか確認するには、「(1) 動作環境を参照する」の手順を実行してください。

### 4.1.7 ライセンス情報を参照する

ライセンス情報を参照する手順について説明します。

ライセンス情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -sys -lic パラメーターを指定して実行します。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -lic
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目と説明については、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

## 4.1.8 ライセンスを更新する

ライセンスを更新する手順について説明します。

ライセンスを更新するには、HDLM コマンドのset オペレーションに-lic パラメーターを指定して実行します。確認メッセージに対して、コマンドを実行する場合は「y」を、実行しない場合は「n」を入力してください。ライセンスキーファイルがない場合は、ライセンスキーの入力を求めるメッセージが表示されます。ライセンスキーの入力を求めるメッセージに対して、ライセンスキーを入力してください。

### 注意事項

HDLM コマンドのset オペレーションに-lic パラメーターを指定してライセンスのインストールを実行する場合は、必ず単独で実行してください。HDLM コマンドのset オペレーションに-lic パラメーターを含む HDLM コマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、次のメッセージを出力して HDLM が異常終了することがあります。

```
KAPL01075-E HDLM内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。
```

このメッセージが出力された場合は、HDLM コマンドのview オペレーションに-sys -lic パラメーターを指定して実行し、ライセンスが正しくインストールされているかを確認してください。

コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -l set -lic
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n] : y
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。
PROMPT>
```

## 4.1.9 HDLM のバージョン情報を参照する

HDLM のバージョン情報を参照する手順について、次に説明します。

HDLM のバージョン情報を参照するには、HDLM コマンドのview オペレーションに-sys パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

## ホストにインストールされた HDLM のバージョン情報を確認する場合

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys
HDLM Version          : x.x.x-xx
Service Pack Version  :
Load Balance          : on(extended lio)
Intermittent Error Monitor : off
SATP                  : HTI_SATP_HDLM
Default PSP           : HTI_PSP_HDLM_EXLIO
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

## リモート管理クライアントにインストールされた HDLM のバージョン情報を確認する場合

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys
HDLM Version          : x.x.x-xx
Service Pack Version  :
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive      x.x.x-xx    yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent  -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Version」に表示されているバージョンが HDLM のバージョンです。

### 4.1.10 HDLM のコンポーネント情報を参照する

HDLM のコンポーネント情報を参照する手順について、次に説明します。

HDLM のコンポーネント情報を参照するには、HDLM コマンドの view オペレーションに -sys パラメーターを指定して実行します。コマンドの実行例を次に示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys
HDLM Version          : x.x.x-xx
Service Pack Version  :
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive      x.x.x-xx    yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent  -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

表示される項目のうち、「HDLM Manager」が HDLM のコンポーネント情報です。

## 4.2 HDLM マネージャーの起動と停止

HDLM のプログラムに障害が発生した場合などに、 HDLM マネージャーを手動で起動、または停止して対処することができます。

### 4.2.1 HDLM マネージャーの起動

HDLM マネージャーは、リモート管理クライアントのインストール時に Windows のサービスとして登録され、スタートアップの種類が【自動】に設定されます。このため、Windows を起動すると HDLM マネージャーが自動的に起動されます。

HDLM マネージャーが停止している場合には、次の操作によって起動できます。

リモート管理クライアント上の Windows に Administrators グループのユーザーでログオンし、コントロールパネルの【管理ツール】から【サービス】を起動します。サービスの一覧で「DLManagerVM」をダブルクリックして、【開始】ボタンをクリックします。

HDLM マネージャーが起動しているかどうかは、リモート管理クライアントから、次に示す HDLM コマンドの view オペレーションで確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -msrv
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive    x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Manager」が「Alive」であれば、マネージャーが起動しています。

### 4.2.2 HDLM マネージャーの停止

HDLM をアンインストールする場合や、 HDLM がすでにインストールされている状態でアップグレードまたは再インストールする場合、 HDLM マネージャーは自動的に停止されます。

HDLM マネージャーが自動的に停止されない場合は、次の操作によって停止できます。

リモート管理クライアント上の Windows に Administrators グループのユーザーでログオンし、コントロールパネルの【管理ツール】から【サービス】を起動します。サービスの一覧で「DLManagerVM」をダブルクリックして、【停止】ボタンをクリックします。

HDLM マネージャーが停止しているかどうかは、リモート管理クライアントから、次に示す HDLM コマンドの view オペレーションを実行して確認してください。

```
PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -msrv
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Dead
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd
hh:mm:ss
PROMPT>
```

「HDLM Manager」が「Dead」であれば、マネージャーが停止しています。

## 4.3 HDLM の常駐プロセス

HDLM の常駐プロセスを次の表に示します。システムの運用で HDLM のプロセスを監視する必要がある場合は、次のプロセスを指定してください。

表 4-1 HDLM の常駐プロセス一覧

プロセス名	サービス名	説明
dlmmgr.exe	HDLM Manager for VMware	HDLM マネージャーのプロセス
hntr2mon.exe	Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor	Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリー (HNTRLib2) のプロセス
hntr2srv.exe	2	

## 4.4 HDLM とウイルス対策ソフト

---

HDLM では、ウイルススキャンの対象から除外する必要があるファイルやフォルダーはありません。

## 4.5 パス障害メッセージ抑制機能

### 4.5.1 パス障害メッセージ抑制機能の概要

HBAなどのハードウェア障害や共有ディスクのSCSIリザーブなどでパス障害が多発する場合、HDLMのパス障害メッセージがシステムログに大量に出力され、システムログのパフォーマンスに影響することがあります。同一要因によるパス障害メッセージを一定間隔または一定回数抑制することでシステムログへの影響を回避できます。この機能をパス障害メッセージ抑制機能といいます。

`dlnkmgr`コマンドを使用して機能の設定と確認ができます。

拡張esxcliコマンドを使用した設定方法については、「[付録A パス障害メッセージ抑制機能（拡張esxcliコマンドを使用する場合）](#)」を参照してください。

### 4.5.2 パス障害メッセージ抑制機能の設定

HDLMが提供する`dlnkmgr`コマンドの`set`オペレーションでパス障害メッセージを抑制する条件を設定します。設定した条件を満たしている間、パス障害メッセージを抑制します。

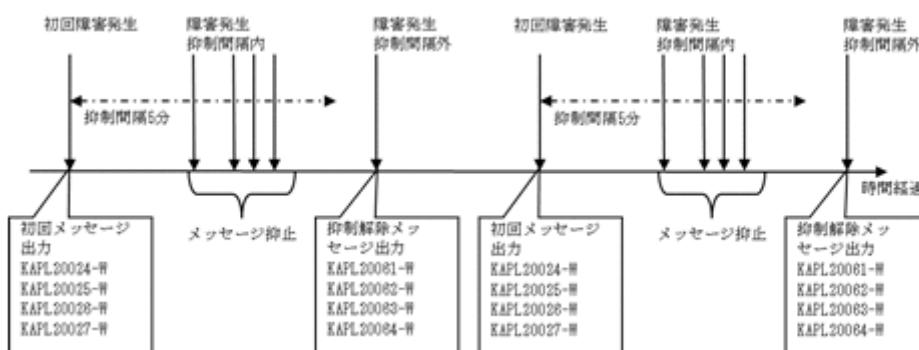
パス障害メッセージを抑制する条件として、抑制間隔、抑制回数を設定します。

抑制対象メッセージと抑制解除後に出力されるメッセージは次のとおりです。

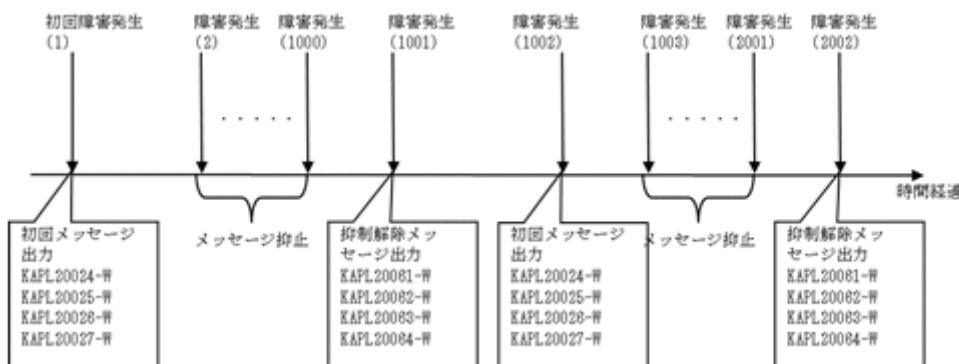
表4-2 抑制対象メッセージと抑制解除後に出力されるメッセージ

項目番	抑制対象メッセージ	抑制解除後に出力されるメッセージ
1	KAPL20024-W	KAPL20061-W
2	KAPL20025-W	KAPL20062-W
3	KAPL20026-W	KAPL20063-W
4	KAPL20027-W	KAPL20064-W

抑制間隔に5分を設定した場合の例を示します。



抑制回数に 1000 回を設定した場合の例を示します。



抑制間隔と抑制回数の両方を設定した場合は両条件を満たす間、パス障害メッセージを抑制します。

dlnkmgr コマンドの set オペレーションについては、「4.5.5 パス障害メッセージ抑制情報の設定」を参照してください。

### 4.5.3 パス障害メッセージ抑制機能の確認

パス障害メッセージ抑制機能が設定されているかどうかは、dlnkmgr コマンドの view オペレーションの実行結果で確認できます。

dlnkmgr コマンドの view オペレーションについては、「4.5.6 パス障害メッセージ抑制情報の確認」を参照してください。

### 4.5.4 パスごとのパス障害メッセージ抑制開始、解除契機

パスごとのパス障害メッセージ抑制開始契機は次のとおりです。

抑制開始契機	開始時に出力されるメッセージ
パス障害メッセージ抑制機能が有効化されている環境でパス障害が発生した時点。(パス障害メッセージ抑制機能有効化中に追加されたパスも対象となります。)	障害要因により、次のメッセージのどれかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• KAPL20024-W</li><li>• KAPL20025-W</li><li>• KAPL20026-W</li><li>• KAPL20027-W</li></ul>

パスごとのパス障害メッセージ抑制解除契機は次のとおりです。

抑制解除契機	解除時に出力されるメッセージ
抑制開始時点から抑制間隔を超えてパス障害が発生した時点。 抑制間隔を超えてパス障害が発生しなかった場合は、VMware のパスポーリング契機（デフォルト 5 分）で解除されます。	障害要因により、以下のメッセージのどれかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• KAPL20061-W</li><li>• KAPL20062-W</li></ul>

抑制解除契機	解除時に出力されるメッセージ
抑制開始から抑制回数を超えてパス障害が発生した時点	• KAPL20063-W
拡張esxcli コマンドでパス障害メッセージ抑制機能を無効化した時点	• KAPL20064-W
パスが障害閉塞した時点	
offline コマンドでパスをoffline にした時点	
パスやデバイスを削除した時点	
ホストステータス, プラグインステータス, デバイスステータス, センスキーごとに異なる障害要因が 20 を超えて発生した時点。最後に発生した障害要因の抑制を解除します。	

## 4.5.5 パス障害メッセージ抑制情報の設定

### (1) 形式

```
dlkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] set
  {-pfs on [-intvl パス障害メッセージ抑制間隔] [-num パス障害メッセージ抑制回数]
  |-pfs off}
```

### (2) パラメーター

pfs:{ON|OFF}

パス障害メッセージ抑制機能の有効無効設定。初期値は OFF (無効) です。

ON : 有効にする。

OFF : 無効にする。

パス障害メッセージ抑制間隔

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する間隔を秒単位で指定します。0～3600 の値を指定します。デフォルト値は 10 秒です。0 を指定した場合、間隔での抑制は行いません。

ここで指定したパス障害メッセージ抑制間隔内に監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2 回目以降のメッセージを抑制します。抑制間隔を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともに出力した後、抑制を解除します。

パス障害メッセージ抑制回数

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する回数を指定します。0 または 10 ～3600000 の値を指定します。デフォルト値は 3000 です。0 を指定した場合、回数での抑制は行いません。

ここで指定したパス障害メッセージ抑制回数内に監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2回目以降のメッセージを抑制します。抑制回数を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともにに出力した後、抑制を解除します。

### (3) 使用例

パス障害メッセージ抑制機能を有効化し、抑制条件としてパス障害メッセージ抑制間隔（5分）、パス障害メッセージ抑制回数（1000回）とする場合の使用例を示します。

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set -pfs on -intvl 300 -num 1000
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n]:y
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

### (4) 注意事項

- 同一障害要因でも障害を検出したSCSIコマンドが異なる場合は、別の障害要因として扱われます。
- メッセージを抑制するパス障害要因はホストステータス、プラグインステータス、デバイスステータス、センスキーごとに最大20です。20を超えて障害が発生した場合は、最古の障害要因の抑制を解除し、新たに発生した障害要因のメッセージを抑制対象とします。
- 設定したパラメーター値はHDLMの更新インストール、再インストール後も引き継がれます。

## 4.5.6 パス障害メッセージ抑制情報の確認

### (1) 形式

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -sys -pfs
```

### (2) パラメーター

ありません。

### (3) 使用例

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys -pfs
Path Failure Suppression          : ON
Path Failure Message Suppression Interval : 300
Consecutive Number Of Path Failures    : 1000
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

# 5

## トラブルシート

この章では、まず HDLM の障害情報を確認する方法について説明します。その後で、HDLM に障害が発生した場合の対処方法について説明します。対処方法は、パスの障害、HDLM のプログラムの障害、およびこれら以外が原因の障害の場合に分けて説明します。

## 5.1 障害情報の収集

---

エラーが発生した場合、直ちに障害情報を収集してください。障害情報の収集前にマシンを再起動すると、障害情報が削除されてしまい、情報を収集できなくなるおそれがあります。

情報の収集方法については、「[2.10.2 障害情報の収集](#)」を参照してください。

## 5.2 メッセージでの障害情報の確認

---

パスの障害は、syslog に出力される KAPL20023-E のメッセージから確認できます。

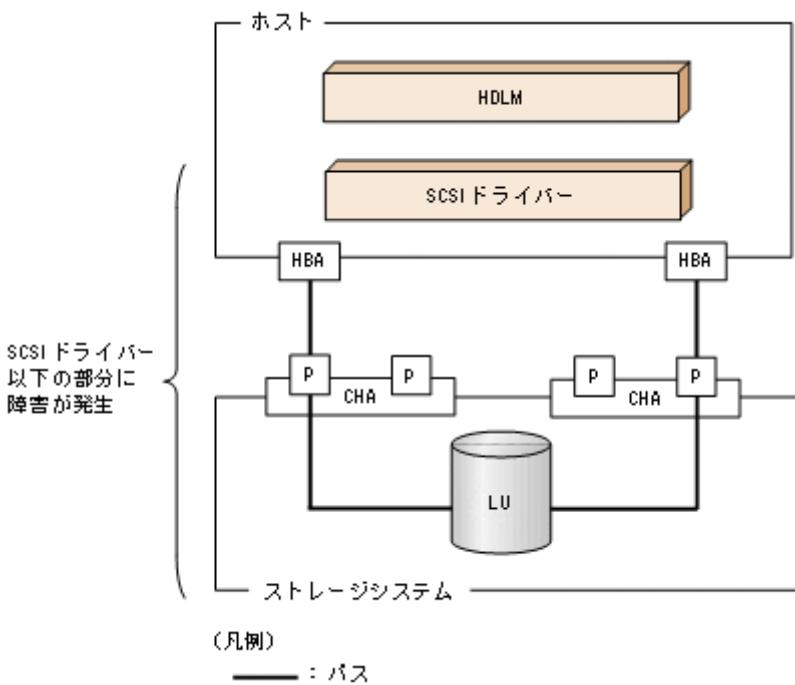
パスについての詳細な情報を得たい場合は、メッセージの情報を基に [view](#) オペレーションの実行結果を確認してください。

[view](#) オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

## 5.3 パス障害時の対処

HDLM は、パスの障害を検知した場合、パスのフェールオーバーをするとともに、KAPL20023-E のメッセージを出力します。このメッセージが出力された場合、次の図に示す、パスを構成する部分に障害が発生しています。

図 5-1 KAPL20023-E が出力される場合の障害個所



KAPL20023-E のメッセージが出力された場合の対処手順を次の図に示します。

図 5-2 パス障害時の対処手順



HDL M コマンドを使用してパス障害に対処する手順を次に説明します。

### 5.3.1 メッセージの監視

メッセージ監視用のアプリケーションやツールなどを使用して、ホストの syslog に出力されるメッセージを監視します。KAPL20023-E のメッセージが出力された場合、そのメッセージの内容を参照して、障害が発生したパスを確認してください。メッセージ内容については「[5.2 メッセージでの障害情報の確認](#)」を参照してください。

### 5.3.2 パス情報の取得

パスの情報を取得します。

リモート管理クライアントから、次のコマンドを実行してください。

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path -iem -hbaportwwn > pathinfo.txt
```

pathinfo.txt はリダイレクト先のファイル名です。ファイル名は環境に合わせて決めてください。

### 5.3.3 障害パスの抽出

取得したパス情報を確認して、障害パスを探します。「Status」が「Offline(E)」のパスが障害パスです。

### 5.3.4 障害発生ハードウェアの絞り込み

障害パスの「DskName」、「iLU」、「ChaPort」、および「HBAPortWWN」を確認して、障害が発生した可能性があるハードウェアを絞り込みます。「DskName」、「iLU」、および「ChaPort」は、ストレージシステムの管理プログラムで参照して、物理的に特定してください。

### 5.3.5 障害個所の特定・ハードウェアへの障害対処

VMware vSphere、およびハードウェアの管理ツールなどで障害個所を特定して、障害に対処します。

ハードウェアの保守については、ハードウェアの購入元会社、または保守契約があれば保守会社に連絡してください。

## 5.3.6 パスを稼働状態に変更

障害回復後、障害のために閉塞状態になったパスを HDLM コマンドのonline オペレーションで稼働状態にします。online オペレーションについては、「[6.5 online パスを稼働状態にする](#)」を参照してください。

リモート管理クライアントから、次のコマンドを実行してください。

```
dlmkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード online
```

このコマンドを実行すると、すべての閉塞状態のパスが稼働状態になります。

障害が原因で稼働状態にできないパスがあった場合は、KAPL01039-W のメッセージが表示されます。稼働状態にできないパスを無視して処理を継続する場合は「y」を、処理を中断する場合は「n」を入力してください。

稼働状態にできないパスについては、再度状態を確認し、障害回復のための対処をしてください。

## 5.4 プログラム障害時の対処

HDLM のプログラムで障害が発生した場合の対処について説明します。対処手順を次の図に示します。

図 5-3 プログラム障害時の対処手順



HDLM コマンドを使用してプログラム障害に対処する手順を次に説明します。

### 5.4.1 メッセージの監視

ホストの syslog に出力されるメッセージを監視します。HDLM のプログラムで障害が発生すると、メッセージが syslog に出力されます。メッセージの内容を参照して、メッセージのレベルが「E」(Error レベル) 以上の場合、対処が必要です。

### 5.4.2 プログラム情報の取得

HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡する情報を取得します。

HDLM 障害情報収集ユーティリティー (DLMgetras) を使用して、障害情報を収集してください。DLMgetras ユーティリティーで収集できる情報、および DLMgetras ユーティリティーについては、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー](#)」を参照してください。

DLMgetras ユーティリティーが収集する情報の中には、ホストの再起動時にクリアされるものがあります。障害発生時は DLMgetras ユーティリティーを速やかに実行してください。

### 5.4.3 プログラム障害への対処

「[8. メッセージ](#)」を参照して対処してください。

対処しても同じエラーが発生する場合は、HDLM コマンドのview オペレーションで HDLM のプログラムの状態を確認して、エラーに対処します。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

リモート管理クライアントから、次に示すコマンドを実行してください。

```
dlmkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -sys
```

コマンド実行後、KAPL01013-E のメッセージが output された場合は、ホストを再起動します。

対処しても同じエラーが発生する場合は、「[5.4.4 HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡](#)」に進んでください。

#### 5.4.4 HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡

エラーが解決されない場合、HDLM 障害情報収集ユーティリティー (DLMgetras) で取得した情報を、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

## 5.5 パスやプログラム以外の障害時の対処

---

HDLM に関連すると思われる障害の原因が、パスでもプログラムでもない場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティー (DLMgetras) を実行して、情報を収集してください。その後で、取得した情報を、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。[DLMgetras ユーティリティーで収集できる情報、および DLMgetras ユーティリティーについて](#)は、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー](#)」を参照してください。

# 6

## コマンドリファレンス

この章では、HDL Mで使用するコマンドについて説明します。

## 6.1 コマンド概要

ここでは、HDLM で使用するコマンドの入力形式、およびオペレーションについて説明します。

### コマンドの入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

```
dlnkmgr [ホスト接続オプション] オペレーション名 [パラメーター [パラメーター値]]
```

dlnkmgr : コマンド名

ホスト接続オプション : 操作対象のホストへのログインに必要な接続情報

オペレーション名 : 操作の種類

パラメーター : オペレーションによって必要になる値

パラメーター値 : パラメーターによって必要になる値

ホスト接続オプションの形式を次に示します。

```
-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード
```

ホスト名 : 操作対象のホスト名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレス

ユーザー名 : ホストへのログインに必要なユーザー名

パスワード : ホストへのログインに必要なパスワード

-u パラメーターまたは-p パラメーターを省略した場合、コマンドの実行時にユーザー名またはパスワードの入力を要求されます。指示に従ってユーザー名またはパスワードを入力してください。

なお、リモート管理クライアントに次の環境変数を設定した場合、ホスト接続オプションの指定は不要です。

- VI\_SERVER : ホスト名
- VI\_USERNAME : ユーザー名
- VI\_PASSWORD : パスワード

### HDLM コマンドのオペレーション

HDLM コマンドのオペレーション、およびその機能を「表 6-1 HDLM コマンドのオペレーション一覧」に示します。

表 6-1 HDLM コマンドのオペレーション一覧

オペレーション	機能
clear	HDLM システムが管理する、すべてのパスの統計情報 (I/O 回数、I/O 障害回数) の値を初期値 (0) にします。詳細については、「 <a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a> 」を参照してください。
help	HDLM で使用するオペレーションの形式が表示されます。詳細については、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。

オペレーション	機能
offline	稼働状態のパスを閉塞状態にします。詳細については、「 <a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a> 」を参照してください。
online	閉塞状態のパスを稼働状態にします。詳細については、「 <a href="#">6.5 online パスを稼働状態にする</a> 」を参照してください。
set	HDLM の動作環境を設定します。詳細については、「 <a href="#">6.6 set 動作環境を設定する</a> 」を参照してください。
view	HDLM のプログラム情報、パス情報、LU 情報が表示されます。詳細については、「 <a href="#">6.7 view 情報を表示する</a> 」を参照してください。
refresh	ストレージシステムでの設定を HDLM に反映します。詳細については、「 <a href="#">6.8 refresh ストレージシステムでの設定を HDLM に反映する</a> 」を参照してください。

## 注意事項

- HDLM コマンドは、PowerShell プロンプトから実行してください。
- パラメーターで指定する値にスペースが含まれる場合には、値全体を「"」(引用符) で囲んでください。
- 次に示す操作を実行する場合、HDLM が管理するパス数に応じて処理時間 (パス数×1秒) を必要とします。
  - online またはoffline オペレーションでパスの状態を変更する場合
  - set オペレーションでロードバランスの設定を変更する場合

## 6.2 clear パスの統計情報を初期値にする

HDLM システムが管理する、すべてのパスの統計情報（I/O 回数、I/O 障害回数）の値を初期値（0）にします。

### 6.2.1 形式

#### (1) パスの統計情報を初期値（0）にする場合

```
dlkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] clear  
-pdst [-s]
```

#### (2) clear オペレーションの形式を表示する場合

```
dlkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] clear  
-help
```

### 6.2.2 パラメーター

#### (1) パスの統計情報を初期値（0）にする場合

-pdst

HDLM が管理する、すべてのパスの統計情報（I/O 回数、I/O 障害回数）の値を初期値にします。

使用例

```
PROMPT>dlkmgr clear -pdst  
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = clear。よろしいですか? [y/n] : y  
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

使用例

```
PROMPT>dlkmgr clear -pdst -s  
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>
```

## (2) clear オペレーションの形式を表示する場合

-help

clear オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```
PROMPT>dlnkmgr clear -help
clear:
Format
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] clear -pdst [-s]
  Host-Connection-Options:
    [ -s SERVER      | --server=SERVER ]
    [ -u USERNAME   | --username=USERNAME ]
    [ -p PASSWORD   | --password=PASSWORD ]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = clear, 終了時刻 = yyyy/
mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

## 6.3 help オペレーションの形式を表示する

HDLM コマンド、および HDLM コマンドの各オペレーションの形式が表示されます。

### 6.3.1 形式

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] help  
[オペレーション名] [オペレーション名] ...
```

### 6.3.2 パラメーター

#### オペレーション名

形式を知りたいオペレーション名を指定します。

オペレーション名は、複数指定できます。複数のオペレーション名を指定した場合、指定した順に形式が表示されます。

指定できるオペレーション名は、次に示すどれかです。

- clear
- help
- offline
- online
- set
- view
- refresh

オペレーション名を省略すると、HDLM コマンドで使用できる、すべてのオペレーション名が表示されます。

## 使用例

### 使用例 1

HDLM コマンドで使用できるすべてのオペレーション名を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr help  
dlnkmgr:  
Format  
  dlnkmgr [Host-Connection-Options]  
    { clear | help | offline | online | set | view | refresh }  
  dlnkmgr -l { help | set | view }  
Host-Connection-Options:  
  [ -s SERVER      | --server=SERVER ]
```

```

[ -u USERNAME | --username=USERNAME ]
[ -p PASSWORD | --password=PASSWORD ]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 2

複数のオペレーションの形式を表示する場合

「AutoPATH\_ID」はパス管理 PATH\_ID を示します。

```

PROMPT>dlkmgr help online offline help
online:
Format
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path] [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path]
    -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path]
    -hbaportwwn HBA_Port_WWN [-s]
Host-Connection-Options:
  [ -s SERVER | --server=SERVER ]
  [ -u USERNAME | --username=USERNAME ]
  [ -p PASSWORD | --password=PASSWORD ]

Valid value
  AutoPATH_ID { 000000 - 999999 } (Decimal)

offline:
Format
  dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path]
    -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path]
    -hbaportwwn HBA_Port_WWN [-s]
Host-Connection-Options:
  [ -s SERVER | --server=SERVER ]
  [ -u USERNAME | --username=USERNAME ]
  [ -p PASSWORD | --password=PASSWORD ]

Valid value
  AutoPATH_ID { 000000 - 999999 } (Decimal)

help:
Format
  dlkmgr help { clear | offline | online | set | view | refresh }
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 3

help オペレーションで指定できるオペレーション名を表示する場合

```

PROMPT>dlkmgr help help
help:
Format
  dlkmgr help { clear | offline | online | set | view | refresh }
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = help, 終了時刻 = yyyy/mm/d

```

*d hh:mm:ss*  
*PROMPT>*

## 6.4 offline パスを閉塞状態にする

稼働状態のパスを閉塞状態にします。CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で、閉塞状態にするパスを指定します。

各 LU にアクセスする最後のパスは閉塞状態にできません。

なお、offline オペレーションによって閉塞状態（Offline(C)状態）にしたパスは、ホストの再起動時には状態が引き継がれません。ホストの再起動時にパスが正常であれば、パスは稼働状態（Online 状態）になります。

多くのパスを閉塞状態にすると、障害発生時にパスを切り替えられなくなることがあります。パスを閉塞状態にする前に、view オペレーションでパスの稼働状態を確認してください。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

### 6.4.1 形式

#### (1) パスを閉塞状態にする場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] offline
[-path]
{-cha -pathid パス管理PATH_ID
 |-pathid パス管理PATH_ID
 |-hbaportwwn HBAポートWWN}
[-s]
```

#### (2) offline オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] offline
-help
```

### 6.4.2 パラメーター

#### (1) パスを閉塞状態にする場合

**-path**

HDLM が管理しているパスを操作することを指定します。

offline オペレーションの対象物はパスだけなので、この指定は省略できます。

**-cha, -pathid, または-hbaportwwn** パラメーターで、閉塞状態にするパスを必ず指定します。

## -cha -pathid パス管理 PATH\_ID

CHA ポート単位でパスを閉塞状態にする場合に指定します。-pathid パラメーターで指定したパスが経由している CHA ポートを通る、すべてのパスを閉塞状態にします。物理ストレージシステムの物理 CHA ポート単位でパスが閉塞状態になります。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 PATH\_ID を指定してください。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。パス管理 PATH\_ID の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (000001 と 1 は同値です)。ただし、パス管理 PATH\_ID 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 PATH\_ID は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、閉塞状態にするパスの現在のパス管理 PATH\_ID を確認してから、offline オペレーションを実行してください。

### 使用例

コマンド実行の確認をして、CHA ポート「0A」を通るすべてのパスを閉塞状態にする場合（パス管理 PATH\_ID 「000001」が CHA ポート「0A」を通っているとき）

```
PROMPT>dlnkmgr offline -cha -pathid 000001
KAPL01055-I 指定されたCHA portを通る全てのパスをOffline(C)にします。よろしいですか? [y/n] :y
KAPL01056-I 指定されたCHA portを通る全てのパスがOffline(C)になってもよい場合はyを入力してください。そうでない場合はnを入力してください。 [y/n] :y
KAPL01061-I 2本のパスをOffline(C)にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = offline
PROMPT>
```

## -pathid パス管理 PATH\_ID

単一のパスを閉塞状態にする場合に指定します。

view オペレーションで表示される、現在のパス管理 PATH\_ID を指定します。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。パス管理 PATH\_ID の、左側の桁から 0 詰めされている 0 は省略できます (000001 と 1 は同値です)。ただし、パス管理 PATH\_ID 「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理 PATH\_ID は、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ず view オペレーションを実行して、閉塞状態にするパスの現在のパス管理 PATH\_ID を確認してから、offline オペレーションを実行してください。

## -hbaportwwn HBA ポート WWN

HBA ポート WWN で指定した HBA ポートに接続されている、すべてのパスを閉塞状態にする場合に指定します。指定できるパラメーター値は 1 つだけです。

HBA ポート WWN には、HBAPortWWN を指定します。英字の大文字、小文字は区別されません。

HBAPortWWN および PathName は、次に示す view オペレーションを実行すると表示されます。

```
dlnkmgr view -path -hbaportwwn
```

view オペレーションを実行して HBA ポート WWN およびパス名を表示する方法については、「[6.7.2 パラメーター](#)」の「[\(3\) パス情報を表示する場合](#)」を参照してください。

## 使用例

コマンド実行の確認をして、HBA ポート WWN 「10000000C93213BA」 を通るパスを閉塞状態にする場合

```
PROMPT>dlkmgr offline -path -hbaportwwn 10000000C93213BA
KAPL01102-I 指定されたHBAポートを通る全てのパスをOffline(C)にします。よろしいですか？
[y/n]:y
KAPL01103-I 指定されたHBAポートを通る全てのパスがOffline(C)になってもよい場合はyを入力
してください。そうでない場合はnを入力してください。 [y/n]:y
KAPL01061-I 6本のパスをOffline(C)にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = of
fline
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

## 使用例

コマンド実行の確認をしないで、パス管理 PATH\_ID 「000001」 のパスを閉塞状態にする場合

```
PROMPT>dlkmgr offline -pathid 1 -s
KAPL01061-I 1本のパスをOffline(C)にしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = of
fline
PROMPT>
```

## (2) offline オペレーションの形式を表示する場合

-help

offline オペレーションの形式が表示されます。

## 使用例

```
PROMPT>dlkmgr offline -help
offline:
  Format
    dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path]
          -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
    dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
    dlkmgr [Host-Connection-Options] offline [-path]
          -hbaportwwn HBA_Port_WWN [-s]
  Host-Connection-Options:
    [ -s SERVER      | --server=SERVER ]
    [ -u USERNAME    | --username=USERNAME ]
    [ -p PASSWORD    | --password=PASSWORD ]
  Valid value
    AutoPATH_ID      { 000000 - 999999 } (Decimal)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = offline, 終了時刻 = yyy
y/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

## 参考

HDLM コマンドのview オペレーションと OS のコマンドを組み合わせて実行すると、特定の CHA ポートで、パスの情報を絞り込んで表示できます。view オペレーションについては、「6.7 view 情報を表示する」を参照してください。

CHA ポート単位でパスを閉塞状態にする前に、次のコマンドを実行して、閉塞状態にするパスの情報を確認することをお勧めします。

### 例

VSP One B20 の CHA ポート「1B」を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlnkmgr view -path -stname | find "VSP_One_Block" | find "1B"
```

指定した CHA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。

## 6.5 online パスを稼働状態にする

閉塞状態のパスを稼働状態にします。稼働状態にするパスは、CHA ポート単位、パス単位、または HBA ポート WWN 単位で指定できます。

### 6.5.1 形式

#### (1) パスを稼働状態にする場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] online
  [-path]
  [-cha -pathid パス管理PATH_ID]
  [-pathid パス管理PATH_ID]
  [-hbaportwwn HBAポートWWN]
  [-s]
```

#### (2) online オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] online
  -help
```

### 6.5.2 パラメーター

#### (1) パスを稼働状態にする場合

**-path**

HDLM が管理しているパスを操作することを指定します。

online オペレーションの対象物はパスだけなので、この指定は省略できます。

**-cha, -pathid, または-hbaportwwn** パラメーターで、稼働状態にするパスを指定できます。これらのパラメーターを省略した場合は、すべての閉塞状態のパスを稼働状態にします。稼働状態にできないパスがあった場合、処理を継続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。稼働状態にできなかったパスを閉塞状態のままにして処理を継続する場合は「y」を、処理を中断する場合は「n」を入力してください。

**-cha -pathid パス管理PATH\_ID**

CHA ポート単位でパスを稼働状態にする場合に指定します。**-pathid** パラメーターで指定したパスが経由している CHA ポートを通る、すべてのパスを稼働状態にします。物理ストレージシステムの物理 CHA ポート単位でパスが稼働状態になります。

**view** オペレーションで表示される、現在のパス管理 PATH\_ID を指定します。**view** オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。パス管理 PATH\_ID の、左側の桁から

0詰めされている0は省略できます(000001と1は同値です)。ただし、パス管理PATH\_ID「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理PATH\_IDは、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ずviewオペレーションを実行して、稼働状態にするパスの現在のパス管理PATH\_IDを確認してから、onlineオペレーションを実行してください。

#### 使用例

コマンド実行の確認をして、CHAポート「0A」を通るすべてのパスを稼働状態にする場合(パス管理PATH\_ID「000002」がCHAポート「0A」を通っているとき)

```
PROMPT>dlkmgr online -cha -pathid 000002
KAPL01057-I 指定されたCHA portを通る全てのパスをOnlineにします。よろしいですか? [y/n]
:y
KAPL01061-I 2本のパスをOnlineにしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = online
PROMPT>
```

#### -pathid パス管理PATH\_ID

単一のパスを稼働状態にする場合に指定します。

viewオペレーションで表示される、現在のパス管理PATH\_IDを指定します。viewオペレーションについては、「[6.7 view情報を表示する](#)」を参照してください。パス管理PATH\_IDの、左側の桁から0詰めされている0は省略できます(000001と1は同値です)。ただし、パス管理PATH\_ID「000000」を指定する場合は、「000000」または「0」を指定してください。

パス管理PATH\_IDは、ホストの再起動時に新しく割り当てられます。必ずviewオペレーションを実行して、稼働状態にするパスの現在のパス管理PATH\_IDを確認してから、onlineオペレーションを実行してください。

#### -hbaportwwn HBAポートWWN

HBAポートWWNで指定したHBAポートに接続されている、すべてのパスを稼働状態にする場合に指定します。指定できるパラメーター値は1つだけです。

HBAポートWWNには、HBAPortWWNを指定します。英字の大文字、小文字は区別されません。

HBAPortWWNおよびPathNameは、次に示すviewオペレーションを実行すると表示されます。

```
dlkmgr view -path -hbaportwwn
```

viewオペレーションを実行してHBAポートWWNおよびパス名を表示する方法については、「[6.7.2 パラメーター](#)」の「[\(3\) パス情報を表示する場合](#)」を参照してください。

#### 使用例

コマンド実行の確認をして、HBAポートWWN「10000000C93213BA」を通るパスを稼働状態にする場合

```
PROMPT>dlkmgr online -path -hbaportwwn 10000000C93213BA
KAPL01104-I 指定されたHBAポートを通る全てのパスをOnlineにします。よろしいですか? [y/n]
]:y
KAPL01061-I 6本のパスをOnlineにしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = online
PROMPT>
```

-s

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

#### 使用例

コマンド実行の確認をしないで、パス管理 PATH\_ID 「000002」 のパスを稼働状態にする場合

```
PROMPT>dlkmgr online -pathid 2 -s
KAPL01061-I 1本のパスをOnlineにしました。失敗したパス = 0本。オペレーション名 = online
PROMPT>
```

## (2) online オペレーションの形式を表示する場合

-help

online オペレーションの形式が表示されます。

#### 使用例

```
PROMPT>dlkmgr online -help
online:
Format
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path] [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path]
          -cha -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path] -pathid AutoPATH_ID [-s]
  dlkmgr [Host-Connection-Options] online [-path]
          -hbportwwn HBA_Port_WWN [-s]
Host-Connection-Options:
  [-s SERVER      | --server=SERVER ]
  [-u USERNAME    | --username=USERNAME ]
  [-p PASSWORD    | --password=PASSWORD ]
Valid value
  AutoPATH_ID    { 000000 - 999999 } (Decimal)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = online, 終了時刻 = yyyy
/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

## 参考

HDLM コマンドのview オペレーションと OS のコマンドを組み合わせて実行すると、特定の CHA ポートで、パスの情報を絞り込んで表示できます。view オペレーションについては、「[6.7 view 情報を表示する](#)」を参照してください。

CHA ポート単位でパスを稼働状態にする前に、次のコマンドを実行して、稼働状態にするパスの情報を確認することをお勧めします。

例

VSP One B20 の CHA ポート「1B」を通るすべてのパスを確認する場合

```
dlkmgr view -path -stname | find "VSP_One_Block" | find "1B"
```

指定した CHA ポートを通るパスの情報だけが表示されます。

## 6.6 set 動作環境を設定する

HDLM の動作環境を設定します。

### 6.6.1 形式

#### (1) ホストの動作環境を設定する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] set
  {-lb on -lbtype {exrr|exlio|exlbk|vmwmru|vmwrr}
   |-iem {on [-intvl 障害監視時間] [-iemnum 障害発生回数]|off}
   |-pfs {on [-intvl パス障害メッセージ抑制間隔] [-num パス障害メッセージ抑制回数]|off}
   |-rcm {on [-intvl 監視時間] [-rcmnum 監視回数]|off}
   |-expathusetimes 同一パス使用回数
   |-exrndpathusetimes 同一パス使用回数
  }
  [-s]
```

#### (2) リモート管理クライアントの動作環境を設定する場合

```
dlnkmgr -l set
  {-lic
   |-audlog {on [-audlv 監査ログ採取レベル] [-category [[ss] [a] [ca] [all]]]|off}
   |-pstv {on|off}
  }
  [-s]
```

#### (3) set オペレーションの形式を表示する場合

ホスト、およびリモート管理クライアントの両方の実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr set
  -help
```

ホストの実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set
  -help
```

リモート管理クライアントの実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr -l set
  -help
```

## 6.6.2 パラメーター

### (1) ホストの動作環境を設定する場合

各設定のデフォルト値と推奨値を次の表に示します。set オペレーションで設定値を変更した場合、その値は直ちに有効になります。

表 6-2 各設定のデフォルト値と推奨値

項目名	デフォルト値	推奨値
ロードバランス	アルゴリズムは拡張最少 I/O 数	アルゴリズムの推奨値は運用環境によって異なります。
間欠障害監視	off	on
間欠障害監視の監視期間	30 分	推奨値は運用環境によって異なります。
間欠障害監視の監視回数	3	推奨値は運用環境によって異なります。
リトライ回数監視機能	off	推奨値は運用環境によって異なります。
リトライ回数監視の監視期間	30 秒	推奨値は運用環境によって異なります。
リトライ回数監視の監視回数	3	推奨値は運用環境によって異なります。
拡張ロードバランスの同一パス使用回数 (シーケンシャル I/O)	100	推奨値は運用環境によって異なります。
拡張ロードバランスの同一パス使用回数 (ランダム I/O)	1	推奨値は運用環境によって異なります。

**-lb on -lbtype {exrr|exlio|exlbk|vmwmru|vmwrr}**

ロードバランスのアルゴリズムを選択します。

**exrr** : 拡張ラウンドロビン

**exlio** : 拡張最少 I/O 数

**exlbk** : 拡張最少ブロック数

**vmwmru** : 最近の使用 (VMware)

**vmwrr** : ラウンドロビン (VMware)

**-iem {on [-intvl 障害監視時間] [-iemnum 障害発生回数]}|off}**

間欠障害監視を有効、または無効にします。

**on** : 有効

**off** : 無効

間欠障害が発生したときの I/O 性能の低下を防ぐため、間欠障害監視を有効にすることをお勧めします。「on」を指定した場合、障害監視時間および障害発生回数を、後続パラメーターで指定できます。指定した監視時間（分）内に指定した回数の障害が発生すると、HDLM はそのパスに間欠障害が発生

していると見なします。間欠障害が発生していると見なされたパスは、自動フェールバック対象外になります。間欠障害監視は、パスごとに実施されます。

障害監視時間または障害発生回数の指定を省略した場合、それぞれの値は次のとおりになります。

- これまでに障害監視時間または障害発生回数を一度も指定していない場合  
障害監視時間は 30 分、障害発生回数は 3 回になります。
- これまでに障害監視時間または障害発生回数を指定している場合  
前回指定した値になります。

間欠障害の監視時間と障害の発生回数を指定する後続パラメーターの形式を、次に示します。

#### **-intvl 障害監視時間**

間欠障害の監視時間を分単位で指定します。1~1440 の値を指定します。デフォルト値は「30」です。

間欠障害監視中に障害監視時間を変更した場合、変更前までにカウントされたすべてのパスの障害発生回数、および自動フェールバック対象外の状態が初期化されます。そして、変更後の設定で監視が開始されます。

このパラメーターで設定した障害監視時間は、-iem off を指定して間欠障害監視を無効にしても記憶されています。そのため、再度間欠障害監視を有効にし、障害監視時間を指定しなかった場合、記憶されている障害監視時間で間欠障害監視が開始されます。

#### **-iemnum 障害発生回数**

間欠障害が発生していると見なす障害の発生回数を指定します。1~99 の値を指定します。デフォルト値は「3」です。

間欠障害監視中に障害発生回数を変更した場合、変更前までにカウントされたすべてのパスの障害発生回数、および自動フェールバック対象外の状態が初期化されます。そして、変更後の設定で監視が開始されます。

このパラメーターで設定した障害発生回数は、-iem off を指定して間欠障害監視を無効にしても記憶されています。そのため、再度間欠障害監視を有効にし、障害発生回数を指定しなかった場合、記憶されている障害発生回数で間欠障害監視が開始されます。

間欠障害監視中にset -iem on オペレーションを実行した場合、障害監視時間または障害発生回数を変更していくなくても、HDLM が管理しているすべてのパスの障害履歴、および自動フェールバック対象外となったパスの情報が初期化されます。間欠障害監視は継続されます。

#### **-pfs {on [-intvl パス障害メッセージ抑制間隔] [-num パス障害メッセージ抑制回数]|off}**

パス障害メッセージ抑制情報の設定を有効、または無効にします。

**on**：有効

**off**：無効

デフォルトの設定値はoff です。

#### **-intvl パス障害メッセージ抑制間隔**

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する間隔を秒単位で指定します。0~3600 の値を指定します。デフォルト値は 10 秒です。0 を指定した場合、間隔での抑制は行いません。

ここで指定したパス障害メッセージ抑制間隔内に、監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2 回目以降のメッセージを抑制します。抑制間隔を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともに出力したあと、抑制を解除します。

#### **-num パス障害メッセージ抑制回数**

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する回数を指定します。0 または 10~3600000 の値を指定します。デフォルト値は 3000 です。0 を指定した場合、回数での抑制は行いません。

ここで指定したパス障害メッセージ抑制回数内に、監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2 回目以降のメッセージを抑制します。抑制回数を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともに出力したあと、抑制を解除します。

#### **-rcm {on [-intvl 監視時間] [-rcmnum 監視回数]|off}**

リトライ回数監視機能を有効、または無効にします。

on : 有効

off : 無効

#### **-intvl 監視時間**

監視対象のエラーが発生してから、次に監視を開始するまでの間隔を 1~86400 で設定します。単位は秒です。監視を開始してから設定値の時間エラー監視を継続し、デフォルト値は「30」です。

#### **-rcmnum 監視回数**

監視対象のエラーが発生してから、パスを閉塞するまで監視を繰り返す回数を、2~99 の値で設定します。デフォルト値は「3」です。

デフォルト値では監視対象のエラーが発生してから 30 秒×3 回監視を継続し、3 回目の監視中に監視対象のエラーが発生した時点でパスを閉塞します。

ただし、各 LU に対する最後の稼働状態のパスについては閉塞されません。

#### **-expathusetimes 同一パス使用回数**

ロードバランサのアルゴリズムに、拡張ラウンドロビン (exrr)、拡張最少 I/O 数 (exlio)、または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合、シーケンシャル I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。

10 進数で 1~999999 の値を指定できます。デフォルトの設定値は「100」です。

#### **-exrndpathusetimes 同一パス使用回数**

ロードバランサのアルゴリズムに、拡張ラウンドロビン (exrr)、拡張最少 I/O 数 (exlio)、または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合、ランダム I/O に同一のパスを使用する回数を指定します。

10 進数で 1~999999 の値を指定できます。デフォルトの設定値は「1」です。

コマンド実行の確認メッセージを表示しないで実行します。シェルスクリプトやバッチファイルでコマンドを実行する場合など、確認メッセージへの入力を省略したいときに指定します。

## (2) リモート管理クライアントの動作環境を設定する場合

### -lic

ライセンスを更新する場合に指定します。ライセンスは、ライセンスキーまたはライセンスキーファイルで提供されます。ライセンスキーファイルは、ライセンスを格納したファイルです。

#### ライセンスキーファイルを使用する場合

ライセンスキーファイルを、Windows がインストールされたドライブの直下に「`hdlm_license`」という名称で格納してから、`set -lic` オペレーションを実行します。ライセンスキーファイルに記述されているライセンスキーの種別に応じて、ライセンスキーが登録された旨のメッセージが表示されます。一時または非常ライセンスの場合は、期限満了日も表示されます (KAPL01071-I, KAPL01072-I)。

#### ライセンスキーファイルを使用しない場合

`set -lic` オペレーションを実行すると、ユーザーにライセンスキーの入力を求める KAPL01068-I のメッセージが出力されます。それに対して、ライセンスキーを入力します。入力したライセンスキーの種別に応じて、ライセンスキーが登録された旨のメッセージが表示されます。一時または非常ライセンスの場合は、期限満了日も表示されます (KAPL01071-I, KAPL01072-I)。

ライセンスキーの種別を次の表に示します。

表 6-3 ライセンスキーチ種別

種類	説明
永久ライセンスキー	永久的な製品の使用を可能とするためのライセンスキーです。
一時ライセンスキー※	ユーザーが製品の評価などを行う場合に使用するライセンスキーです。期間には、「120」(120 日間) が、インストール時に設定されます。一時ライセンスキーは再利用できません。
非常ライセンスキー	永久ライセンスキー発行が間に合わない場合などに、一時的に使用するライセンスキーです。期間には「30」(30 日間) が、インストール時に設定されます。非常ライセンスキーは再利用できません。

#### 注※

一時ライセンスキーは、`set` オペレーションでインストールできません。

#### 使用例 1

ライセンスキーを更新する場合 (ライセンスキーファイルがあるとき)

```
PROMPT>dlnkmgr -l set -lic
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか? [y/n]
: y
```

```
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。  
PROMPT>
```

## 使用例 2

ライセンスキーを更新する場合（ライセンスキーファイルがないとき）

```
PROMPT>dlkmgr -l set -lic  
KAPL01049-I オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。よろしいですか？ [y/n]  
: y  
KAPL01083-I ライセンスキーファイルがありません。ファイル名 = Windowsのインストール先ドライブ:¥hdm_license  
KAPL01068-I ライセンスキーを入力して下さい : *****  
KAPL01071-I 永久ライセンスがインストールされました。  
PROMPT>
```

**-audlog {on [-audlv 監査ログ採取レベル] [-category [[ss] [a] [ca]|all]]|off}**

監査ログの採取を指定します。

on : 採取する

off : 採取しない

**-audlv 監査ログ採取レベル**

監査ログとして採取する重要度（Severity）のレベルを設定します。設定値を次の表に示します。  
デフォルトの設定値は「6」です。

表 6-4 監査ログ採取レベルの設定値

設定値（重要度）	説明
0	Error レベルの監査ログを採取します。
1	
2	
3	
4	Error, および Warning レベルの監査ログを採取します。
5	
6	Error, Warning, および Information レベルの監査ログを採取します。
7	

**-category [[ss] [a] [ca]|all]**

監査ログとして採取する種別を設定します。設定値を次の表に示します。デフォルトの設定値は「all」です。-category を指定して設定値を省略した場合は「all」が指定されたものと見なされます。

表 6-5 監査ログ種別の設定値

設定値	説明
ss	StartStop の監査ログ事象を採取します。

設定値	説明
a	Authentication の監査ログ事象を採取します。
ca	ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。
all	StartStop, Authentication, および ConfigurationAccess の監査ログ事象を採取します。

**-pstv {on|off}**

物理ストレージシステム情報の表示機能を有効、または無効にします。デフォルト値は「off」です。

**on** : 有効

**off** : 無効

物理ストレージシステム情報の表示機能を有効にすると、物理ストレージシステムの情報が表示されます。物理ストレージシステム情報の表示機能を無効にすると、OS に認識されているストレージシステムの情報が表示されます。仮想化されているストレージシステムは仮想情報が表示され、仮想化されていないストレージシステムは物理情報が表示されます。

物理ストレージシステム情報の表示機能の有効/無効によって、view オペレーションの表示結果が異なります。表示結果が異なる表示項目を次の表に示します。

**表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目**

オペレーション	表示項目
view -path	DskName
	iLU
	ChaPort (CP)
view -lu	Product
	SerialNumber (S/N)
	iLU
	ChaPort

### (3) set オペレーションの形式を表示する場合

**-help**

set オペレーションの形式が表示されます。

### 使用例

#### 使用例 1

ホスト、およびリモート管理クライアントの両方の実行形式を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr set -help
set:
Format
dlnkmgr [Host-Connection-Options] set
  { -lb on -lbtype { exrr | exlio | exlbk | vmwmru | vmwrr }
  | -iem on [ -intvl Error-Monitor-Interval ]
    [ -iemnum Number-Of-Times ]
  | -iem off
  | -expathusetimes Number-Of-ExPathUseTimes
  | -exrndpathusetimes Number-Of-ExRndPathUseTimes
  }
  [-s]
dlnkmgr -l set { -lic
  | -audlog on [ -audlv AudlogLevel ]
    [ -category Category-Value ]
  | -audlog off
  | -pstv { on | off }
  }
  [-s]
Host-Connection-Options:
[ -s SERVER | --server=SERVER ]
[ -u USERNAME | --username=USERNAME ]
[ -p PASSWORD | --password=PASSWORD ]

Valid value
Error-Monitor-Interval { 1 - 1440 } (Minutes) (Default Value 30)
Number-Of-Times { 1 - 99 } (Times) (Default Value 3)
Number-Of-ExPathUseTimes { 1 - 999999 } (Times) (Default Value 100)
Number-Of-ExRndPathUseTimes { 1 - 999999 } (Times) (Default Value 1)
AudlogLevel { 0 - 7 } (Default Value 6)
Category-Value { [ss] [a] [ca] |
  all } (Default Value all)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 2

ホストの実行形式を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード set -help
set:
Format
dlnkmgr [Host-Connection-Options] set
  { -lb on -lbtype { exrr | exlio | exlbk | vmwmru | vmwrr }
  | -iem on [ -intvl Error-Monitor-Interval ]
    [ -iemnum Number-Of-Times ]
  | -iem off
  | -expathusetimes Number-Of-ExPathUseTimes
  | -exrndpathusetimes Number-Of-ExRndPathUseTimes
  }
  [-s]
Host-Connection-Options:
[ -s SERVER | --server=SERVER ]
[ -u USERNAME | --username=USERNAME ]
[ -p PASSWORD | --password=PASSWORD ]

```

```
Valid value
  Error-Monitor-Interval      { 1 - 1440 } (Minutes) (Default Value 30)
  Number-Of-Times              { 1 - 99 } (Times) (Default Value 3)
  Number-Of-ExPathUseTimes    { 1 - 999999 } (Times) (Default Value 100)
  Number-Of-ExRndPathUseTimes { 1 - 999999 } (Times) (Default Value 1)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd h
h:mm:ss
PROMPT>
```

## 使用例 3

リモート管理クライアントの実行形式を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr -l set -help
set:
Format
  dlnkmgr -l set { -lic
                    | -audlog on [ -audlv AudlogLevel ]
                      [ -category Category-Value ]
                    | -audlog off
                    | -pstv { on | off }
                  }
                  [-s]

Valid value
  AudlogLevel           { 0 - 7 }           (Default Value 6)
  Category-Value        { [ss] [a] [ca] |           all } (Default Value all)
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = set, 終了時刻 = yyyy/mm/dd h
h:mm:ss
PROMPT>
```

## 6.7 view 情報を表示する

HDLM のプログラム情報、パス情報、および LU 情報を表示します。

### 6.7.1 形式

#### (1) ホストのプログラム情報を表示する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -sys  
[-sfunc|-rcm|-expathusetimes|-exrndpathusetimes|-satp|-rule|-pfs]  
[-t]
```

#### (2) リモート管理クライアントのプログラム情報を表示する場合

```
dlnkmgr -l view -sys  
[-msrv|-lic|-audlog|-pstv]  
[-t]
```

#### (3) パス情報を表示する場合

##### パス情報表示

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -path  
[-pstv|-vstv]  
[-hdev ホストデバイス名]  
[-stname]  
[-iem]  
[-srt {pn|lu|cp}]  
[-hbaportwwn]  
[-vmruntimename]  
[-vmstate]  
[-t]
```

##### パス情報表示（表示項目を選択する場合）

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -path -item  
[pn] [dn] [lu] [cp] [type] [ic] [ie] [dnu] [hd] [iep] [rcm]  
[hbaportwwn] [vmruntimename] [vmstate] [vmpathuid] [phys] [virt]  
[-pstv|-vstv]  
[-hdev ホストデバイス名]  
[-stname]  
[-srt {pn|lu|cp}]  
[-t]
```

## パス情報の概略表示

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -path -c  
[-pstv|-vstv]  
[-stname]  
[-srt {lu|cp}]  
[-t]
```

## (4) LU 情報を表示する場合

### LU 情報表示

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -lu  
[-pstv|-vstv]  
[-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理PATH_ID]  
[-t]
```

### LU 情報表示（表示項目を追加する場合）

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -lu -item  
[ [slpr] [pn] [cp] [clpr] [type] [ic] [ie] [dnu] [iep]  
[lb] [vmpsp] [vmruntimename] [vmstate] [phys] [virt] [all] ]  
[-pstv|-vstv]  
[-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理PATH_ID]  
[-t]
```

### LU 情報の概略表示

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] view -lu -c  
[-pstv|-vstv]  
[-t]
```

## (5) view オペレーションの形式を表示する場合

ホスト、およびリモート管理クライアントの両方の実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr view  
-help
```

ホストの実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view  
-help
```

リモート管理クライアントの実行形式を表示するとき

```
dlnkmgr -l view  
-help
```

## 6.7.2 パラメーター

ここでは、view オペレーションのパラメーターを次の順に説明します。

- (1) ホストのプログラム情報を表示する場合
- (2) リモート管理クライアントのプログラム情報を表示する場合
- (3) パス情報を表示する場合
- (4) LU情報を表示する場合
- (5) view オペレーションの形式を表示する場合

### (1) ホストのプログラム情報を表示する場合

**-sys [-sfunc|-rcm|-expathusetimes|-exrndpathusetimes|-satp|-rule|-pfs]**

ホストにインストールされた HDLM のプログラム情報が表示されます。

後続パラメーターで、情報を表示する対象を指定します。後続パラメーターを省略した場合は、ロードバランスの同一パス使用回数、拡張ロードバランスの同一パス使用回数、および SATP の要求ルールを除くすべてのプログラム情報が表示されます。指定するパラメーター、表示される情報、表示される項目、およびその説明を「表 6-7 プログラム情報（ホスト）の表示項目」に示します。

**-t**

各情報の項目名を表示しません。

表 6-7 プログラム情報（ホスト）の表示項目

パラメーターおよび表示される情報	表示項目	説明
-sfunc HDLM の機能設定情報	HDLM Version	動作中の HDLM のバージョン番号です。 表示されるバージョン番号については、HDLM のソフトウェア添付資料を確認してください。
-sfunc HDLM の機能設定情報	Service Pack Version	HDLM の SP バージョン番号です。SP がインストールされていない場合は、空白です。
-sfunc HDLM の機能設定情報	Load Balance	ロードバランス機能の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 設定状態<ul style="list-style-type: none"><li>on : 有効</li><li>• アルゴリズム<ul style="list-style-type: none"><li>on のあと( )にロードバランスのアルゴリズムを表示します。</li></ul></li></ul></li></ul>

パラメーターおよび表示される情報	表示項目	説明
-sfunc HDLM の機能設定情報	Load Balance	extended rr : 拡張ラウンドロビン extended lio : 拡張最少 I/O 数 extended lbk : 拡張最少ブロック数 vmw mru : 最近の使用 (VMware) vmw rr : ラウンドロビン (VMware)
-sfunc HDLM の機能設定情報	Intermittent Error Monitor	間欠障害監視の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定状態 on : 有効 off : 無効</li> <li>障害監視時間および障害発生回数 設定状態が on の場合, on のあと( )に, 設定した障害監視時間および障害発生回数が, 「障害発生回数 / 障害監視時間」の形式で表示されます。単位は「回」と「分」です。</li> </ul>
-rcm リトライ回数監視機能の設定情報	Retry Count Monitor	リトライ回数監視機能の設定状態です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>設定状態 on : 有効 off : 無効</li> <li>監視回数, 監視時間 設定状態が on の場合, on のあと( )に, 設定した監視回数と監視時間が, 「監視回数/監視時間」の形式で表示されます。単位は「回」と「秒」です。</li> </ul>
-expathusetimes 拡張ロードバランスの同一パス使用回数 (シーケンシャル I/O)	Times Same ExPath Was Used	ロードバランスのアルゴリズムに, 拡張ラウンドロビン (exrr), 拡張最少 I/O 数 (exlio), または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合, シーケンシャル I/O に同一のパスを使用する回数です。
-exrndpathusetimes 拡張ロードバランスの同一パス使用回数 (ランダム I/O)	Times Same ExPath Was Used(R)	ロードバランスのアルゴリズムに, 拡張ラウンドロビン (exrr), 拡張最少 I/O 数 (exlio), または拡張最少ブロック数 (exlbk) を適用する場合, ランダム I/O に同一のパスを使用する回数です。
-satp SATP の情報	SATP	「HTI_SATP_HDLM」が表示されます。
-satp SATP の情報	Default PSP	HTI_SATP_HDLM のデフォルトの PSP が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>HTI_PSP_HDLM_EXRR : 拡張ラウンドロビン</li> <li>HTI_PSP_HDLM_EXLIO : 拡張最少 I/O 数</li> <li>HTI_PSP_HDLM_EXLBK : 拡張最少ブロック数</li> <li>VMW_PSP_MRU : 最近の使用 (VMware)</li> <li>VMW_PSP_RR : ラウンドロビン (VMware)</li> </ul>
-rule SATP の要求ルール	Vendor	HTI_SATP_HDLM に登録された SATP の要求ルールのうち, ストレージシステムのベンダー ID が表示されます。
-rule SATP の要求ルール	Model	HTI_SATP_HDLM に登録された SATP の要求ルールのうち, ストレージシステムのモデル ID が表示されます。

## 6. コマンドリファレンス

パラメーターおよび表示される情報	表示項目	説明
-pfs パス障害メッセージの抑制情報	Path Failure Suppression	パス障害メッセージ抑制機能の設定状況（有効または無効）が表示されます。
-pfs パス障害メッセージの抑制情報	Path Failure Message Suppression Interval	パス障害メッセージの抑制間隔が表示されます。
-pfs パス障害メッセージの抑制情報	Consecutive Number Of Path Failures	パス障害メッセージの抑制回数が表示されます。

## 使用例

### 使用例 1

ホストの HDLM の機能設定情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -sfunc
HDLM Version : X.X.X-XX
Service Pack Version :
Load Balance : on(extended lio)
Intermittent Error Monitor : off
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

### 使用例 2

拡張ロードバランスの同一パス使用回数を表示する場合（シーケンシャル I/O）

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -expathusetimes
Times Same ExPath Was Used : 100
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

### 使用例 3

拡張ロードバランスの同一パス使用回数を表示する場合（ランダム I/O）

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -exrndpathusetimes
Times Same ExPath Was Used(R) : 1
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

### 使用例 4

SATP の情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -sys -satp
SATP : HTI_SATP_HDLM
```

```

Default PSP : HTI_PSP_HDLM_EXLIO
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 5

SATP の要求ルールを表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr view -sys -rule
Vendor Model
HITACHI DF600F
HITACHI ^OPEN-*
HP ^OPEN-*
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 6

パス障害メッセージの抑制情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr view -sys -pfs
Path Failure Suppression : ON
Path Failure Message Suppression Interval : 300
Consecutive Number Of Path Failures : 1000
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## (2) リモート管理クライアントのプログラム情報を表示する場合

**-sys [-msrv|-lic|-audlog|-pstv]**

リモート管理クライアントにインストールされた HDLM のプログラム情報が表示されます。

後続パラメーターで、情報を表示する対象を指定します。後続パラメーターを省略した場合は、リモート管理クライアントの HDLM のバージョン情報とライセンス情報が表示されます。指定するパラメーター、表示される情報、表示される項目、およびその説明を「[表 6-8 プログラム情報（リモート管理クライアント）の表示項目](#)」に示します。

**-t**

各情報の項目名を表示しません。

**表 6-8 プログラム情報（リモート管理クライアント）の表示項目**

パラメーターおよび表示される情報	表示項目	説明
-msrv HDLM マネージャーの情報	HDLM Manager	HDLM マネージャーの状態です。 • Alive : 正常 • Dead : 停止
	Ver	HDLM マネージャーのバージョン番号です。

パラメーターおよび表示される情報	表示項目	説明
-msrv HDLM マネージャーの情報	WakeupTime	HDLM マネージャーの起動時刻です。
-lic HDLM のライセンス情報	License Type	<p>ライセンスの種別です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Permanent : 永久ライセンス</li> <li>Temporary : 一時ライセンス</li> <li>Emergency : 非常ライセンス</li> </ul>
	Expiration	<p>ライセンスの期限です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>永久ライセンスの場合 : -</li> <li>一時ライセンスまたは非常ライセンスの場合 : ライセンスの期限が <i>yyyy/mm/dd</i>(<i>ndays after</i>)の形式で表示されます。ライセンスの期限まで<i>n</i> 日ある場合にview -sys -lic オペレーションを実行したときは、「(<i>ndays after</i>)」と表示されます。</li> </ul> <p>ライセンス期限の満了日（2006 年 08 月 21 日）まであと 100 日ある場合の表示例</p> <p>Expiration 2006/08/21(100days after)</p>
-audlog 監査ログ採取の設定情報	Audit Log	<p>監査ログ採取の設定状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定状態 on : 採取する off : 採取しない</li> <li>監査ログ採取レベル 設定状態が on の場合, on のあと( )に, 設定した採取レベルが表示されます。採取レベルは重要度 (Severity) を示し, 0~7 で表示されます。</li> </ul>
	Audit Log Category	<p>監査ログの出力対象となっている種別を表示します。種別を表す文字列が「,」で区切って表示されます。</p> <p>ss : StartStop a : Authentication ca : ConfigurationAccess 上記のすべての種別が設定されている場合は「all」が表示されます。 監査ログ採取をしない設定の場合は「-」が表示されます。</p>
-pstv 物理ストレージシステム情報の表示機能の設定情報	Physical Storage View	物理ストレージシステム情報の表示機能の設定状態です。 on : 有効 off : 無効

## 使用例

### 使用例 1

リモート管理クライアントの HDLM の機能設定情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -sys
HDLM Version : x.x.x-xx
Service Pack Version :
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive    x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 2

HDLM マネージャーの情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -msrv
HDLM Manager Ver      WakeupTime
Alive    x.x.x-xx      yyyy/mm/dd hh:mm:ss
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 3

HDLM のライセンス情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -lic
License Type Expiration
Permanent -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 4

監査ログの設定情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -audlog
Audit Log : off
Audit Log Category : -
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

## 使用例 5

物理ストレージシステム情報の表示機能の設定情報を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -sys -pstv
Physical Storage View : off
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>

```

### (3) パス情報を表示する場合

パス情報を表示する場合、-path パラメーターと同時に-item パラメーターや-c パラメーターを指定すると、項目を選択して表示したり、パス情報の概略を表示したりできます。ここでは、それぞれのパラメーターの説明をしたあとに、パス情報の表示項目を説明します。

#### パス情報表示

##### -path

-path パラメーターと同時に、-c パラメーター、-item パラメーターのどちらも指定しない場合、表示項目の短縮や選択を行わないで、HDLM が管理するパスの情報を表示されます。後続パラメーターで表示するパスを絞り込んだり (-hdev)、パスの情報をソートしたり (-srt) できます。-hdev パラメーター、および-srt パラメーターを省略した場合は、すべてのパスの情報をパス管理 PATH\_ID 順に表示されます。

各表示項目の内容については、「[表 6-10 パス情報の表示項目](#)」を参照してください。

-path パラメーターを指定した場合に表示されるパス管理 PATH\_ID (PathID) は、ホスト起動時のパス検出の順番によって変わります。このため、パスを特定する場合は、必ずパス名 (PathName) を使用してください。

後続パラメーターの形式を次に示します。

##### -pstv|-vstv

-pstv パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、-vstv パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、set オペレーションの-pstv パラメーターで指定された値に従って表示します。

-pstv パラメーターと-vstv パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

##### -hdev ホストデバイス名

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけが表示されます。

ホストデバイス名を指定します。英字の大文字、小文字は区別されます。

##### -stname

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「[表 6-12 プロダクト ID の表示内容](#)」を参照してください。

##### -item

パス情報の項目に IEP が追加され、間欠障害に関する情報が表示されます。

##### -srt {pn|lu|cp}

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、-srt パラメーターで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH\_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、パス名 (pn)、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。-srt パラメーターを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH\_ID 順に表示されます。

-hbaportwwn

ストレージシステムと接続している HBA のポート WWN 情報が表示されます。

-vmruntimename

PathName の代わりに、VMware vSphere で管理しているパスのランタイム情報が表示されます。

-vmstate

VMware vSphere で管理しているパスの状態が表示されます。VMware vSphere で管理しているパスの状態については、「[表 2-6 VMware vSphere と HDLM が表示するパスの状態の対応](#)」を参照してください。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

## 使用例

パス情報を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path
Paths:000006 OnlinePaths:000006
PathStatus IO-Count IO-Errors
Online 45 0

PathID PathName DskName iLU
  ChaPort Status Type IO-Count IO-Errors DNum HDevName
000000 0004.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
20 1B Online Own 7 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001020
000001 0004.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
21 1B Online Own 7 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001021
000002 0004.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
22 1B Online Own 7 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001022
000003 0005.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
20 2B Online Own 8 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001020
000004 0005.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
21 2B Online Own 8 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001021
000005 0005.0000.00000000000000.0000 HITACHI .OPEN-V .410017 0010
22 2B Online Own 8 0 0 naa.60060e8012271b0050
40271b00001022
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

## パス情報表示 (表示項目を選択する場合)

### -path -item

-path パラメーターと同時に-item パラメーターを指定した場合、HDLM が管理するパスの情報のうち、-item のパラメーター値で指定した項目だけを表示します。

-item パラメーターでパラメーター値を何も指定しないで実行した場合、PathID と Status だけが表示されます。

-item パラメーターで選択できる表示項目と、-item パラメーターの後続に指定するパラメーター値との対応を次の表に示します。

表 6-9 -path -item パラメーターで選択できる表示項目と指定する後続パラメーター

選択できる表示項目	後続パラメーター
PathID*	なし
PathName	pn
DskName	dn
iLU	lu
ChaPort	cp
Status*	なし
Type	type
IO-Count	ic
IO-Errors	ie
DNum	dnu
HDevName	hd
IEP	iep
HBAPortWWN	hbaportwwn
VmRuntimeName	vmruntimename
VmState	vmstate
VmPathUID	vmpathuid
Physical-LDEV	phys
Virtual-LDEV	virt

### 注※

PathID と Status は常に表示される項目なので、パラメーター値の指定は不要です。

また、後続パラメーターで表示するパスを絞り込んだり (-hdev)、情報をソートしたり (-srt) できます。-hdev パラメーターおよび-srt パラメーターを省略した場合は、すべてのパスの情報がパス管理 PATH\_ID 順に表示されます。

後続パラメーターの形式を次に示します。

#### **-pstv|-vstv**

**-pstv** パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、**-vstv** パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、**set** オペレーションの**-pstv** パラメーターで指定された値に従って表示します。**-pstv** パラメーターと**-vstv** パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

#### **-hdev ホストデバイス名**

指定したホストデバイスにアクセスするパスの情報だけが表示されます。

英字の大文字、小文字は区別されます。このパラメーターを指定した場合、**-item** パラメーターの値にhd を指定しなくとも、HDevName が表示されます。

#### **-stname**

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「[表 6-12 プロダクト ID の表示内容](#)」を参照してください。このパラメーターを指定した場合、**-item** パラメーターの値にdn を指定しなくとも、DskName が表示されます。

#### **-srt {pn|lu|cp}**

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、**-srt** パラメーターで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH\_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、パス名 (pn)、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。

**-srt** パラメーターを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH\_ID 順に表示されます。このパラメーターを指定した場合、**-item** パラメーターで指定しなくとも、ソートのキー項目が、パス情報として表示されます。

#### **-t**

各情報の項目名が非表示になります。

### 使用例

パス情報の表示項目のうち、VmRuntimeName、VmState、およびVmPathUID を選択して表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -path -item vmruntimename vmstate vmpathuid
Paths:000002 OnlinePaths:000002
PathStatus  IO-Count  IO-Errors
Online      63        0

PathID VmRuntimeName  Status VmState VmPathUID
000000  vmhba2:C0:T0:L0  Online  active  fc.200000e08b90c61c:210000e08b90c61c-fc.50060e80100
27a85:50060e8010027a85-t10.HITACHI_770101520191
000001  vmhba5:C0:T0:L0  Online  active  fc.2000024ff293611:2100024ff293611-fc.50060e80100
```

```
27a81:50060e8010027a81-t10.HITACHI_770101520191
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/d
d hh:mm:ss
PROMPT>
```

## パス情報の概略表示

-path -c

-path パラメーターと同時に-c パラメーターを指定した場合、HDLM が管理するパスの情報のうち PathID, DskName, iLU, CP, Status, Type だけを表示します。表示内容を短縮して 1 つのパスの情報が 1 行で表示されます。

各表示項目の内容については、「[表 6-10 パス情報の表示項目](#)」を参照してください。

DskName に表示できるプロダクト ID は、10 文字以下です。プロダクト ID の文字数が 11 文字以上の場合は、プロダクト ID の 8 文字目以降は短縮形 (...) で表示されます。

後続パラメーターの形式を次に示します。

-pstv|-vstv

-pstv パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、-vstv パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、set オペレーションの-pstv パラメーターで指定された値に従って表示します。

-pstv パラメーターと-vstv パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

-stname

プロダクト ID にストレージシステムのモデル ID が表示されます。指定しない場合は、プロダクト ID、またはエミュレーションタイプが表示されます。

プロダクト ID の表示内容については、「[表 6-12 プロダクト ID の表示内容](#)」を参照してください。

-srt {lu|cp}

パス情報が、指定したキーで昇順にソートして表示されます。

パス情報は、ストレージシステム名 (DskName) を第 1 キー、-srt パラメーターで指定した項目を第 2 キー、パス管理 PATH\_ID を第 3 キーとしてソートされます。第 2 キーとして指定できる項目は、ストレージシステム内の LU 番号 (lu)、または CHA ポート番号 (cp) です。-srt パラメーターを省略した場合、パス情報はパス管理 PATH\_ID 順に表示されます。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

## 使用例

パス情報の概略を iLU の順番に表示する場合

```
PROMPT>dlkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -path -c -srt lu
Paths:000006 OnlinePaths:000006
PathStatus  IO-Count  IO-Errors
Online      45        0
```

PathID	DskName	iLU	CP	Status	Type	
000000	HITACHI .OPEN-V	.410017	001020	1B	Online	Own
000003	HITACHI .OPEN-V	.410017	001020	2B	Online	Own
000001	HITACHI .OPEN-V	.410017	001021	1B	Online	Own
000004	HITACHI .OPEN-V	.410017	001021	2B	Online	Own
000002	HITACHI .OPEN-V	.410017	001022	1B	Online	Own
000005	HITACHI .OPEN-V	.410017	001022	2B	Online	Own

KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻 = yy  
yy/mm/dd hh:mm:ss  
PROMPT>

## パス情報の表示項目

パス情報の表示項目とその説明を「表 6-10 パス情報の表示項目」に示します。表の見出しについて、次に説明します。

- 概略表示しない場合 : -path または -path -item パラメーターを指定した場合を示します。
- 概略表示する場合 : -path -c パラメーターを指定した場合を示します。

表 6-10 パス情報の表示項目

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
Paths		表示対象のパスの総数が、10進数で表示されます。
OnlinePaths		表示対象のパスのうち、稼働状態のパスの数が10進数で表示されます。「Paths」の数と「OnlinePaths」の数が同じであれば、すべてのパスが稼働状態です。 「OnlinePaths」の数の方が少ない場合、閉塞状態のパスがあります。閉塞状態のパスを確認し、障害が発生していれば対処してください。
PathStatus		表示対象のパスの状態です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Online : すべてのパスを使用できる</li> <li>Reduced : 使用できないパスがある</li> </ul> Reducedと表示されている場合、障害が発生しているパスがあるおそれがあります。確認して、障害が発生しているパスがあれば対処してください。
IO-Count		表示対象のすべてのパスのI/O回数の合計数が、10進数で表示されます。表示できる最大値は、 $2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0から再カウントします。
IO-Errors		表示対象のすべてのパスのI/O障害回数の合計数が、10進数で表示されます。表示できる最大値は、 $2^{32}-1$ (4294967295) です。最大値を超えた場合、0から再カウントします。
PathID		パス管理 PATH_ID が、10進数で表示されます。 ホストの再起動時に割り当てられます。

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
PathName <sup>※1</sup>	—	<p>パスを表す項目で、パス名と呼びます。システムの構成を変更する場合やハードウェアを交換する場合は、パス名を参照して影響を受けるパスを確認してください。次に示す4つの項目をピリオドで区切ったものが、パス名として表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホストポート番号 (16進数)</li> <li>バス番号 (16進数)</li> <li>ターゲットID (16進数)</li> <li>ホストLU番号 (16進数)</li> </ul> <p>パス名を構成する項目と、各項目のVMware vSphereでの表現については、「<a href="#">表6-11 パス名を構成する項目</a>」を参照してください。</p>
DskName <sup>※1</sup>	DskName	<p>ストレージシステム名です。この名前で、パスがアクセスするストレージシステムを特定できます。</p> <p>次に示す3つの項目をピリオドで区切ったものが、ストレージシステム名として表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベンダーID (表示例: HITACHI):ストレージシステムのベンダー名</li> <li>プロダクトID (表示例: VSP_Ex00):ストレージシステムのプロダクトID、エミュレーションタイプ、またはモデルID 詳細については、「<a href="#">表6-12 プロダクトIDの表示内容</a>」を参照してください。</li> <li>シリアル番号 (表示例: 0051):ストレージシステムのシリアル番号</li> </ul> <p>これらの情報をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的にストレージシステムを特定できます。</p>
iLU <sup>※1</sup>	iLU	<p>ストレージシステム内のLU番号が表示されます。</p> <p>この番号とストレージシステム名(「DskName」に表示)を組み合わせると、パスがアクセスするLUを特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>XP8, XP7、またはVX7の場合 16進数で表示されます。iLUの先頭2文字は「00」の値が入ります。真ん中2文字はCU (Control Unit)番号を示し、後ろ2文字はCU内の内部LU番号を示します。</li> <li>VSP 5000シリーズ、VSP G1000, G1500, VSP F1500, VSP One B20, VSP Eシリーズ、VSP Gx00モデル、またはVSP Fx00モデルの場合 16進数で表示されます。iLUの先頭2文字は論理DKC (Disk Controller)番号を示し、真ん中2文字はCU (Control Unit)番号を示し、後ろ2文字はCU内の内部LU番号を示します。</li> </ul>
ChaPort <sup>※1</sup>	CP	CHAポート番号です。この番号でストレージシステムに搭載されているCHAポートを特定できます。この番号をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的にCHAポートを特定できます。
Status		<p>パスの状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Online:稼働状態</li> <li>Offline(C):コマンドでのオフライン操作による閉塞状態</li> <li>Offline(E):障害による閉塞状態</li> </ul> <p>Offline(E)のパスについては対処が必要です。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して対処してください。</p>

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
Type <sup>※1</sup>	Type	<p>パスの属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Own：オーナーパス</li> <li>Non：ノンオーナーパス</li> </ul> <p>HDLM がサポートするストレージシステムは、通常すべてのパスがオーナーパスです。<sup>※2</sup></p>
IO-Count <sup>※1</sup>	—	<p>パスの I/O 回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、<math>2^{32}-1</math> (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。</p> <p>IO-Count を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 障害回数 (IO-Errors) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「<a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a>」を参照してください。</p> <p>ただし、次に示すアルゴリズム以外が適用されている場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>exrr：拡張ラウンドロビン</li> <li>exlio：拡張最少 I/O 数</li> <li>exlbk：拡張最少ブロック数</li> </ul>
IO-Errors <sup>※1</sup>	—	<p>パスの I/O 障害回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、<math>2^{32}-1</math> (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。</p> <p>IO-Errors を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 回数 (IO-Count) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「<a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a>」を参照してください。</p>
DNum <sup>※1</sup>	—	LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。
HDevName <sup>※1</sup>	—	ホストデバイス名です。
IEP <sup>※1</sup>	—	<p>間欠障害に関する情報が表示されます。この項目は、-item パラメーターを指定した場合、または-item パラメーターに iep を指定した場合だけ表示されます。1 本のパスにつき、次のどれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 間欠障害の監視が無効、またはパスの状態が Offline(C)</li> <li>0 以上の数値 間欠障害の監視中に発生した障害の回数 (パスの状態は Offline(E) または Online)</li> <li>* 間欠障害が発生 (自動フェールバックの対象外) (パスの状態は Offline(E))</li> </ul>
HBAPortWWN <sup>※1</sup>	—	ストレージシステムと接続している HBA のポート WWN 情報が 16 行の 16 進数で表示されます。この項目は、-hbaportwwn パラメーターを指定した場合、または-item パラメーターに hbaportwwn を指定した場合だけ表示されます。
VmRuntimeName <sup>※1</sup>	—	パスを表す項目で、VMware vSphere で管理しているパスのランタイム情報が表示されます。-path パラメーターと同時に-vmruntimenname パラメーターを指定した場合は、PathName の代わりに表示されます。

## 6. コマンドリファレンス

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
VmState <sup>※1</sup>	–	<p>VMware vSphere で管理しているパスの状態です。この項目は、-vmstate パラメーターを指定した場合、または-item パラメーターにvmstate を指定した場合だけ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>active : 稼働状態 (Online)</li> <li>standby : 稼働状態 (Online)</li> <li>off : コマンドでのオフライン操作による閉塞状態 (Offline(C))</li> <li>dead : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> <li>unavailable : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> <li>perm_loss : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> </ul> <p>dead, unavailable, perm_loss のパスについては対処が必要です。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して対処してください。</p>
VmPathUID <sup>※1</sup>	–	VMware vSphere が管理しているパスの UID が表示されます。この項目は、-path -item パラメーターでパラメーター値に指定したときだけ表示されます。
Physical-LDEV	–	<p>物理ボリュームのモデル ID, シリアル番号, および iLU 番号が、ピリオドで区切って表示されます。</p> <p>この情報によって、物理ボリュームを特定できます。仮想化されていないボリュームの場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p>
Virtual-LDEV	–	<p>仮想ボリュームのモデル ID, シリアル番号, および iLU 番号が、ピリオドで区切って表示されます。</p> <p>この情報によって、仮想ボリュームを特定できます。仮想化されていないボリュームの場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p>

(凡例)

– : 表示されない項目

注※1

-path -item パラメーターの場合、パラメーター値に指定したときだけ表示されます。

注※2

ノンオーナーパスがあるのは、次の場所です。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき

表 6-11 パス名を構成する項目

項目	VMware vSphere での表現
ホストポート番号 (表示例 : 0000)	Host ID (ホストポート番号) です。
バス番号 (表示例 : 0000)	Channel 番号 (バス番号) です。
ターゲット ID (表示例 : 0000000000000003A)	Target ID (ターゲット ID) です。
ホスト LU 番号 (表示例 : 0005)	Lun (ホスト LU 番号) です。

表 6-12 プロダクト ID の表示内容

ストレージシステム	表示内容		
	-stname パラメーター 指定なし	-stname パラメーター指定時 (下記のモデル ID を表示)	
		概略表示しない場合	概略表示する場合
VSP 5000 シリーズ	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_5000	VSP_5000
VSP G1000	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_G1000	VSP_G1000
VSP G1500	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_G1500	VSP_G1500
VSP F1500	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_F1500	VSP_F1500
仮想ストレージ VSP G1000, G1500 および VSP F1500 <sup>※3</sup>	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_G1000	VSP_G1000
VSP One B20	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_One_Block	VSP_One_Block <sup>※4</sup>
VSP E シリーズ	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_Ex00	VSP_Ex00
VSP Gx00 モデル	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_Gx00	VSP_Gx00
VSP Fx00 モデル	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VSP_Fx00	VSP_Fx00
VX7	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	VX7	VX7
XP8	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	XP8	XP8
XP7	エミュレーションタイプ <sup>※1</sup> ※2	XP7	XP7

注※1

-path -c パラメーターで概略表示した場合、文字数が 11 文字以上のときは、8 文字目以降が短縮形 (...) で表示されます。

注※2

コマンドデバイスの場合、エミュレーションタイプのあとに「-CM」が表示されます。(表示例: OPEN-V-CM)

## 注※3

global-active device のプライマリーボリュームが仮想ストレージに登録されていない場合は、プライマリーボリュームのストレージシステムのモデル ID が表示されます。なお、プライマリーボリュームがホストに接続されていないときは、「VSP\_G1000」が表示されます。

## 注※4

`-path -stname -c` パラメーターで概略表示した場合、文字数が 11 文字以上のときは、8 文字目以降が短縮形 (...) で表示されます。

## (4) LU 情報を表示する場合

LU 情報を表示する場合、`-lu` パラメーターと同時に`-item` パラメーター や`-c` パラメーターを指定すると、項目を追加して表示したり、LU 情報の概略を表示したりできます。ここでは、それぞれのパラメーターの説明をしたあとに、LU 情報の表示項目を説明します。

### LU 情報表示

#### `-lu`

`-lu` パラメーターと同時に`-c` パラメーター または`-item` パラメーターのどちらも指定しない場合、HDLM が認識している LU の情報が表示されます。iLU をキーとして、その iLU の構成情報が LU ごとに表示されます。

各表示項目の内容については、「[表 6-14 LU 情報の表示項目](#)」を参照してください。

後続パラメーターの形式を次に示します。

#### `-pstv|-vstv`

`-pstv` パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、`-vstv` パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、`set` オペレーションの`-pstv` パラメーターで指定された値に従って表示します。

`-pstv` パラメーターと`-vstv` パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

#### `-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理PATH_ID`

`-hdev` パラメーターを指定すると、指定したホストデバイス名に対応する LU の情報だけが表示されます。

英字の大文字、小文字は区別されます。

`-pathid` パラメーターを指定すると、指定したパス管理 PATH\_ID を持つパスがアクセスする LU の情報だけが表示されます。

#### `-t`

各情報の項目名が非表示になります。

## 使用例

```
PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -lu
Product      : VSP_Fx00
SerialNumber : 410017
LUs          : 3

iLU      HDevName          PathID Status
001020  naa.60060e8012271b005040271b00001020 000000 Online
          000003 Online
001021  naa.60060e8012271b005040271b00001021 000001 Online
          000004 Online
001022  naa.60060e8012271b005040271b00001022 000002 Online
          000005 Online
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>
```

## LU 情報表示（表示項目を追加する場合）

### -lu -item

-item で指定した項目が-lu の表示項目に追加して表示されます。

-item パラメーターでパラメーター値を何も指定しない場合、またはパラメーター値にall を指定した場合、Physical-LDEV および Virtual-LDEV を除く追加できる項目がすべて表示されます。

-item パラメーターで追加できる表示項目と、-item パラメーターの後続に指定するパラメーター値との対応を次の表に示します。

表 6-13 -lu -item パラメーターで追加できる表示項目と指定する後続パラメーター

追加できる表示項目	後続パラメーター
SLPR	slpr
PathName	pn
ChaPort	cp
CLPR	clpr
Type	type
IO-Count	ic
IO-Errors	ie
DNum	dnu
IEP	iep
LB	lb
VmPSP	vmpsp
VmRuntimeName	vmruntimename
VmState	vmstate

追加できる表示項目	後続パラメーター
Physical-LDEV	phys
Virtual-LDEV	virt
すべての項目	all

各表示項目の内容については、「[表 6-14 LU 情報の表示項目](#)」を参照してください。

後続パラメーターの形式を次に示します。

**-pstv|-vstv**

**-pstv** パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、**-vstv** パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、**set** オペレーションの**-pstv** パラメーターで指定された値に従って表示します。

**-pstv** パラメーターと**-vstv** パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

**-hdev ホストデバイス名|-pathid パス管理PATH\_ID**

**-hdev** パラメーターを指定すると、指定したホストデバイス名に対応する LU の情報だけが表示されます。

英字の大文字、小文字は区別されます。

**-pathid** パラメーターを指定すると、指定したパス管理 PATH\_ID を持つパスがアクセスする LU の情報だけが表示されます。

**-t**

各情報の項目名が非表示になります。

使用例

LU 情報の表示項目に、**ChaPort**、**LB**、**VmPSP**、**VmRuntimeName**、および **VmState** を追加して表示する場合

```
PROMPT>dlkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -lu -item cp lb vmpsp vmrunti
mename vmstate
Product      : VSP_Fx00
SerialNumber : 410017
LUs          : 3

iLU      HDevName
          LB      VmPSP      PathID VmRuntimeName
          ChaPort Status   VmState
001020  naa.60060e8012271b005040271b00001020  exlio HTI_PSP_HDLM_EXLIO 000000 vmba4:C0:T0:
L0 1B    Online   active
          exlio HTI_PSP_HDLM_EXLIO 000003 vmba5:C0:T0:
L0 2B    Online   active
001021  naa.60060e8012271b005040271b00001021  exlio HTI_PSP_HDLM_EXLIO 000001 vmba4:C0:T0:
L1 1B    Online   active
          exlio HTI_PSP_HDLM_EXLIO 000004 vmba5:C0:T0:
L1 2B    Online   active
001022  naa.60060e8012271b005040271b00001022  exlio HTI_PSP_HDLM_EXLIO 000002 vmba4:C0:T0:
L2 1B    Online   active
```

```

L2 2B      Online      active
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻 = yy
yy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>

```

## LU 情報の概略表示

-lu -c

-lu パラメーターと同時に-c パラメーターを指定した場合、LU の構成情報の概略が 1 行で表示されます。各 LU に対して、認識されているパスの総数および稼働状態のパスの本数も表示されます。-c パラメーターを指定する場合、-hdev パラメーターまたは-pathid パラメーターを同時に指定できません。各表示項目の内容については、「[表 6-14 LU 情報の表示項目](#)」を参照してください。

後続パラメーターの形式を次に示します。

-pstv|-vstv

-pstv パラメーターを指定すると物理ストレージシステムの情報を表示し、-vstv パラメーターを指定すると OS に認識されているストレージシステムの情報を表示します。どちらのパラメーターも指定しない場合は、set オペレーションの-pstv パラメーターで指定された値に従って表示します。  
-pstv パラメーターと-vstv パラメーターの指定によって表示結果が異なる表示項目については、「[6.6.2 パラメーター](#)」の「[表 6-6 -pstv パラメーターの指定によって view オペレーションの表示結果が異なる表示項目](#)」を参照してください。

-t

各情報の項目名が非表示になります。

### 使用例

```

PROMPT>dlngmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -lu -c
Product  S/N      LUs  iLU      HDevName          Paths  OnlinePaths
VSP_Fx00 410017  3  001020 naa.60060e8012271b005040271b00001020  2      2
                  001021 naa.60060e8012271b005040271b00001021  2      2
                  001022 naa.60060e8012271b005040271b00001022  2      2
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd  hh:mm:ss
PROMPT>

```

## LU 情報の表示項目

LU 情報を表示する場合に、表示される項目とその説明を「[表 6-14 LU 情報の表示項目](#)」に示します。見出しについて、次に説明します。

- 概略表示しない場合：-lu パラメーターを指定した場合を示します。
- 概略表示する場合：-lu -c パラメーターを指定した場合を示します。

表 6-14 LU 情報の表示項目

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
Product		ストレージシステムのモデル ID です。
SerialNumber	S/N	ストレージシステムのシリアル番号です。
LUs		ストレージシステム内の LU のうち、HDLM 管理下の LU の総数です。
iLU		<p>ストレージシステム内の LU 番号が表示されます。</p> <p>この番号とストレージシステム名（「DskName」に表示）を組み合わせると、パスがアクセスする LU を特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>XP8, XP7, または VX7 の場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は「00」の値が入ります。真ん中 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。</li> <li>VSP 5000 シリーズ, VSP G1000, G1500, VSP F1500, VSP One B20, VSP E シリーズ, VSP Gx00 モデル, または VSP Fx00 モデルの場合 16 進数で表示されます。iLU の先頭 2 文字は論理 DKC (Disk Controller) 番号を示し、真ん中 2 文字は CU (Control Unit) 番号を示し、後ろ 2 文字は CU 内の内部 LU 番号を示します。</li> </ul>
SLPR <sup>※1</sup>	—	<p>LU が属する SLPR の番号が 0 から 31 までの 10 進数で表示されます。ストレージ論理分割機能がサポートされていないストレージシステム内の LU が表示対象の場合は、「-」（ハイフン）が表示されます。</p> <p>また、iLU が仮想化されているボリュームの場合も、「-」（ハイフン）が表示されます。</p>
HDevName	HDevName	ホストデバイス名です。
PathID	—	パス管理 PATH_ID が、10 進数で表示されます。ホストの再起動時に割り当てられます。
PathName <sup>※1</sup>	—	<p>パスを表す項目で、パス名と呼びます。システムの構成を変更する場合やハードウェアを交換する場合は、パス名を参照して影響を受けるパスを確認してください。次に示す 4 つの項目をピリオドで区切ったものが、パス名として表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホストポート番号（16 進数）</li> <li>バス番号（16 進数）</li> <li>ターゲット ID（16 進数）</li> <li>ホスト LU 番号（16 進数）</li> </ul> <p>パス名を構成する項目と、各項目の VMware vSphere での表現については、「<a href="#">表 6-11 パス名を構成する項目</a>」を参照してください。</p>
ChaPort <sup>※1</sup>	—	CHA ポート番号です。この番号でストレージシステムに搭載されている CHA ポートを特定できます。この番号をストレージシステムの管理プログラムで参照すると、物理的に CHA ポートを特定できます。
CLPR <sup>※1</sup>	—	CHA ポートが属する CLPR の番号が 0 から 31 までの 10 進数で表示されます。ただし、次に示すものが表示対象の場合は、「-」（ハイフン）が表示されます。

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
CLPR <sup>※1</sup>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュ論理分割機能がサポートされていないストレージシステムに搭載されている CHA ポート</li> </ul>
Status	—	<p>パスの状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Online : 稼働状態</li> <li>Offline(C) : コマンドでのオフライン操作による閉塞状態</li> <li>Offline(E) : 障害による閉塞状態</li> </ul> <p>Offline(E)のパスについては対処が必要です。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して対処してください。</p>
Type <sup>※1</sup>	—	<p>パスの属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Own : オーナーパス</li> <li>Non : ノンオーナーパス</li> </ul> <p>HDLM がサポートするストレージシステムは、通常すべてのパスがオーナーパスです。<sup>※2</sup></p>
IO-Count <sup>※1</sup>	—	<p>パスの I/O 回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、<math>2^{32}-1</math> (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。IO-Count を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 障害回数 (IO-Errors) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「<a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a>」を参照してください。</p> <p>ただし、次に示すアルゴリズム以外が適用されている場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>exrr : 拡張ラウンドロビン</li> <li>exlio : 拡張最少 I/O 数</li> <li>exlbk : 拡張最少ブロック数</li> </ul>
IO-Errors <sup>※1</sup>	—	<p>パスの I/O 障害回数の合計数が、10 進数で表示されます。表示できる最大値は、<math>2^{32}-1</math> (4294967295) です。最大値を超えた場合、0 から再カウントします。IO-Errors を 0 にしたい場合は、HDLM コマンドの clear オペレーションを実行してください。clear オペレーションを実行すると、I/O 回数 (IO-Count) も 0 にクリアされます。clear オペレーションの詳細については、「<a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a>」を参照してください。</p>
DNum <sup>※1</sup>	—	LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。
IEP <sup>※1</sup>	—	<p>表示対象のパスが、間欠障害と見なされ、自動フェールバックの対象外になっているかどうかが、表示されます。1 本のパスにつき、次のどれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- : 間欠障害の監視が無効、またはパスの状態が Offline(C)</li> <li>0 以上の数値 : 間欠障害の監視時間内に発生した障害の回数</li> <li>* : 間欠障害発生 (自動フェールバックの対象外)</li> </ul>
LB <sup>※1</sup>	—	<p>適用しているロードバランサのアルゴリズムが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>exrr : 拡張ラウンドロビン</li> <li>exlio : 拡張最少 I/O 数</li> </ul>

## 6. コマンドリファレンス

表示項目		説明
概略表示しない場合	概略表示する場合	
LB <sup>※1</sup>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>exlbk : 拡張最少ブロック数</li> <li>vmwfixed : 固定 (VMware)</li> <li>vmwmru : 最近の使用 (VMware)</li> <li>vmwrr : ラウンドロビン (VMware)</li> <li>unknown : 上記以外のアルゴリズム</li> </ul>
VmPSP <sup>※1</sup>	—	適用している PSP が表示されます。
VmRuntimeName <sup>※1</sup>	—	パスを表す項目で、VMware vSphere で管理しているパスのランタイム情報が表示されます。
VmState <sup>※1</sup>	—	<p>VMware vSphere で管理しているパスの状態です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>active : 稼働状態 (Online)</li> <li>standby : 稼働状態 (Online)</li> <li>off : コマンドでのオフライン操作による閉塞状態 (Offline(C))</li> <li>dead : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> <li>unavailable : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> <li>perm_loss : 障害による閉塞状態 (Offline(E))</li> </ul> <p>dead, unavailable, または perm_loss のパスについては対処が必要です。「5.3 パス障害時の対処」を参照して対処してください。</p>
Physical-LDEV	—	<p>物理ボリュームのモデル ID, シリアル番号, および iLU 番号が、ピリオドで区切って表示されます。</p> <p>この情報によって、物理ボリュームを特定できます。仮想化されていないボリュームの場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p>
Virtual-LDEV	—	<p>仮想ボリュームのモデル ID, シリアル番号, および iLU 番号が、ピリオドで区切って表示されます。</p> <p>この情報によって、仮想ボリュームを特定できます。仮想化されていないボリュームの場合は、「-」(ハイフン) が表示されます。</p>
—	Paths	表示対象の LU に対して、認識されているパスの総数が、10進数で表示されます。
—	OnlinePaths	表示対象のパスのうち、稼働状態のパスの数が10進数で表示されます。「Paths」の数と「OnlinePaths」の数が同じであれば、すべてのパスが稼働状態です。 「OnlinePaths」の数の方が少ない場合、閉塞状態のパスがあります。閉塞状態のパスを確認し、障害が発生していれば対処してください。

(凡例)

— : 表示されない項目

注※1

`-lu -item` パラメーターを使用してパラメーター値に表示項目もしくは `all` を指定した場合、またはパラメーター値に何も指定しなかった場合だけ表示されます。

## 注※2

ノンオーナーパスがあるのは、次の場所です。

- global-active device を使用している場合で、non-preferred path option を設定しているとき

## (5) view オペレーションの形式を表示する場合

-help

view オペレーションの形式が表示されます。

### 使用例 1

ホスト、およびリモート管理クライアントの両方の実行形式を表示する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -help
view:
Format
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -sys [ -sfunc | -satp | -rule | -pfs
          | -rcm | -expathusetimes | -exrndpathusetimes ] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path
    [-pstv | -vstv] [-hdev HostDeviceName] [-stname]
    [-item] [-hbaportwwn] [-vmruntimename] [-vmstate]
          [-srt {pn | lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path
    -item [pn] [dn] [lu] [cp] [type] [ic] [ie] [dnu] [hd] [iep] [rcm]
    [hbaportwwn] [vmruntimename] [vmstate] [vmpathuid]
    [phys] [virt]
    [-pstv | -vstv] [-hdev HostDeviceName] [-stname]
          [-srt {pn | lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path -c
    [-pstv | -vstv] [-stname] [-srt {lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu
    [-pstv | -vstv] [-hdev HostDeviceName | -pathid AutoPATH_ID] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu
    -item [ [slpr] [pn] [cp] [clpr] [type] [ic] [ie] [dnu] [iep] [rcm]
    [lb] [vmpsp] [vmruntimename] [vmstate]
    [phys] [virt] | all ]
    [-pstv | -vstv] [-hdev HostDeviceName | -pathid AutoPATH_ID] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu -c [-pstv | -vstv] [-t]
  dlnkmgr -l view -sys [ -msrv | -lic | -audlog | -pstv ] [-t]
Host-Connection-Options:
  [-s SERVER | --server=SERVER ]
  [-u USERNAME | --username=USERNAME ]
  [-p PASSWORD | --password=PASSWORD ]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd h
h:mm:ss
PROMPT>
```

### 使用例 2

ホストの実行形式を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード view -help
view:
Format
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -sys [-sfunc | -satp | -rule | -pfs
                                                | -rcm | -xpathusetimes | -exrndpathusetimes ] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path
    [-pstv | -vstv] [ -hdev HostDeviceName ] [-stname]
    [-iem] [-hbaportwwn] [-vmruntimename] [-vmstate]
                                                [-srt {pn | lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path
    -item [pn] [dn] [lu] [cp] [type] [ic] [ie] [dnu] [hd] [iep] [rcm]
      [hbaportwwn] [vmruntimename] [vmstate] [vmpathuid]
      [phys] [virt]
    [-pstv | -vstv] [ -hdev HostDeviceName ] [-stname]
                                                [-srt {pn | lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -path -c
    [-pstv | -vstv] [-stname] [-srt {lu | cp}] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu
    [-pstv | -vstv] [ -hdev HostDeviceName | -pathid AutoPATH_ID ] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu
    -item [ [slpr] [pn] [cp] [clpr] [type] [ic] [ie] [dnu] [iep] [rcm]
      [lb] [vmpsp] [vmruntimename] [vmstate]
      [phys] [virt] | all ]
    [-pstv | -vstv] [ -hdev HostDeviceName | -pathid AutoPATH_ID ] [-t]
  dlnkmgr [Host-Connection-Options] view -lu -c [-pstv | -vstv] [-t]
Host-Connection-Options:
  [-s SERVER | --server=SERVER ]
  [-u USERNAME | --username=USERNAME ]
  [-p PASSWORD | --password=PASSWORD ]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd h
h:mm:ss
PROMPT>

```

### 使用例 3

リモート管理クライアントの実行形式を表示する場合

```

PROMPT>dlnkmgr -l view -help
view:
Format
  dlnkmgr -l view -sys [ -msrv | -lic | -audlog | -pstv ] [-t]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view, 終了時刻 = yyyy/mm/dd h
h:mm:ss
PROMPT>

```

## 6.8 refresh ストレージシステムでの設定を HDLM に反映する

ストレージシステムでの設定を HDLM に反映します。

### 6.8.1 形式

#### (1) ストレージシステムでの設定を HDLM に反映する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] refresh  
-gad
```

#### (2) 最新のモデル ID を HDLM に反映する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] refresh  
-stname
```

#### (3) refresh オペレーションの形式を表示する場合

```
dlnkmgr [-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード] refresh  
-help
```

### 6.8.2 パラメーター

#### (1) ストレージシステムでの設定を HDLM に反映する場合

-gad

global-active device ペアのボリュームへのパスに設定した non-preferred path option が、 HDLM のパスの属性に反映されます。non-preferred path option を設定しているパスはノンオーナーパスに、設定していないパスはオーナーパスになります。

refresh オペレーションで-gad パラメーターを指定する場合は、 global-active device ペアのボリュームへのパスの状態をすべてOnline としてください。

ホストを再起動した場合は、再起動したときの設定が、 HDLM のパスの属性に反映されます。

使用例

global-active device ボリュームへのパスの属性を反映する場合

```
PROMPT>dlnkmgr view -lu -item type phys  
Product : VSP_One_Block  
SerialNumber : 806211  
LUs : 1
```

```

iLU      HDevName          PathID Status Type  Physical-LDEV
001910 naa.60060e80072743000030274300001910 000000 Online Own VSP_One_Block.806211.001
910
910          000001 Online Own VSP_One_Block.806211.001
910          000002 Online Own VSP_One_Block.806212.001
A10          000003 Online Own VSP_One_Block.806212.001
A10
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

PROMPT>dlkmgr refresh -gad
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = refresh, 終了時刻 = yy
yy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

PROMPT>dlkmgr view -lu -item type phys
Product : VSP_One_Block
SerialNumber : 806211
LUs : 1

iLU      HDevName          PathID Status Type  Physical-LDEV
001910 naa.60060e80072743000030274300001910 000000 Online Own VSP_One_Block.806211.001
910
910          000001 Online Own VSP_One_Block.806211.001
910          000002 Online Non VSP_One_Block.806212.001
A10          000003 Online Non VSP_One_Block.806212.001
A10
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

## (2) 最新のモデル ID を HDLM に反映する場合

-stname

ストレージシステムの最新のモデル ID が HDLM に反映されます。ストレージシステムを VSP G1000 から VSP G1500 に変更したあとに、refresh -stname オペレーションを実行してください。

refresh -stname オペレーションを実行しなくても、ホストを再起動した場合は、最新のモデル ID が HDLM に反映されます。

使用例

```

PROMPT>dlkmgr view -lu
Product : VSP_G1000
SerialNumber : 10051
LUs : 1

iLU      HDevName          PathID Status
001910 naa.60060e80072743000030274300001910 000000 Online
000001 Online

```

```

KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

PROMPT>dlnkmgr refresh -stname
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = refresh, 終了時刻 =
yy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

PROMPT>dlnkmgr view -lu
Product : VSP_G1500
SerialNumber : 10051
LUs : 1

iLU      HDevName          PathID Status
001910  naa.60060e80072743000030274300001910 000000 Online
                                         000001 Online
KAPL01001-I HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = view(-vstv), 終了時刻
= yyyy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

### (3) refresh オペレーションの形式を表示する場合

-help

refresh オペレーションの形式が表示されます。

使用例

```

PROMPT>dlnkmgr refresh -help
refresh:
  Format
    dlnkmgr [Host-Connection-Options] refresh [-gad | -stname]
  Host-Connection-Options:
    [ -s SERVER      | --server=SERVER ]
    [ -u USERNAME    | --username=USERNAME ]
    [ -p PASSWORD    | --password=PASSWORD ]
KAPL01001-I HDLMコマンドが正常終了しました。オペレーション名 = refresh, 終了時刻 =
yy/mm/dd hh:mm:ss
PROMPT>

```

# 7

## ユーティリティーリファレンス

この章では、HDLMで使用するユーティリティーについて説明します。

## 7.1 ユーティリティー概要

---

HDLM は、次に示すユーティリティーを提供します。

- HDLM 障害情報収集ユーティリティー (DLMgetras)

障害発生時に、HDLM の購入元会社、または保守会社に連絡する必要がある情報を持つファイルを収集します。DLMgetras ユーティリティーについては、「[7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー](#)」を参照してください。

- HDLM 性能情報表示ユーティリティー (dlmperfinfo)

HDLM で管理しているパスの性能情報を収集して表示、またはファイルに出力します。dlmperfinfo ユーティリティーについては、「[7.3 dlmperfinfo HDLM 性能情報表示ユーティリティー](#)」を参照してください。

- HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー (dlmrmcenv)

リモート管理クライアントの動作環境を設定するユーティリティーです。dlmrmcenv ユーティリティーについては、「[7.4 dlmrmcenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー](#)」を参照してください。

- HDLM インストールユーティリティー (installhdlm)

HDLM の新規インストール、アップグレードインストールまたは再インストールする場合に、サイレントインストールを実行できます。また、インストール時に設定した情報を表示できます。installhdlm ユーティリティーについては、「[7.5 installhdlm HDLM インストールユーティリティー](#)」を参照してください。

- HDLM アンインストールユーティリティー (removehdlm)

HDLM のアンインストール、およびサイレントアンインストールを実行できます。removehdlm ユーティリティーについては、「[7.6 removehdlm HDLM アンインストールユーティリティー](#)」を参照してください。

## 7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー

HDLM で発生した障害の解析に必要な統合トレースファイル、トレースファイル、定義ファイル、OS などの情報を収集します。

なお、HDLM 障害情報収集ユーティリティー（DLMgetras）が収集する情報には、ホストの再起動時に消去されてしまうものもあります。障害発生時は、速やかにこのユーティリティーを実行してください。

### 7.2.1 形式

DLMgetras ユーティリティーは、Windows PowerShell のコマンドプロンプトから実行してください。

```
DLMgetras {-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード [収集情報出力先フォルダー] [-eventlogtime 年/月/日 | -eventlogsize {all | 最大ファイル長}] | -h}
```

ユーティリティ名には次のように小文字（dlmgetras）も使用できます。

```
dlmgetras {-s ホスト名 -u ユーザー名 -p パスワード [収集情報出力先フォルダー] [-eventlogtime 年/月/日 | -eventlogsize {all | 最大ファイル長}] | -h}
```

### 7.2.2 パラメーター

**-s ホスト名**

障害情報を収集するホスト名を指定します。

**-u ユーザー名**

ホストへのログインに必要なユーザー名を指定します。

**-p パスワード**

ホストへのログインに必要なパスワードを指定します。

**収集情報出力先フォルダー**

HDLM 障害情報収集ユーティリティー（DLMgetras）で収集した情報の出力先フォルダーを指定します。指定したフォルダー内に、「[表 7-1 HDLM 障害情報収集ユーティリティー（DLMgetras）が収集する障害情報の一覧](#)」に示す出力先フォルダーが生成され、各種情報が収集されます。

**-eventlogtime 年/月/日**

アプリケーション、システム、およびセキュリティーのイベントログのそれぞれについて、年/月/日で指定した日の0時0分以降のログを取得します。日付は、yyyy/mm/dd の形式で指定します。

**-eventlogsize {all | 最大ファイル長}**

**all**

すべてのアプリケーション、システム、およびセキュリティのイベントログを取得します。

**最大ファイル長**

アプリケーション、システム、およびセキュリティのイベントログのそれぞれについて、最新のものから最大ファイル長で指定したサイズになるまでログを取得します。指定する最大ファイル長の単位は MB です。指定できる値は、1 から 4096 までです。

**-h**

DLMgetras ユーティリティの形式を表示します。

## 注意事項

- **-eventlogsize {all | 最大ファイル長}** と **-eventlogtime 年/月/日** は同時に指定できません。
- **-eventlogsize {all | 最大ファイル長}** または **-eventlogtime 年/月/日** を指定しない場合は、最大 8MB のイベントログを取得します。
- 指定した収集情報出力先フォルダーがすでにある場合、上書きを確認するメッセージが表示されます。「y」を入力すると、既存のファイルはすべて上書きされます。「n」やそのほかのキーを入力すると、DLMgetras ユーティリティは実行されないで終了します。  
前回、障害情報を収集したときに作成したフォルダーの名称を変更してからユーティリティを実行するか、重複しないフォルダ名を指定してユーティリティを実行してください。
- Windows では、ユーザーアカウント制御 (UAC) がサポートされています。このため、Administrator 以外のユーザーで DLMgetras ユーティリティを実行する場合は、「管理者：コマンドプロンプト」で実行してください。

### 7.2.3 収集される障害情報

HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) 実行時に障害情報収集先フォルダー内に収集される障害情報の一覧を次の表に示します。

表 7-1 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) が収集する障害情報の一覧

収集したファイルを格納するフォルダー※1	ファイル	説明
収集情報出力先フォルダーの直下	getrasn.log	DLMgetras ユーティリティ実行時のログファイル
収集情報出力先フォルダー￥HDLMのインストール先ドライブ_￥Program Files (x86)￥HITACHI￥DynamicLinkManagerForVMware※2	hdlmversion	HDLM のバージョン番号

収集したファイルを格納するフォルダー※1	ファイル	説明
収集情報出力先フォルダー¥HDLMのインストール先ドライブ_¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerForVMware¥config※2	config 以下のすべてのファイル	HDLM の設定ファイル
収集情報出力先フォルダー¥HDLMのインストール先ドライブ_¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerForVMware¥host※2	host 以下のすべてのファイル	ホストの設定ファイルおよびログファイル
収集情報出力先フォルダー¥HDLMのインストール先ドライブ_¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerForVMware¥log※2	log 以下のすべてのファイル	HDLM のログ
Hitachi Network Objectplaza トレース共通ライブラリーのユーティリティーで指定した統合トレースファイル出力先フォルダー。デフォルトは、収集情報出力先フォルダー¥インストール先ドライブ_¥Program Files (x86)¥HITACHI¥HNTRLib2¥spool	hntrn.log※3	統合トレースファイル (HNTRLib2)
収集情報出力先フォルダー¥getrasinfo	application-list.txt	インストール情報の一覧
	dirHdLmRoot.txt	HDLM のインストール先フォルダーの下にある、すべてのフォルダーおよびファイルの一覧
	dirSystemRoot.txt	Windows のインストール先フォルダーの下にある、すべてのフォルダーおよびファイルの一覧
	dlmmgr-lic.txt	dlnkmgr -l view -sys -lic の内容
	dlmmgr-lu.txt	dlnkmgr view -lu -item pn cp type ic ie dnu slpr clpr lb vmpsp vmruntimename vmstate の内容
	dlmmgr-lu-all.txt	dlnkmgr view -lu -item all の内容
	dlmmgr-path.txt	dlnkmgr view -path -hbaportwwn の内容
	dlmmgr-path-item.txt	dlnkmgr view -path -item の内容
	dlmmgr-path-item.txt	dlnkmgr view -path -item pn dn lu cp type ic ie dnu hd iep hbaportwwn vmruntimename vmstate vmpathuid の内容

収集したファイルを格納するフォルダー※1	ファイル	説明
収集情報出力先フォルダー¥getrasinfo	dlmmgr-sys.txt	ホストおよびリモート管理クライアントのシステム情報、リモート管理クライアントにインストールしている Hitachi Network Objectplaza トレス共通ライブラリー (HNTRLib2) のバージョン情報
	dlm-reg.txt	HDLM のレジストリーの内容
	esxcli.txt	ホストの情報
	hntrlib-reg.txt	HNTRLib2 のレジストリーの内容
	path_environ.log	環境変数「Path」の情報
	sysdllexe.txt	HDLM, HNTRLib2, 日立共通ディレクトリーおよびシステムディレクトリーにインストールされた実行形式ファイルのバージョン情報, PE (Portable Executable) 形式ファイルのタイムスタンプ, 最終更新日付, ファイルサイズの情報を格納
	systeminfo.txt	システム情報
	wevApplication.evtx wevApplication.txt	イベントログーアプリケーション
	wevSecurity.evtx wevSecurity.txt	イベントログーセキュリティ
	wevSetup.evtx wevSetup.txt	イベントログーセットアップ
	wevSystem.evtx wevSystem.txt	イベントログーシステム
	winmsd.txt	Windows システム情報
	dlmSatpModuleInfo.txt	HDLM の SATP プラグイン情報
	dlmPspModuleInfo.txt	HDLM の PSP プラグイン情報
収集情報出力先フォルダー¥インストール先ドライブ_	hdlmvminst.log	HDLM のインストールログ

#### 注※1

それぞれの障害情報収集先フォルダーは、`DLMgetras` ユーティリティー実行時にユーザーが指定した収集情報出力先フォルダー内に作成されます。

収集情報出力先フォルダーの指定をしないで`DLMgetras` ユーティリティーを実行した場合、デフォルトの収集情報出力先フォルダーは、「*Windows*のインストール先ドライブ¥hdtemp¥hdlmgetras\_nn」です。*nn* は 00~99 の数字です。

#### 注※2

下線部はインストール時に指定したフォルダーです。

#### 注※3

実際のファイル名は、*Hitachi Network Objectplaza* トレース共通ライブラリーのユーティリティーの「Output (directory and prefix)」に指定した名前「2」のあとにファイルの番号が付きます。例えば、デフォルトの場合は`hntr21.log~hntr216.log`となります。名前の「2」はファイルの番号を表すものではないので、ご注意ください。

## 7.3 **dlmperfinfo** HDLM 性能情報表示ユーティリティー

HDLM が提供する PSP が管理しているパスの性能情報を収集して表示、またはファイルに出力します。

運用開始時にあらかじめ性能情報を取得しておき、運用中に再度性能情報を取得して比較することで、各パスの性能を確認できます。

このユーティリティーの格納場所を次に示します。

*HDLM* のインストール先フォルダー ¥bin

### 注意事項

- ロードバランスアルゴリズムに HDLM が提供する PSP が設定されているパスが表示されます。  
VMware vSphere の PSP が設定されているパスは表示されません。  
ユーティリティー実行中に、ロードバランスアルゴリズムが HDLM が提供する PSP から VMware vSphere の PSP に変更されると、変更されたパスは表示されなくなります。すべてのパスのロードバランスアルゴリズムが、VMware vSphere の PSP に変更された場合は、性能情報の取得を中止します。

ロードバランスアルゴリズムが HDLM が提供する PSP かどうかは次の手段で確認できます。

`dlmkmgr view -lu -item lb` を実行して、表示される LB が次の場合

- `exrr` : 拡張ラウンドロビン
- `exlio` : 拡張最少 I/O 数
- `exlbk` : 拡張最少ブロック数

- 複数のリモート管理クライアントから同じ ESXi ホストに対して、`dlmperfinfo` ユーティリティーを同時に実行しないでください。
- 1 台のリモート管理クライアントで複数の Windows PowerShell を実行し、それぞれの Windows PowerShell で同じ ESXi ホストを示すホスト名、IPv4 アドレス、IPv6 アドレスを指定して、`dlmperfinfo` ユーティリティーを同時に実行しないでください。
- 性能情報表示機能を使用する時に、ESXi ホストの HDLM ドライバーで使用するメモリー所要量が増加します。

増加するメモリー所要量を次に示します。

1 パス当たりのメモリー使用量 : 384 バイト

最大使用量 : 1 パス当たりのメモリー使用量 × パス数

- このユーティリティーで使用する ESXi ホストのメモリー使用量を次に示します。  
 $7.0\text{MB} + (3000 \text{ バイト} \times \text{パス数})$
- このユーティリティーで使用するリモート管理クライアントでのメモリー使用量を次に示します。  
 $(7.0\text{MB} + (3000 \text{ バイト} \times \text{パス数})) \times \text{dlmperfinfo ユーティリティーの同時実行数}$
- `dlmperfinfo` ユーティリティー実行中は、パス構成を変更しないでください。変更した場合は、性能情報の取得を中止することができます。

- Administrators グループのユーザーで実行してください。

## 7.3.1 形式

`dlmperfinfo` ユーティリティーは、Windows PowerShell のコマンドプロンプトから実行してください。

### 1回だけ、または回数を指定して実行する場合

```
dlmperfinfo {[-s ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード] [-i 性能情報収集時間間隔] [-c 回数] [-f CSVファイル名 [-o]] [-a] [-t] | -h}
```

### ユーザーが中止するまで継続して実行する場合

```
dlmperfinfo -c 0 {[-s ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード] [-i 性能情報収集時間間隔] [-f CSVファイル名 [-m ファイルあたりの測定回数] [-r 総ファイル数]] [-a] [-t] | -h}
```

## 7.3.2 パラメーター

### -s ホスト名

性能情報を収集する ESXi ホスト名または IP アドレスを指定します。

### -u ユーザー名

ホストへのログインに必要なユーザー名を指定します。

### -p パスワード

ホストへのログインに必要なパスワードを指定します。

### -i 性能情報収集時間間隔

性能情報を収集したい時間間隔を、秒単位で指定します。ユーティリティーの実行開始時間を開始時間とし、指定した時間間隔内の性能情報を収集して、表示します。パラメーターを省略した場合はデフォルト値が適用されます。

- デフォルト値：300（5 分）
- 最小値：60（60 秒）
- 最大値：3600（1 時間）

### -c 回数

-i パラメーターで指定した時間間隔で複数回収集する場合に指定します。このパラメーターを省略した場合はデフォルト値が適用されます。

また、「0」を指定した場合はユーザーがユーティリティーの実行を中止しないかぎり、連続実行します。ユーティリティーを終了するには [Ctrl] + [C] で処理を中止してください。

- デフォルト値：1
- 最小値：0
- 最大値：1440

#### **-f CSVファイル名**

CSV ファイルに性能情報を出力する場合に指定します。このパラメーターを指定した場合、標準出力には出力されません。

また、-c パラメーターに「0」を指定した場合は、指定した CSV ファイル名の後に *\_YYYYMMDDhhmmss.csv* が付いたファイルに出力されます。*YYYYMMDDhhmmss* は、ファイルを作成した日時（協定世界時）です。

例

`-c 0 -f dlmpinfo.csv` を指定して、協定世界時 2018 年 4 月 1 日 9 時 30 分 00 秒にファイルが作成された場合のファイル名

`dlmpinfo.csv_20180401093000.csv`

#### **-o**

-f パラメーターで指定したファイルが存在する場合に、上書きします。省略した場合は、上書きしないで、処理を中止します。

このパラメーターは、-f パラメーターを指定した場合に有効です。

また、-c パラメーターに「0」を指定した場合は、-o パラメーターの指定の有無に関係なく常に上書きします。

#### **-m ファイルあたりの測定回数**

1 つの CSV ファイルに出力する測定回数を指定します。指定した値を超える回数に達した場合、新たに CSV ファイルを作成します。

このパラメーターは、-c パラメーターに「0」を指定した場合だけ指定できます。

- デフォルト値：60
- 最小値：1
- 最大値：1440

#### **-r 総ファイル数**

CSV ファイルの総数の上限を指定します。CSV ファイルの総数が、指定した値を超える数に達した場合、一番古い CSV ファイルを削除します。

このパラメーターは、-c パラメーターに「0」を指定した場合だけ指定できます。

- デフォルト値：192
- 最小値：2
- 最大値：10000

-a

すべての性能情報の項目を表示する場合に指定します。

表示される項目については、「[表 7-2 出力内容一覧](#)」を参照してください。

-t

性能情報のヘッダー部分を表示しない場合に指定します。

-h

`dlmperfinfo` ユーティリティーの形式を表示します。

## 注意事項

-s パラメーター、-u パラメーター、-p パラメーターは、リモート管理クライアントに次の環境変数を設定した場合は、指定する必要はありません。

- VI\_SERVER : ホスト名
- VI\_USERNAME : ユーザー名
- VI\_PASSWORD : パスワード

また、-u パラメーターまたは-p パラメーターを省略した場合、コマンドの実行時にユーザー名またはパスワードの入力を要求されます。指示に従ってユーザー名またはパスワードを入力してください。

## 使用例

```
PROMPT>dlmperfinfo -i 300 -c 2
KAPL13031-I HDLM性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) を開始します。開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
Paths:000010
StartTime      : yyyy/mm/dd hh:mm:ss
LDEV          HDevName          Device          PathID Count_R/s
  Count_W/s MB_R/s MB_W/s Time_R      Time_W
VSP_One_Block.806211.0018DB naa.60060e8007c869000030c869000018db vmhba5:C0:T2:L0 000000
  55      56 0.4328 0.4346 12985.5087 142.0632
VSP_One_Block.806211.0018DB naa.60060e8007c869000030c869000018db vmhba4:C0:T2:L0 000005
  55      55 0.4329 0.4267 13156.0209 142.9028
VSP_One_Block.806211.0018DC naa.60060e8007c869000030c869000018dc vmhba5:C0:T2:L1 000001
  55      55 0.4259 0.4329 12789.7337 143.5282
VSP_One_Block.806211.0018DC naa.60060e8007c869000030c869000018dc vmhba4:C0:T2:L1 000006
  55      55 0.4279 0.4266 12781.8785 142.3092
VSP_One_Block.806211.0018DD naa.60060e8007c869000030c869000018dd vmhba5:C0:T2:L2 000002
  55      55 0.4277 0.4292 11851.3004 141.9820
VSP_One_Block.806211.0018DD naa.60060e8007c869000030c869000018dd vmhba4:C0:T2:L2 000007
  54      56 0.4235 0.4338 11884.3877 141.8465
VSP_One_Block.806211.0018DE naa.60060e8007c869000030c869000018de vmhba5:C0:T2:L3 000003
  55      55 0.4268 0.4300 12102.8581 141.9302
VSP_One_Block.806211.0018DE naa.60060e8007c869000030c869000018de vmhba4:C0:T2:L3 000008
  55      54 0.4292 0.4237 12087.8935 142.5772
VSP_One_Block.806211.0018DF naa.60060e8007c869000030c869000018df vmhba5:C0:T2:L4 000004
  55      55 0.4298 0.4270 12829.5912 142.2004
VSP_One_Block.806211.0018DF naa.60060e8007c869000030c869000018df vmhba4:C0:T2:L4 000009
  55      55 0.4325 0.4295 12758.5890 142.4893
StartTime      : yyyy/mm/dd hh:mm:ss
```

LDEV	HDevName	Device	PathID	Count_R/s
Count_W/s	MB_R/s	MB_W/s	Time_R	Time_W
VSP_One_Block.806211.0018DB	naa.60060e8007c869000030c869000018db	vhba5:C0:T2:L0	000000	
71	71 0.5554 0.5545	23327.7764 478.7091		
VSP_One_Block.806211.0018DB	naa.60060e8007c869000030c869000018db	vhba4:C0:T2:L0	000005	
71	71 0.5558 0.5566	23257.3585 391.1462		
VSP_One_Block.806211.0018DC	naa.60060e8007c869000030c869000018dc	vhba5:C0:T2:L1	000001	
71	70 0.5513 0.5473	23043.4960 403.7159		
VSP_One_Block.806211.0018DC	naa.60060e8007c869000030c869000018dc	vhba4:C0:T2:L1	000006	
70	70 0.5486 0.5480	23209.3898 436.0951		
VSP_One_Block.806211.0018DD	naa.60060e8007c869000030c869000018dd	vhba5:C0:T2:L2	000002	
70	71 0.5503 0.5538	22094.9779 423.9245		
VSP_One_Block.806211.0018DD	naa.60060e8007c869000030c869000018dd	vhba4:C0:T2:L2	000007	
70	70 0.5472 0.5441	22423.5677 423.3897		
VSP_One_Block.806211.0018DE	naa.60060e8007c869000030c869000018de	vhba5:C0:T2:L3	000003	
71	70 0.5519 0.5485	21949.5193 350.6774		
VSP_One_Block.806211.0018DE	naa.60060e8007c869000030c869000018de	vhba4:C0:T2:L3	000008	
70	70 0.5500 0.5495	22109.0618 361.3867		
VSP_One_Block.806211.0018DF	naa.60060e8007c869000030c869000018df	vhba5:C0:T2:L4	000004	
71	71 0.5547 0.5507	22659.6808 361.7437		
VSP_One_Block.806211.0018DF	naa.60060e8007c869000030c869000018df	vhba4:C0:T2:L4	000009	
71	70 0.5510 0.5505	22857.1361 384.1746		
KAPL13032-I HDLM性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) が終了しました。終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss				

### 7.3.3 表示される性能情報

dlmperfinfo ユーティリティを実行すると、次の情報が表示されます。

- I/O 回数
- I/O の転送量
- I/O の応答時間
- 処理中となっている I/O 数および I/O のブロック数

表示される情報の詳細を次の表に示します。

表 7-2 出力内容一覧

項目	説明
Paths	HDLM が提供する PSP が管理している、測定開始時の測定対象のパス数です。測定中にロードバランスを変更した場合、実際に表示されるパス数と一致しなくなることがあります。 -t パラメーターを指定した場合は出力されません。
StartTime	性能測定開始時間※1 です。 -c パラメーターで指定した回数分出力されます。 コンソール画面にのみ表示されます。
UTC	協定世界時※2 です。

項目	説明
UTC	<i>YYYYMMDDThhmmss</i> の形式で出力されます。 例：20170707T123000 -f パラメーターを指定した場合に CSV ファイルに出力されます。
Date	計測開始時刻（年月日）※1 です。 <i>YYYYMMDD</i> の形式で出力されます。 例：20170707 -f パラメーターを指定した場合に CSV ファイルに出力されます。
Time	計測開始時刻（時分秒）※1 です。 <i>hhmmss</i> の形式で出力されます。 -f パラメーターを指定した場合に CSV ファイルに出力されます。
LDEV	LDEV 情報です。 ストレージシステムのモデル ID, シリアル番号, および iLU 番号が, ピリオドで区切った文字列で表示されます。 常に出力されます。
HDevName	ESXi ホストデバイス名です。 常に出力されます。
Device	VMware vSphere で管理しているパスのランタイム名が表示されます。
PathID	パス管理 PATH_ID です。 常に出力されます。
PathName	パス名です。 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
HBAPortWWN	HBA のポート WWN 情報です。 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
ChaPort	CHA ポート番号です。 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Status	パスの状態です。 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Count_R/s	1 秒当たりの Read I/O 回数です。 単位：回数 常に出力されます。
Count_W/s	1 秒当たりの Write I/O 回数です。 単位：回数 常に出力されます。
Count_R/s-Rnd	1 秒当たりのランダム Read I/O 回数です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Count_R/s-Seq	1 秒当たりのシーケンシャル Read I/O 回数です。

項目	説明
Count_R/s-Seq	単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Count_W/s-Rnd	1 秒当たりのランダム Write I/O 回数です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Count_W/s-Seq	1 秒当たりのシーケンシャル Write I/O 回数です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
MB_R/s	1 秒当たりの Read I/O のデータ量です。 単位：MB 常に出力されます。
MB_W/s	1 秒当たりの Write I/O のデータ量です。 単位：MB 常に出力されます。
MB_R/s-Rnd	1 秒当たりのランダム Read I/O のデータ量です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
MB_R/s-Seq	1 秒当たりのシーケンシャル Read I/O のデータ量です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
MB_W/s-Rnd	1 秒当たりのランダム Write I/O のデータ量です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
MB_W/s-Seq	1 秒当たりのシーケンシャル Write I/O のデータ量です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Time_R	Read I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 常に出力されます。
Time_W	Write I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 常に出力されます。
Time_R-Rnd	ランダム Read I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Time_R-Seq	シーケンシャル Read I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。

項目	説明
Time_W-Rnd	ランダム Write I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Time_W-Seq	シーケンシャル Write I/O の応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_R	Read I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_W	Write I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_R-Rnd	ランダム Read I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_R-Seq	シーケンシャル Read I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_W-Rnd	ランダム Write I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-Time_W-Seq	シーケンシャル Write I/O の応答時間の最大値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Count_Error	I/O エラー回数です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。 注意事項 <ul style="list-style-type: none"><li>性能情報収集時間間隔中の I/O エラーの総数が出力されます。</li><li>I/O エラー回数は Read I/O と Write I/O を区別しません。</li></ul>
Time_Error	I/O エラーの応答時間の平均値です。 単位：マイクロ秒※3 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。 注意事項 <ul style="list-style-type: none"><li>I/O エラーの応答時間は Read I/O と Write I/O を区別しません。</li></ul>
QueuedIO	パスを選択するときの処理中の I/O 数の平均値です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。

項目	説明
QueuedMB	パスを選択するときの処理中の I/O のデータ量の平均値です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-QueuedIO	パスを選択するときの処理中の I/O 数の最大値です。 単位：回数 -a パラメーターを指定した場合に出力されます。
Max-QueuedMB	パスを選択するときの処理中の I/O のデータ量の最大値です。 単位：MB -a パラメーターを指定した場合に出力されます。

注※1

性能情報を収集する ESXi ホストでの時間をリモート管理クライアントのタイムゾーンで表示します。

注※2

性能情報を収集する ESXi ホストでの時間です。

注※3

応答時間の精度は、ナノ秒になります。

### 7.3.4 CSV ファイルの出力

`dlmpfinfo` ユーティリティーに -f パラメーターを指定すると、指定したファイル※に性能情報を出力します。項目名と値は、それぞれ「」（引用符）で囲まれ、コンマ区切りで出力されます（CSV 形式）。出力する内容は「[表 7-2 出力内容一覧](#)」を参照してください。

注※

-c パラメーターに「0」を指定した場合は、指定した CSV ファイル名の後に  
`_YYYYMMDDhhmmss.csv` が付いたファイルに出力されます。`YYYYMMDDhhmmss` は、ファイルを作成した日時（協定世界時）です。

CSV ファイルの出力例を次に示します。

実行例

```
PROMPT>dlmpfinfo -i 300 -c 2 -f CSVファイル名
KAPL13031-I HDLM性能情報表示ユーティリティ (dlmpfinfo) を開始します。開始時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
KAPL13047-I 性能情報を計測中です。(1 / 2)
KAPL13047-I 性能情報を計測中です。(2 / 2)
KAPL13032-I HDLM性能情報表示ユーティリティ (dlmpfinfo) が終了しました。終了時刻 = yyyy/mm/dd hh:mm:ss
```

## CSV ファイルの出力例

```
[Paths:000010]
"UTC", "Date", "Time", "LDEV", "HDevName", "Device", "PathID", "Count_R/s", "Count_W/s", "MB_R/s", "MB_W/s", "Time_R", "Time_W"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DB", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018db", "vmhba5:C0:T2:L0", "000000", "81", "81", "0.6318", "0.6347", "9011.6460", "37209.700
3"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DB", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018db", "vmhba4:C0:T2:L0", "000005", "80", "80", "0.6261", "0.6227", "9083.4744", "38294.690
7"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DC", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dc", "vmhba5:C0:T2:L1", "000001", "80", "81", "0.6241", "0.6308", "8922.5831", "37390.287
1"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DC", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dc", "vmhba4:C0:T2:L1", "000006", "79", "80", "0.6148", "0.6284", "8986.0022", "37786.579
1"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DD", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dd", "vmhba5:C0:T2:L2", "000002", "80", "80", "0.6287", "0.6266", "8436.6889", "37635.388
5"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DD", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dd", "vmhba4:C0:T2:L2", "000007", "81", "81", "0.6333", "0.6334", "8459.9504", "37201.230
5"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DE", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018de", "vmhba5:C0:T2:L3", "000003", "81", "81", "0.6351", "0.6322", "8489.2845", "36926.065
1"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DE", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018de", "vmhba4:C0:T2:L3", "000008", "80", "80", "0.6271", "0.6242", "8671.4918", "37798.994
8"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DF", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018df", "vmhba5:C0:T2:L4", "000004", "80", "80", "0.6248", "0.6259", "8900.8976", "37798.571
4"
"20180130T012259", "20180130", "102259", "VSP_One_Block.806211.0018DF", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018df", "vmhba4:C0:T2:L4", "000009", "80", "81", "0.6279", "0.6293", "8835.6986", "37573.868
4"
"UTC", "Date", "Time", "LDEV", "HDevName", "Device", "PathID", "Count_R/s", "Count_W/s", "MB_R/s", "MB_W/s", "Time_R", "Time_W"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DB", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018db", "vmhba5:C0:T2:L0", "000000", "57", "57", "0.4445", "0.4473", "4942.6197", "44990.466
0"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DB", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018db", "vmhba4:C0:T2:L0", "000005", "58", "57", "0.4494", "0.4488", "5014.8296", "44584.982
6"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DC", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dc", "vmhba5:C0:T2:L1", "000001", "57", "57", "0.4467", "0.4475", "4819.6935", "44006.954
3"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DC", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dc", "vmhba4:C0:T2:L1", "000006", "57", "57", "0.4467", "0.4475", "4819.6935", "44006.954
3"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DD", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dd", "vmhba5:C0:T2:L2", "000002", "57", "57", "0.4482", "0.4416", "4974.5097", "44351.829
0"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DD", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dd", "vmhba4:C0:T2:L2", "000007", "57", "57", "0.4457", "0.4473", "4211.0663", "46420.454
8"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DD", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018dd", "vmhba4:C0:T2:L2", "000007", "57", "57", "0.4457", "0.4473", "4211.0663", "46420.454
8"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DE", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018de", "vmhba5:C0:T2:L3", "000003", "57", "56", "0.4459", "0.4378", "4418.7220", "45914.690
```

```

4"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DE", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018de", "vmhba4:C0:T2:L3", "000008", "58", "57", "0.4518", "0.4479", "4489.2659", "44575.477
4"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DF", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018df", "vmhba5:C0:T2:L4", "000004", "57", "57", "0.4432", "0.4416", "4836.3489", "45351.272
9"
"20180130T012800", "20180130", "102800", "VSP_One_Block.806211.0018DF", "naa.60060e8007c86900003
0c869000018df", "vmhba4:C0:T2:L4", "000009", "57", "57", "0.4452", "0.4487", "4721.8893", "44742.172
9"

```

## 注意事項

- -c パラメーターに「0」を指定した場合、ユーザーがユーティリティーの実行を中止しないかぎり、連続実行します。ユーティリティーを終了するには [Ctrl] + [C] で処理を中止してください。
- CSV ファイルを出力する場合は、ファイル出力先のディスクを圧迫しないように、次の計算式で必要なディスク容量を計算してください。また、不要になった CSV ファイルは適宜削除するようにしてください。
  - -c パラメーターに「0」を指定した場合
    - -a パラメーターを指定した場合
 
$$1025 \text{ バイト} \times ((\text{パス数}+1) \times -m \text{ パラメーターで指定する値} + 1) \times -r \text{ パラメーターで指定する値} \text{ (バイト)}$$
    - -a パラメーターを指定しない場合
 
$$671 \text{ バイト} \times ((\text{パス数}+1) \times -m \text{ パラメーターで指定する値} + 1) \times -r \text{ パラメーターで指定する値} \text{ (バイト)}$$
  - -c パラメーターに「0」以外を指定した場合
    - -a パラメーターを指定した場合
 
$$1025 \text{ バイト} \times ((\text{パス数}+1) \times -c \text{ パラメーターで指定する値} + 1) \text{ (バイト)}$$
    - -a パラメーターを指定しない場合
 
$$671 \text{ バイト} \times ((\text{パス数}+1) \times -c \text{ パラメーターで指定する値} + 1) \text{ (バイト)}$$

(例 1) パス数が 2048 の環境で、-a パラメーターを指定して 288 回収集する場合

`dlmperfinfo -c 288 -f CSVファイル名 -a` を実行する場合で、ファイルサイズは次のとおりです。  

$$1025 \times ((2048+1) \times 288+1) = 604865825 \text{ (バイト)} \text{ (約 577MB)}$$

(例 2) パス数が 500 の環境で、-a パラメーターを指定して、1 分の時間間隔で 1 日分を 1 ファイルとして、1 年間分のファイルを収集する場合

$-m$  パラメーターは、60 分  $\times$  24 時間 = 1440、 $-r$  パラメーターは、1 年の日数 + 1 = 366 なので、  
`dlmperfinfo -i 60 -c 0 -f CSVファイル名 -m 1440 -r 366 -a` を実行する場合で、ファイルサイズは次のとおりです。

$1025 \times (500+1) \times (1440+1) \times 366 = 270836166150 \text{ (バイト)} \text{ (約 252.2GB)}$

(例 3) パス数が 1000 の環境で、-a パラメーターを指定して、ファイルあたりの測定回数を 1440 として、ファイル容量を 2TB 以内にする場合

$-r$  パラメーターの値 =  $2 \times 1024^4 \div (1025 \times 1001 \times 1441) \approx 1487.3$  (ファイル)

そのため、ファイル容量を 2TB 以内にするには 1487 ファイルまで作成できるので、`dlmperfinfo -c 0 -f CSVファイル名 -m 1440 -r 1487 -a` を実行できます。

- CSV 出力ファイルの行数は次の計算で求められます。次の計算式で 1 ファイル当たりの出力行数を算出し、測定回数を調整してください。

- -c パラメーターに「0」を指定した場合

(パス数+1)  $\times$  -m パラメーターで指定する値 +1

ただし、ヘッダー部分を表示しないように -t パラメーターを指定して実行した場合は、次のようになります。

パス数  $\times$  -m パラメーターで指定する値

- -c パラメーターに「0」以外を指定した場合

(パス数+1)  $\times$  -c パラメーターで指定する値 +1

ただし、ヘッダー部分を表示しないように -t パラメーターを指定して実行した場合は、次のようになります。

パス数  $\times$  -c パラメーターで指定する値

(例 1) パス数が 500 の環境で、ヘッダー部分を表示しないで 1 ファイルに 500 回分測定結果を出力する場合の行数

$(500+0) \times 500 + 0 = 250000$  (行)

(例 2) パス数が 1000 の環境で、ヘッダー部分も表示して 1048576 行までに抑える測定回数

$(1048576-1) \div (1000+1) \approx 1047.5$  (回)

そのため、1 ファイルに 1047 回まで測定結果を出力できます。

## 7.4 dlmrmcenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー

リモート管理クライアントの動作環境を設定するユーティリティーです。

次の動作環境を設定できます。

- ホスト情報取得時に使用する CLI を指定します。

### 7.4.1 形式

`dlmrmcenv {--cli PowerCLI | [--output] | -h}`

### 7.4.2 パラメーター

`--cli PowerCLI`

ホスト情報取得に使用する CLI を指定します。

`PowerCLI`

VMware PowerCLI を使用します。

`--output`

ホスト情報取得に使用する CLI を表示します。

使用例

```
PROMPT>dlmrmcenv --output
CliInterface=PowerCLI
KAPL20907-I The dlmrmcenv utility completed normally.
PROMPT>
```

`-h`

`dlmrmcenv` ユーティリティーの形式を表示します。

## 7.5 installhd1m HDLM インストールユーティリティー

HDLM の新規インストール、アップグレードインストールまたは再インストールする場合に、サイレントインストールを実行できます。応答処理や HDLM の機能の設定の内容は、あらかじめインストール情報設定ファイルに定義しておきます。

また、このユーティリティーを使ってインストール時に設定した情報をあとから確認できます。

ユーティリティーの格納場所を次に示します。

インストールDVD-ROMが入ったドライブ:¥HDLM\_VMware¥DLMTools

サイレントインストールの手順については、「3.5.1 HDLM の新規インストール」の「(2) リモート管理クライアントのサイレントインストール」を参照してください。

### 7.5.1 形式

```
installhd1m {-f インストール情報設定ファイル名 | -v | -h}
```

### 7.5.2 パラメーター

**-f インストール情報設定ファイル名**

インストールに必要な情報を設定します。

インストール情報設定ファイルについては、「7.5.3 インストール情報設定ファイルの定義内容」を参照してください。

**-v**

インストール時に設定した情報を表示します。

サイレントインストール機能を使用しないでインストールをした場合は、ダイアログなどで指定した情報が表示されます。

使用例

```
PROMPT>installhd1m -v
installdir=C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerforVMware
PROMPT>
```

各表示項目の内容については、「表 7-3 セクション[INSTALLATION\_SETTINGS]のキー」を参照してください。

**-h**

installhd1m ユーティリティーの形式を表示します。

## 7.5.3 インストール情報設定ファイルの定義内容

インストール情報設定ファイルで定義する内容について、次に示します。

インストール情報設定ファイルの設定方法については、「[3.5.1 HDLM の新規インストール](#)」の「[\(2\) リモート管理クライアントのサイレントインストール](#)」を参照してください。

### セクション[INSTALLATION\_SETTINGS]

`installhdlm` ユーティリティーの動作情報を定義します。なお、「[表 7-3 セクション\[INSTALLATION\\_SETTINGS\]のキー](#)」に示した項目以外の定義は変更しないでください。

セクション[INSTALLATION\_SETTINGS]で定義するキーの一覧を次の表に示します。

表 7-3 セクション[INSTALLATION\_SETTINGS]のキー

キー名	説明	定義の要否		指定できる長さ※1
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
<code>installfile_location</code>	インストール DVD-ROM が入ったドライブの絶対パス名称を指定します。指定しない場合は、次のフォルダーを使用します。  <code>インストールDVD-ROMが入ったドライブ:¥HDLM_VMware</code>  なお、DVD ドライブが複数ある環境では、インストール DVD-ROM をドライブレターのアルファベット順に検索し、最初に見つかったインストール DVD-ROM を使用します。	省略可	省略可	100
<code>workdir</code>	インストール中のログ情報、および作業用のファイルを出力するフォルダーを、絶対パス名称で指定します。※2※3 指定しない場合は、環境変数 TMP または TEMP で定義されているフォルダーを使用します。	省略可	省略可	100
<code>licensekeyfile</code>	リモート管理クライアントに格納されているライセンスキーファイル名を、絶対パス名称で指定します※2※3。指定しない場合は、次に示すライセンスキーファイルを使用します。  <code>Windowsのインストール先ドライブ:¥hdlm_license</code>	省略可※4	省略可※4	100
<code>installdir</code>	HDLM のインストール先フォルダーを、絶対パス名称で指定します。※2※3 指定しない場合は、次に示すフォルダーを使用します。	省略可	不要	100

キー名	説明	定義の要否		指定できる長さ※1
		新規インストール	アップグレードインストールまたは再インストール	
installdir	Windowsのインストール先ドライブ:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerforVMware	省略可	不要	100

#### (凡例)

省略可：キーまたは設定値を指定しない場合は、デフォルト値が適用されます。

不要：キーまたは設定値の指定は不要です。キーまたは設定値を指定していても無視されます。

#### 注※1

最大値を超える場合は、エラーとなります。

#### 注※2

定義できる内容以外を指定した場合は、エラーとなります。

#### 注※3

指定した値が空白を含む場合でも、その値を「”」で囲む必要はありません。

#### 注※4

HDLMを新規インストールする場合、またはライセンスの有効期限が過ぎている状態でアップグレードインストールする場合は、ライセンスキーファイルを用意してください。

インストール情報設定ファイルの編集例を、次に示します。

```
[INSTALLATION_SETTINGS]
installfile_location=
workdir=
licensekeyfile=C:¥temp¥hdm_license
installdir=D:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥DynamicLinkManagerforVMware
```

#### 注意事項

- インストール情報設定ファイルで、行の先頭に「#」がある場合は、その行をコメント行と見なします。
- キーまたは設定値を指定しない場合は、キーを定義している行の先頭に「#」を付けてください。

## 7.5.4 ログファイルについて

サイレントインストールを使用したインストールでは、インストール処理状況を示すログファイル(`installhdlm.log`)が出力されます。

`installhdlm.log` ファイルについて、次に示します。

- `installhdlm.log` ファイルは、インストール情報設定ファイルの`workdir`キーの値に指定したフォルダーに出力されます。
- すでに`installhdlm.log` ファイルが存在している場合は、ログ情報が追記されます。ログ出力フォルダーの容量については、「3.5.1 HDLM の新規インストール」の「(2) リモート管理クライアントのサイレントインストール」を参照してください。

### 注意事項

- `installhdlm.log` ファイルは、HDLM のアンインストールと同時に削除されることはありません。したがって、`installhdlm.log` ファイルが不要になったときは、手動で削除してください。
- `installhdlm.log` ファイルが出力先のディスク容量不足などで出力できなかった場合は、`installhdlm` ユーティリティーの終了直前にメッセージが出力されます。

## 7.6 removehdlm HDLM アンインストールユーティリティー

HDLM をアンインストールします。-s パラメーターを指定して `removehdlm` ユーティリティーを実行した場合は、ダイアログを出力しないでアンインストールを行います（サイレントアンインストール）。

### 7.6.1 形式

```
removehdlm [-s | -h]
```

### 7.6.2 パラメーター

-s

サイレントアンインストールを実行します。

-h

`removehdlm` ユーティリティーの形式を表示します。

パラメーターを指定しないで HDLM アンインストールユーティリティー（`removehdlm`）を実行した場合は、「アンインストール時の注意事項」「アンインストールの完了」などのダイアログを出力します。

### 注意事項

- `removehdlm` ユーティリティーは、`removehdlm` ユーティリティーの実行後、リモート管理クライアントを再起動したあとに削除されます。
- `removehdlm` ユーティリティーの実行後、コマンドプロンプトおよび`hdlmvminst.log` に出力されているメッセージを基に、HDLM がアンインストールされたか確認してください。`hdlmvminst.log` は Windows のインストール先ドライブの直下に出力されます。

# 8

## メッセージ

この章では、HDLM から出力されるメッセージを参照するときに知っておいてほしい情報について説明します。その後、HDLM の運用に関わるメッセージと対処を説明します。

## 8.1 メッセージ一覧を参照するための前提知識

ここでは、「8.2 KAPL01001～KAPL02000」以降に記載するメッセージ一覧を参照するために必要な、次の情報について説明します。

- ・メッセージ ID の出力形式と意味
- ・メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語
- ・メッセージの言語種別

上記の情報について、次に説明します。

### 8.1.1 メッセージ ID の出力形式と意味

各メッセージにはメッセージ ID が付いています。メッセージ ID の形式と意味を次の表に示します。

表 8-1 メッセージ ID (KAPLnnnnn-l) の形式と意味

形式	意味
KAPL	HDLM のメッセージであることを示します。
nnnnn	モジュール別のメッセージの通し番号です。
<i>l</i>	メッセージのレベルです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• C : Critical 致命的な障害です。システム停止のおそれがあります。</li><li>• E : Error システムに与える影響が大きい障害ですが、フェイルオーバなどで回避できます。</li><li>• W : Warning システムは動作しますが、放置しておくとシステムが正常に稼働しなくなるおそれがあります。</li><li>• I : Information システムが正常に稼働しているときの稼働履歴を示します。</li></ul>

### 8.1.2 メッセージおよびメッセージの説明で使用する用語

メッセージに表示される用語、およびメッセージの説明（意味、説明、対処）で使用する用語を次の表に示します。

表 8-2 メッセージとメッセージの説明で使用する用語

用語	意味
aa...aa	変数（1つのメッセージに2つ以上の変数がある場合、bb...bb、cc...cc のように続きます）
オペレーション名	コマンド名「dlnkmgr」に続けて入力する操作の種類

### 8.1.3 メッセージの言語種別

HDLM からは、英語、または日本語のメッセージが出力されます。HDLM から出力されるメッセージの言語種別は、リモート管理クライアントの Windows の言語種別に従います。

## 8.2 KAPL01001～KAPL02000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01001-I	HDLM コマンドが正常終了しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , 終了時刻 = <i>bb...bb</i> The HDLM command completed normally. Operation name = <i>aa...aa</i> , completion time = <i>bb...bb</i>	<p>説明</p> <p>コマンドが正常に終了しました。</p> <p><code>view -path</code>, または<code>view -lu</code> オペレーションが実行された場合, 物理ストレージの表示が有効になっているときは<code>view (-pstv)</code> が, 無効になっているときは<code>view (-vstv)</code> が表示されます。</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名  <i>bb...bb</i> : 西暦/月/日 時:分:秒</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL01002-I	HDLM コマンドを開始しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The HDLM command started. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p>コマンドが実行されました。</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL01003-W	オペレーション名が指定されていません。 No operation name is specified.	<p>対処</p> <p>オペレーション名を指定してから, 再実行してください。</p>
KAPL01004-W	オペレーション名が誤っています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The operation name is invalid. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの<code>help</code> を実行してオペレーション名を確認してから, 再実行してください。<code>help</code> オペレーションについては, 「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01005-W	パラメタが誤っています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> A parameter is invalid. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名  <i>bb...bb</i> : 指定したパラメタ</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの<code>help</code> オペレーション名を実行してパラメタを確認してから, 再実行してください。<code>help</code> オペレーションについては, 「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01006-W	必要なパラメタが指定されていません。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> A necessary parameter is not specified. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p>指定したオペレーションに必要なパラメタがありません。</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01006-W	必要なパラメタが指定されていません。オペレーション名 = aa...aa A necessary parameter is not specified. Operation name = aa...aa	対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタを確認し、正しいパラメタを指定してください、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01007-W	パラメタが重複して指定されています。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb A duplicate parameter is specified. Operation name = aa...aa, parameter = bb...bb	説明 aa...aa : 指定したオペレーション名 bb...bb : 重複しているパラメタ 対処 重複したパラメタを削除して、再実行してください。
KAPL01008-W	必要なパラメタ値が指定されていません。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb A necessary parameter value is not specified. Operation name = aa...aa, parameter = bb...bb	説明 aa...aa : 指定したオペレーション名 bb...bb : パラメタ名 対処 パラメタ値を指定して、再実行してください。
KAPL01009-W	パラメタ値が誤っています。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb, パラメタ値 = cc...cc, 有効値 = dd...dd A parameter value is invalid. Operation name = aa...aa, parameter = bb...bb, parameter value = cc...cc, Valid value = dd...dd	説明 aa...aa : 指定したオペレーション名 bb...bb : パラメタ名 cc...cc : 指定したパラメタ値 dd...dd : パラメタ値の指定可能範囲 対処 パラメタに正しい値を指定してください、再実行してください。
KAPL01012-E	HDLM マネージャとの接続に失敗しました。 オペレーション名 = aa...aa Could not connect the HDLM manager. Operation name = aa...aa	説明 set オペレーションの -pstv パラメタでは HDLM マネージャの情報を更新する必要がありますが、 HDLM マネージャに対してアクセスができません。 aa...aa : set 対処 HDLM コマンドの view オペレーションを実行し、 HDLM マネージャが起動されているか確認してください。起動されていない場合は、 HDLM マネージャを起動してから HDLM コマンドを再実行してください。view オペレーションについては、「 <a href="#">6.7 view 情報を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01013-E	HDLM コマンド内部処理で障害が発生しました。オペレーション名 = aa...aa, 詳細 = bb...bb An error occurred in internal processing of the HDLM command. Operation name = aa...aa details = bb...bb	説明 コマンド処理中にユーザ操作以外が原因と思われるエラーが発生しました。 aa...aa : 指定したオペレーション名 bb...bb : エラーの発生した関数名、処理内容

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01013-E	HDLM コマンド内部処理で障害が発生しました。オペレーション名 = aa...aa, 詳細 = bb...bb  An error occurred in internal processing of the HDLM command. Operation name = aa...aa details = bb...bb	対処  HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユーティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL01014-W	HDLM コマンドを実行する権限がありません。オペレーション名 = aa...aa  No authority to execute the HDLM command. Operation name = aa...aa	説明  HDLM コマンドの実行に必要な管理者権限がありません。  aa...aa : 指定したオペレーション名  対処  Administrators グループ権限を持つユーザで実行してください。
KAPL01016-W	操作対象の CHA ポートがませんでした。オペレーション名 = aa...aa  The target CHA port was not found. Operation name = aa...aa	説明  -cha パラメタで必要な-pathid で示すパス ID が, HDLM の管理対象ではありません。  aa...aa : offline またはonline  対処  HDLM コマンドのview オペレーション (dlnkmgr view -path) を実行して, 「ChaPort」に表示される値を確認してください。その後, 操作する CHA ポートを通るパスのうち, どれかのパス管理 PATH_ID の値を指定して再実行してください。 view オペレーションについては, 「 <a href="#">6.7 view 情報を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01018-W	操作対象のデバイスがませんでした。オペレーション名 = aa...aa  The target device was not found. Operation name = aa...aa	説明  指定したホストデバイス名はありません。  aa...aa : view  対処  HDLM コマンドのview オペレーション (dlnkmgr view -path) を実行して, 「HDevName」に表示される値を確認してください。その後, 操作するホストデバイスの「HDevName」の値を指定して, 再実行してください。view オペレーションについては, 「 <a href="#">6.7 view 情報を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01019-W	操作対象のパスがませんでした。オペレーション名 = aa...aa  The target path was not found. Operation name = aa...aa	説明  aa...aa : offline, online, またはview <ul style="list-style-type: none"><li>offline, online オペレーションの場合 パスの指定が間違っています。</li><li>view オペレーションの場合</li></ul>

## 8. メッセージ

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01019-W	操作対象のパスがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The target path was not found. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p>HDLM の環境構築、または運用環境の構成変更が正しく完了していないため、パスが構成されていません。</p> <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>offline, online</b> オペレーションの場合</li> </ul> <p>HDLM コマンドの <b>view</b> オペレーションで指定値を確認して、再実行してください。<b>view</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.7 view 情報を表示する</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>view</b> オペレーションの場合</li> </ul> <p>「<a href="#">3. HDLM の環境構築</a>」を参照して、パスを構成してください。そのあともこのメッセージが 出力される場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。  <b>DLMgetras</b> ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL01021-E	メモリ不足により HDLM コマンドが実行できません。 Cannot execute the HDLM command due to insufficient memory.	<p>説明</p> <p>HDLM コマンド処理に必要なメモリが確保できませんでした。</p> <p>対処</p> <p>不要なアプリケーションを終了させて空きメモリを増やし、再実行してください。</p>
KAPL01024-W	同時に指定できないパラメタが指定されています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> The specified parameters cannot be specified at the same time. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameters = <i>bb...bb</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名  <i>bb...bb</i> : 同時に指定できないパラメタ</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの <b>help</b> オペレーション名を実行し、指定できるパラメタを確認してから、再実行してください。<b>help</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01036-E	パスの回復に失敗しました。PathID = <i>aa...aa</i> The Offline path cannot be placed online. PathID = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>該当するパスの障害を取り除いたあと、再度コマンドを実行してください。</p>
KAPL01039-W	HDLM コマンドの <b>online</b> オペレーションの処理中に、状態を <b>Online</b> にできないパスを検出しました。PathID = <i>aa...aa</i> 。 <b>online</b> オペレーションの処理を継続しますか？ [y/n]:	<p>説明</p> <p>マルチパスのオンライン処理を実行中に、<b>Online</b> 状態にできないパスがありました。該当するパスを無視して次のパスのオンライン処理を行う場合は</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01039-W	During the online operation processing of the HDLM command, a path that cannot be placed in the Online status was detected. PathID = aa...aa Would you like to continue the processing of the online operation? [y/n]:	<p>「y」を、処理を中止する場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : パス ID (10進数)</p> <p>対処</p> <p>ほかのパスに対して、HDLM コマンドの <code>online</code> オペレーションの処理を継続する場合は「y」を、そのまま中止する場合は「n」を入力してください。  <a href="#">online オペレーションについて</a>は、「<a href="#">6.5 online パスを稼働状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01040-W	入力の値が不正です。再入力してください。 [y/n]: The entered value is invalid. Re-enter [y/n]:	<p>説明</p> <p>「y」または「n」の入力要求に対して「y」または「n」以外が入力されました。「y」または「n」のどちらかの値を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>「y」または「n」を入力してください。</p>
KAPL01041-E	入力の値が不正です。オペレーションを中断します。オペレーション名 = aa...aa The entered value is invalid. The operation stops. Operation name = aa...aa	<p>説明</p> <p>入力要求に対し、3回間違った入力を行ったため、コマンドの処理を中止します。</p> <p>aa...aa : clear, offline, online, または set</p> <p>対処</p> <p>入力する値を確認して、HDLM コマンドを再実行してください。</p>
KAPL01044-W	パラメタ値が重複して指定されています。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb, パラメタ値 = cc...cc A duplicate parameter value is specified. Operation name = aa...aa, parameter = bb...bb, parameter value = cc...cc	<p>説明</p> <p>aa...aa : view bb...bb : パラメタ名 cc...cc : 重複しているパラメタ値</p> <p>対処</p> <p>重複したパラメタ値を削除して、再実行してください。</p>
KAPL01045-W	パラメタ値が多過ぎます。オペレーション名 = aa...aa, パラメタ = bb...bb, パラメタ値 = cc...cc Too many parameter values are specified. Operation name = aa...aa, parameter = bb...bb, parameter value = cc...cc	<p>説明</p> <p>aa...aa : offline, online, set, または view bb...bb : パラメタ名 cc...cc : パラメタ値</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの <code>help</code> オペレーション名を実行してパラメタ値を確認してから、再実行してください。  <a href="#">help オペレーションについて</a>は、「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01048-W	ヘルプ情報が存在しません。オペレーション名 = aa...aa	<p>説明</p> <p>指定したオペレーションは HDLM コマンドのオペレーションではありません。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01048-W	Help information cannot be found. Operation name = <i>aa...aa</i>	<p><i>aa...aa</i> : 指定オペレーション名</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの <code>help</code> オペレーションでオペレーション名を確認してから再実行してください。<code>help</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01049-I	オペレーションを開始します。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> 。よろしいですか？ [y/n]: Would you like to execute the operation? Operation name = <i>aa...aa</i> [y/n]:	<p>説明</p> <p><code>clear</code> または <code>set</code> オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p><i>aa...aa</i> : <code>clear</code> または <code>set</code></p> <p>対処</p> <p>オペレーションを実行する場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。<code>clear</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.2 clear パスの統計情報を初期値にする</a>」を参照してください。<code>set</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.6 set 動作環境を設定する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01050-I	指定されたパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]: The currently selected paths will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	<p>説明</p> <p><code>online</code> オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>指定したパスを Online 状態にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。<code>online</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.5 online パスを稼働状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01052-I	指定されたパスを Offline(C)にします。よろしいですか？ [y/n]: The currently selected paths will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:	<p>説明</p> <p><code>offline</code> オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>指定したパスを Offline(C)にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。<code>offline</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01053-I	指定されたパスが Offline(C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]: If you are sure that there would be no problem when the path is placed in the	<p>説明</p> <p><code>offline</code> オペレーションを開始します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01053-I	Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:	<p>対処</p> <p>指定したパスを Offline(C)にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。<a href="#">offline オペレーション</a>については、「<a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01054-W	HDLM コマンドの offline オペレーションの処理中に、状態を Offline(C)にできないパスを検出しました。PathID = aa...aa。offline オペレーションの処理を継続しますか？ [y/n]: During the offline operation processing of the HDLM command, a path that cannot be placed in the Offline(C) status was detected. PathID = aa...aa Would you like to continue the processing of the offline operation? [y/n]:	<p>説明</p> <p>マルチパスのオフライン処理中に、Offline(C)にできないパスがありました。該当するパスを無視して次のパスのオフライン処理を行う場合は「y」を、処理を中止する場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : パス ID (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>ほかのパスに対して、HDLM コマンドの<a href="#">offline オペレーション</a>の処理を継続する場合は「y」を、そのまま中止する場合は「n」を入力してください。<a href="#">offline オペレーション</a>については、「<a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01055-I	指定された aa...aa を通る全てのパスを Offline(C)にします。よろしいですか？ [y/n]: All the paths which pass the specified aa...aa will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:	<p>説明</p> <p>-cha パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Offline(C)状態にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : CHA port</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01056-I	指定された aa...aa を通る全てのパスが Offline(C)になってよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]: If you are sure that there would be no problem when all the paths which pass the specified aa...aa are placed in the Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:	<p>説明</p> <p>パスを Offline(C)にしてよいかどうかを再度確認します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : CHA port</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01057-I	指定された aa...aa を通る全てのパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]: All the paths which pass the specified aa...aa will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	<p>説明</p> <p>-cha パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Online 状態にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>aa...aa : CHA port</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01057-I	指定された <i>aa...aa</i> を通る全てのパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]: All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:	対処 指定した対象物を通るすべてのパスを Online にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。
KAPL01058-W	不要なパラメタ値が指定されました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> The specified parameter value is not needed. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter value = <i>cc...cc</i>	説明 値を必要としないパラメタにパラメタ値が指定されました。 <i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名 <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : パラメタ値 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタおよびパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01059-W	パラメタ <i>aa...aa</i> にパラメタ値 <i>bb...bb</i> を指定した場合、同時にパラメタ <i>cc...cc</i> は指定できません。オペレーション名 = <i>dd...dd</i> Cannot specify the parameter <i>cc...cc</i> at the same time if you specify parameter <i>aa...aa</i> and parameter value <i>bb...bb</i> . Operation name = <i>dd...dd</i>	説明 パラメタ値とほかのパラメタの指定が矛盾しています。 <i>aa...aa</i> : パラメタ名 <i>bb...bb</i> : パラメタ値 <i>cc...cc</i> : パラメタ名 <i>dd...dd</i> : view または set 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行してパラメタおよびパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01060-I	ユーザの指定により、オペレーションの処理を中断しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> The user terminated the operation. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明 確認に対し「n」が入力されたため、コマンドの処理を中止します。 <i>aa...aa</i> : online, offline, set, または clear 対処 特にありません。
KAPL01061-I	<i>aa...aa</i> 本のパスを <i>bb...bb</i> にしました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本。オペレーション名 = <i>dd...dd</i> <i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i> ; <i>cc...cc</i> path(s) were not. Operation name = <i>dd...dd</i>	説明 online オペレーションまたは offline オペレーションで処理したパス数を示します。 <i>aa...aa</i> : online オペレーションまたは offline オペレーションが成功したパス数 (10 進数) <i>bb...bb</i> : Online または Offline(C)

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01061-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを <i>bb...bb</i> にしました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本。オペレーション名 = <i>dd...dd</i></p> <p><i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i>; <i>cc...cc</i> path(s) were not. Operation name = <i>dd...dd</i></p>	<p><i>cc...cc</i> : <b>online</b> オペレーションまたは<b>offline</b> オペレーションに失敗したパス数 (10進数)  <i>dd...dd</i> : <b>online</b> または<b>offline</b></p> <p>対処</p> <p>特にありません。<b>online</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.5 online パスを稼働状態にする</a>」を参照してください。<b>offline</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01063-I	<p>操作対象のパスは既に <i>aa...aa</i> です。  The target path(s) are already <i>aa...aa</i>.</p>	<p>説明</p> <p><b>online</b> オペレーションまたは<b>offline</b> オペレーションを実行した結果、指定されたパスはすでに Online または Offline(C) となっています。</p> <p><i>aa...aa</i> : Online または Offline(C)</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの <b>view</b> オペレーションでパスの状態を確認してください。<b>view</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.7 view 情報を表示する</a>」を参照してください。<b>online</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.5 online パスを稼働状態にする</a>」を参照してください。<b>offline</b> オペレーションについては、「<a href="#">6.4 offline パスを閉塞状態にする</a>」を参照してください。</p>
KAPL01068-I	<p>ライセンスキーを入力して下さい：  Enter a license key:</p>	<p>説明</p> <p>ライセンスを更新します。ライセンスキーを入力してください。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL01069-W	<p>入力されたライセンスキーが不正です。  The entered license key is invalid.</p>	<p>説明</p> <p>入力したライセンスキーが不正です。再入力してください。</p> <p>対処</p> <p>正しいライセンスキーを入力してください。</p>
KAPL01070-E	<p>入力されたライセンスキーが不正です。ライセンスの更新を中断します。  The entered license key is invalid.  Renewal of the license key will now stop.</p>	<p>説明</p> <p>3回不正なライセンスキーが入力されたため、ライセンス更新を中断します。</p> <p>対処</p> <p>正しいライセンスキーを取得したあと、再実行してください。</p>
KAPL01071-I	<p>永久ライセンスがインストールされました。  The permanent license was installed.</p>	<p>説明</p> <p>ライセンスが永久ライセンスに更新されました。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01071-I	永久ライセンスがインストールされました。 The permanent license was installed.	対処 特にありません。
KAPL01072-I	非常ライセンスがインストールされました。 期限満了日はaa...aaです。 The emergency license was installed. The license expires on aa...aa.	説明 ライセンスが非常ライセンスに更新されました。 aa...aa : 西暦 (4桁) /月 (01~12) /日 (01~31) 対処 期限満了日までに、永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01073-E	一時ライセンスの期限が切れています。 The temporary license expired.	説明 一時ライセンスの期限が切れています。永久ライセンスをインストールしてください。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01074-E	非常ライセンスの期限が切れています。 The emergency license expired.	説明 非常ライセンスの期限が切れています。永久ライセンスをインストールしてください。 対処 永久ライセンスをインストールしてください。
KAPL01075-E	HDLM 内で重大エラーが発生しました。システム環境が不正です。 A fatal error occurred in HDLM. The system environment is invalid.	説明 ライセンス情報ファイルがありません。 対処 HDLM を再インストールしてください。
KAPL01076-I	永久ライセンスがインストールされています。 The permanent license has been installed.	説明 すでに永久ライセンスがインストールされているので、ライセンスのインストールは必要ありません。 対処 特にありません。
KAPL01081-E	ライセンスキーファイルが不正です。ファイル名 = aa...aa The license key file is invalid. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイルの形式に不正があります。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ;¥hdlm_license 対処 正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、再実行してください。
KAPL01082-E	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ファイル名 = aa...aa There is no installable license key in the license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイル中に、HDLM のインストールが可能なライセンスキーがありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ;¥hdlm_license

## 8. メッセージ

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01082-E	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ファイル名 = <i>aa...aa</i> There is no installable license key in the license key file. File name = <i>aa...aa</i>	対処 ライセンスキーファイルが正しいか確認してから、再実行してください。
KAPL01083-I	ライセンスキーファイルがありません。ファイル名 = <i>aa...aa</i> There is no license key file. File name = <i>aa...aa</i>	説明 ライセンスキーファイルが Windows のインストール先ドライブの直下にありません。 <i>aa...aa</i> : Windows のインストール先ドライブ: \$/hdlm_license 対処 ライセンスキーの入力を促すメッセージが表示されるので、ライセンスキーを入力してください。 または、HDLM コマンドを中断し、正しいライセンスキーファイルを Windows のインストール先ドライブの直下に格納してから、HDLM コマンドを再実行してください。
KAPL01084-W	ライセンスキーファイルの削除に失敗しました。ファイル名 = <i>aa...aa</i> An attempt to delete the license key file has failed. File name = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : Windows のインストール先ドライブ: \$/hdlm_license 対処 ライセンスキーファイルが存在している場合は、削除してください。
KAPL01088-W	同時に指定できないパラメタ値が指定されています。オペレーション名 = <i>aa...aa</i> , パラメタ = <i>bb...bb</i> , パラメタ値 = <i>cc...cc</i> The specified parameter values cannot be specified at the same time. Operation name = <i>aa...aa</i> , parameter = <i>bb...bb</i> , parameter values = <i>cc...cc</i>	説明 <i>aa...aa</i> : view <i>bb...bb</i> : パラメタ名 <i>cc...cc</i> : 同時に指定できないパラメタ値 対処 HDLM コマンドの help オペレーション名を実行し、指定できるパラメタ値を確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01089-E	HDLM コマンドの set -lic オペレーションまたは、更新インストール時におけるライセンスの更新が同時に実行されました。 One of the following was executed at the same time as an HDLM command set -lic operation: another set -lic operation, or an update of the license for an update installation.	対処 HDLM コマンドの view -sys -lic オペレーションでライセンスを確認し、必要に応じて、再度 HDLM コマンドの set -lic オペレーションを実行してください。同じエラーメッセージが表示される場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 なお、次の操作は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"><li>HDLM コマンドの set -lic オペレーションの同時実行</li></ul>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01089-E	<p>HDLM コマンドの set -lic オペレーションまたは、更新インストール時におけるライセンスの更新が同時に実行されました。</p> <p>One of the following was executed at the same time as an HDLM command set -lic operation: another set -lic operation, or an update of the license for an update installation.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HDLM コマンドのset -lic オペレーションとアップグレードまたは再インストール時のライセンスの更新の同時実行</li> </ul>
KAPL01095-E	<p>HDLM のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i></p> <p>An attempt to acquire the HDLM version information has failed. details = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明  <i>aa...aa</i> : エラーの発生要因コード</p> <p>対処          再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01096-E	<p>Service Pack のバージョン情報の取得に失敗しました。詳細 = <i>aa...aa</i></p> <p>An attempt to acquire the Service Pack version information has failed. details = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明  <i>aa...aa</i> : エラーの発生要因コード</p> <p>対処          再実行してください。繰り返し同じエラーが発生する場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL01100-I	<i>aa...aa</i>	<p>説明          実行したコマンドラインを示します。  <i>aa...aa</i> : 実行したコマンド</p> <p>対処          特にありません。</p>
KAPL01101-W	<p>操作対象の HBA ポートがありませんでした。オペレーション名 = <i>aa...aa</i></p> <p>The target HBA port was not found.</p> <p>Operation name = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明  <i>-hbaportwwn</i> パラメタで指定された HBA ポート WWN を持つ HBA が見つかりません。  <i>aa...aa</i> : offline または online</p> <p>対処          HDLM コマンドのview オペレーション (dlnkmgr view -path -hbaportwwn) を実行して、操作対象とする HBA ポート WWN を確認してください。その後、該当する HBA ポート WWN を指定して、再実行してください。</p>
KAPL01102-I	指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスを Offline(C)にします。よろしいですか？ [y/n]:	<p>説明  <i>-hbaportwwn</i> パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Offline(C)にします。続行してよい場</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01102-I	All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port will be changed to the Offline(C) status. Is this OK? [y/n]:	<p>合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。  <i>aa...aa</i> : HBA</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01103-I	<p>指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスが Offline(C)になってもよい場合は y を入力してください。そうでない場合は n を入力してください。 [y/n]:</p> <p>If you are sure that there would be no problem when all the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port are placed in the Offline(C) status, enter y. Otherwise, enter n. [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>パスを Offline(C)にしてよいかどうかを再度確認します。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。  <i>aa...aa</i> : HBA</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Offline(C)にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01104-I	<p>指定された <i>aa...aa</i> ポートを通る全てのパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]:</p> <p>All the paths which pass the specified <i>aa...aa</i> port will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>-hbaportwwn パラメタが指定されたため、複数のパスをまとめて Online にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。  <i>aa...aa</i> : HBA</p> <p>対処</p> <p>指定した対象物を通るすべてのパスを Online にするには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01107-I	<p>オペレーションを開始します。オペレーション名 = set。本オペレーションを実行すると、LU 個別に設定されているロードバランス種別が無効になります。よろしいですか？ [y/n]:</p> <p>The load balancing type specified for individual LUs will become invalid when this operation is executed. Do you want to execute the operation anyway? Operation name = set [y/n]:</p>	<p>対処</p> <p>システムのロードバランス種別を設定するには「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。</p>
KAPL01117-W	<p>監査ログ設定ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。</p> <p>An error occurred during processing to read the audit log configuration file.</p>	<p>説明</p> <p>監査ログ設定ファイルの読み込み中に内部エラーが発生しました。</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01118-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部パラメタエラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01119-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部エラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01120-W	ストレージシステムのモデル ID を表示できませんでした。 詳細 = aa...aa, bb...bb A storage system model ID could not be displayed. Details = aa...aa, bb...bb	説明 ストレージシステムのモデル ID を表示できませんでした。 aa...aa : ストレージ認識情報 bb...bb : エラーコード 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL01135-W	ホスト接続オプションが誤っています。オプション = aa...aa A host connection option is invalid. Option = aa...aa	説明 aa...aa : 指定したホスト接続オプション 対処 HDLM コマンドのhelp オペレーションを実行してホスト接続オプションを確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01136-W	同時に指定できないホスト接続オプションが指定されています。オプション = aa...aa The specified host connection options cannot be specified at the same time. Options = aa...aa	説明 aa...aa : 同時に指定できないホスト接続オプション 対処 HDLM コマンドのhelp オペレーションを実行してホスト接続オプションを確認してから、再実行してください。help オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01138-W	ホスト接続オプション-l を指定したときは aa...aa オペレーションは実行できません。	説明 aa...aa : 実行できないオペレーション

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01138-W	The <i>aa...aa</i> operation cannot be executed if the host connection option -l is specified.	対処 HDLM コマンドのオペレーション名 <code>-help</code> オペレーションを実行してオペレーションの形式を確認してから、再実行してください。
KAPL01139-W	ホスト接続オプション <i>aa...aa</i> を指定したときは <i>bb...bb</i> パラメタは指定できません。 The parameter <i>bb...bb</i> cannot be specified if the host connection option <i>aa...aa</i> is specified.	説明 <i>aa...aa</i> : 指定したホスト接続オプション <i>bb...bb</i> : 指定できないパラメタ 対処 HDLM コマンドのオペレーション名 <code>-help</code> オペレーションを実行してオペレーションの形式を確認してから、再実行してください。
KAPL01140-W	ホスト接続オプションが重複して指定されています。オプション = <i>aa...aa</i> A duplicate host connection option is specified. Option = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : 重複しているオプション 対処 重複したオプションを削除して、再実行してください。
KAPL01141-W	ホスト接続オプションに必要なオプション値が指定されていません。オプション = <i>aa...aa</i> There is no value specified for the host connection option. Option = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : オプション名 対処 オプション値を指定して、再実行してください。
KAPL01142-W	ホスト接続オプションを省略したときは <i>aa...aa</i> パラメタは指定できません。 The parameter <i>aa...aa</i> cannot be specified if you omitted the host connection option.	説明 <i>aa...aa</i> : 指定できないパラメタ 対処 HDLM コマンドのオペレーション名 <code>-help</code> オペレーションを実行してオペレーションの形式を確認してから、再実行してください。
KAPL01143-W	ホスト接続オプション <i>aa...aa</i> はオプション値を指定できません。 The host connection option value cannot be specified. Option = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : オプション値を指定できないオプション 対処 HDLM コマンドの <code>help</code> オペレーションを実行してホスト接続オプションを確認してから、再実行してください。 <code>help</code> オペレーションについては、「 <a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a> 」を参照してください。
KAPL01144-W	HDLM コマンドが VMware vSphere CLI のコマンドプロンプトで実行されていません。 The HDLM command was not executed from the VMware vSphere CLI command prompt.	説明 ホスト情報取得に使用する CLI が vCLI になっています。 対処 <code>dlrmrcenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01146-I	<p>パスが指定されていないので、 Offline(C), Offline(E) のパスを Online にします。よろしいですか？ [y/n]:</p> <p>Because no path has been selected among the currently displayed paths, the paths in the Offline(C) and Offline(E) statuses will be changed to the Online status. Is this OK? [y/n]:</p>	<p>説明</p> <p>online オペレーションでパスを選択するパラメタが指定されていないので、すべてのパスを Online にします。続行してよい場合は「y」を、続行しない場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処</p> <p>Offline(C), Offline(E)のパスを Online にする場合は「y」を入力してください。中止する場合は「n」を入力してください。実行する前に必ず HDLM コマンドのview オペレーションでパスの状態を確認してください。view オペレーションについては、<a href="#">[6.7 view 情報を表示する]</a> を参照してください。online オペレーションについては、<a href="#">[6.5 online パスを稼働状態にする]</a> を参照してください。</p>
KAPL01147-I	<p><i>aa...aa</i> 本のパスを <i>bb...bb</i> にしました。失敗したパス = <i>cc...cc</i> 本。操作対象のパス数 = <i>dd...dd</i>。オペレーション名 = <i>ee...ee</i></p> <p><i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i>; <i>cc...cc</i> path(s) were not. Number of target paths = <i>dd...dd</i>, operation name = <i>ee...ee</i></p>	<p>説明</p> <p>online オペレーションまたはoffline オペレーションで処理したパス数を示します。</p> <p><i>aa...aa</i> : online オペレーションまたはoffline オペレーションが成功したパス数 (10 進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : Online または Offline(C)</p> <p><i>cc...cc</i> : online オペレーションまたはoffline オペレーションに失敗したパス数 (10 進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : online オペレーションまたはoffline オペレーションの対象のパス数 (10 進数)</p> <p><i>ee...ee</i> : online またはoffline</p> <p>対処</p> <p>特にありません。online オペレーションについては、<a href="#">[6.5 online パスを稼働状態にする]</a> を参照してください。offline オペレーションについては、<a href="#">[6.4 offline パスを閉塞状態にする]</a> を参照してください。</p>
KAPL01148-E	<p>指定されたサーバとの接続に失敗しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i></p> <p>An attempt to connect to the specified server has failed. Operation name = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM コマンドの接続先ホストが見つかりません。または、指定されたユーザ名とパスワードで接続先ホストにログインできません。</p> <p><i>aa...aa</i> : 指定したオペレーション名</p> <p>対処</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>dlmrmcenv --cli</code> の設定が"vCLI"の場合 <code>dlmrmcenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更してください。</li> <li>• <code>dlmrmcenv --cli</code> の設定が"PowerCLI"の場合 HDLM コマンドに指定したホスト名、ユーザ名およびパスワードに誤りがないか確認して、再実行してください。エラーの詳細は、このメッ</li> </ul>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01148-E	指定されたサーバとの接続に失敗しました。 オペレーション名 = <i>aa...aa</i>  An attempt to connect to the specified server has failed. Operation name = <i>aa...aa</i>	セージの前に表示されている VMware PowerCLI のメッセージを参照してください。 ホストのパスワードに特殊文字が含まれている場合、指定するパスワード文字列を一重引用符で囲んでください。ただし、「」と「」の文字はホストのパスワードに設定しないでください。
KAPL01149-E	HDLM ドライバ (HTI_HDLM_SATP) との接続に失敗しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i>  An attempt to connect to the HDLM driver (HTI_HDLM_SATP) has failed. Operation name = <i>aa...aa</i>	説明  HDLM ドライバ (HTI_HDLM_SATP) にアクセスできないため、HDLM コマンドで ESXi サーバの HDLM を操作できません。  <i>aa...aa</i> : <code>clear</code> , <code>offline</code> , <code>online</code> , <code>set</code> , または <code>view</code>  対処  HDLM の管理対象パスが存在しない場合、このメッセージが出力されることがあります。HDLM の管理対象パスが存在する場合にこのメッセージが出力されたときは、HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 <a href="#">DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a> を参照してください。
KAPL01150-E	VMware vSphere CLI がインストールされていないため、HDLM コマンドが実行できません。  The HDLM command cannot be executed because the VMware vSphere CLI is not installed.	説明  ホスト情報取得に使用する CLI が vCLI になっています。  対処  <code>dlmgrcenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更してください。
KAPL01151-E	HDLM Windows 版がインストールされているため、HDLM コマンドが実行できません。  HDLM commands cannot be executed because HDLM for Windows is installed.	説明  HDLM Windows 版と HDLM VMware 版は同じホストで実行することができません。  対処  HDLM VMware 版をアンインストールして、別のホストにインストールしてください。または、HDLM Windows 版をアンインストールしてください。
KAPL01152-E	パスの構成が変更中のため、オペレーションを中断しました。オペレーション名 = <i>aa...aa</i>  The operation was canceled because the path configuration is being changed.  Operation name = <i>aa...aa</i>	説明  オペレーションの実行中に、パスの構成が変更されているため、オペレーションを中止しました。  <i>aa...aa</i> : <code>offline</code> , <code>online</code> , または <code>view</code>  対処  パスの構成変更を実行していないことを確認したあとで、オペレーションを再実行してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01153-W	<p>HDLM コマンドの offline オペレーションの処理中に、状態を Offline(C)にできないパスを検出しました。PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>During the offline operation processing of the HDLM command, a path that cannot be placed in the Offline(C) status was detected. PathID = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>マルチパスのオフライン処理中に、 Offline(C)にできないパスがありました。</p> <p>LU に対する Online 状態のパスがなくなる場合、パスを Offline(C)にすることはできません。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>HDLM コマンドの <code>view</code> オペレーションでパスの状態を確認してください。<code>view</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.7 view 情報を表示する</a>」を参照してください。</p>
KAPL01174-W	<p>物理ストレージの表示が無効の場合、パラメタ-item にパラメタ値 <i>aa...aa</i> は指定できません。</p> <p>If the Physical Storage View is disabled, the parameter value <i>aa...aa</i> cannot be specified for the -item parameter.</p>	<p>説明</p> <p>物理ストレージの表示が無効の場合には、指定できないパラメタ値です。</p> <p><i>aa...aa</i> : <code>virt</code></p> <p>対処</p> <p>表示項目に仮想化されたストレージの情報を指定する場合は、物理ストレージの表示を有効にしてください。</p>
KAPL01175-W	<p>物理ストレージの表示が有効の場合、パラメタ-item にパラメタ値 <i>aa...aa</i> は指定できません。</p> <p>If the Physical Storage View is enabled, the parameter value <i>aa...aa</i> cannot be specified for the -item parameter.</p>	<p>説明</p> <p>物理ストレージの表示が有効の場合には、指定できないパラメタ値です。</p> <p><i>aa...aa</i> : <code>phys</code></p> <p>対処</p> <p>表示項目に物理ストレージの情報を指定する場合は、物理ストレージの表示を無効にしてください。</p>
KAPL01176-I	<p>操作対象のパスに、 Offline 状態のパスがありました。 Offline 状態のパスは、ストレージシステムの設定が反映されていません。</p> <p>Some of the target paths are in the offline status. Storage system settings are not refreshed for offline paths.</p>	<p>説明</p> <p>Offline 状態のパスは、ストレージシステムの設定が取得できないため、設定を HDLM に反映することができません。</p> <p>対処</p> <p>ストレージシステムの設定を HDLM に反映するパスを、 <code>Online</code> 状態にして <code>refresh</code> オペレーションを実行してください。</p>
KAPL01177-W	<p>ストレージシステムの設定の取得に失敗したパスがありました。</p> <p>HDLM failed to acquire storage system settings for some paths.</p>	<p>説明</p> <p>ストレージシステムの設定の取得に失敗したパスがありました。</p> <p>対処</p> <p><code>refresh</code> オペレーションの実行中にパス障害が発生したときに、このメッセージが出力された場合は、パス障害を回復し <code>Online</code> 状態にしてオペレーションを再実行してください。 Offline 状態のパスがないときに、このメッセージが出力された場合は、</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01177-W	ストレージシステムの設定の取得に失敗したパスがありました。 HDLM failed to acquire storage system settings for some paths.	HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01178-E	ストレージシステムの設定の反映に失敗しました。詳細 = aa...aa, bb…bb HDLM failed to refresh the storage system settings. Details = aa...aa, bb…bb	説明  <i>aa...aa</i> : 詳細情報 1 <i>bb…bb</i> : 詳細情報 2  対処  HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL01180-E	HDLM のインストール後に, ESXi ホストが再起動されていません。 After HDLM was installed, the ESXi host was not restarted.	説明  HDLM のインストール後に, ESXi ホストが再起動されていません。  対処  ESXi ホストを再起動してください。
KAPL01181-E	HDLM ドライバが正しくインストールされていません。 The HDLM driver is not installed correctly.	説明  HDLM ドライバの SATP または PSP がインストールされていません。  対処  ESXi ホストに HDLM を再インストールしてください。
KAPL01182-E	VMware PowerCLI がインストールされていないため, HDLM コマンドが実行できません。 The HDLM command cannot be executed because VMware PowerCLI is not installed.	説明  環境変数 PSModulePath に設定されているパスに VMware PowerCLI のコマンドレットがインストールされていません。  対処  環境変数 PSModulePath に設定されているパスに VMware PowerCLI のコマンドレットをインストールしてください。
KAPL01183-E	VMware PowerCLI の設定が HDLM コマンドを実行できる設定ではありません。 The HDLM command cannot be executed because the VMware PowerCLI settings are not configured properly.	説明  Windows PowerShell の実行ポリシーの設定, または VMware PowerCLI の InvalidCertificateAction の設定が HDLM コマンドを実行できる設定ではありません。  対処 <ul style="list-style-type: none"><li>Windows PowerShell プロンプトで Get-ExecutionPolicy を実行してください。 表示された Windows PowerShell の実行ポリシーが下記以外のものであった場合は下記に変更してください。</li></ul>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL01183-E	VMware PowerCLI の設定が HDLM コマンドを実行できる設定ではありません。 The HDLM command cannot be executed because the VMware PowerCLI settings are not configured properly.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RemoteSigned 実行ポリシーの変更は Windows PowerShell のプロンプトで下記のコマンドを実行してください。 <code>Set-ExecutionPolicy RemoteSigned -Scope CurrentUser</code></li> <li>• Windows PowerShell プロンプトで <code>Get-PowerCLIConfiguration -Scope user</code> を実行してください。 表示された VMware PowerCLI のコンフィグレーションの <code>InvalidCertificateAction</code> の設定が下記以外のものであった場合は下記に変更してください。 • Ignore 証明書チェックの設定の変更は Windows PowerShell のプロンプトで下記のコマンドを実行してください。 <code>&gt; Set-PowerCLIConfiguration -Scope user - InvalidCertificateAction Ignore</code></li> <li>• 「Cannot convert document version 1.1 to version 2.0」が表示される場合は、 Credential Store ファイルをテキストエディタで開き「&lt;version&gt;」が「2.0」であることを確認してください。 Credential Store ファイルのデフォルトの格納場所は次のとおりです。 <code>%APPDATA%\VMware\credstore\\$\vicredentials.xml</code> 「&lt;version&gt;」が「2.0」でない場合は、既存の Credential Store ファイルの名称を「1.1_vicredentials.xml」に変更したあと、 <code>New-VICredentialStoreItem</code> を使用して新しい Credential Store ファイルを再作成してください。再作成は Windows PowerShell のプロンプトで下記のコマンドを実行してください。 <code>&gt; New-VICredentialStoreItem -Host "ホスト名またはIP アドレス" -User "ユーザ名" - Password "パスワード"</code></li> </ul>
KAPL01184-E	操作対象のホストが指定されていません。 The target host was not specified.	<p>説明 ホスト接続オプションに操作対象の ESXi ホストが指定されていません。</p> <p>対処 HDLM コマンドの <code>help</code> オペレーションを実行してホスト接続オプションを確認してから、再実行してください。<code>help</code> オペレーションについては、「<a href="#">6.3 help オペレーションの形式を表示する</a>」を参照してください。</p>

## 8.3 KAPL03001～KAPL04000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL03001-I	HDLM API 情報 - aa...aa HDLM API information - aa...aa	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p>aa...aa : API トレース情報</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL03002-W	HDLM API 警告情報 - aa...aa HDLM API Warning - aa...aa	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p>aa...aa : API トレース情報</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL03003-E	HDLM API エラー情報 - aa...aa HDLM API Error information - aa...aa	<p>説明</p> <p>問題発生時の調査に必要な情報です。</p> <p>aa...aa : API トレース（エラー）情報</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<b>DLMgetras</b> ユティリティについては, 「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL03999-E	予期しない障害が発生しました。 An unexpected error occurred.	<p>説明</p> <p>HDLM 内部で使用するモジュールのバージョンに矛盾があります。</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<b>DLMgetras</b> ユティリティについては, 「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a>」を参照してください。</p>

## 8.4 KAPL04001～KAPL05000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04001-I	HDLM マネージャが起動しました。 HDLM manager started.	対処 特にありません。
KAPL04002-E	HDLM マネージャの起動に失敗しました。 Could not start the HDLM manager.	説明 HDLM マネージャが正しく動作する環境ではないために HDLM マネージャの起動に失敗しました。 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユーティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04003-E	スタートアップパラメタが不当です。 The startup parameter is invalid.	説明 HDLM マネージャが内部的に保持しているパラメタにエラーがあります。 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユーティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04004-I	HDLM マネージャを終了します。 HDLM manager will now terminate.	対処 特にありません。
KAPL04005-E	サービス制御マネージャに接続できません。 Cannot connect the service control manager.	説明 HDLM マネージャが正常に起動できないことを示します (サービス制御マネージャに接続できませんでした)。 対処 HDLM マネージャは「サービス」として起動します。HDLM マネージャをコマンドラインから起動する場合は net start DLMManagerVM コマンドで起動してください。
KAPL04006-E	サービス制御ハンドラ関数を登録できません。 戻り値 = aa...aa Cannot register the service control handler function. Return value = aa...aa	説明 HDLM マネージャが正常に起動できないことを示します (サービス制御ハンドラ関数を登録できませんでした)。 aa...aa : OS のエラーコード

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04006-E	サービス制御ハンドラ関数を登録できません。 戻り値 = aa...aa Cannot register the service control handler function. Return value = aa...aa	対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があ れば保守会社に連絡してください。
KAPL04007-E	サービスステータスを登録できません。戻り 値 = aa...aa Cannot register the service status. Return value = aa...aa	説明 HDLM マネージャが正常に起動できることを示し ます (サービスステータスを登録できません)。 aa...aa : OS のエラーコード 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があ れば保守会社に連絡してください。
KAPL04008-E	オプション定義ファイル(aa...aa)がオープン できません。 Cannot open the option definition file (aa...aa).	説明 HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (オプション定義ファイルのオープンに失敗しま た)。 aa...aa : オプション定義ファイル名 対処 ファイルをほかのプログラムで使用していないか (テ キストエディタなどで開いていないか)、ファイルを 間違って削除していないか確認してください。
KAPL04009-E	オプション定義が不当です。 The option definition is invalid.	説明 HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (オプション定義ファイル中の定義が不当です)。 対処 このメッセージのあとに KAPL04033-W メッセー ジが出力されている場合は、HDLM コマンドのview -sys -sfunc オペレーションを実行して、オプショ ン設定を確認してください。設定値がデフォルト値 に戻っているオプションは、set オペレーションで 再設定してください。 KAPL04033-W メッセージが出力されていない場 合は、HDLM マネージャを再起動してください。 対処しても同じエラーが発生する場合は、HDLM を 再インストールしてください。 view オペレーションについては、「 <a href="#">6.7 view 情報 を表示する</a> 」を参照してください。set オペレーショ ンについては、「 <a href="#">6.6 set 動作環境を設定する</a> 」を 参照してください。
KAPL04010-E	障害ログファイルのオープンに失敗しました。 Could not open the error log file.	説明 HDLM マネージャが正常に起動できませんでした (障害ログファイルのオープンに失敗しました)。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04010-E	障害ログファイルのオープンに失敗しました。 Could not open the error log file.	対処 障害ログファイルをほかのプログラムで使用していないか（テキストエディタなどで開いていないか）、障害ログファイルを間違って削除していないか確認してください。
KAPL04011-E	障害ログファイルの出力に失敗しました。 Could not output the error log file.	説明 障害ログファイルへのログ情報の出力に失敗しました。 対処 ディスクに空き容量があるか確認してください。
KAPL04012-E	通信パイプの作成に失敗しました。RC = <i>aa...aa</i> Could not create a communication pipe. RC = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM マネージャが正常に起動できませんでした（HDLM コマンドとの通信に使用するパイプファイルの作成に失敗しました）。 <i>aa...aa</i> : OS のエラーコード（10 進数） 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ（ <b>DLMgetras</b> ）を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 <b>DLMgetras</b> ユティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04013-E	通信パイプからの入力に失敗しました。RC = <i>aa...aa</i> Input is impossible via the communication pipe. RC = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM コマンドとの通信時、パイプファイルからのデータ入力に失敗しました。 <i>aa...aa</i> : OS のエラーコード（10 進数） 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ（ <b>DLMgetras</b> ）を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 <b>DLMgetras</b> ユティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04014-E	通信パイプへの出力に失敗しました。RC = <i>aa...aa</i> Output is impossible via the communication pipe. RC = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM コマンドとの通信時、パイプファイルへのデータ出力に失敗しました。 <i>aa...aa</i> : OS のエラーコード（10 進数） 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ（ <b>DLMgetras</b> ）を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。 <b>DLMgetras</b> ユティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04021-I	HDLM マネージャ情報 - aa...aa HDLM manager information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース情報 対処 特にありません。
KAPL04022-W	HDLM マネージャ警告情報 - aa...aa HDLM manager warning information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース（警告）情報 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04023-E	HDLM マネージャエラー情報 - aa...aa HDLM manager error information - aa...aa	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース（エラー）情報 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04024-C	HDLM マネージャ内で重大エラーが発生しました。 - aa...aa A critical error occurred in the HDLM manager. (aa...aa)	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 aa...aa : HDLM マネージャトレース（エラー）情報 対処 HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL04025-C	HDLM マネージャでメモリ不足が発生しました。 A memory shortage occurred in the HDLM manager.	説明 HDLM マネージャの処理に必要なメモリを確保できませんでした。 対処 不要なアプリケーションを終了させ, 空きメモリを増やすか, ホストを再起動してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04033-W	オプション定義ファイルを再作成しました。 The option definition file was re-created.	<p>説明</p> <p>オプション定義ファイルをデフォルト値で再作成しました。一部のオプションが読めた場合は、指定値が設定されています。</p> <p>対処</p> <p>デフォルト以外のオプションについては、<a href="#">dlnkmgr set</a> オペレーションでオプションを再設定してください。<a href="#">set</a> オペレーションについては、「<a href="#">6.6 set 動作環境を設定する</a>」を参照してください。</p>
KAPL04034-E	オプション定義ファイルの作成に失敗しました。 An attempt to create the option definition file has failed.	<p>説明</p> <p>オプション定義ファイルをデフォルト値で再作成しようとしたが、失敗しました。</p> <p>対処</p> <p>不要ファイルを削除して、ファイルシステムの空き容量を確保してください。または、フォルダの書き込み権限、ファイルの書き込み権限を確認してください。</p>
KAPL04042-I	HDLM SNMP TRAP 情報 - aa...aa HDLM SNMP TRAP information - aa...aa	<p>説明</p> <p>aa...aa : Start または Stop</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL04045-I	HDLM SNMP TRAP を送信しました。Trap ID = aa...aa, IP アドレス = bb...bb, ポート番号 = cc...cc, Community = dd...dd, Trap データ = ee...ee HDLM SNMP TRAP was sent. Trap ID = aa...aa, IP Address = bb...bb, Port Number= cc...cc, Community = dd...dd, Trap Data = ee...ee	<p>説明</p> <p>aa...aa : Trap ID bb...bb : Trap 送信先の IP アドレス cc...cc : Trap 送信先のポート番号 dd...dd : Trap に付与した Community 名 ee...ee : 送信データ</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL04053-W	オプション定義ファイルを作業ファイルから回復しました。 The option definition file was recovered from a work file.	<p>対処</p> <p>HDLM コマンドの<a href="#">view</a> オペレーション (<a href="#">dlnkmgr view -sys</a>) を実行して、設定値が回復されているかどうかを確認してください。設定値が回復されていない場合は、HDLM コマンドの<a href="#">set</a> オペレーションを実行して設定値を回復してください。</p>
KAPL04057-E	VMware サーバとの接続に失敗しました。 VMware サーバホスト = aa...aa An attempt to connect to the VMware server failed. (VMware server host = aa...aa)	<p>説明</p> <p>aa...aa : VMware サーバホストの IP アドレス</p> <p>対処</p> <p>VMware サーバホストを停止していない場合は、ネットワークに障害が発生していないかどうか確認してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL04058-I	VMware サーバとの接続が回復しました。 VMware サーバホスト = <i>aa...aa</i> The connection to the VMware server was restored. (VMware server host = <i>aa...aa</i> )	説明 <i>aa...aa</i> : VMware サーバホストの IP アドレス 対処 特にありません。
KAPL04059-I	VMware サーバの監視を開始しました。 VMware サーバホスト = <i>aa...aa</i> Monitoring of the VMware server started. (VMware server host = <i>aa...aa</i> )	説明 <i>aa...aa</i> : VMware サーバホストの IP アドレス 対処 特にありません。
KAPL04060-I	VMware サーバの監視を終了します。 VMware サーバホスト = <i>aa...aa</i> Monitoring of the VMware server will now end. (VMware server host = <i>aa...aa</i> )	説明 <i>aa...aa</i> : VMware サーバホストの IP アドレス 対処 特にありません。

## 8.5 KAPL08001～KAPL09000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL08022-E	<p>パスの異常が発生しました。 ErrorCode = <i>aa...aa</i>, PathID = <i>bb...bb</i>, PathName = <i>cc...cc dd...dd ee...ee ff...ff</i>, DNum = <i>gg...gg</i>, HDevName = <i>hh...hh</i></p> <p>A path error occurred. ErrorCode = <i>aa...aa</i>, PathID = <i>bb...bb</i>, PathName = <i>cc...cc dd...dd ee...ee ff...ff</i>, DNum = <i>gg...gg</i>, HDevName = <i>hh...hh</i></p>	<p><b>説明</b></p> <p>物理的または論理的なパス障害が発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : エラーコード (16進数)</p> <p><i>bb...bb</i> : パス ID (<code>view -path</code> の PathID と同じ) (10進数)</p> <p><i>cc...cc</i> : ポート番号 (<code>view -path</code> の PathName と同じ) (16進数)</p> <p><i>dd...dd</i> : バス番号 (<code>view -path</code> の PathName と同じ) (16進数)</p> <p><i>ee...ee</i> : ターゲット ID (<code>view -path</code> の PathName と同じ) (16進数)</p> <p><i>ff...ff</i> : HLU 番号 (<code>view -path</code> の PathName と同じ) (16進数)</p> <p><i>gg...gg</i> : Dev 番号 (<code>view -path</code> の DNum と同じ) (10進数)</p> <p><i>hh...hh</i> : ホストデバイス名 (<code>view -path</code> の HDevName と同じ)</p> <p><b>対処</b></p> <p>パスで障害が発生したおそれがあります。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して、メッセージ中に表示されたパスを稼働状態にしてください。</p>
KAPL08026-E	<p>LU への全てのパスで障害が発生しています。 PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>An error occurred on all the paths of the LU. PathID = <i>aa...aa</i></p>	<p><b>説明</b></p> <p>断線などによって、1つの LU に対する最後のパスで障害が発生しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (<code>view -path</code> の PathID と同じ) (10進数)</p> <p><b>対処</b></p> <p>LU に対するすべてのパスで障害が発生しました。</p> <p>「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して、メッセージ中に表示されたパス、および該当 LU に対するそのほかのパスを稼働状態にしてください。</p>
KAPL08027-E	<p>パスを自動フェイルバック対象から除外しました。 PathID = <i>aa...aa</i></p> <p>A path was excluded from the items subject to automatic fallback. PathID = <i>aa...aa</i></p>	<p><b>説明</b></p> <p>該当パスに間欠障害が発生していると判断したため、自動フェイルバックの対象外としました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (<code>view -path</code> の PathID と同じ) (10進数)</p> <p><b>対処</b></p> <p>間欠障害が発生しています。パスで障害が発生したおそれがあります。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して、メッセージ中に表示されたパスを稼働状態にしてください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL08032-I	パスを回復しました。PathID = <i>aa...aa</i> A path was recovered. (PathID = <i>aa...aa</i> )	<p>説明</p> <p>パスが Online になりました。</p> <p><i>aa...aa</i> : パス ID (<code>view -path</code> の PathID と同じ) (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>

## 8.6 KAPL09001～KAPL10000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09001-E	<p>システム管理権限がありません。 Administrators グループのユーザで再度 aa...aa を実行してください。</p> <p>There is no system management permission. Login with administrator permission and aa...aa HDLM.</p>	<p><b>説明</b></p> <p>カレントユーザに管理者権限がないため、HDLM を インストールまたはアンインストールできません。</p> <p>aa...aa : インストール（英語メッセージの場合 : <code>re-install</code>）またはアンインストール（英語メッセージ の場合 : <code>re-remove</code>）</p> <p><b>対処</b></p> <p>Administrators グループのユーザで再度インストー ルまたはアンインストールしてください。</p>
KAPL09034-E	<p>HDLM インストーラで内部エラーが発生しま した。コード = aa...aa bb...bb</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守 契約があれば保守会社に連絡してください。</p> <p>An Internal error occurred in the HDLM Installer. Code = aa...aa bb...bb</p> <p>Contact your HDLM vendor or the maintenance company if there is a maintenance contract of HDLM.</p>	<p><b>説明</b></p> <p>HDLM のインストール中にユーザ操作が原因でない と思われるエラーが発生しました。</p> <p>aa...aa : エラー番号（10進数）</p> <p>bb...bb : 詳細情報（10進数）</p> <p><b>対処</b></p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約が あれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL09173-W	<p>バージョン aa...aa の HDLM がインストール されています。bb...bb で上書きしますか？</p> <p>HDLM version aa...aa is installed. Do you want to overwrite it with version bb...bb?</p>	<p><b>説明</b></p> <p>aa...aa : すでにインストールされている HDLM の バージョン番号（文字列）</p> <p>bb...bb : インストールしようとしている HDLM の バージョン番号（文字列）</p> <p><b>対処</b></p> <p>アップグレードまたは再インストールする場合は、 [OK] ボタンをクリックしてください。</p>
KAPL09181-I	<p>HDLM aa...aa の bb...bb が正常に終了しま した。</p> <p>The bb...bb of HDLM version aa...aa completed successfully.</p>	<p><b>説明</b></p> <p>HDLM のインストールまたはアンインストールが正 常に終了しました。</p> <p>aa...aa : インストールまたはアンインストールされ た HDLM のバージョン</p> <p>bb...bb : インストール（英語メッセージの場合 : <code>installation</code>）またはアンインストール（英語メ ッセージの場合 : <code>remove</code>）</p> <p><b>対処</b></p> <p>特にありません。</p>
KAPL09182-W	<p>HDLM aa...aa は bb...bb されませんでした。 このメッセージの前に出力されているメッセ ージを確認し、エラーに対処してください。</p> <p>An attempt to bb...bb HDLM version aa...aa has failed.</p>	<p><b>説明</b></p> <p>HDLM のサイレントインストールまたはアンインス トールが失敗しました。</p> <p>aa...aa : インストールまたはアンインストールし ようとした HDLM のバージョン</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09182-W	See the previous messages to resolve the problems.	<p><i>bb...bb</i> : インストール (英語メッセージの場合 : <code>install</code>) またはアンインストール (英語メッセージの場合 : <code>remove</code>)</p> <p>対処</p> <p>このメッセージの前に出力されている警告, エラー メッセージを確認し, エラーに対処してください。</p>
KAPL09187-W	パラメタが指定されていません。 No parameter is specified.	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (<code>installhdlm</code>) にパラメタ (インストール情報設定ファイル) が指定されていません。</p> <p>対処</p> <p><code>installhdlm</code> ユーティリティのパラメタをチェックしてから, 再実行してください。</p>
KAPL09188-W	パラメタが多過ぎます。 Too many parameters are specified.	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (<code>installhdlm</code>) に 2 個以上のパラメタが指定されました。</p> <p>対処</p> <p><code>installhdlm</code> ユーティリティのパラメタをチェックしてから, 再実行してください。<code>installhdlm</code> ユーティリティについては, 「<a href="#">7.5 installhdlm HDLM インストールユーティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL09189-W	パラメタの値が誤っています。値 = <i>aa...aa</i> The parameter contains an incorrect value. (Value = <i>aa...aa</i> )	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (<code>installhdlm</code>) の第 1 パラメタは <code>-f</code>, <code>-v</code>, または <code>-h</code> を指定してください。</p> <p>HDLM アンインストールユーティリティ (<code>removehdlm</code>) のパラメタは <code>-s</code> または <code>-h</code> を指定してください。</p> <p><i>aa...aa</i> : 不当なパラメタ (文字列)</p> <p>対処</p> <p><code>installhdlm</code> ユーティリティまたは <code>removehdlm</code> ユーティリティのパラメタをチェックしてから, 再実行してください。<code>installhdlm</code> ユーティリティについては, 「<a href="#">7.5 installhdlm HDLM インストールユーティリティー</a>」を参照してください。<code>removehdlm</code> ユーティリティについては, 「<a href="#">7.6 removehdlm HDLM アンインストールユーティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL09190-W	インストール情報設定ファイルが指定されていません。 The installation information settings file is not specified.	<p>説明</p> <p>HDLM インストールユーティリティ (<code>installhdlm</code>) の第 2 パラメタにインストール情報設定ファイルが指定されていません。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09190-W	インストール情報設定ファイルが指定されていません。 The installation information settings file is not specified.	対処 installhdlm ユーティリティのパラメタをチェックしてから、再実行してください。
KAPL09191-W	インストール情報設定ファイルが存在しません。 The installation information settings file does not exist.	説明 HDLM インストールユーティリティ (installhdlm) の第 2 パラメタに指定されているファイルが存在しません。 対処 正しいインストール情報設定ファイルのパス名称を指定して、再実行してください。
KAPL09192-W	使用できないバージョンのインストール情報設定ファイルが指定されています。 hdlmversion = aa...aa An installation information settings file of an unsupported product version is specified. (hdlmversion = aa...aa)	説明 指定されたインストール情報設定ファイルは、本バージョンでは使用できません。 aa...aa : インストール情報設定ファイルが提供された HDLM のバージョン 対処 インストール情報設定ファイルの hdlmversion に設定したバージョン番号を、インストールする HDLM のバージョン番号に修正し、再度実行してください。
KAPL09193-W	インストール情報設定ファイルの定義に誤りがあります。aa...aa = bb...bb A definition in the installation information settings file is invalid. (aa...aa = bb...bb)	説明 キーに誤った値が指定されています。 aa...aa : 誤りのあるエントリのキー名 bb...bb : 誤りのあるキーの値 対処 インストール情報設定ファイルの定義を修正して、再実行してください。
KAPL09194-W	インストール情報設定ファイルに指定されたフォルダまたはファイルが存在しません。 aa...aa = bb...bb A folder or file specified in the installation information settings file does not exist. (aa...aa = bb...bb)	説明 キーに指定されたフォルダまたはファイルが存在しません。 aa...aa : 存在しないフォルダまたはファイルが指定されているエントリのキー名 bb...bb : 存在しないフォルダまたはファイルのパス名 対処 インストール情報設定ファイルの定義を修正して、再実行してください。
KAPL09195-W	Setup.exe ファイルが存在しません。 The setup.exe file does not exist.	説明 インストール情報設定ファイルの installfile_location に指定されたフォルダに、インストールプログラム (Setup.exe) が存在しないため、HDLM をインストールできません。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09195-W	Setup.exe ファイルが存在しません。 The setup.exe file does not exist.	対処  インストール情報設定ファイルの <code>installfile_location</code> に設定したパスを修正し、再度実行してください。 <code>installfile_location</code> にパスを指定しなかった場合は DVD ドライブにインストール DVD-ROM がマウントされているか確認してください。  Setup.exe が存在する場合には Setup.exe に read 権限および実行権限が付与されているか確認してください。
KAPL09216-E	installhdml が使用するファイルの入出力処理でエラーが発生しました。エラーコード = <i>aa...aa, bb...bb</i>  An error occurred during I/O of a file that installhdml uses. Error Code = <i>aa...aa, bb...bb</i>	説明  HDLM インストールユティリティ ( <code>installhdml</code> ) が使用するファイルの入出力でエラーが発生しました。  <i>aa...aa</i> : 実行した処理を特定するエラー番号(10 進数)  <i>bb...bb</i> : 実行した処理の返り値(10 進数)  対処  <code>workdir</code> に指定したフォルダの容量に不足がないか確認してください。容量が不足している場合は、十分な空き容量を確保したあとに再実行してください。必要な空き容量は、「3.5.1 HDLM の新規インストール」の「(2) リモート管理クライアントのサイレントインストール」を参照してください。
KAPL09284-W	HDLM がインストールされていません。 HDLM is not installed.	説明  HDLM インストールユティリティ ( <code>installhdml</code> ) の <code>-v</code> パラメタは、HDLM がインストールされているリモート管理クライアントで指定してください。  対処  特にありません。
KAPL09605-I	ライセンスキーファイルがありません。 ファイル名 = <i>aa...aa</i>  There is no license key file. File name = <i>aa...aa</i>	説明  ライセンスキーファイルが所定のフォルダにありません。  <i>aa...aa</i> : Windows のインストール先 ドライブ <code>\\$hdml_license</code> 、またはユーザが指定したファイル名  対処  インストールを中断し、正しいライセンスキーファイルを所定のフォルダに格納してから、インストラーを再実行してください。
KAPL09606-E	入力されたライセンスキーが不正です。ライセンスの更新を中断します。正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。	説明  不正なライセンスキーが入力されたため、ライセンス更新を中断します。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09606-E	The entered license key is invalid. The HDLM installation will now terminate. Obtain a valid license key, and then re-install HDLM.	対処 正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。
KAPL09607-E	このシステムにはインストールできません。サポート対象の OS にインストールしてください。 Cannot install in this system. Install HDLM on a supported OS.	説明 このシステムには HDLM をインストールできません。 対処 サポート対象の OS にインストールしてください。 サポート対象の OS については、 <a href="#">[3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS]</a> を参照してください。
KAPL09608-W	このシステムにはすでに HDLM for Windows がインストールされています。The HDLM for Windows has already been installed in this system.	説明 VMware 版の HDLM と Windows 版の HDLM は、同じホストにインストールすることはできません。 対処 特にありません。
KAPL09609-E	システム管理権限がありません。Administrators グループのユーザで再度インストールを実行してください。 There is no system management permission. Login with administrator permission and re-install HDLM.	説明 管理者権限がないため、HDLM をインストールまたはアンインストールできません。 対処 Administrators グループのユーザで再度インストールまたはアンインストールをしてください。
KAPL09610-W	入力されたライセンスキーが不正です。The entered license key is invalid.	説明 入力されたライセンスキーが不正です。再入力して下さい。 対処 正しいライセンスキーを入力してください。
KAPL09611-E	入力されたライセンスキーが不正です。インストールを中断します。正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。 The entered license key is invalid. The HDLM installation will now terminate. Obtain a valid license key, and then re-install HDLM.	説明 入力されたライセンスキーが不正です。インストールを中断します。 対処 正しいライセンスキーを取得後、再度インストールを実行してください。
KAPL09612-W	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ファイル名 = aa...aa There is no installable license key in the license key file. File name = aa...aa	説明 ライセンスキーファイル中に、HDLM のインストールが可能なライセンスキーがありません。 aa...aa : Windows のインストール先ドライブ ¥hdlm_license、またはユーザが指定したファイル名

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09612-W	インストール可能なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ファイル名 = aa...aa There is no installable license key in the license key file. File name = aa...aa	対処 ライセンスキーが正しいか確認してから、インストーラーを再実行してください。
KAPL09613-E	既にインストールされている環境からライセンス情報が取得できません。 License information cannot be acquired.	説明 ライセンス情報が取得できないため、ライセンスのインストールが必要です。 対処 正しいライセンスキーを取得後、アンインストール後に再度インストールを実行してください。
KAPL09614-W	共通エージェントコンポーネントはアンインストールされませんでした。 An attempt to remove Common Agent Component has failed.	説明 共通エージェントコンポーネントのアンインストールが失敗しました。 対処 マニュアル「Hitachi Global Link Manager 導入・設定ガイド」を参照し、「hbsasrv stop -f」コマンドを実行してください。その後、必要に応じて再度 HDLM のインストールを実行してください。 問題が解決しない場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09615-W	HDLM aa...aa は bb...bb されませんでした。 An attempt to bb...bb HDLM version aa...aa has failed.	説明 HDLM のサイレントインストールまたはアンインストールが失敗しました。 aa...aa : インストールまたはアンインストールしようとした HDLM のバージョン bb...bb : インストール（英語メッセージの場合 : <code>install</code> ）またはアンインストール（英語メッセージの場合 : <code>remove</code> ） 対処 • インストールの場合 次のことを確認して、再度 HDLM インストールユーティリティ ( <code>installhdlm</code> ) を実行してください。 • インストール情報設定ファイルの次のキーで指定したファイルやフォルダが正しいか。 <code>licensekeyfile</code> <code>installdir</code> • <code>licensekeyfile</code> キーで指定したライセンスキーファイルに有効なライセンス情報が格納されているか。 繰り返し同じエラーが発生する場合は、 <code>setup.exe</code> を使用してインストールを実行してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL09615-W	HDLM <i>aa...aa</i> は <i>bb...bb</i> されませんでした。 An attempt to <i>bb...bb</i> HDLM version <i>aa...aa</i> has failed.	ださい。 <code>setup.exe</code> を使用してもエラーが発生する場合は、該当するエラーメッセージの対処を実行してください。 • アンインストールの場合 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL09616-E	<i>aa...aa</i> のインストールに失敗しました。リターンコード= <i>bb...bb</i> An attempt to install <i>aa...aa</i> failed. (return code = <i>bb...bb</i> )	説明 HDLM の前提条件である Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージのインストールに失敗しました。 <i>aa...aa</i> : Microsoft Visual C++ 2015-2019 Redistributable Package(x86)14.24.28127 <i>bb...bb</i> : Windows Installer エラーコード 対処 Windows Installer のエラーコードおよびシステムドライブ直下に出力されるインストールログファイル ( <code>vcredist_x86_log</code> ) を調査し、原因を取り除いた後、再度 HDLM のインストールを実施してください。
KAPL09617-I	インストール情報 = <i>aa...aa</i> Installation information = <i>aa...aa</i>	説明 インストール時の詳細情報を表示します。 <i>aa...aa</i> : インストール詳細情報 対処 特にありません。

## 8.7 KAPL10001～KAPL11000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10001-W	パラメタが指定されていません。 No parameter has been specified.	<p>説明 パラメタ（収集情報出力先フォルダ）が指定されていません。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL10002-W	パラメタが多過ぎます。 Too many parameters have been specified.	<p>説明 パラメタが 4 個以上指定されました。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL10004-W	パラメタ値が誤っています。値 = aa...aa The parameter contains an incorrect value. Value = aa...aa	<p>説明 第 1 パラメタはフォルダでなければなりません。 aa...aa : 不当なパラメタ</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）のパラメタをチェックしてから、再実行してください。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL10009-W	指定したディレクトリがすでに存在します。 上書きしますか？[y/n]： The specified directory already exists. Do you want to overwrite it? [y/n]：	<p>説明 指定したフォルダがすでに存在します。上書きする場合は「y」、中止する場合は「n」を入力してください。</p> <p>対処 指定したフォルダはすでにあります。「y」を指定したときには、上書きします。「n」またはそのほかのキーを入力した場合は、HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を実行しないで終了します。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL10017-W	HDLM 障害情報収集ユーティリティ（DLMgetras）を実行する権限がありません。	<p>説明 DLMgetras ユーティリティは Administrators グループのユーザで実行する必要があります。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10017-W	You lack privileges for executing the utility for collecting HDLM error information.	対処 Administrators グループのユーザで再実行してください。 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> については、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL10020-I	ファイルの取得に成功しました。ファイル名 = <i>aa...aa</i> , 取得時刻 = <i>bb...bb</i> (GMT: <i>bb...bb</i> ) The file has been obtained successfully. File = <i>aa...aa</i> , Collection time = <i>bb...bb</i> (GMT: <i>bb...bb</i> )	説明 収集対象ファイルを取得しました。 <i>aa...aa</i> : 収集したファイル名 <i>bb...bb</i> : 西暦/月/日 時:分:秒 対処 特にありません。
KAPL10022-I	HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras)が正常終了しました。 The utility for collecting HDLM error information completed normally.	説明 障害情報の収集が終了しました。 対処 特にありません。 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> については、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL10030-I	ユーザの指定によって、HDLM 障害情報収集ユーティリティ(DLMgetras)が終了しました。 A user terminated the utility for collecting HDLM error information.	説明 確認に対し「n」を入力したため、 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> の処理を中止しました。 対処 特にありません。 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> については、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL10031-W	入力の値が不正です。処理を継続しますか? [y/n]: The entered value is invalid. Continue operation? [y/n]:	説明 「y」または「n」の入力要求に対して「y」または「n」以外が入力されました。「y」または「n」を入力してください。 対処 「y」, または「n」を入力してください。
KAPL10032-W	入力の値が不正です。HDLM 障害情報収集ユーティリティ(DLMgetras)の処理を中止します。 The entered value is invalid. The utility for collecting HDLM error information stops.	説明 入力要求に対し、3回間違った入力をしたため、 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> の処理を中止します。 対処 再度 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> を実行してください。 <a href="#">DLMgetras ユティリティ</a> については、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL10033-W	ファイルが存在しません。ファイル名 = <i>aa...aa</i> The file does not exist. Filenname = <i>aa...aa</i>	説明 収集しようとしたファイルがありません。 <i>aa...aa</i> : 収集対象ファイル

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10033-W	ファイルが存在しません。ファイル名 = <i>aa...aa</i> The file does not exist. Filename = <i>aa...aa</i>	対処 特にありません。
KAPL10034-E	ファイルのコピーに失敗しました。ファイル名 = <i>aa...aa</i> , 詳細 = <i>bb...bb</i> The file could not be copied. Filename = <i>aa...aa</i> , Details = <i>bb...bb</i>	説明 <i>cp</i> コマンドの実行が失敗しました。 <i>aa...aa</i> : コピーしようとしたファイル名 <i>bb...bb</i> : Windows API のエラー番号 (16 進数) 対処 収集対象のファイルのコピー中にエラーが発生しました。ユーザ環境が安定していなかったおそれがあります。システム構成を確認してください。
KAPL10041-I	<i>aa...aa</i> 情報の収集を開始します。 Collection of <i>aa...aa</i> information will now start.	説明 <i>aa...aa</i> : 収集するログ情報 対処 特にありません。
KAPL10042-I	<i>aa...aa</i> 情報の収集を終了しました。 Collection of <i>aa...aa</i> information will now finish.	説明 <i>aa...aa</i> : 収集が終了したログ情報 対処 特にありません。
KAPL10043-I	障害情報を収集しています。( <i>aa...aa%</i> ) Error information is being collected. ( <i>aa...aa%</i> )	説明 <i>aa...aa</i> : 収集するログのうち, すでに収集した割合 対処 特にありません。
KAPL10044-W	空きディスク容量が足りません。 There is insufficient disk space.	説明 ディスクの空き容量が 50MB より少なくなったので, 障害情報収集ユーティリティ ( <b>DLMgetras</b> ) を中止します。 対処 空きディスク容量を 50MB 以上に増やしてから再実行してください。
KAPL10045-W	パラメタが誤っています。 A parameter is invalid.	対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ ( <b>DLMgetras</b> ) のパラメタをチェックしてから, 再実行してください。 <b>DLMgetras</b> ユーティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL10046-W	パラメタ値が誤っています。 A parameter value is invalid.	対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ ( <b>DLMgetras</b> ) のパラメタをチェックしてから, 再実行してください。 <b>DLMgetras</b> ユーティリティについては, 「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10046-W	パラメタ値が誤っています。 A parameter value is invalid.	「 <a href="#">DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL10047-W	必要なパラメタ値が指定されていません。パラメタ = aa...aa A necessary parameter value has not been specified. (parameter = aa...aa)	説明 パラメタ値を指定しなければならないパラメタに、パラメタ値が指定されていません。 aa...aa : パラメタ名 対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ ( <a href="#">DLMgetras</a> ) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。 <a href="#">DLMgetras</a> ユーティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。
KAPL10048-E	HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) の内部処理で障害が発生しました。詳細 = aa...aa, bb...bb An error occurred in internal processing of the utility for collecting HDLM error information. Details = aa...aa, bb...bb	説明 aa...aa : エラー番号 (文字列) bb...bb : エラー番号 (文字列) 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL10956-W	指定されたサーバとの接続に失敗しました。 An attempt to connect to the specified server has failed.	説明 指定されたホストとの接続に失敗しました。 対処 次のことを確認して、HDLM 障害情報収集ユーティリティ ( <a href="#">DLMgetras</a> ) を再実行してください。 <a href="#">DLMgetras</a> ユーティリティについては、「 <a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a> 」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>ホストのパスワードに特殊文字が含まれている場合、指定するパスワード文字列を一重引用符で囲んでください。ただし、「」と「」の文字は ESXi ホストのパスワードに設定しないでください。 またホストのパスワードに「%PATH%」や「%TEMP%」などのリモートクライアントで定義されている Windows 環境変数を含めると、ホストに接続できません。ホストのパスワードに Windows 環境変数を含めないでください。</li><li>Windows PowerShell の実行ポリシーを RemoteSigned に設定していること。 Windows PowerShell プロンプトで <code>Get-ExecutionPolicy</code> を実行してください。表示された Windows PowerShell の実行ポリシーが下記以外であった場合は下記に変更してください。 * <code>RemoteSigned</code></li></ul>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL10956-W	指定されたサーバとの接続に失敗しました。 An attempt to connect to the specified server has failed.	<p>実行ポリシーの変更は Windows PowerShell のプロンプトで下記のコマンドを実行してください。</p> <pre>&gt; Set-ExecutionPolicy RemoteSigned -Scope CurrentUser</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESXi ホストの証明書チェックの設定をしていること。</li> </ul> <p>Windows PowerShell プロンプトで <code>Get-PowerCLIConfiguration -Scope user</code> を実行してください。表示された VMware PowerCLI のコンフィグレーションの <code>InvalidCertificateAction</code> の設定が下記以外であった場合は下記に変更してください。</p> <p><code>* Ignore</code></p> <p>証明書チェックの設定の変更は Windows PowerShell のプロンプトで下記のコマンドを実行してください。</p> <pre>&gt; Set-PowerCLIConfiguration -Scope user - InvalidCertificateAction Ignore</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li><code>dlmrmenv</code> ユーティリティを使用して CLI に VMware PowerCLI を指定していること。</li> <li><code>dlmrmenv</code> ユーティリティについては、「<a href="#">7.4 dlmrmenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー</a>」を参照してください。</li> <li>リモート管理クライアントに VMware PowerCLI をインストールしていること。</li> <li>ESXi ホストに HDLM のプラグインをインストールしていること。</li> <li>リモート管理クライアントに HDLM をインストールしていること。</li> </ul>
KAPL10957-W	VMware vSphere CLI、または VMware PowerCLI がインストールされていないため、HDLM 障害情報収集ユーティリティが実行できません。  The utility for collecting HDLM error information cannot be executed, because the VMware vSphere CLI or VMware PowerCLI is not installed.	<p>説明</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<code>DLMgetras</code>) が VMware vSphere CLI のコマンドプロンプト、または PowerShell のコマンドプロンプトで実行されません。</p> <p>対処</p> <p>Power Shell のコマンドプロンプトで <code>DLMgetras</code> ユーティリティを実行してください。</p> <p>あるいは、<code>dlmrmenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI が PowerCLI か確認してください。</p> <p>vCLI の場合は <code>dlmrmenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更してください。</p>

## 8.8 KAPL11001～KAPL12000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL11901-I	<i>aa...aa</i> を開始しました。 <i>aa...aa</i> has started.	<p>説明</p> <p>ホストでのオペレーションを開始しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パス情報取得 (Get Path Information)</li> <li>オプション情報取得 (Get Option Information)</li> <li>オプション情報設定 (Set Option Information)</li> <li>データクリア (Clear Data)</li> <li>HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status)</li> <li>HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status)</li> <li>HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status)</li> <li>SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information)</li> <li>SNMP Trap情報設定 (Set SNMP Trap Information)</li> <li>LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance)</li> <li>パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information)</li> <li>ローカル時間取得 (Get Local Time)</li> <li>ESXi サーバ情報取得 (Get ESXi Information)</li> <li>パス情報追加 (Add Path Information)</li> <li>パス情報削除 (Delete Path Information)</li> <li>ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information)</li> </ul> <p>注※</p> <p>英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が 출력されます。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL11902-I	<i>aa...aa</i> を開始しました。PathID = <i>bb...bb</i> <i>aa...aa</i> has started. PathID = <i>bb...bb</i>	<p>説明</p> <p>ホストでのオペレーションを開始しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : オペレーション (文字列※)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン (Online)</li> <li>オフライン (Offline)</li> </ul> <p><i>bb...bb</i> : オペレーション対象パスの PathID (10進数)</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL11902-I	<i>aa...aa</i> を開始しました。PathID = <i>bb...bb</i> <i>aa...aa</i> has started. PathID = <i>bb...bb</i>	<p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が 出力されます。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL11903-I	<i>aa...aa</i> が正常終了しました。 <i>aa...aa</i> has completed normally.	<p>説明 ホスト上でのオペレーションが正常に終了しました。 <i>aa...aa</i> : 次に示すオペレーション（文字列※）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パス情報取得 (Get Path Information)</li> <li>• オプション情報取得 (Get Option Information)</li> <li>• オプション情報設定 (Set Option Information)</li> <li>• データクリア (Clear Data)</li> <li>• HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status)</li> <li>• HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status)</li> <li>• HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status)</li> <li>• オンライン (Online)</li> <li>• オフライン (Offline)</li> <li>• SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information)</li> <li>• SNMP Trap 情報設定 (Set SNMP Trap Information)</li> <li>• LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance)</li> <li>• パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information)</li> <li>• ローカル時間取得 (Get Local Time)</li> <li>• ESXi サーバ情報取得 (Get ESXi Information)</li> <li>• パス情報追加 (Add Path Information)</li> <li>• パス情報削除 (Delete Path Information)</li> <li>• ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information)</li> </ul> <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が 出力されます。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL11904-E	<i>aa...aa</i> が異常終了しました。エラーステータス = <i>bb...bb</i> <i>aa...aa</i> has completed abnormally. Error status = <i>bb...bb</i>	<p>説明 ホスト上でのオペレーションが異常終了しました。 <i>aa...aa</i> : オペレーション（文字列※）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パス情報取得 (Get Path Information)</li> </ul>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL11904-E	<p><i>aa...aa</i> が異常終了しました。エラーステータス = <i>bb...bb</i></p> <p><i>aa...aa</i> has completed abnormally. Error status = <i>bb...bb</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オプション情報取得 (Get Option Information)</li> <li>オプション情報設定 (Set Option Information)</li> <li>データクリア (Clear Data)</li> <li>HDLM ドライバステータス取得 (Get HDLM Driver Status)</li> <li>HDLM マネージャステータス取得 (Get HDLM Manager Status)</li> <li>HDLM アラートドライバステータス取得 (Get HDLM Alert Driver Status)</li> <li>オンライン (Online)</li> <li>オフライン (Offline)</li> <li>SNMP Trap 情報取得 (Get SNMP Trap Information)</li> <li>SNMP Trap 情報設定 (Set SNMP Trap Information)</li> <li>LU 単位ロードバランスアルゴリズム設定 (Set LU Load Balance)</li> <li>パスステータスログ情報取得 (Get Path Status Log Information)</li> <li>ESXi サーバ情報取得 (Get ESXi Information)</li> <li>パス情報追加 (Add Path Information)</li> <li>パス情報削除 (Delete Path Information)</li> <li>ストレージ認識情報設定 (Set Storage Identification Information)</li> </ul> <p><i>bb...bb</i> : API からのエラーステータス (文字列)</p> <p>注※ 英語メッセージ中では、括弧内の英文字列が 출력されます。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL11905-E	<p>予測できないエラーが発生しました。</p> <p>An unexpected error occurred.</p>	<p>説明 ホスト内での処理で例外が発生しました。</p> <p>対処 HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL11906-I	GUI 情報 - <i>aa...aa</i> GUI information - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : トレース情報（文字列） 対処 特にありません。
KAPL11907-I	XML 受信 - <i>aa...aa</i> XML reception - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : XML 情報（文字列） 対処 特にありません。
KAPL11908-I	XML 送信 - <i>aa...aa</i> XML transmission - <i>aa...aa</i>	説明 問題発生時の調査に必要な情報です。 <i>aa...aa</i> : XML 情報（文字列） 対処 特にありません。

## 8.9 KAPL13001～KAPL14000

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13031-I	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を開始します。開始時刻 = <i>aa...aa</i></p> <p>The utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) will now start. Start time = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を開始します。</p> <p><i>aa...aa</i> : 西暦 (4 衔) /月/日 時:分:秒 (開始時刻)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL13032-I	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) が終了しました。終了時刻 = <i>aa...aa</i></p> <p>The utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) finished. End time = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) が終了しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : 西暦 (4 衔) /月/日 時:分:秒 (終了時刻)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL13033-E	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) の実行に失敗しました。</p> <p>An attempt to execute the utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) failed.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) の実行に失敗しました。</p> <p>対処</p> <p>このメッセージの直前に出力されたメッセージの対処を参照してください。</p>
KAPL13034-W	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を中止しました。終了時刻 = <i>aa...aa</i></p> <p>The utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) was terminated. End time = <i>aa...aa</i></p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を中止しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : 西暦 (4 衔) /月/日 時:分:秒 (終了時刻)</p> <p>対処</p> <p>このメッセージの直前に出力されたメッセージの対処を参照してください。</p>
KAPL13035-W	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を実行する権限がありません。</p> <p>You do not have permission to execute the utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo).</p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) を実行する権限がありません。dlmperfinfo ユティリティは Administrators グループのユーザで実行する必要があります。</p> <p>対処</p> <p>Administrators グループのユーザで再実行してください。</p>
KAPL13036-W	<p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) はすでに実行されています。</p> <p>The utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) is already being executed.</p>	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmperfinfo) はすでに実行されています。</p> <p>対処</p> <p>dlmperfinfo ユティリティが終了したあとに再度実行してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13037-W	パラメタ値が誤っています。パラメタ = aa...aa, パラメタ値 = bb...bb A parameter value is invalid. parameter = aa...aa, parameter value = bb...bb	<p>説明</p> <p>不正なパラメタ値が指定されています。</p> <p>aa...aa : 指定したパラメタ (文字列) bb...bb : 指定したパラメタ値 (文字列)</p> <p>対処</p> <p>HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) のパラメタをチェックしてから、再実行してください。dlmperfinfo ユーティリティについては、「<a href="#">7.3 dlmperfinfo HDLM 性能情報表示ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL13038-W	パラメタが誤っています。パラメタ = aa...aa A parameter is invalid. parameter = aa...aa	<p>説明</p> <p>不正なパラメタが指定されています。</p> <p>aa...aa : 指定したパラメタ (文字列)</p> <p>対処</p> <p>HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) に-h パラメタを指定して実行し、指定するパラメタを確認してから、再実行してください。dlmperfinfo ユーティリティについては、「<a href="#">7.3 dlmperfinfo HDLM 性能情報表示ユーティリティ</a>」を参照してください。</p>
KAPL13039-W	パラメタが重複しています。パラメタ = aa...aa A parameter is duplicated. parameter = aa...aa	<p>説明</p> <p>パラメタが重複して指定されています。</p> <p>aa...aa : 重複したパラメタ (文字列)</p> <p>対処</p> <p>重複したパラメタを削除して、再実行してください。</p>
KAPL13040-W	指定したファイルがすでに存在します。 The specified file already exists.	<p>説明</p> <p>指定したファイルがすでに存在します。</p> <p>対処</p> <p>HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) のパラメタに指定するファイル名には、すでに存在するファイル名を指定しないでください。既存のファイルに上書きする場合は、-o パラメタを指定してください。</p>
KAPL13041-E	ファイルの出力に失敗しました。ファイル名 = aa...aa, エラーコード = bb...bb An attempt to output the file failed. File name = aa...aa, Error code = bb...bb	<p>説明</p> <p>ファイルの出力に失敗しました。</p> <p>aa...aa : ファイル名 (文字列) bb...bb : エラーコード (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>ディスク容量に空きがあるか「<a href="#">7.3 dlmperfinfo HDLM 性能情報表示ユーティリティ</a>」を参照して確認してください。空きがある場合は、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13042-E	メモリ不足によりユティリティが実行できません。 詳細 = aa...aa The utility cannot be executed due to insufficient memory. Details = aa...aa	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) の処理に必要なメモリを確保できませんでした。 aa...aa : 詳細情報 (文字列)</p> <p>対処</p> <p>不要なアプリケーションを終了させて空きメモリを増やすか、ホストを再起動してください。</p>
KAPL13043-E	ユティリティの内部処理で障害が発生しました。 詳細 = aa...aa An error occurred in the internal processing of the utility. Details = aa...aa	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) の内部処理で障害が発生しました。 aa...aa : 詳細情報 (文字列)</p> <p>対処</p> <p>「Cannot convert document version 1.1 to version 2.0」が表示される場合は、KAPL01183-E メッセージの対処に従ってください。 上記以外の場合、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に、詳細情報を合わせて連絡してください。</p>
KAPL13044-W	ユティリティ実行中にパス構成が変更されました。 The path configuration was changed during the execution of the utility.	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) 実行中にパス構成が変更されました。</p> <p>対処</p> <p>dlmpfinfo ユティリティ実行中は、パス構成を変更しないでください。</p>
KAPL13045-W	ユーザの操作によって、ユティリティが中断されました。 The user terminated the utility.	<p>説明</p> <p>HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) を実行中に [Ctrl] + [C] などで中断したため、処理を中止しました。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL13046-W	HDLM の管理対象のパスが存在しません。 No path is managed by HDLM.	<p>説明</p> <p>HDLM の管理対象のパスが存在しません。</p> <p>対処</p> <p>システム構成を確認してください。</p>
KAPL13047-I	性能情報を計測中です。 (aa...aa / bb...bb) Performance information is now being measured. (aa...aa / bb...bb)	<p>説明</p> <p>性能情報を計測中です。 aa...aa : 実行した回数 (10 進数) bb...bb : -c パラメタで指定した回数 (10 進数)</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13053-E	<p>指定されたホストとの接続に失敗しました。 An attempt to connect to the specified host has failed.</p>	<p><b>説明</b> 指定されたホストに接続できません。</p> <p><b>対処</b></p> <p>次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したホスト名、ユーザ名およびパスワードに誤りがないか。</li> </ul> <p>ホストのパスワードに特殊文字が含まれている場合、指定するパスワード文字列を一重引用符で囲んでください。ただし、「」と「」の文字は ESXi ホストのパスワードに設定しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続先ホストが停止していないか。</li> <li>接続先ホストに HDLM がインストールされているか。</li> <li>接続先ホストにインストールされたバージョンが 8.6.0-00 以降か。</li> </ul>
KAPL13054-E	<p>VMware vSphere CLI、または VMware PowerCLI がインストールされていないため、HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) が実行できません。</p> <p>The utility for displaying HDLM performance information (dlmperfinfo) cannot be executed because the VMware vSphere CLI or VMware PowerCLI is not installed.</p>	<p><b>説明</b> VMware PowerCLI がインストールされていない可能性があります。</p> <p><b>対処</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><code>dlmrcenv --cli</code> の設定が"vCLI"の場合 <code>dlmrcenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更したあとに、HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) を再度実行してください。</li> <li><code>dlmrcenv --cli</code> の設定が"PowerCLI"の場合 VMware PowerCLI をインストールしたあとに、HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) を再度実行してください。 VMware PowerCLI をインストール済みの場合は Windows PowerShell のコマンドプロンプトで <code>dlmperfinfo</code> ユーティリティを実行してください。</li> </ul>
KAPL13055-E	<p>HDLM ドライバとの接続に失敗しました。</p> <p>An attempt to connect to the HDLM driver has failed.</p>	<p><b>説明</b> HDLM ドライバにアクセスできないため、HDLM 性能情報表示ユーティリティ (dlmperfinfo) で ESXi サーバの性能情報を取得できません。</p> <p><b>対処</b></p> <p>ホストで HDLM がアンインストールされていないか確認してください。アンインストールされていない場合は HDLM 障害情報収集ユーティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13056-W	ユティリティが VMware vSphere CLI のコマンドプロンプトで実行されていません。 The utility was not executed from the VMware vSphere CLI command prompt.	説明 ユティリティが VMware vSphere CLI のコマンドプロンプトで実行されていません。 対処 <code>dlmrmcenv</code> ユティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更したあとに、HDLM 性能情報表示ユティリティ ( <code>dlmprefinfo</code> ) を再度実行してください。
KAPL13057-E	HDLM Windows 版がインストールされているため、ユティリティが実行できません。 The utility cannot be executed, because HDLM for Windows is installed.	説明 HDLM Windows 版と HDLM VMware 版は同じホストで実行することができません。 対処 HDLM Windows 版をアンインストールしてください。
KAPL13058-W	ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = <i>aa...aa</i> , 詳細 = <i>bb...bb</i> An attempt to open the file has failed. file = <i>aa...aa</i> , details = <i>bb...bb</i>	説明 ファイルのオープンに失敗しました。 <i>aa...aa</i> : ファイルパス名 <i>bb...bb</i> : 詳細情報 対処 ファイル名の後に表示される詳細情報を確認しエラー要因を取り除いたあと、HDLM 性能情報表示ユティリティ ( <code>dlmprefinfo</code> ) を再度実行してください。
KAPL13059-W	HDLM が提供する PSP 管理下のパスが存在しません。 No paths are managed by the PSPs provided by HDLM.	説明 HDLM が提供する PSP 管理下のパスが存在しません。 対処 vSphere の監視およびパフォーマンス機能により性能情報を取得してください。
KAPL13060-W	ローテーションにより削除する CSV 出力ファイルが削除できませんでした。ファイル名 = <i>aa...aa</i> A file output as a CSV file that is to be deleted by rotation could not be deleted. file name = <i>aa...aa</i>	説明 ローテーションにより削除する CSV 出力ファイルが削除できませんでした。 <i>aa...aa</i> : CSV 出力ファイル名 (文字列) 対処 削除対象のファイルへアクセスしている場合、ファイルを解放してください。
KAPL13061-W	-c パラメタが 0 以外の時に指定できないパラメタが指定されました。パラメタ = <i>aa...aa</i> A parameter that cannot be specified when a value other than 0 is specified for the -c parameter was specified. parameter = <i>aa...aa</i>	説明 -c パラメタが 0 以外の時に指定できないパラメタが指定されました。 <i>aa...aa</i> : パラメタ名

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13061-W	-c パラメタが 0 以外の時に指定できないパラメタが指定されました。パラメタ = aa...aa A parameter that cannot be specified when a value other than 0 is specified for the -c parameter was specified. parameter = aa...aa	対処 HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) の-h パラメタを指定して実行し、パラメタを確認してから、再実行してください。
KAPL13062-I	性能情報を計測中です。 (aa...aa bb...bb / cc...cc) Performance information is now being measured. (aa...aa bb...bb / cc...cc)	説明 性能情報を計測中です。 aa...aa : CSV 出力ファイル名 (文字列) bb...bb : ファイル単位で実行した測定回数 (10 進数) cc...cc : ファイル単位の総測定回数 (10 進数) 対処 特にありません。
KAPL13081-I	パラメタ = aa...aa Parameters = aa...aa	説明 aa...aa : HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) に指定されたパラメタ 対処 特にありません。
KAPL13082-I	保守用トレースデータ : aa...aa Data for maintenance: aa...aa	説明 aa...aa : 保守情報 対処 特にありません。
KAPL13091-W	HNTRLib2 の初期化に失敗しました。トレース情報は出力されません。 詳細 = aa...aa The initialization of HNTRLib2 failed. The trace information is not output. Details = aa...aa	説明 Hitachi Network Objectplaza Trace Library (HNTRLib2) の初期化に失敗しました。 HDLM 性能情報表示ユティリティ (dlmpfinfo) のトレース情報は、dlmpfinfo[1-2].log ファイルに出力されません。 aa...aa : 詳細情報 (文字列) 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に、詳細情報を合わせて連絡してください。
KAPL13604-W	監査ログ設定ファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to read the audit log configuration file.	説明 監査ログ設定ファイルの読み込み中に内部エラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL13605-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部パラメタエラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。
KAPL13606-W	監査ログの出力処理でエラーが発生しました。 An error occurred during processing to output the audit log configuration file.	説明 監査ログの出力中に内部エラーが発生しました。 対処 HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。

## 8.10 KAPL15001～KAPL16000

この節で説明するメッセージの言語種別は、英語だけです。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL15060-I	DLMgetras was invoked. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユーティリティ名
KAPL15061-I	DLMgetras successfully executed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したユーティリティ名
KAPL15101-I	Clear operation was completed successfully. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15102-W	Clear operation has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15103-I	<i>aa...aa</i> path(s) were successfully placed <i>bb...bb</i> , <i>cc...cc</i> path(s) were not. Command Line = <i>dd...dd</i>	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline が成功したパス数 <i>bb...bb</i> : online または offline(C) <i>cc...cc</i> : online または offline に失敗したパス数 <i>dd...dd</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15104-W	<i>aa...aa</i> path(s) were failed to place <i>bb...bb</i> . Command Line = <i>cc...cc</i>	説明 <i>aa...aa</i> : online または offline に失敗したパス数 <i>bb...bb</i> : online または offline(C) <i>cc...cc</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15105-I	Setting up the operating environment succeeded. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15106-W	Setting up the operating environment failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15107-I	Program information was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15108-W	An attempt to display program information has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15109-I	Information about HDLM-management targets was successfully displayed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15110-W	An attempt to display information about HDLM-management targets has failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15111-W	The HDLM command was started or stopped by the user who does not have the authority. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL15121-I	The storage system settings were successfully refreshed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15122-W	The refresh of the storage system settings failed. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15320-I	The dlmperfinfo utility successfully started. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15321-W	Could not start the dlmperfinfo utility. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15322-I	The dlmperfinfo utility successfully stopped. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15323-W	The dlmperfinfo utility terminated. Command Line = <i>aa...aa</i>	説明 <i>aa...aa</i> : ユーザが実行したコマンドライン
KAPL15401-I	HDLM Manager successfully started.	—
KAPL15402-W	Could not start the HDLM manager.	—
KAPL15403-I	HDLM Manager successfully stopped.	—
KAPL15404-W	The HDLM Manager was executed by the user who does not have the authority.	—

## 8.11 KAPL20001～KAPL21000

この節で説明するメッセージの言語種別は、英語だけです。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20001-I	The initialization of the plugin (HTI_SATP_HDLM) was successful.	<p>説明 HTI_SATP_HDLM プラグインの初期化が完了しました。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL20009-I	The termination of the plugin (HTI_SATP_HDLM) was successful.	<p>説明 HTI_SATP_HDLM プラグインの終了処理が完了しました。</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL20021-I	The state of path (aa...aa) was changed from bb...bb to cc...cc.	<p>説明 パスの状態を変更しました。</p> <p>aa...aa : パス名 bb...bb : 変更前のパスの状態 cc...cc : 変更後のパスの状態</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL20022-W	The state of path (aa...aa) was changed from bb...bb to cc...cc.	<p>説明 パスの状態が、I/O を発行できない状態に変更されました。</p> <p>aa...aa : パス名 bb...bb : 変更前のパスの状態 cc...cc : 変更後のパスの状態</p> <p>対処 障害を検知したパスの状態を確認してください。</p>
KAPL20023-E	The state of path (aa...aa) was changed from bb...bb to cc...cc.	<p>説明 パスの状態が、I/O を発行できない状態に変更されました。</p> <p>aa...aa : パス名 bb...bb : 変更前のパスの状態 cc...cc : 変更後のパスの状態</p> <p>対処 障害を検知したパスの状態を確認してください。</p>
KAPL20024-W	I/O (aa...aa) to path (bb...bb) failed. Sense key=cc...cc ASC/ASCQ=dd...dd	<p>説明 入出力障害を検出しました。</p> <p>aa...aa : SCSI コマンド</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20024-W	I/O (aa...aa) to path (bb...bb) failed. Sense key=cc...cc ASC/ASCQ=dd...dd	<p><i>bb...bb</i> : パス名  <i>cc...cc</i> : センスキー  <i>dd...dd</i> : ASC/ASCQ</p> <p>対処</p> <p>センスコードおよび追加センスコードの説明を基に、障害を検知したパスの状態を確認してください。</p>
KAPL20025-W	I/O (aa...aa) to path (bb...bb) failed. Plugin status=cc...cc	<p>説明</p> <p>入出力障害を検出しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : SCSI コマンド  <i>bb...bb</i> : パス名  <i>cc...cc</i> : プラグインの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<b>DLMgetras</b> ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL20026-W	I/O (aa...aa) to path (bb...bb) failed. Host status=cc...cc	<p>説明</p> <p>入出力障害を検出しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : SCSI コマンド  <i>bb...bb</i> : パス名  <i>cc...cc</i> : ホストの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<b>DLMgetras</b> ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL20027-W	I/O (aa...aa) to path (bb...bb) failed. Device status=cc...cc	<p>説明</p> <p>入出力障害を検出しました。</p> <p><i>aa...aa</i> : SCSI コマンド  <i>bb...bb</i> : パス名  <i>cc...cc</i> : デバイスの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<b>DLMgetras</b>) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<b>DLMgetras</b> ユーティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a>」を参照してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20037-I	The action_OnRetryErrors parameter is enabled for the device (aa...aa).	<p>説明</p> <p>ストレージデバイス構成用に VMware によって定義されている action_OnRetryErrors パラメタが、デバイスに対して有効になっています。</p> <p>aa...aa : デバイス名</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL20038-I	The action_OnRetryErrors parameter is disabled for the device (aa...aa).	<p>説明</p> <p>ストレージデバイス構成用に VMware によって定義されている action_OnRetryErrors パラメタが、デバイスに対して無効になっています。</p> <p>aa...aa : デバイス名</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL20041-W	The state of path (aa...aa) was not able to be updated.	<p>説明</p> <p>aa...aa : パス名</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL20042-W	The state of path (aa...aa) was not able to be updated. Plugin status=bb...bb	<p>説明</p> <p>aa...aa : パス名</p> <p>bb...bb : プラグインの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL20043-W	The state of path (aa...aa) was not able to be updated. Host status=bb...bb	<p>説明</p> <p>aa...aa : パス名</p> <p>bb...bb : ホストの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユティリティ (DLMgetras) を実行して障害情報を取得し、HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。DLMgetras ユティリティについては、「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユティリティー</a>」を参照してください。</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20044-W	The state of path (aa...aa) was not able to be updated. Device status=bb...bb	<p>説明</p> <p>aa...aa : パス名 bb...bb : デバイスの状態</p> <p>対処</p> <p>HDLM 障害情報収集ユーティリティ (<a href="#">DLMgetras</a>) を実行して障害情報を取得し, HDLM の購入元会社, または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。<a href="#">DLMgetras</a> ユーティリティについては, 「<a href="#">7.2 DLMgetras HDLM 障害情報収集ユーティリティー</a>」を参照してください。</p>
KAPL20045-W	The state of path (aa...aa) was not able to be updated. Sense key=bb...bb ASC/ASCQ=cc...cc	<p>説明</p> <p>aa...aa : パス名 bb...bb : センスキー cc...cc : ASC/ASCQ</p> <p>対処</p> <p>センス情報に従って, ストレージシステムの状態を確認してください。</p>
KAPL20050-E	An error occurred in all the paths of the device (aa...aa).	<p>説明</p> <p>断線などによって, デバイスに対する最後の稼働状態のパスで障害が発生しました。</p> <p>aa...aa : デバイス名</p> <p>対処</p> <p>「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して, メッセージ中に表示されたデバイス, およびそのデバイスのすべてのパスの状態を確認し, 障害を取り除いてください。そして障害回復後に, パスを稼働状態にしてください。</p>
KAPL20054-E	A path was excluded from the items subject to automatic fallback. Path (aa...aa)	<p>説明</p> <p>パスを自動フェイルバック対象から除外しました。</p> <p>aa...aa : パス名</p> <p>対処</p> <p>間欠障害が検出されました。パスで障害が発生した可能性があります。「<a href="#">5.3 パス障害時の対処</a>」を参照して、メッセージ中に表示されたパスを稼動状態にしてください。</p>
KAPL20060-W	Failed to get Inquiry Pageaa...aa in path (bb...bb).	<p>説明</p> <p>メッセージ中に示すパスの Inquiry データの取得に失敗しました。</p> <p>aa...aa : 取得に失敗した Inquiry データのページ名 bb...bb : パス ID (view -path の PathID と同じ)</p>

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20060-W	Failed to get Inquiry Page <i>aa...aa</i> in path ( <i>bb...bb</i> ).	対処 パスの状態を確認してください。障害を取り除いた後に、再度 <code>dlnkmgr refresh</code> コマンドを実行してください。
KAPL20902-E	A parameter is invalid. parameter = <i>aa...aa</i>	説明 不正なパラメタが指定されています。 <i>aa...aa</i> : 指定されたパラメタ 対処 HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティ ( <code>dlmrmenv</code> ) に -h パラメタを指定して実行し、パラメタを確認してから再実行してください。 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティについては、「 <a href="#">7.4 dlmrmenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL20903-E	The specified Credential store file does not exist. Value = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティ ( <code>dlmrmenv</code> ) 実行時に指定された Credential Store ファイルが存在しません。 <i>aa...aa</i> : 入力ファイル名 対処 Credential Store ファイルのパスを確認してから、 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティを再実行してください。 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティについては、「 <a href="#">7.4 dlmrmenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL20904-E	The Credential store file does not exist. Value = <i>aa...aa</i>	説明 HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティ ( <code>dlmrmenv</code> ) 実行時に Credential Store ファイルが存在しません。 <i>aa...aa</i> : Credential Store ファイルのファイル名 対処 Credential Store ファイルのパスを確認してから、 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティを再実行してください。 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティについては、「 <a href="#">7.4 dlmrmenv HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー</a> 」を参照してください。
KAPL20905-E	The VMware vSphere CLI information could not be acquired.	説明 VMware vSphere CLI の環境変数が取得できません。 対処 <code>dlmrmenv</code> ユーティリティでホスト情報取得に使用する CLI を PowerCLI に変更してください。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL20906-E	An internal error occurred in the dlmrmenv utility. Error Code = <i>aa...aa</i>	<p>説明</p> <p>HDLM リモート管理クライアント環境設定ユティリティ (dlmrmenv) で内部エラーが発生しました。  <i>aa...aa</i> : エラー番号</p> <p>対処</p> <p>HDLM の購入元会社、または HDLM の保守契約があれば保守会社に連絡してください。</p>
KAPL20907-I	The dlmrmenv utility completed normally.	<p>説明</p> <p>HDLM リモート管理クライアント環境設定ユティリティ (dlmrmenv) が正常に終了しました。</p> <p>対処</p> <p>特にありません。</p>
KAPL20908-W	You lack privileges for executing the utility for Configuring HDLM Remote Management Client Environments.	<p>説明</p> <p>HDLM リモート管理クライアント環境設定ユティリティ (dlmrmenv) は Administrators グループのユーザで実行する必要があります。</p> <p>対処</p> <p>Administrators グループのユーザで再実行してください。</p>

## 8.12 KAPL21001～KAPL22000

この節で説明するメッセージの言語種別は、英語だけです。

メッセージID	メッセージテキスト	説明
KAPL21001-I	The initialization of the pspPlugin (aa...aa) was successful.	<p>説明 PSP プラグインの初期化が完了しました。 aa...aa : HTI_PSP_HDLM_EXLBK, HTI_PSP_HDLM_EXLIO, または HTI_PSP_HDLM_EXRR</p> <p>対処 特にありません。</p>
KAPL21009-I	The termination of the pspPlugin (aa...aa) was successful.	<p>説明 PSP プラグインの終了処理が完了しました。 aa...aa : HTI_PSP_HDLM_EXLBK, HTI_PSP_HDLM_EXLIO, または HTI_PSP_HDLM_EXRR</p> <p>対処 特にありません。</p>

# 付録

## 付録 A.1 パス障害メッセージ抑制情報の設定

### （1） 形式

ホストで実行する場合

```
esxcli hdlm dlnkmgr system set
--option=pfs:{ON|OFF}.
[パス障害メッセージ抑制間隔].[パス障害メッセージ抑制回数].
[ホストステータス設定コード].[プラグインステータス設定コード].
[デバイスステータス設定コード].[SCSIセンスキー設定コード]
```

リモート管理クライアントから実行する場合

```
EsxCli-Object※.hdlm.dlnkmgr.system.set.invoke
(@{option="pfs:{ON|OFF}.
[パス障害メッセージ抑制間隔].[パス障害メッセージ抑制回数].
[ホストステータス設定コード].[プラグインステータス設定コード].
[デバイスステータス設定コード].[SCSIセンスキー設定コード]"} | ConvertTo-Json
```

注※ Get-EsxCli コマンドレットで取得したホストごとに 1 つの EsxCli オブジェクト

### （2） パラメーター

pfs:{ON|OFF}

パス障害メッセージ抑制機能の有効無効設定。初期値は OFF（無効）です。

ON : 有効にする。

OFF : 無効にする。

パス障害メッセージ抑制間隔

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する間隔を秒単位で指定します。0～3600 の値を指定します。デフォルト値は 10 秒です。0 を指定した場合、間隔での抑制は行いません。ここで指定したパス障害メッセージ抑制間隔内に監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2 回目以降のメッセージを抑制します。抑制間隔を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともにに出力した後、抑制を解除します。

パス障害メッセージ抑制回数

障害要因設定コードで指定した要因のパス障害メッセージを抑制する回数を指定します。0 または 10 ～3600000 の値を指定します。デフォルト値は 3000 です。0 を指定した場合、回数での抑制は行いません。

ここで指定したパス障害メッセージ抑制回数内に監視障害要因設定コードで指定した要因のパス障害が複数回発生した場合、2回目以降のメッセージを抑制します。抑制回数を超えて障害が発生した時点で、抑制したメッセージを抑制した回数とともに出力した後、抑制を解除します。

#### ホストステータス設定コード

SCSI ホストステータスに対応した障害要因設定コード（10進）を指定します。0～32767 の値を指定します。デフォルト値は 2113 です。2113 は NO\_CONNECT, ERROR, RETRY を抑制対象とした値になります。複数の要因を設定する場合は設定コードの総和を指定します。0 を指定した場合はホストステータスの抑制は行いません。最大値を指定した場合はすべての障害要因を抑制対象とします。

SCSI ホストステータスに対応する設定コードを次に示します。

表 A-1 SCSI ホストステータスに対応する設定コード

SCSI ホストステータス	ホストステータスコード	設定コード
NO_CONNECT	0x01	1
BUS_BUSY	0x02	2
TIMEOUT	0x03	4
BAD_TARGET	0x04	8
ABORT	0x05	16
PARITY	0x06	32
ERROR	0x07	64
RESET	0x08	128
BAD_INTR	0x09	256
PASSTHROUGH	0x0a	512
SOFT_ERROR	0x0b	1024
RETRY	0x0c	2048
REQUEUE	0x0d	4096
PI_REF_ERROR	0x0e	8192
PI_GENERIC_ERROR	0x0f	16384

ホストステータスの詳細は、VMware 社の情報（VMware Knowledge Base）を参照してください。

#### プラグインステータス設定コード

プラグインステータスに対応した障害要因設定コード（10進）を指定します。0～255 の値を指定します。デフォルト値は 0 です。0 を指定した場合はプラグインステータスの抑制は行いません。複数の要因を設定する場合は設定コードの総和を指定します。最大値を指定した場合はすべての障害要因を抑制対象とします。

プラグインステータスに対応する設定コードを次に示します。

表 A-2 プラグインのステータスに対応する設定コード

プラグインステータス	プラグインステータスコード	設定コード
TRANSIENT	0x01	1
SNAPSHOT	0x02	2
RESERVATION_LOST	0x03	4
REQUEUE	0x04	8
ATS_MISCOMPARE	0x05	16
THINPROV_BUSY_GROWING	0x06	32
THINPROV_ATQUOTA	0x07	64
THINPROV_NOSPACE	0x08	128

プラグインステータスの詳細は、VMware 社の情報（VMware Knowledge Base）を参照してください。

#### デバイスステータス設定コード

SCSI デバイスステータスに対応した障害要因設定コード（10 進）を指定します。0～1023 の値を指定します。デフォルト値は 32 です。32 はRESERVATION\_CONFLICT を抑制対象とした値になります。複数の要因を設定する場合は設定コードの総和を指定します。0 を指定した場合はデバイスステータスの抑制は行いません。最大値を指定した場合はすべての障害要因を抑制対象とします。

SCSI デバイスステータスに対応する設定コードを次に示します。

表 A-3 SCSI デバイスステータスに対応する設定コード

SCSI デバイスステータス	デバイスステータスコード	設定コード
CHECK_CONDITION	0x02	1
CONDITION_MET	0x04	2
BUSY	0x08	4
INTERMEDIATE	0x10	8
INTERMEDIATE_CONDITION_MET	0x14	16
RESERVATION_CONFLICT	0x18	32
COMMAND_TERMINATED	0x22	64
QUEUE_FULL	0x28	128
ACA_ACTIVE	0x30	256
TASK_ABORTED	0x40	512

デバイスステータスの詳細は、VMware 社の情報（VMware Knowledge Base）を参照してください。

## SCSI センスキー設定コード

SCSI センスキーに対応した障害要因設定コード（10進）を指定します。0～32767 の値を指定します。デフォルト値は 0 です。0 を指定した場合は SCSI センスキーの抑制は行いません。複数の要因を設定する場合は設定コードの総和を指定します。最大値を指定した場合はすべての障害要因を抑制対象とします。

SCSI センスキーに対応する設定コードを次に示します。

表 A-4 SCSI センスキーに対応する設定コード

SCSI センスキー	センスキー	設定コード
RECOVERED_ERROR	0x01	1
NOT_READY	0x02	2
MEDIUM_ERROR	0x03	4
HARDWARE_ERROR	0x04	8
ILLEGAL_REQUEST	0x05	16
UNIT_ATTENTION	0x06	32
DATA_PROTECT	0x07	64
BLANK_CHECK	0x08	128
VENDOR_SPECIFIC	0x09	256
COPY_ABORTED	0x0a	512
ABORTED_COMMAND	0x0b	1024
EQUAL	0x0c	2048
VOLUME_OVERFLOW	0x0d	4096
MISCOMPARE	0x0e	8192
COMPLETED	0x0f	16384

センスキーの詳細は、ハードウェア固有の情報になるので、ハードウェア（ストレージ）提供元に確認してください。

## (3) 推奨するパラメーター設定値

推奨するパラメーターの設定値を以下に示します。

表 A-5 推奨するパラメーター設定値

パラメーター		多発しやすい障害要因※のみ抑制する場合	すべての障害要因を抑制する場合
パラメーター設定値	パス障害メッセージ抑制間隔	10 (デフォルト値)	10 (デフォルト値)

パラメーター		多発しやすい障害要因※のみ抑制する場合	すべての障害要因を抑制する場合
パラメーター 設定値	パス障害メッセージ 抑制回数	3000 (デフォルト値)	3000 (デフォルト値)
	ホストステータス設 定コード	2113 (デフォルト値)	32767 (最大値)
	プラグインステータ ス設定コード	0 (デフォルト値)	255 (最大値)
	デバイスステータス 設定コード	32 (デフォルト値)	1023 (最大値)
	SCSI センスキー設 定コード	0 (デフォルト値)	32767 (最大値)
上記パラメーターの記述形式		初回のパラメーター設定時 pfs:ON 過去にパラメーターの設定を している 場合 pfs:ON.10.3000.2113.0.32.0	pfs:ON.10.3000.32767.255.1023.3276 7

## 注※

過去の障害問い合わせで多かった障害要因。

## (4) 使用例

パス障害メッセージ抑制機能を有効化し、抑制条件としてパス障害メッセージ抑制間隔 (5 分)、パス障害メッセージ抑制回数 (1000 回)、すべての障害要因を対象とする場合の使用例を示します。

```
>esxcli hdlm dlnkmgr system set --option=pfs:ON.300.1000.32767.255.1023.32767
Version: x.x.x-xx
SPVersion:
HostName: host1
MaxDevices: 1024
MaxPaths: 4096
SysInfo: SATP.Flags:67108864, SATP.MaxDevs:1024, SATP.MaxPaths:4096, SATP.MaxStorages:256
, SATP.IemIntvl:30, SATP.IemNum:3, SATP.Loglevel:0, SATP.Timeout:10000, SATP.PslogSize:1024,
SATP.PslogSizeInit:1024, SATP.PslogSizeNext:1024, SATP.DPC.TARGET:240, SATP.DPC.SYSTEM:0, S
ATP.DPC.INTVL:10, SATP.HaBlockType:0, SATP.PfmIntvl:1, SATP.PfmNum:10, SATP.PfmShs:64, SATP.
PfsIntvl:300, SATP.PfsNum:1000, SATP.PfsShs:32767, SATP.PfsPlg:255, SATP.PfsSds:1023, SATP.P
fsSky:32767, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.Exlimit:100, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.ExRndlimit:1, PS
P(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.Loglevel:0, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.SpuLimit:100, PSP(0)@HTI_PSP_HDL
M_EXRR.SpuDuration:60, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.SpuDuration:60, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.Ex
limit:100, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.ExRndlimit:1, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.Loglevel:0, PS
P(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.SpuLimit:100, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.SpuDuration:60, PSP(1)@HTI_P
SP_HDLM_EXLIO.SpuDuration:60, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.Exlimit:100, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXL
BK.ExRndlimit:1, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.Loglevel:0, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuLimit:10
0, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuDuration:60, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuDuration:60
SatpName: HTI_SATP_HDLM
ClaimRules:
DefaultPSP:
```

- SATP.Flags (パス障害メッセージ抑制機能の有効／無効) : 67108864  
最下位ビットを0ビット目として26ビット目が0の場合無効, 1の場合有効。  
パス障害メッセージ抑制機能の有効／無効の確認は26ビット目のみを確認してください。他のビットに1が設定されている場合がありますが無視してください。  
例えば、10進数が「67108864」の場合、2進数では「0100 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000」となり、26ビット目が「1」なので、有効になっています。
- SATP.PfsIntvl (パス障害メッセージ抑制間隔) : 300
- SATP.PfsNum (パス障害連続回数) : 1000
- SATP.PfsShs (ホストステータス設定コード) : 32767
- SATP.PfsPlg (プラグインステータス設定コード) : 255
- SATP.PfsSds (デバイスステータス設定コード) : 1023
- SATP.PfsSky (センスキー設定コード) : 32767

## (5) 注意事項

- パラメーターとパラメーターの間は区切り文字としてピリオド「.」を指定してください。
- ピリオドで区切られた文字列を指定値とみなします。
- パラメーターを省略した場合、未設定のパラメーターはデフォルト値を設定します。設定済のパラメーターは、前回設定した値を引き継ぎます。
- 余分なパラメーターを指定した場合は余分に指定したパラメーターを無視します。
- パス障害メッセージ抑制機能有効化 (pfs:ON) 設定の場合、以下の設定は構文エラーとなります。
  - 抑制間隔、抑制回数の両方が0となる設定をした場合
  - 障害要因設定コードがすべて0となる設定をした場合
- 同一障害要因でも障害を検出したSCSIコマンドが異なる場合は、別の障害要因として扱われます。
- メッセージを抑制するパス障害要因はホストステータス、プラグインステータス、デバイスステータス、センスキーごとに最大20です。20を超えて障害が発生した場合は、最古の障害要因の抑制を解除し、新たに発生した障害要因のメッセージを抑制対象とします。
- 設定したパラメーター値はHDLMの更新インストール、再インストール後も引き継がれます。

## 付録 A.2 パス障害メッセージ抑制情報の確認

### (1) 形式

ホストで実行する場合

```
esxcli hdlm dlnkmgr system get
```

リモート管理クライアントから実行する場合

```
EsxCli-Object.*.hdlm.dlnkmgr.system.get.invoke() | ConvertTo-Json
```

注※ Get-EsxCli コマンドレットで取得したホストごとに 1 つの EsxCli オブジェクト。

## (2) パラメーター

ありません。

## (3) 使用例

```
>esxcli hdlm dlnkmgr system set --option=pfs:ON.300.1000.32767.255.1023.32767
  Version: x.x.x-xx
  SPVersion:
  HostName: host1
  MaxDevices: 1024
  MaxPaths: 4096
  SysInfo: SATP.Flags:67108864, SATP.MaxDevs:1024, SATP.MaxPaths:4096, SATP.MaxStorages:256
, SATP.IemIntvl:30, SATP.IemNum:3, SATP.Loglevel:0, SATP.Timeout:10000, SATP.PslogSize:1024,
SATP.PslogSizeInit:1024, SATP.PslogSizeNext:1024, SATP.DPC.TARGET:240, SATP.DPC.SYSTEM:0, S
ATP.DPC.INTVL:10, SATP.HaBlockType:0, SATP.PfmIntvl:1, SATP.PfmNum:10, SATP.PfmShs:64, SATP.
PfsIntvl:300, SATP.PfsNum:1000, SATP.PfsShs:32767, SATP.PfsPlg:255, SATP.PfsSds:1023, SATP.P
fsSky:32767, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.Exlimit:100, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.ExRndlimit:1, PS
P(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.Loglevel:0, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.SpuLimit:100, PSP(0)@HTI_PSP_HDL
M_EXRR.SpuDuration:60, PSP(0)@HTI_PSP_HDLM_EXRR.SpuDuration:60, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.Ex
limit:100, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.ExRndlimit:1, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.Loglevel:0, PS
P(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.SpuLimit:100, PSP(1)@HTI_PSP_HDLM_EXLIO.SpuDuration:60, PSP(1)@HTI_P
SP_HDLM_EXLIO.SpuDuration:60, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.Exlimit:100, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXL
BK.ExRndlimit:1, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.Loglevel:0, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuLimit:10
0, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuDuration:60, PSP(2)@HTI_PSP_HDLM_EXLBK.SpuDuration:60
  SatpName: HTI_SATP_HDLM
  ClaimRules:
  DefaultPSP:
```

- SATP.Flags (パス障害メッセージ抑制機能の有効／無効) : 67108864

最下位ビットを 0 ビット目として 26 ビット目が 0 の場合無効, 1 の場合有効。

パス障害メッセージ抑制機能の有効／無効の確認は 26 ビット目のみを確認してください。他のビットに 1 が設定されている場合がありますが無視してください。

例えば, 10 進数が「67108864」の場合, 2 進数では「0100 0000 0000 0000 0000 0000」となり, 26 ビット目が「1」なので, 有効になっています。

- SATP.PfsIntvl (パス障害メッセージ抑制間隔) : 300
- SATP.PfsNum (パス障害連続回数) : 1000
- SATP.PfsShs (ホストステータス設定コード) : 32767
- SATP.PfsPlg (プラグインステータス設定コード) : 255
- SATP.PfsSds (デバイスステータス設定コード) : 1023
- SATP.PfsSky (センスキー設定コード) : 32767

## 付録 B 各バージョンの変更内容

このマニュアルの変更内容を示します。

### 付録 B.1 今バージョンでの変更内容

今バージョンでのマニュアルの変更内容を示します。

#### 変更内容 (4010-1J-637-20) Hitachi Dynamic Link Manager 9.0.3

追加・変更内容	変更箇所
リトライ回数監視機能を追加しました。	2.12 リトライ回数監視機能 6.6 set 動作環境を設定する 6.7 view 情報を表示する
ホストの適用 OS から次を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VMware vSphere ESXi 7.0</li><li>VMware vSphere ESXi 7.0 Update 1</li><li>VMware vSphere ESXi 7.0 Update 2</li><li>VMware vSphere ESXi 7.0 Update 3</li></ul>	3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS 3.4 環境を構築する場合の注意事項
ホストの適用 OS に以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VMware vSphere ESX 9.0</li></ul>	3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS
リモート管理クライアントの適用 OS から次を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>Windows 10(x64)</li></ul>	3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS 3.4 環境を構築する場合の注意事項 4.3 HDLM の常駐プロセス
リモート管理クライアントで使用する CLI に以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VCF PowerCLI 9.0</li></ul>	3.1.1 HDLM がサポートするホストと OS
HDLM がサポートするストレージシステムから以下を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>Hitachi Virtual Storage Platform</li><li>Hitachi Virtual Storage Platform VP9500</li><li>HPE StorageWorks P9500 Disk Array</li></ul>	3.1.2 HDLM がサポートするストレージシステム
メッセージを追加しました。 KAPL20037-I, KAPL20038-I	8.11 KAPL20001～KAPL21000

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

## 付録 B.2 旧バージョンでの変更内容

### 変更内容 (4010-1J-637-10) Hitachi Dynamic Link Manager 9.0.1

追加・変更内容
ホストの適用 OS に以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VMware vSphere ESXi 8.0 Update 3</li></ul>
リモート管理クライアントの適用 OS に以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>Windows Server 2025(x64)</li></ul>
リモート管理クライアントで使用する CLI に以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VMware PowerCLI 13.3.0</li></ul>
リモート管理クライアントの適用 OS に、次の OS を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>Windows Server 2025(x64)</li></ul>
HDLM がサポートするストレージシステムから以下を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>HUS VM</li></ul>
HDLM コマンドでパス障害メッセージ抑制をサポートしました。

### 変更内容 (4010-1J-637) Hitachi Dynamic Link Manager 9.0.0

追加・変更内容
HDLM がサポートするストレージシステムから以下を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>HUS100 シリーズ</li></ul>
Global Link Manager との連携を終了しました。また、Global Link Manager との連携に必要な共通エージェントコンポーネントの同梱を終了しました。
HDLM がサポートするストレージシステムに以下を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23</li><li>Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26</li><li>Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28</li></ul>

### 変更内容 (4010-1J-166-40) Hitachi Dynamic Link Manager 8.8.7

追加・変更内容
ホストの適用 OS から以下を削除しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>VMware vSphere ESXi 6.5</li><li>VMware vSphere ESXi 6.5 Update 1</li><li>VMware vSphere ESXi 6.5 Update 2</li><li>VMware vSphere ESXi 6.5 Update 3</li><li>VMware vSphere ESXi 6.7</li><li>VMware vSphere ESXi 6.7 Update 1</li><li>VMware vSphere ESXi 6.7 Update 2</li></ul>

## 追加・変更内容

- VMware vSphere ESXi 6.7 Update 3

ホストの適用 OS に以下を追加しました。

- VMware vSphere ESXi 7.0 Update 3
- VMware vSphere ESXi 8.0

リモート管理クライアントの適用 OS から以下を削除しました。

- Windows 8(x86)

リモート管理クライアントの適用 OS に以下を追加しました。

- Windows 11(x64)
- Windows Server 2022(x64)

VMware vSphere CLI のサポートを終了しました。

リモート管理クライアントで使用する CLI に以下を追加しました。

- VMware PowerCLI 12.7.0

環境を構築する場合の注意事項を追加しました

ホスト OS アップグレード時の注意事項を追加しました。

パス障害メッセージ抑制機能を追加しました。

メッセージを変更しました。

KAPL01144-W, KAPL01148-E, KAPL01150-E, KAPL10957-W, KAPL13053-E, KAPL13054-E, KAPL13056-W, KAPL20905-E

## 変更内容 (4010-1J-166-30) Hitachi Dynamic Link Manager 8.8.3

### 追加・変更内容

ホストの適用 OS から以下を削除しました。

- VMware vSphere ESXi 6.0
- VMware vSphere ESXi 6.0 Update 1
- VMware vSphere ESXi 6.0 Update 2
- VMware vSphere ESXi 6.0 Update 3

ホストの適用 OS に以下を追加しました。

- VMware vSphere ESXi 7.0 Update 2

リモート管理クライアントの適用 OS から以下を削除しました。

- Windows 8(x86)

リモート管理クライアントで使用する CLI に以下を追加しました。

- VMware PowerCLI 12.3.0

HDLM がサポートするストレージシステムに以下を追加しました。

- Hitachi Virtual Storage Platform E1090
- Hitachi Virtual Storage Platform E1090H

## 変更内容 (4010-1J-166-20) Hitachi Dynamic Link Manager 8.8.1

### 追加・変更内容

HDLM がサポートするストレージシステムから以下を削除しました。

- Universal Storage Platform V/VM シリーズ

HDLM がサポートするストレージシステムに以下を追加しました。

- Hitachi Virtual Storage Platform 5200
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600
- Hitachi Virtual Storage Platform 5200H
- Hitachi Virtual Storage Platform 5600H
- Hitachi Virtual Storage Platform E390
- Hitachi Virtual Storage Platform E390H

## 変更内容 (4010-1J-166-10) Hitachi Dynamic Link Manager 8.8.0

### 追加・変更内容

ホストの適用 OS に、次の OS を追加しました。

- VMware vSphere ESXi 7.0 Update 1

リモート管理クライアントの適用 OS に、次の OS を追加しました。

- Windows Server 2019(x64)

HDLM がサポートするストレージシステムから以下を削除しました。

- Hitachi AMS2000 シリーズ
- Hitachi SMS シリーズ

HDLM がサポートするストレージシステムに以下を追加しました。

- Hitachi Virtual Storage Platform E590
- Hitachi Virtual Storage Platform E790
- Hitachi Virtual Storage Platform E590H
- Hitachi Virtual Storage Platform E790H

リモート管理クライアントのメモリー所要量を以下の場合ごとに記載しました。

- VMware vSphere CLI を使用する場合
- VMware PowerCLI を使用する場合 (Global Link Manager と連携しない場合)
- VMware PowerCLI を使用する場合 (Global Link Manager と連携する場合)

## 変更内容 (4010-1J-166) Hitachi Dynamic Link Manager 8.7.6

### 追加・変更内容

リモート管理クライアントの前提プログラムとして PowerCLI を使用する場合、Global Link Manager を使用した HDLM の管理をサポートしました。

HDLM Credential Store 作成ユーティリティー (`dlmcreatecredstore`) をサポートしました。

メッセージを追加・変更しました。

- 追加

## 追加・変更内容

KAPL20951-I～KAPL20967-E

- 変更

KAPL20905-E

## 変更内容 (3021-9-085-I0) Hitachi Dynamic Link Manager 8.7.4

### 追加・変更内容

ホストの適用 OS に、次の OS を追加しました。

- VMware vSphere ESXi 7.0

## 変更内容 (3021-9-085-H0) Hitachi Dynamic Link Manager 8.7.3

### 追加・変更内容

リモート管理クライアントの適用 OS に、次の OS を追加しました。

- Windows Server 2016(x64)

リモート管理クライアントの前提プログラムに、次の CLI を追加しました。

- VMware PowerCLI

HDLM がサポートするストレージシステムに、次のストレージシステムを追加しました。

- VSP E990

HDLM リモート管理クライアント環境設定ユーティリティー (dlmrmcenv) のパラメーターに--cli を追加し、ホスト情報取得時に使用する CLI を設定できるようにしました。

メッセージを追加・変更しました。

- 追加

KAPL01182-E, KAPL01183-E, KAPL09616-E

- 変更

KAPL01148-E, KAPL10957-W, KAPL13054-E

## 変更内容 (3021-9-085-G0) Hitachi Dynamic Link Manager 8.7.2

### 追加・変更内容

リモート管理クライアントの適用 OS から次の OS を削除しました。

- Windows 7
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2

ホストのメモリー所要量を 15MB に変更しました。

VMware vSphere ESXi 6.7 の場合に、HDLM がサポートする LU 数とパス数の上限値を次のように変更しました。

- LU 数 : 1024
- パス数 : 4096

## 付録 C このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 C.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- Hitachi Global Link Manager 導入・設定ガイド (4010-1J-169)

### 付録 C.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次のように表記します。

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
ESXi	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ESXi®</li><li>• ESX®</li></ul>
HDLM	Hitachi Dynamic Link Manager
XP7	HPE XP7 Storage
XP8	HPE XP8 Storage
VMware	VMware®
VMware PowerCLI	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• VMware PowerCLI</li><li>• VCF PowerCLI</li></ul>
VMware vSphere	VMware vSphere®
VMware vSphere ESXi	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• VMware vSphere® ESXi®</li><li>• VMware vSphere® ESX®</li></ul>
VMware vSphere Update Manager	VMware vSphere® Update Manager®
VSP 5000 シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5100</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5200</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5500</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5600</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5100H</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5200H</li><li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5500H</li></ul>

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
VSP 5000 シリーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform 5600H</li> <li>• HPE XP8 Storage</li> </ul>
VSP E シリーズ	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E390</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E590</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E790</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E990</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E1090</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E390H</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E590H</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E790H</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform E1090H</li> </ul>
VSP F1500	Hitachi Virtual Storage Platform F1500
VSP Fx00 モデル	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F350</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F370</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F400</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F600</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F700</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F800</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform F900</li> </ul>
VSP G1000	Hitachi Virtual Storage Platform G1000
VSP G1000 シリーズ	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G1000</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform VX7</li> <li>• HPE XP7 Storage</li> </ul>
VSP G1500	Hitachi Virtual Storage Platform G1500
VSP Gx00 モデル	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G100</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G130</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G150</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G200</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G350</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G370</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G400</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G600</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G700</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G800</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform G900</li> </ul>

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
VSP One B20	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform One Block 23</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform One Block 26</li> <li>• Hitachi Virtual Storage Platform One Block 28</li> </ul>
VX7	Hitachi Virtual Storage Platform VX7

AIX, Solaris, Linux®, および HP-UX を区別する必要がない場合, UNIX と表記しています。

## 付録 C.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルでは、次に示す略語を使用しています。

略語	正式名称
API	Application Programming Interface
ASC	Additional Sense Code
ASCQ	Additional Sense Code Qualifier
CHA	Channel Adapter
CLI	Command Line Interface
CLPR	Cache Logical Partition
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
CU	Control Unit
DBMS	Database Management System
Dev	Device
DNS	Domain Name System
FC	Fibre Channel
FC-SP	Fibre Channel Security Protocol
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GMT	Greenwich Mean Time
GUI	Graphical User Interface
HBA	Host Bus Adapter
HDev	Host Device
HLU	Host Logical Unit

略語	正式名称
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
I/O	Input/Output
IP	Internet Protocol
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LDEV	Logical Device
LU	Logical Unit
NAS	Network Attached Storage
NIC	Network Interface Card
NMP	Native Multipathing Plugin
NTP	Network Time Protocol
OS	Operating System
P	Port
PPM	Perl Package Module
PSOD	Purple Screen of Death
PSP	Path Selection Plugin
RADIUS	Remote Authentication Dial In User Service
SAN	Storage Area Network
SATP	Storage Array Type Plugin
SCSI	Small Computer System Interface
SLPR	Storage Logical Partition
SNMP	Simple Network Management Protocol
SP	Service Pack
SSL	Secure Sockets Layer
UID	User Identifier
WWN	World Wide Name
XML	Extensible Markup Language

## 付録 C.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) は, それぞれ 1KiB (キビバイト), 1MiB (メビバイト), 1GiB (ギビバイト), 1TiB (テビバイト) と読み替えてください。

1KiB, 1MiB, 1GiB, 1TiB は, それぞれ 1,024 バイト, 1,024KiB, 1,024MiB, 1,024GiB です。

## 英字

### CHA (Channel Adapter)

ストレージシステムのチャネルを制御するアダプターです。

### CLPR (Cache Logical Partition)

キャッシュの論理的な分割機能です。この機能を使用すると、ストレージシステム内でパリティグループ単位にキャッシュを分割するため、キャッシュ性能がほかのパリティグループの影響を受けません。

### Dev (Device)

HDLM が制御、操作する対象で、VMware vSphere ではデバイスと呼ばれます。

各 LU の Dev は 1 つだけです。

各 Dev には「Dev 番号」が付けられています。

(関連用語：Dev 番号)

### Dev 番号

HDLM では構成表示での Dev 番号 (DNum 欄) を指します。

LU 全体を示す Dev として「0」が表示されます。

HDLM は、1 つの LU に 1 つの Dev が存在していると仮定して動作するため、「0」で固定です。

(関連用語：Dev)

### HBA (Host Bus Adapter)

ホストと外部装置を接続するインターフェイスとなるデバイスです。

このマニュアルでは、ホストとストレージ間を FC で接続するときに、ホストに搭載するインターフェイス・カードを指します。

### HDLM ドライバー

HDLM の機能の制御、パスの管理、および障害検知をするプログラムです。

### HDLM マネージャー

リモート管理クライアントの動作環境を保存するプログラムです。

## LDEV (Logical Device)

LDEV は、ストレージシステムの製品名称、シリアル番号、および内部 LU を組み合わせた値で表示されます。HDLM は、この値によって LU を識別しています。

## LU (Logical Unit)

論理ユニットです。ストレージシステム側で定義した、論理的なボリュームです。ホストからの入出力対象となります。

(関連用語：ホスト LU)

## SAN (Storage Area Network)

ホストとストレージシステムを結ぶ高速ネットワークです。LAN とは独立していて、データ転送専用に使用されます。SAN を使用することで、ストレージシステムへのアクセスを高速化できます。また、大容量のデータが流れて LAN の性能が劣化することを防げます。

## SCSI デバイス

SCSI ディスクのデバイスです。

## SLPR (Storage Logical Partition)

ストレージシステムの論理的な分割機能です。この機能を使用すると、ストレージシステム内のリソース（ポート、CLPR、ボリュームなど）を分割するため、それぞれのリソースを独立して管理できます。

## ア行

### エミュレーションタイプ

ホストからアクセスできる LU の種類です。

HDLM のホストはオープン系ホスト（PC、または UNIX）であるため、HDLM のホストからは、オープン系のエミュレーションタイプを持つ LU にだけアクセスできます。

ストレージシステムがサポートするエミュレーションタイプの詳細については、各ストレージシステムの保守マニュアルを参照してください。

### オーナーパス

次のパス以外はすべてオーナーパスになります。

- global-active device を使用している場合のノンオーナーパス

(関連用語：ノンオーナーパス)

## 力行

### 間欠障害

ケーブルの接触不良などが原因で、断続的に発生する障害です。

## サ行

### 自動フェールバック

一定間隔でパスの状態を確認し、障害が発生したパスの状態が回復したときに、パスの状態を自動的に稼働状態にする機能です。

「Offline(E)」状態だったパスが正常に戻った場合、パスの状態を「Online」にします。

自動フェールバックの対象となるのは、障害が原因で「Offline(E)」状態になっているパスです。`offline` オペレーションを実行して「Offline(C)」状態になったパスは、自動フェールバックの対象になりません。`offline` オペレーションについては、「[6.4 offline パスを閉塞状態にする](#)」を参照してください。

## ナ行

### ノンオーナーパス

次のパスがノンオーナーパスになります。

- global-active device を使用している場合に、non-preferred path option を設定しているパス

(関連用語：オーナーパス)

## ハ行

### パス

ホストからストレージシステムへのアクセス経路です。ホスト側の HBA と、ストレージシステム側の CHA を結ぶケーブルを経由して、ストレージシステム側の LU 内の領域にアクセスします。

各パスには「パス管理 PATH\_ID」が付けられています。

(関連用語：パス管理 PATH\_ID)

### パス管理 PATH\_ID

HDLM がシステム起動時にパスに付ける ID です。すべてのパスが固有のパス管理 PATH\_ID を持ります。

(関連用語：パス)

## パスヘルスチェック

一定間隔でパスの状態を確認する機能です。

「Online」状態だったパスに障害が発生した場合、パスの状態を「Offline(E)」にします。パスヘルスチェックの対象となるのは、「Online」状態のパスです。

## パス名

次に示す4つの項目をピリオドで区切って表される名前です。

- ・ホストポート番号（16進数）
- ・バス番号（16進数）
- ・ターゲットID（16進数）
- ・ホストLU番号（16進数）

パス名でパスを特定してください。

(関連用語：ホストLU番号)

## フェールオーバー

あるパスに障害が発生したときに、ほかの正常なパスに切り替えてシステムの運用を続ける機能です。

## フェールバック

障害が発生していたパスが障害から回復したときに、障害から回復したパスの状態を稼働状態にして、パスを切り替える機能です。

## ホスト

SANを経由してストレージシステムと接続するESXiサーバーです。

## ホストLU

ホストが認識するLUです。

各ホストLUには「ホストLU番号」が付けられています。

(関連用語：LU、ホストLU番号、ホストデバイス)

## ホストLU番号

ホストLUに付けられている番号です。パス名の一部になります。

(関連用語：ホストLU、パス名)

## ホストデバイス

ホスト LU 内の領域です。

(関連用語：ホスト LU, ホストデバイス名)

## ホストデバイス名

ホストデバイスに付けられている名前です。

(関連用語：ホストデバイス)

## ラ行

### リザーブ

あるホストが 1 つの LU を占有したい場合、その LU に対して占有を宣言し、ほかのホストから LU にアクセスできないように保護する機能です。リザーブを発行したホストには、そのリザーブを発行したパスに LU へのアクセス許可が与えられるため、複数のパスで同時に LU にアクセスできません。そのため、ロードバランスはできません。

### リモート管理クライアント

LAN を経由してホストに接続し、コマンドやユーティリティーを通じてホストを制御するためのマシンです。

### ロードバランス

LU 内の領域にアクセスするパスが複数ある場合、それらの複数のパスを使用して I/O を行うことでの、パスに掛かる負荷を分散する機能です。

HDLM では、VMware vSphere のパス選択ポリシーである PSP を提供しています。HDLM で使用できるロードバランスのアルゴリズムを次に示します。

- ・拡張ラウンドロビン
- ・拡張最少 I/O 数
- ・拡張最少ブロック数
- ・最近の使用 (VMware)
- ・ラウンドロビン (VMware)



〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地

---